

博士学位論文

日本語次元形容詞の意味研究

—認知言語学の観点から—

名古屋大学大学院国際言語文化研究科

日本語文化専攻

栗木 久美

2022年2月

目次

第1章 序論	1
1.1. 本研究の目的	1
1.2. 意味分析の方法	2
1.3. 本研究の考察対象.....	4
1.4. 本研究の構成	6
第2章 理論的背景	8
2.1. はじめに	8
2.2. 多義語の位置づけ.....	8
2.3. 多義語分析の課題と援用する諸概念.....	10
2.3.1. 何らかの程度の自立性を有する複数の意味（多義的別義）の認定.....	10
2.3.1.1. 反義語の違い.....	11
2.3.1.2. 各意味ごとの照応関係.....	11
2.3.2. プロトタイプ的意味の認定.....	12
2.3.3. 複数の意味の相互関係の明示.....	15
2.3.4. 複数の意味すべてを統括するモデル・枠組みの解明.....	19
2.3.4.1. スキーマティック・ネットワークモデル.....	20
2.3.4.2. 統合モデル.....	23
第3章 形容詞	26
3.1. はじめに	26
3.2. 形容詞の分類	26
3.2.1. 属性形容詞と感情形容詞.....	26
3.2.2. 感情形容詞と属性形容詞の連続性.....	28
3.2.3. 状態形容詞と特性形容詞.....	29
3.3. 形容詞の相対的な判断・評価を表す際の基準.....	34
3.4. 第3章のまとめ	35
第4章 「深い」の意味分析.....	37
4.1. はじめに	37

4.2. 先行研究の記述とその検討.....	37
4.2.1. 『大辞林（第四版）』（松村明編 2019）.....	37
4.2.2. 飛田・浅田（1991）.....	38
4.2.3. 西尾（1972）.....	39
4.2.4. 小出（2000）.....	40
4.2.5. 先行研究の記述の検討.....	40
4.3. 意味分析.....	41
4.3.1. 空間的用法の意味分析.....	42
4.3.1.1. 意味①.....	42
4.3.1.2. 意味②.....	46
4.3.1.3. 意味③.....	47
4.3.1.4. 意味④.....	48
4.3.1.5. 意味⑤.....	50
4.3.2. 空間的用法における「深い」の多義構造.....	53
4.3.2.1. プロトタイプの意味の認定.....	53
4.3.2.2. 空間的用法における複数の意味の相互関係と多義構造.....	56
4.3.3. 非空間的用法の意味分析.....	57
4.3.3.1. 意味⑥.....	57
4.3.3.2. 意味⑦.....	60
4.3.3.3. 意味⑧.....	62
4.3.3.4. 意味⑨.....	64
4.3.3.5. 意味⑩.....	66
4.3.3.6. 意味⑪.....	67
4.3.3.7. 意味⑫.....	69
4.3.3.8. 意味⑬.....	71
4.3.3.9. 意味⑭.....	72
4.3.3.10. 意味⑮.....	74
4.3.3.11. 意味⑯.....	75
4.3.3.12. 意味⑰.....	76
4.3.4. 非空間的用法における「深い」の多義構造.....	77

4.3.5. 「深い」の意味全体の多義構造.....	80
4.4. おわりに.....	81
第5章 「高い」の意味分析.....	84
5.1. はじめに.....	84
5.2. 先行研究の記述とその検討.....	84
5.2.1. 『大辞林（第四版）』（松村明編 2019）.....	84
5.2.2. 西尾（1972）.....	85
5.2.3. 飛田・浅田（1991）.....	85
5.2.4. 先行研究の記述の検討.....	86
5.3. 意味分析.....	87
5.3.1. 空間的用法.....	87
5.3.1.1. 意味①.....	88
5.3.1.2. 意味②.....	90
5.3.2. 非空間的用法.....	91
5.3.2.1. 意味③.....	91
5.3.2.2. 意味④.....	91
5.3.2.3. 意味⑤.....	93
5.3.2.4. 意味⑥.....	94
5.3.2.4. 意味⑥-1.....	95
5.3.2.5. 意味⑥-2.....	96
5.3.2.6. 意味⑥-3.....	97
5.3.2.7. 意味⑦.....	98
5.3.2.8. 意味⑧.....	99
5.3.2.9. 意味⑨.....	100
5.3.2.10. 意味⑩.....	102
5.3.2.11. 意味⑪.....	103
5.4. 「高い」の多義構造.....	105
5.4.1. プロトタイプの意味の認定.....	106
5.4.2. 複数の意味の相互関係と多義構造.....	107
5.5. 概念メタファーを基盤とした「高い」の意味拡張.....	109

5.5.1. 先行研究の記述.....	110
5.5.2. 概念メタファーを基盤とした考察.....	114
5.6. おわりに	115
第6章 「遠い」の意味分析.....	118
6.1. はじめに	118
6.2. 先行研究の記述とその検討.....	118
6.2.1. 『大辞林（第四版）』（松村明編 2019）	118
6.2.2. 国広（1982）	119
6.2.3. 八亀（2015）	119
6.2.4. 先行研究の記述の検討.....	120
6.3. 意味分析	121
6.3.1. 空間的用法.....	121
6.3.1.1. 意味①	121
6.3.1.2. 「遠い」の基点.....	125
6.3.2. 非空間的用法.....	125
6.3.2.1. 意味②	125
6.3.2.2. 意味③	127
6.3.2.3. 意味③-1	129
6.3.2.4. 意味④	131
6.3.2.5. 意味⑤	132
6.4. 「遠い」の多義構造.....	133
6.4.1. プロトタイプの意味の認定.....	133
6.4.2. 複数の意味の相互関係と多義構造.....	135
6.5. おわりに	136
第7章 「広い」の意味分析.....	138
7.1. はじめに	138
7.2. 先行研究の記述とその検討.....	138
7.2.1. 『大辞林（第四版）』（松村明編 2019）	138
7.2.2. 西尾（1972）	138
7.2.3. 飛田・浅田（1991）	139

7.2.4. 小出（2000）	139
7.2.5. 先行研究の記述の検討	140
7.3. 意味分析	140
7.3.1. 空間的用法	141
7.3.1.1. 意味①	141
7.3.1.2. 意味②	143
7.3.1.3. 意味③	144
7.3.2. 非空間的用法	145
7.3.2.1. 意味④	145
7.3.2.2. 意味⑤	146
7.4. 「広い」の多義構造	148
7.4.1. プロトタイプの意味の認定	148
7.4.2. 複数の意味の相互関係と多義構造	151
7.5. おわりに	153
第8章 「長い」の意味分析	155
8.1. はじめに	155
8.2. 先行研究の記述とその検討	155
8.2.1. 『大辞林（第四版）』（松村明編 2019）	155
8.2.2. 西尾（1972）	155
8.2.3. 飛田・浅田（1991）	156
8.2.4. 小出（2000）	156
8.2.5. 先行研究の記述の検討	157
8.2.6. 「ながい」の漢字表記について	157
8.3. 意味分析	158
8.3.1. 空間的用法	158
8.3.1.1. 意味①	158
8.3.2. 非空間的用法	164
8.3.2.1. 意味②	164
8.3.2.2. 意味③	167
8.4. 「長い」の多義構造	169

8.4.1. プロトタイプの意味の認定.....	170
8.4.2. 複数の意味の相互関係と多義構造.....	172
8.5. おわりに	173
第9章 類義語分析	175
9.1. はじめに	175
9.2. 類義語に関する先行研究の記述.....	175
9.3. 空間的用法（1次元の量を表す場合）のまとめ.....	177
9.4. 非空間的用法における「深い」「高い」	179
9.4.1. 「深い／高い関心」	179
9.4.2. 「深い／高い関係」	181
9.4.3. 「深い／高いレベル」	182
9.4.4. まとめ	183
9.5. 「長い」「深い」「遠い」の空間から時間への意味拡張.....	183
9.5.1. メタファーとフレーム.....	184
9.5.2. 「長い」「深い」「遠い」の意味分析.....	185
9.5.2.1. 「長い」	185
9.5.2.2. 「深い」	186
9.5.2.3. 「遠い」	187
9.5.2.4. 空間におけるフレームから「時間」のフレームへの写像.....	187
9.5.2.5. 空間におけるフレームから「時間」のフレームへの写像の基盤.....	188
9.5.3. 各形容詞が「歴史」「休み」「人生」と共起する場合	189
9.5.4. まとめ	191
9.6. おわりに	191
第10章 本研究のまとめ.....	193
10.1. 本研究のまとめ.....	194
10.2. 今後の課題	201
参考文献	202

表記法について

- (1) 例文番号は、各章ごとの通し番号であるが、既に示した例文を再度示す場合は、例文の後に等号で初出の例文番号を示す。
- (2) 図表番号は、各章ごとの通し番号である。
- (3) 例文中の分析対象語句には、下線_____を施す。また、分析対象語句以外の部分で問題としている箇所には点線の下線.....を施す。
- (4) 例文の文頭、または例文中の分析対象語句の前に付される「*」は、その文が非文であることを示す。「?」は、その文が容認度の低い文であることを表し、「??」は、「?」よりもさらに容認度が低いことを表す。
- (5) 各語の意味特徴及び意味に関わる特性は、< >で括って示す。
- (6) 注は、各章ごとに通し番号を付し、各ページ末に挙げる。

本稿の第4章、第5章、第7章、第9章は、それぞれ以下の論文に基づいている。

第4章： 2017.04 「形容詞「深い」の意味拡張の動機づけ」、『日本認知言語学会論文集』17、pp.16-28、日本認知言語学会

第5章： 2018.04 「形容詞「高い」の意味拡張の動機づけ—フレームの観点から—」、『日本認知言語学会論文集』18、pp.26-37、日本認知言語学会

第7章： 2019.03 「形容詞「広い」の意味分析」、『名古屋大学人文学フォーラム』(2)、pp.43-57、名古屋大学大学院人文学研究科

第9章： 2019.04 「類義表現としての形容詞「高い」「深い」の意味分析—非空間用法を中心に—」、『日本認知言語学会論文集』19、pp.442-448、日本認知言語学会

2021.04 「形容詞「長い」「深い」「遠い」の空間から時間への意味拡張に関する一考察—フレームの観点から—」『日本認知言語学会論文集』21、pp.446-451、日本認知言語学会

第1章 序論

1.1. 本研究の目的

本研究の目的は、日本語の次元形容詞について認知言語学的な観点から意味分析を行い、その多義構造を明らかにすることである。

空間的な位置関係は、私たちの経験の中で最も具体的で身近なものの1つとすることができる。次元形容詞は、空間的な位置に関する形容詞であるが、空間に関するもの以外に日常生活における様々な事物の様相を表す場合にも用いられる。例えば、次の「深い」の例(1)～(4)では、例(1)は<空間>に関する様相を表しており、例(2)は<心理>、例(3)は<時間>、例(4)は<色>に関する様相を表している。よって、「深い」は多義語とすることができるが、なぜ<空間>に関する様相を表す「深い」が、<心理>や<時間>、<色>の様相についても表すことができるのだろうか。

- (1) このサメは、深い海に生息している。
- (2) 父からの手紙には、家族への深い愛があふれていた。
- (3) この寺には、深い歴史がある。
- (4) 彼女は、深い緑色のセーターを着ていた。 (1)～(4)作例

日本語の次元形容詞の意味研究については、西尾（1972）、国広（1982）、小出（2000）、久島（2001）等数多くある。これらの先行研究では形容詞の複数の意味特徴を詳細に記述しており、本研究もこれらの研究に負うところが大きい。しかし、多義語の意味の解明には単に意味特徴を記述するだけでなく、例(2)～(4)のような使い方がどのような動機づけにより可能となるのかといった意味間の関連の実態を明らかにすることも重要であると考えられる。本研究では、これに関して認知言語学の観点からの考察が有効であると考えられる。

松本（2003：9）は、認知言語学では、語の意味がどうしてそのような構造、性質をもつかについて、認知的な基盤があると考え、意味に動機づけを求めると述べている。また、艸山（2021：16）は、意味の関連付けには、メタファー、メトニミー、シネクドキーの3種の比喩が重要な役割を果たすと述べている。本研究では、このような比喩に加え、イメージスキーマ、フレームなどの認知言語学における理論を用いることにより、多義語としての次元形容詞の複数の意味間の関連を明らかにし、その多義構造を記述することを目指す。

また、複数の次元形容詞が、例(5)のように類似した意味を表わす場合がある。

(5) 彼は自然環境への関心が深い／高い。 (作例)

このような例について、多義語分析の結果を踏まえ、非空間的用法を中心に次元形容詞を類義語として分析し、その類似点と相違点について認知的な基盤の観点から考察する。これらの意味の相互関係を考察することにより、私たちが空間に関する概念を基に非空間に関する概念をどのように把握しているのかについて、その一端を明らかにできると考える。

1.2. 意味分析の方法

日本語の意味研究に関する先行研究には、柴田武・国広哲弥・長嶋善郎・山田進・浅野百合子(1976-1982)によるシリーズ『ことばの意味1, 2, 3』、森田(1989)、国広(1982)、山田(2017)などがある。

柴田他(1976-1982)における意味分析の考え方については、次の3点が挙げられる。

①意味を分析するということは、特徴をいくつも取り出して、それらを加算するような形でそのことばの意味を記述できるようにすることである。この場合、それぞれの特徴は、できるだけ他のことばの特徴にもなりうるようなものでなくてはならない。

(柴田他 1976: 3-4)

②意味分析は、比較・対照ということがなければ、思うようにははかどらない。ある動詞を一つだけとりあげて、その意味を考えようとしても、それは手ごたえのないわざである。そこで、つねに、意味の近いことば(類義語)との比較・対照を考慮した。

(柴田他 1976: 6)

③「ごいしろう」¹の意味分析の特色の一つは、「直観」を重んじるということである。(中略)直観を重んじるといっても、客観的な用例を無視するというのではない。辞書をはじめ、すでに研究書などに登録されている用例に目を通すことはもちろん、直接に、具体的な用例をあされるだけあさった。ただ、用例を集め終わった後でなければ分析を始めないというのではなく、まず直観から始めて、用例に当たり、用例から直観に

¹ 「ごいしろう」は、柴田武氏、国広哲弥氏、長嶋善郎氏、山田進氏の共通のペンネームである。

帰るという経路を選んだということである。

(柴田他 1976:7-8)

①について、例えば「アガル」という動詞の意味特徴として(1)「空間的な移動」、(2)「下から上への移動」、(3)「到達点に焦点を合わせた移動」などを取り出すことができ、アガルの意味は(1) + (2) + (3) + …で示すことができると述べている (p.4)。

次に、森田(1989)は、以下のように、言葉の意味は語だけでなく文全体についても考える必要があると述べている。

ことばを単に意味の面から眺めるだけではなく、用法と関係づけて、文中での働きとして語義を考えるという立場を取った。意味というのは決して”語の意味”だけではなく、”文の意味”も考えていかねばならぬ重要な問題であり、そのためには文とそれを支える語との相関関係を眺めていく必要があるからである。(森田 1989:2)

続いて、国広(1982)と山田(2017)は、意味分析の方法として、意義素論に基づく方法を取っている。意義素とは、「単語に該当する音声聞いた場合に、社会習慣によって反射的に我々が思い出す意識内容のうちの、社会習慣的に繰り返し現れる特徴のこと」(服部 1960:163)である。国広(1982:201)は、「意味分析は、内省・場面・文脈の三つを観察することにより進められる。この三つは相補的に用いて初めて有効となるのであり、どれかひとつのみでは有効ではない」と述べ、文脈の観察として、shed の例を挙げている。そして、「A tree sheds its leaves.<木は葉を落とす>」「A flower sheds its petals.<花は花びらを落とす>」などの文脈を観察することにより、shed の意義素を<成長物が><本体の一部を><自然の成り行き (e.g. 成長の一過程、新陳代謝)として><不要なものとして><捨てる>と仮定している。また、山田(2017)は、多義語としての格助詞「で」を分析しているが、「格助詞「で」の意義素は文脈の如何にかかわらず一定である意味特徴と文脈に応じて選択される意味特徴群の2つから成っている」(p.191)と述べている。この「一定である意味特徴」は、「動詞の示す事態が成立するのに要するあることを限定する」(p.183)ものであり、この「あること」には文脈に応じて「場所」「原因・理由」「手段・媒体」「方法」「完結時点」「所要時間」「報酬」といった意味特徴群が入る。山田(2017)はこれらをまとめて、格助詞「で」の意義素を<Xが[SOV]の示す事態が成立するのに要する[場所]～[原因・理由]～[手段・媒体]～[方法]～[完結時点]～[所要時間]～[報酬]として限定さ

れたものである² (p.190) と記述している。

以上、先行研究を概観したが、これらの意味分析の考え方に見られる「意味特徴の抽出」「類義語との比較・対照」「直観の重視」「客観的な用例としての文や文脈の分析」という観点は、本研究においても有用であると考え、基本的にこれらの観点を踏まえ考察を進める。

しかし、前節で述べたように、多義語の意味の解明には単に意味を記述するだけでなく、その複数の意味の関連の実体を明らかにし多義構造として示すことも重要だと考える。上で見た先行研究では、山田 (2017: 193-195) が比喻による拡張について「あがる」を例に記述しているが、「あがる」の各意味間の関係の指摘に留まっており、「あがる」の意味全体の構造については言及されておらず不十分だと考える。本研究では、複数の意味の関連の実体を明らかにし多義構造として示すために、上述した意味分析の観点と共に認知言語学における諸概念を基に多義語の意味分析を行う。

なお、個々の意味の分類、記述については、コーパスや新聞記事のデータなど実際の用例に当たり、複数の用例からボトムアップ的に共通する意味特徴を抽出し、抽出された意味特徴により別義として分類、認定するという言語事実に基づく方法を取った。また、各意味の分類や記述に関しては、国語辞典や先行研究の記述も参照した。

1.3. 本研究の考察対象

本研究の考察対象は、「深い」「高い」「遠い」「広い」「長い」の5つの形容詞である。

「深い」「高い」「遠い」「広い」「長い」は、属性形容詞 (第3章参照) の下位分類の一つである次元に関する形容詞 (次元形容詞) である。西尾 (1972: 69-70) は、「ものは空間的な量の中に位置して、そのある部分を占めている」とし、その占めている量の大小に関係する基本的な形容詞を9組挙げ、何次元の量を表すかによって、(6)のようにまとめている。

(6) 1次元の量：ながい—みじかい、とおい—ちかい、たかい—ひくい、

ふかい—あさい、あつい—うすい

1・2次元の量：ふとい—ほそい

2・3次元の量：あらい—こまかい

1・2・3次元の量：おおきい—ちいさい、ひろい—せまい (西尾 1972: 70)

² 「～」は「または」を意味し、これらでつながれた各項は選択的対立をなす。(山田 2017: 190)

(6)のように、「深い」「高い」「遠い」「長い」は、1次元の量が大きいさまを表す形容詞であり、「広い」は、1・2・3次元の量が大きいさまを表す形容詞である。

一方、久島(2001:7-22)は、形容詞の対象が「物」として扱われているか、あるいは「場所」として扱われているかという観点³から、「深い」「高い」「遠い」「広い」「大きい」「長い」「厚い」「太い」の8語を分類している。そして、「物」「これ・それ…」「場所」「所」「ここ・そこ…」という語と共起できるか(例えば、「大きい物」「これは太い」)ということをもとに、各形容詞が「物」と「場所」のどちらの量を表しているのかを検討し、表1のようにまとめている。この結果によると、「深い」「高い」「遠い」「広い」は、例えば「高い場所へ登る」と言えるように、それぞれ「場所」と共起することができる。つまり、この4つの形容詞は「場所」という対象を通して、意味的に何らかの関係があると言いうことができるであろう。

表1 次元形容詞とその対象との共起関係(久島2001:22)

	物	これ等	ここ等	所	場所
大きい、長い	○	○	×	×	×
太い、厚い	○	○	○	○	×
高い、深い(転用:台、井について)	○	○	○	○	×
広い(転用:絨毯について)	×	○	×	×	×
高い、深い	×	○	○	○	○
広い、遠い	×	×	○	○	○

さらに、上述した西尾(1972)の分類を踏まえると、「深い」「高い」「遠い」「広い」は、場所に関する何らかの1次元の量が大きいさまを表すと言いうことができるが、場所に関する何らかの1次元の量を表すということは、これらの形容詞には意味的に共通点と相違点があると考えられる。また、西尾(1972:73)は、「長い」が1次元の量が大きいさまを表す形容詞の中で、いちばん代表的なものであり、他の1次元の量が大きいさまを表

³ ここでいう「物」とは、「全体がまとまりを持ち、立体的な形を成しているもの。」であり、「場所」とは「(1)周囲の自然と一体で、独立していないもの。人や物が存在するための空間を持つ。(2)周囲から独立してまとまりがあるが、人や物の存在空間を持つもの。」である。(久島2001:17)

す形容詞は、それぞれの条件のもとにおける「長い」と言いかえることもできると述べていることから、「深い」「高い」「遠い」「広い」と「長い」の間にも何らかの意味的な関係があると言することができる。

本論文では、次元形容詞のうち、場所に関する何らかの 1 次元の量が大きいさまを表す「深い」「高い」「遠い」「広い」に「長い」を加えた 5 つの語を研究対象とし、まず、各語の意味を分析し、その複数の意味関係を明らかにする。さらに、これらの形容詞を類義語として考察し、共通点と相違点を記述する。

ところで、本研究では各形容詞の意味特徴を記述する際、メタ言語として次元形容詞の一つである「大きい」を用いる。国広（1982：165-167）は、「大きい」について、「どの次元の形容詞よりも広範囲の形の物に用いることができる」と述べている。例えば、「長い指」「高い建物」「広い部屋」などは「大きい指」「大きい建物」「大きい部屋」に言い換えることができる。また、「頭・ボール」など球形については「大きい」しか用いることができない。つまり、「大きい」は、「形態上の特徴に関する制約が最も少ない形容詞」であり、「次元形容詞の中では最も抽象度の高いもの」だと言える。各語の意味特徴は、個別の事例から抽出された抽象的な意味（スキーマ的な意味）であることから、本研究では、＜水平面から＞＜鉛直方向に＞＜内部へ向かう距離が＞＜大きい＞＜さま＞（「深い」意味①）のように、次元形容詞の中で最も抽象度が高い「大きい」を用いて各形容詞の意味を記述する。

なお、国広（1982：166）は、「大きい」の意義素を＜形のある物を全体として捕らえた時の空間占有量が大きい＞と記述し、「大きい」の意義素の記述に「大きい」を用いている。「大きい」は、次元形容詞の中では最も抽象度の高いものなので、この語を説明するさらに抽象的な形容詞は存在せず、国広（1982）は、「言語による言語意味の記述の限界」（p.167）だと述べている。本論文においても、メタ言語としての「大きい」を用いずに次元形容詞「大きい」の意味を記述することは困難だと判断し、「大きい」を分析対象としないこととする。

1.4. 本研究の構成

本論文は、次のように構成される。

第 2 章では、多義語の位置づけ、および多義語分析の課題とその解決のために援用する諸概念について先行研究を概観する。

第 3 章では、形容詞の範囲と下位分類、および形容詞を使用する際の判断基準について先行研究を概観する。

第4章、第5章、第6章、第7章、第8章では、「深い」「高い」「遠い」「広い」「長い」それぞれの意味分析を行い、複数の意味間の相互関係を明らかにする。

第9章では、「深い」「高い」「遠い」「広い」「長い」を類義語とみなし、第4章～第8章の多義語分析の結果を基に類義語分析を行う。まず、「深い」「高い」「遠い」「広い」「長い」の空間的用法のまとめをする。次に、非空間的用法における「深い」と「高い」の類義語分析を行う。最後に、「長い」「深い」「遠い」が空間から時間へ拡張する場合の類似点と相違点を考察する。

第10章では、本研究のまとめを行う。

第2章 理論的背景

2.1. はじめに

本研究は、次元形容詞を多義語とみなし、認知言語学の観点からその意味を記述する。本章では、認知言語学の基本的な概念について、靱山（2021 など）が提案している「多義語分析の課題」と関連付ける形で概観する。

以下では、2 節で多義語の位置づけについて、国広（1982）、Tuggy（1993）、靱山（2014）を概観する。3 節～7 節で多義語分析の課題とその解決のために用いる諸概念を確認する。

2.2. 多義語の位置づけ

「語」を音形と意味の結びつきの観点から見ると、語の種類は単義語、多義語、同音異義語の三つがあげられる。国広（1982）は、多義語と同音異義語を次のように定義している。

「多義語」（polysemic word）とは、同一の音形に、意味的に何らかの関連を持つふたつ以上の意味が結び付いている語をいう。

「同音異義語」とは、同一の音形に、意味的に関連を持たないふたつ以上の意味が存在する場合に生じるふたつ以上の語のことである。

（国広 1982：97）

国広（1982）は、意味的な関連の有無を多義語と同音異義語を区別する基準としたが、これは明確なものでなく、「同音異義と多義の現象は、本質的に連続しているものであり、境界を定めようとするのがそもそも無理なこと」（p.108）だと述べている。また、多義であるのか、単一の意義素の文脈的変容であるのかの基本的な判定基準は、「ある一定の意味を想定し、それが文脈の相違に平行して少しずつ変わって現れると考えられるか否か、ということ」（p.108）だとも述べている。このように、国広（1982：108）は、同音異義語、多義語、単義語（の文脈的変容）の明確な境界は定められず、連続的であると指摘している。

また、Tuggy（1993）も、個々の事例とスキーマの関係性から、ambiguity（両義性）、polysemy（多義性）、vagueness（漠然性）が連続的であると主張している¹。例えば、bank の「金融機

¹ ambiguity が同音異義語に、polysemy が多義語に、vagueness が単義語に対応すると考えられる。

関」と「川の土手」という意味は、それぞれ十分に確立しているが、意味間の関連は薄い。従って、この二つの意味を包含するスキーマは、thing のような「金融機関」や「土手」以外にも多くのものを包含するものになってしまう。つまり、bank の二つの意味から、thing を想起することは難しく、スキーマの顕著性が低いと言える。反対に、aunt の「親の姉妹」という意味は、「父親の姉妹」、「母親の姉妹」という下位ケースを伴うが、それらよりも「親の姉妹」という意味の方が確立されており、顕著性が高い。そして、paint の「(芸術的に)描く」と「(実用的に)塗る」という下位の意味はそれぞれ十分に確立された意味であるが、同時に「表面を塗る」というスキーマも十分に確立されたものと言える。つまり、bank のように個々の事例の意味が顕著である語が同音異義語、aunt のように上位の概念、すなわちスキーマが顕著である語が単義語、paint のように個々の事例の意味もスキーマもそれぞれ自立している語が多義語であると言うことができ、これらは個々の事例とスキーマの顕著性の観点から連続的であり、多義語は単義語と同音異義語の中間に位置すると言える。

さらに靱山 (2021 : 3-11) は、Tuggy (1993) 等を参考に、単義語と同音異義語を両極とし、その中間に多様な多義語が連続的に存在することを、図 1 のように「単義語寄りの多義語」、「(典型的な)多義語」、「同音異義語寄りの多義語」として示している。

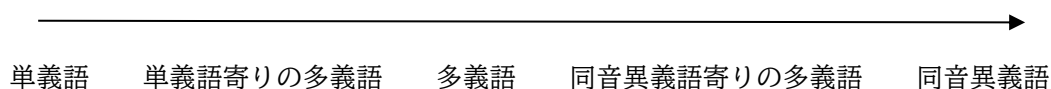


図 1 単義語・多義語・同音異義語の連続性 (靱山 2021 : 6)

「単義語寄りの多義語」とは、「おおよそ、(想定される)複数の意味の(1つの)自立性が(典型的な多義語と比べて)低く、また、複数の意味の関連性が(典型的な多義語よりも)強く、複数の意味に共通する意味等の複数の意味を包括する意味の自立性が高い語」(靱山 2021 : 9) である²。例えば「教える」という動詞は、「英語を教える」「名前を教える」のように<学問・技術・価値観等を教授する><簡単な情報を、相手が知るようにする>という2つの意味が想定されるが、これらに共通する<相手が何らかの事柄を知るようにする>という複数の意味を包括する意味のほうが自立性が高いと考えられる (靱山 2021 : 9-11)。

一方、「同音異義語寄りの多義語」とは、「自立性の高い複数の意味を有すると共に、(典

² 靱山 (2021 : 5) は、「個々の母語話者において定着度が高く、かつ言語共同体において慣習性が高い意味」を「自立性が高い」と見なしている。本研究もこれに従う。

型的な多義語と比べて) 複数の意味の関連性が弱い語」(靱山 2021 : 8) である。例えば、「尋ねる」「訪ねる」は、それぞれ<質問する><訪問する>に近い意味であるが、2 つの意味に共通する意味<人間が、ある対象を求めて、その対象が存在すると思われるところに、はたらきかける>と比べると、<質問する><訪問する>という意味のほうが、共通する意味より自立性が高いと考えられる(靱山 2021 : 8-9)。

さらに、靱山(2014 : 2) は、ある語などの形式(音形)に、なんらかの観点から複数の意味が想定できる場合、その複数の意味がどの程度自立性を有するか、逆に言えば、その複数の意味を統合する 1 つの意味がどの程度自立性を有するかは、程度問題(連続的)であり、また、その複数の意味がどの程度関連性を有するかについても程度問題(連続的)だと述べている。

このように、単義語、多義語、同音異義語は、音形と意味の観点から連続的だと言うことができ、多義語に関しては、「単義語寄りの多義語」、「(典型的な)多義語」、「同音異義語寄りの多義語」といった多様性が見られる。

2.3. 多義語分析の課題と援用する諸概念

靱山(2021 など) は、多義語の分析において明らかにしなければならないことを、多義語分析における課題として示し、次の四つをあげている。

- 1) 何らかの程度の自立性を有する複数の意味(多義的別義)の認定
- 2) プロトタイプの意味の認定
- 3) 複数の意味の相互関係の明示
- 4) 複数の意味すべてを統括するモデル・枠組みの解明

(靱山 2021 : 15)

以下で、1) から 4) の課題について概観するとともに、本研究で援用する諸概念について確認する。

2.3.1. 何らかの程度の自立性を有する複数の意味(多義的別義)の認定

靱山(2021 : 15) は、1) の課題について、「多義語は(相互に関連のある)複数の意味を有するのであるから、個々の多義語(と想定されるもの)の意味を記述するにあたり、そ

の語が複数の意味を持つことを示すことが前提となる」と述べている。

さらに、靱山 (2021 : 30-39) は「(典型的な) 多義語」と認定する基準として、「各意味と共起する表現の自由度が (単義語寄りの多義語より) 高い」「X という Y₁」と「X という Y₂」の両方の X の位置に生起可能」「と」による異なる複数の語との共起が可能」「反義語の違い」「各意味ごとの照応関係のみが成り立つ」「くびき語法になる」「文字通り (の)」による本来の意味であることの明示」の7つを挙げているが、これらも複数の意味を認める際の基準となると考える。本節では、複数の意味の認定の手がかりとして、以下で「反義語の違い」について本研究の対象語の一つである「高い」の靱山 (2021) の記述を確認し、また、「深い」に関して「各意味ごとの照応関係」について検討する。

2.3.1.1. 反義語の違い

- (1) a. 背が高い／低い。
- b. 値段が高い／安い。

(靱山 2021 : 34)

例(1)から、「高い」という語には、反義語として (少なくとも)「低い」と「安い」があることがわかる。「低い」には「空間の高低に関する自立性の高い意味」、「安い」には「価格に関する自立性の高い意味」があると考えられることから、それぞれに対応する「高い」には異なる意味が認められるとすることができる (靱山 2021 : 34)。

2.3.1.2. 各意味ごとの照応関係

Cruse (2011 : 101-103) は sense boundaries (意味の境界) を示す3つの自立性について述べているが、本研究ではそのうちの Attentional autonomy (注意の自立性) をとりあげる³。人は一つのコンテキストにおいて、ある語の複数の意味に同時に注意を払うことができず、それゆえ複数の意味のそれぞれが自立している (意味の境界がある) と言える。また、そのため前方照応のような the identity constraint (同一性制約) が生じる。例えば ‘John was wearing a light jacket; so was Bill.’ の ‘light’ について、その意味が二つの意味 (色が明るい／重さが軽い) のどちらかに選択されたなら、「so」が指し示す意味もそれに従わなければならない

³ 他二つの自立性は、Relational autonomy (関係の自立性) と Compositional autonomy (合成の自立性) である。(Cruse 2011 : 101-103)

い（前方照応）と述べている。

靨山（2021：35）は、ある語に複数の自立した意味がある場合、文中で照応の同一性が生じ、それぞれが交差した読みができないことを日本語の例で示している。靨山（2021）は、「こちらは黒帯です。あちらもそうです。」について、「黒帯」が<帯>を表している場合、「そう」も<帯>を表し、「黒帯」が<有段者>を表している場合、「そう」も<有段者>を表すと述べている。

Cruse（2011）と靨山（2021）を踏まえて、ここで「深い」に関して、照応の同一性を検討する。

(2) この引き出しは深い。そちらの引き出しもそうだ。

例(2)の「深い」が<下方への深さ>を表している場合、「そう」も<下方への深さ>を表し、<奥行の深さ>を表している場合、「そう」も<奥行の深さ>を表す。しかし、「深い」が<下方への深さ>を表し、「そう」が<奥行の深さ>を表すことや、その逆といった交差した読みはできない。つまり「深い」には、<下方への深さ>と<奥行の深さ>という、少なくとも2つの自立した意味があると言うことができる。

しかし、「高い」や「深い」の複数の意味の自立性について、すべてを反義語の違いで説明できたり、照応の同一性で説明できたりするわけでない。例えば、「関心が高い」の「高い」の反義語は「低い」であり、「背が高い／低い」と同じであるため、これだけでは「空間の高低に関する意味」の「高い」とは（「価格に関する意味」以外の）異なる意味があると言うことができない。また、先に挙げた基準についても、「「X という Y₁」と「X という Y₂」の両方の X の位置に生起可能」⁴や「「と」による異なる複数の語との共起が可能」は、名詞以外の品詞では適用が難しいなど、すべての多義語分析に適用できるとは限らないことなどから、本論文では、何らかの程度の自立性を有する複数の意味（多義的別義）の認定について十分に検討することができなかつた。今後の課題としたい。

2.3.2. プロトタイプ的意味の認定

⁴ 「「X という Y₁」と「X という Y₂」の両方の X の位置に生起可能」の例として、「鍋という（調理器具）」「鍋という料理」がある。また、「「と」による異なる複数の語との共起が可能」の例として「金槌と鋸」「水泳選手と金槌」がある。（靨山 2021：31-32）

2) の課題は、認知言語学において広く認められるプロトタイプ理論に基づくものである。
梶山 (2021) は、プロトタイプの意味について次のように述べている。

多義語の複数の意味の全体を 1 つのカテゴリーと考えた場合、そのカテゴリーを構成する個々の要素、すなわち、個々の意味は、すべて同等の重要性を持つのではなく、何らかの意味で優劣があるというプロトタイプ理論の基本的な考え方を前提とするものである。このような前提に基づき、まずは、ある言語のある語の複数の意味の中で、母語話者 (の大半) にとって、最も基本的な意味であると直観的に感じられる意味をプロトタイプの意味と考える。 (梶山 2021 : 69)

また、梶山 (1995 : 623-626) は、共時的な観点によるプロトタイプの意味の認定に際し、「多義語の複数の意味のうち、用法上制約がない、あるいは少ないものをプロトタイプの意味と認定し、用法上制約のあるものを非プロトタイプの意味と考えるという方法が有効である」(p.624) としている。例えば、「もの」と「やつ」に関し、次の例文のように修飾語句が必要である場合 ((3b) (3c)、(4a) (4c)) を用法上の制約があるとし、修飾語句なしに表される場合 ((3a) (4b)) をプロトタイプの意味であるとしている。

- (3) a. ここにモノを置かないで下さい。
- b. 私のようなモノが出席してよろしいでしょうか。
- c. ×モノが出席してよろしいでしょうか。
- (4) a. 赤いヤツをくれ。
- b. ヤツはまだ来ないのか。
- c. ×ヤツをくれ。

(梶山 1995 : 625)

また、木下 (2019 : 519) は、松本 (2009) を踏まえ、多義語の複数の意味のうち、中心性を持つ語義には、「直観的プロトタイプ」と「意味拡張の起点」の 2 種類があると認めている。「直観的プロトタイプ」とは上記の梶山 (2021) のプロトタイプの意味に関する記述のうち、「ある言語のある語の複数の意味の中で、母語話者 (の大半) にとって、最も基本的な意味であると直観的に感じられる意味」についての用語であり、松本 (2009 : 90) では

類似する概念を「機能的中心性」と呼んでいる。「意味拡張の起点」とは、共時的な意味で「他の個別的意味の派生の基盤となるような、概念的に最も基本的な意味」(松本 2009: 89-90) のことである。さらに、木下 (2019: 521) は、靱山 (1995 など) を踏まえて、「直観的プロトタイプ」の認定の手続きについて、(5)のような手法を挙げている。

(5) 言語的特徴：(A) 用法上の制約、(B) 頻度⁵

心理的特徴：(C) 想起テスト

木下 (2019: 522) は、(B) 頻度について、コーパス⁶で用例を検索し、使用数が多い意味を「頻度が高い」と判断している。また、(C) 想起テストについては、調査対象者に設問に入る語を1分間でできるだけ多く書かせ、1番目に想起された語義を「想起されやすい」と判断している。以上の先行研究を踏まえて、本研究では、プロトタイプの意味の認定のために「用法上の制約」と「頻度」を中心に検討する⁷。

なお、本研究では、Lakoff & Johnson (1980)、池上 (1975)、靱山 (1995) を踏まえ、「長い」を除いた「深い」「高い」「遠い」「広い」のプロトタイプの意味が空間的用法にあるという前提で、第4章～第7章でプロトタイプの意味の検討をする⁸。Lakoff & Johnson (1980)は、「われわれは常に肉体的なものを基盤にして非肉体的なものを概念化している」、つまり「より明確な輪郭をもつものを基にして、より不明確な輪郭をもつものを概念化している」(邦訳 1986: 98) と述べている。池上 (1975: 244) では、空間における具体的対象に対する表現と抽象的な対象に対する表現の関係について、次のように述べられている。

もう一つは本来は空間における具体的に目で見ることができるといえるような存在、運動を表わす表現を抽象的な(したがってもちろん目に見えない)存在や変化に対して用いるということである。(中略)空間における具体的な存在や運動は人間の身体的感覚を通じて知覚可能なものであり、一方、抽象的な存在、変化はそのような特徴を欠くものであ

⁵ 靱山・深田 (2003: 141) では、プロトタイプの意味について、多義語の「複数の意味のなかで、最も基本的であり、慣習化の程度・認知的際だちが高いといった特徴を備えたもの」と述べているが、母語話者の大半がある意味を基本的であると感じる場合の慣習化の程度の高さは、用例数の多さに現れる場合もあると考えられる。

⁶ 現代日本語書き言葉均衡コーパス (BCCWJ)

⁷ 各表現がいずれの意味で用いられているかの判断は、筆者の内省による。

⁸ 「長い」に関しては、後述するようにプロトタイプの意味は空間と時間の両方であると考えられる。(第8章参照)

るということを考え合わせれば、後者の表現の「モデル」として前者の表現形式が利用されるのは十分考えられることと思われる。(池上 1975：244)

また、靱山(1995)は、「深い」を「空間」と「時間」の両方の意味を持つ形容詞として、「空間」と「時間」のどちらの意味がプロトタイプ的意味であるかを検討している。靱山(1995：633)は、「深い」が「時間」を表す場合、その対象は「秋・夜」など限られたものしかいないため、「空間」の意味に比べて用法上の制約が強く、従ってプロトタイプ的意味は「空間」の意味だとしている。そして、池上(1975：244)を踏まえて、「空間」から「時間」への転用は、「具体」から「抽象」へという、より一般的な転用の1つと位置付けられ、この一方向的転用は、「具体的な対象」の方が「抽象的な対象」よりも把握しやすいという人間の認知能力に対応するものである(靱山 1995：635-636)と述べている。このような空間における具体的な対象に対する表現(意味)が、抽象的な対象に対する表現(意味)に転用されるということは、「時間」に関してだけでなく、他の抽象的な対象に対する意味にも当てはまると考えられる。従って、これらの先行研究を踏まえ、本研究において各形容詞の意味のプロトタイプ的意味は、空間的用法にあると仮定する。

2.3.3. 複数の意味の相互関係の明示

靱山(2001：33)は、「多義語の複数の意味には相互に何らかの関連が認められるのであるから、個々の多義語の分析にあたり、その関連の実体を明らかにすることが課題となる」と述べている。さらに、「多義語の実際の分析を通して、複数の意味の間には一般にどのような種類の関連が認められるかということ明らかにすることも重要な課題である」とし、この複数の意味の関連付けには、メタファー、シネクドキー、メトニミーが重要な役割を果たすと述べているが、本研究でも、多義語の複数の意味の相互関係について比喩の観点から検討する。

なお、メタファー、シネクドキー、メトニミーについては、靱山・深田(2003)、靱山(2021)に従い、次のように示す

メタファー：2つの事物・概念の何らかの類似性に基づいて、一方の事物・概念を表す形式を用いて、他方の事物・概念を表すという比喩。

シネクドキー：より一般的な意味を持つ形式を用いて、より特殊な意味を表す、あるいは

は逆により特殊な意味を持つ形式を用いて、より一般的な意味を表すという比喩。

メトニミー:2つの事物の外界における隣接性、さらに広く2つの事物・概念の思考内、概念上の(類似性を除く)関連性に基づいて、一方の事物・概念を表す形式を用いて、他方の事物・概念を表すという比喩。

以下で、靱山(2001)で挙げられている例により、それぞれの比喩について確認する。まず、メタファーの例として、「職場の花」における「花」がある。「花瓶に花が活けてある」と「Aさんは職場の花だ」という2つの文において、前者の文の「花」はおよそ<植物が咲かせる美しく人目を引くもの>という意味であり、後者の文の「花」はおよそ<美しく人目を引く人>という意味であるが、<植物が咲かせる美しく人目を引くもの>と<美しく人目を引く人>の類似性に基づき、「花」が後者の意味も表せるのである。(p.34)

次に、シネクドキーの例として、「花見」における「花」がある。この「花」は<サクラ(の花)>を表しているが、<サクラ(の花)>は<植物が咲かせる美しく人目を引くもの>(＜花一般＞)の一種である。つまり、より一般的な<植物が咲かせる美しく人目を引くもの>(＜花一般＞)という意味が、より特殊な<サクラ(の花)>という意味になっているのである。一方、これとは逆の例として「下駄箱」における「下駄」がある。「下駄箱」の「下駄」は<履物一般>を表すと考えられる。この場合、<下駄>は<履物一般>の一種であり、「花」の場合とは逆に、より特殊な<下駄>という意味が、より一般的な<履物一般>という意味になっている。(pp.34-35)なお、ここで言うより一般的な意味とは、相対的に外延が大きい(指示範囲が広い)ということであり、より特殊な意味とは、外延が小さい(指示範囲が狭い)ということである(靱山 2021:117)。<花一般>と<サクラ>を比べると、<花一般>は「サクラ」以外の花が含まれることから<サクラ>より外延が大きい。また、<サクラ>は、花一般の特徴に加えて、<サクラ>を他の花と区別する特徴を持っていることから、外延が小さいカテゴリーのほうがより多くの特徴を持つことがわかる。また、次節でも見るように、複数の意味からスキーマを抽出できる場合、これらの意味の関係(スキーマ関係)はシネクドキーに相当する。例えば、靱山(2021:180-185)は、「かたい」の意味(の一部)を(6)~(8)のように記述しているが、(6) <(約束・命令等の)内容が><従わないことに対して>と(7) <未確定の事柄が><その事柄以外の可能性を考えようとする力・営みに対して>という意味特徴がより一般化したものが(8) <未実現の事柄が><それに反する営みをするに対して>とすることができる。

- (6) 意味 (4A) : < (約束・命令等の) 内容が > < 従わないことに対して > < 強い抵抗感を感じさせるさま > (例「かたい約束」)
- (7) 意味 (4B) : < 未確定の事柄が > < その事柄以外の可能性を考えようとする力・営みに対して > < 抵抗感を感じさせるさま > (例「A 候補の当選はかたい」)
- (8) 意味 (4) (意味 (4A) と意味 (4B) のスキーマ) : < 未実現の事柄が > < それに反する営みをするに対して > < 抵抗感を感じさせるさま >

最後に、メトニミーの例を見る。まず「素敵な鉢をいただいた」における「鉢」が、< (鉢に入っている) 花などの植物 > を表す場合があるが、この場合、< 鉢そのもの > と < 花などの植物 > が空間的に隣接している (後者が前者の中に入っている) ことに基づき、本来、< 鉢そのもの > を表す「鉢」という語によって、< 花などの植物 > を表すことが可能になっている。また、「今日は車で来た」の「車」は、< 車輪 > そのものを表しているではなく、< 車輪 > を部分として持つ < 自動車 > 全体を表しているが、これは全体-部分関係に基づく場合である。時間的隣接に基づく例としては、「(お) 手洗い」がある。「(お) 手洗い」という表現は、< 用便 (をすところ) > の意味で用いられる。これは、< 用便 > と < 手を洗う > という行為が時間的に連続して行われることに基づき、< 用便 > のあとの < 手を洗うこと > という本来の意味から、時間的に先行する < 用便 (をすところ) > という意味が成り立っている。さらに、「頭を抱える」は、字義通りの動作としての意味とおよそ < 困り果てる > という慣用的意味を持つ。この場合、< 頭を抱える > という動作と < 困り果てる > という精神状態が一人の人間において同時に生じることに基づき、字義通りには前者の動作を表す「頭を抱える」という表現を用いて、後者の精神状態をも表していると考えられる。(艸山 2001 : 35)

また、メトニミーに関しては、フレームの観点からも説明することができる。Fillmore(1982) は、フレームについて次のように述べている。

By the term 'frame' I have in mind any system of concepts related in such a way that to understand any one of them you have to understand the whole structure in which it fits;

(Fillmore1982 : 111)

つまり、フレームとは、ある概念を理解するために、その概念が適合する構造全体を理解しなければならないような形で関係づけられた概念体系とすることである。例えば、land と ground は、共に<地球の乾燥した表面 (the dry surface of the earth) >を指すが、land は海 (sea) に対する「地球の乾燥した表面」であり、ground は大気 (air) に対する「乾燥した表面」を指す。land と ground という言葉は、それが何を特定するために使用されるのかという点ではなく、その物事をより大きなフレームの中でどのように位置づけるのかという点で異なっているのである。(Fillmore1982:121)

また、西村 (2008:80-81) は、フレームを「与えられた言語表現の意味の成立に直接関与する百科事典的な (多くの場合コンテキストに依存する) 知識のまとまりのこと」とし、「フレーム的知識が、換喩表現の多くの生成と理解に貢献している」と述べ、「phone」の例を挙げている。"The phone rang"と"I picked up the phone"の下線部が直接指示するのは〔電話機〕の異なる部分 (「電話機のベル音」「受話器」) であるが、それぞれの文が実際に表している意味が成立するには電話によるコミュニケーションに関する知識のまとまり (一種のフレーム) 全体が活性化されなければならない。西村 (2008) は「ある表現の複数の用法間に換喩的な関係がある場合の多くには、このように百科事典的な知識のまとまり (フレーム) 全体にアクセスした上で、その異なる局面や段階に焦点を合わせる、という能力が関与していると考えられる。」(p.81) と述べ、メトニミーについて、「換喩は、ある言語表現の複数の用法が、単一の共有フレームを喚起しつつ、そのフレーム内の互いに異なる局面ないし段階を焦点化する現象」(p.82) と定義づけている。

梶山 (2010:92) は、西村 (2008) を踏まえて、「トイレ」のフレームについて述べている。「トイレ」のフレームでは、「トイレに入る→排泄する→手を洗う→トイレから出る」という一連の行為が考えられる。この「トイレのフレーム」に基づいて考えると、上記であげた「(お) 手洗い」で<用便>を表すというのは、「トイレ」のフレームにおいて、「手を洗う」ことから「排泄する」ことに焦点がずれることと考えられる。つまり、2つの出来事が時間的に連続することに基づくメトニミーは、その2つの出来事だけでなく、それ以外の出来事なども構成要素として含み、全体として何らかの構造あるいはまとまりをなすフレームにおいて、異なる要素を焦点化する仕組みとして再解釈できるのである。

梶山 (2019, 2021) は、西村 (2008)、鍋島 (2016)、Fillmore (1982)、Croft and Cluse (2004)、Evans and Green (2006)、Geeraerts (2010) 等に基づき、フレームを次のように定義している。

フレーム：フレームは百科事典的意味観に基づくものであり、語（等の言語表現）の意味の基盤となる背景的知識である。その背景的知識は、経験がスキーマ化・理想化されたものであると共に、構造化されており、長期記憶に蓄えられている。さらに、ある語（等の言語表現）があるフレームを喚起し、そのフレームのある構成要素あるいは要素間の関係を焦点化する。（靱山 2021：211）

また、フレームに類似した概念として、イメージスキーマが挙げられる。イメージスキーマの定義は、次の通りである。

イメージスキーマ：人間が、身体を通して世界と相互作用をする中で、一般化、抽象化した形で抽出することができる（認知）図式。（靱山 2010：77）

フレームとイメージスキーマはともに、日常の個別の経験を一般化することによって得られるという点は共通である。しかし、イメージスキーマは、環境世界との基本的な身体作用を通して形成されるものであり、より抽象度の高い図式であって、多くの事例に当てはまるものである（靱山 2014：87）。代表的なイメージスキーマとして、「容器」のイメージスキーマが挙げられるが、深田・仲本（2008：60）は、「容器」のイメージスキーマとは、「個々の容器（のイメージ）を指しているのでも、また、「XがYの{中に／外に}ある」という命題を指しているのでもない。空間への出入りに関わる具体的経験の中で繰り返し現れる一般的・抽象的な構造である。」と述べている。イメージスキーマはメタファーやメトニミーの基盤となるが、谷口（2003：47）は、「”He is in the trouble.”, ”He is out of trouble.”といった表現では、「状態」が「容器」であるとみなされ、これらは、容器のイメージスキーマを「状態」という非空間的概念領域に投射した概念化の現れ」だと述べている。一方、フレームは、もろもろの社会的な営みを通して身につけるものであり、より個別的で複雑な構造を持つ知識の型である（靱山 2010：87）。

以上、多義語の複数の意味の関連付けに、メタファー、シネクドキー、メトニミー、フレーム、イメージスキーマが重要な役割を果たすことを確認した。

2.3.4. 複数の意味すべてを統括するモデル・枠組みの解明

靱山（2021：16）は、多義語の複数の意味の相互関係を明示することに加えて、個々の意

味に共通する意味を抽出すること、個々の意味を構成要素として含むフレームを明示すること、多義構造全体における個々の意味の位置づけを示すことなどが課題となると述べている。本節では、この課題に取り組んだ研究として、Langacker (1987) が提案する「スキーマティック・ネットワークモデル」と舩山 (2021) が提案する「放射状ネットワークモデル」「スキーマティック・ネットワークモデル」「フレームに基づくモデル」を統合したモデルを概観する。

以下では、まず、Langacker (1987) のスキーマティック・ネットワークを概観し、Langacker (1987) の言う精緻化・一般化と拡張が、それぞれシネクドキーとメタファーに相当することを見る。次に、舩山 (2021) の統合モデルを概観する。

2.3.4.1. スキーマティック・ネットワークモデル

Langacker (1987: 369-408) は、言語のカテゴリーは典型的に複合的であり、この複合的なカテゴリーは「スキーマティック・ネットワーク」(schematic network) として記述されると述べている。このネットワークは、節点 (node) の集合と、これらの節点をつなぐ弧 (arc) の集合で定義される。この構造をつなぐ弧は、カテゴリー化関係を表し、主にスキーマに基盤がある。カテゴリー化関係を表す主なモデルには、精緻化 (elaboration: スキーマと事例の関係) と拡張 (extension: プロトタイプ的な価値と周辺的な価値の関係) の二つがあるが、Langacker (1987) は、プロトタイプモデルとスキーマに基盤のあるモデル (model based on schematicity) の統合を提案している。プロトタイプはカテゴリーの典型的な例であり、その他の要素はプロトタイプとの類似性 (similarity) に基づいてカテゴリーに含まれる。対照的に、スキーマは、それを定義するカテゴリーの全ての成員と十分に適合する抽象的な性質であり、その成員の共通性を具体化する統一された構造である。

そして、Langacker (1987: 372-373) は、プロトタイプからの拡張によるカテゴリー化が典型的にスキーマによる関係を前提とし包含していると述べ、その関係を図 2 のように表している。

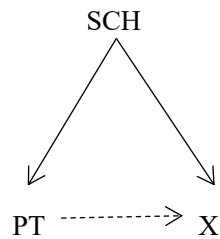


図2 スキーマティック・ネットワークモデル (Langacker 1987 : 373)

図2で示されているように、プロトタイプ (PT) からの拡張は、プロトタイプと概念 X の類似性に基づいている。また、この類似性を理解するには、抽象化 (abstraction) を必要とする。この抽象化によってスキーマ (SCH) が抽出でき、それはプロトタイプと概念 X の両方と両立できる。つまりプロトタイプからの拡張による語のネットワークの横への広がりには、スキーマ抽出による上への伸びを本質的に伴うことになる。(Langacker1987 : 373)

スキーマティック・ネットワークにおいては、そこに含まれる節点及びカテゴリー化関係のすべてが対等の立場にあるわけではなく、他の節点及びカテゴリー化関係に比べて、あるものは認知的に、そして言語的に、より顕著で重要である。プロトタイプは、その優先度と認知的顕著性により重要であり、最上位のスキーマは、そのスキーマがカテゴリーの成員を特徴づける最大の一般化であるということによって重要である。(Langacker1987 : 380-381)

しかし、スキーマやプロトタイプは絶対的なものではない。ネットワークの構造の中で、複数の局所 (local) スキーマやプロトタイプが見られることはよくある。また、スキーマティック・ネットワークにおいて、カテゴリーの他の全ての成員と完全に両立する唯一の「スーパースキーマ」(最上位のスキーマ) がいつも抽出できるというわけではない。たとえ全てを含んだスーパースキーマがカテゴリーにあるとしても、おそらく定着度が低く、認知的際立ちはないと考えられる。(Langacker1987 : 381)

以上、Langacker (1987) のスキーマティック・ネットワークモデルについての記述を概観したが、靱山 (2001 : 37) は、Langacker (1987) の言うスキーマ関係が、上述した比喻の低位類であるシネクドキーに相当すると述べている。例えば、すでに挙げた「花」という語の <植物が咲かせる美しく人目を引くもの> という意味と <サクラ> という意味は、Langacker (1987) のネットワークモデルではスキーマ関係にあり、意味上の「特殊化」が起こっていると考えられる。また、「下駄箱」の「下駄」の <下駄> という意味と <履物一般

>という意味も同様にスキーマ関係にあるが、「花」の場合とは逆に、意味上の「抽象化」が起こっていることになる。

さらに粉山（2010：38）は、Langacker（1987）のいう拡張関係が、メタファーに相当すると述べている。語の〔A〕と〔B〕という2つの意味が部分的に食い違う面があるということは、2つの意味がまったく共通点がないのでもなく、まったく同一でもないということであり、つまりは「類似」しているということである。上述したメタファーの例として、「花」の<植物が咲かせる美しく人目を引くもの>と<美しく人目を引く人>という2つの意味の類似性に基づき、後者の意味が成り立っていることを見たが、この2つの意味は、類似しているのであり、まったく異なるのでも、まったく同一でもないということである。

粉山（2001：41）は、これら「花」の意味をスキーマティック・ネットワークモデルにより示している。「花」には、少なくとも以下の①から③の確立した意味があると考えられる。

- ①<植物が咲かせる美しく人目を引くもの>
- ②<美しく人目を引く人>
- ③<サクラ>

この3つの意味の関係は、まず、①が「花」のプロトタイプ的意味であると考えられる。②の意味は、①から拡張関係（メタファー）によって成立したものである。ここで、①と②に共通する意味として<美しく人目を引くもの>というスキーマを抽出することができる。また、③の意味は、①からスキーマ関係（シネクドキー）によって成立したものである。以上の分析をネットワークとしてまとめると、図3のようになる。

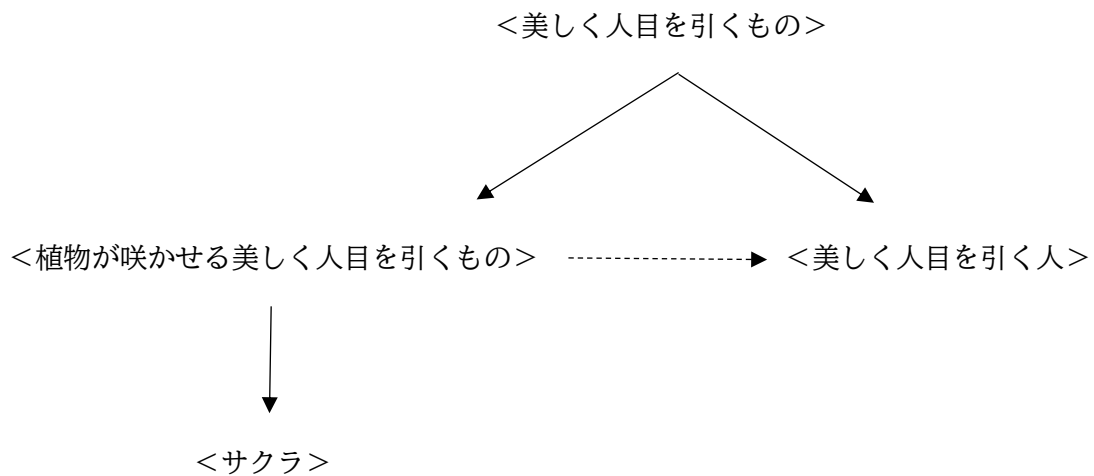


図3 「花」の多義構造 (靱山 2001: 42)

以上、Langacker (1987) のスキーマティック・ネットワークモデルを概観し、精緻化・一般化と拡張がそれぞれシネクドキーとメタファーに相当することを確認した。

2.3.4.2. 統合モデル

靱山 (2021) は、放射状ネットワークモデル、スキーマティック・ネットワークモデル、フレームに基づくモデルを統合したモデルを提案している。この3つのモデルを統合することにより、「ある多義語の複数の意味すべてを包括的に記述・統合し、多義構造を明示することができる」と靱山 (2021: 240) は述べている。

ここで、放射状ネットワークモデルについて簡単に確認すると、放射状ネットワークモデルは「プロトタイプの意味から他の(複数の)意味がどのように(どのような仕組みに基づいて)拡張しているか、言い換えれば、プロトタイプの意味以外の意味が、プロトタイプの意味にどのように関連付けられるかを明示することを目指すもの」(靱山 2021: 130)であり、意味拡張の仕組みとしてメタファー、シネクドキー、メトニミーの比喩を重視する⁹。また、図4のようにプロトタイプの意味以外の意味は、プロトタイプの意味から直接拡張したものに限らない。

⁹ 放射状ネットワークモデルは、多義語分析の課題の「3) 複数の意味の相互関係の明示」を目指すものでもある。(靱山 2021: 129)

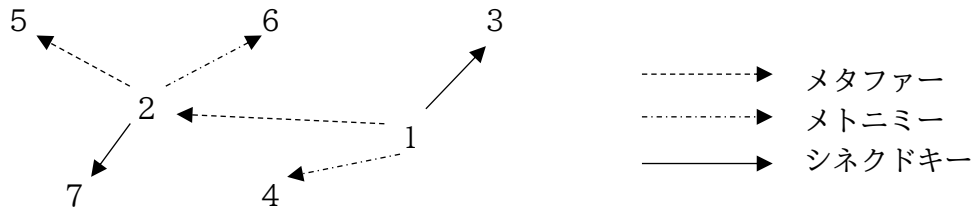


図4 放射状ネットワークモデルによる多義語の意味拡張の仕組み

(靱山 2021 : 130)

以下で、靱山（2021）の統合モデルについて、「タマゴ」の例を見る。靱山（2021 : 241-243）は、「タマゴ」の意味として次の5つを挙げている。

意味（1）：＜鳥、魚、虫等のメスが産む球形に近いもの＞（＜タマゴ一般＞）

意味（2）：＜鶏卵＞

意味（3）：＜鶏卵で作った料理＞

意味（4）：＜一人前になる前の段階の人＞

意味（5）：＜成長・発展の諸々の段階の最初の段階にあるもの＞

(靱山 2021 : 242)

これらの意味の関係について、靱山（2021 : 242-243）は、意味（1）と（2）がプロトタイプ的意味であり、意味（2）は意味（1）の一種であると共に、この2つの意味はどちらも自立性が高いことから、両方向的なシネクドキーの関係にあると述べている¹⁰。そして、意味（4）は、意味（1）（2）の両方からメタファーに基づき拡張したものであること、意味（5）は意味（1）（4）の共通点を示すスキーマであり、意味（5）と意味（1）（4）はそれぞれシネクドキーの関係に基づくものであることを記述している。また、意味（2）と（3）について、＜鶏卵＞と＜鶏卵で作った料理＞には、「材料（食材）」と「料理」という関連性が認められることから、意味（3）はメトニミーに基づき意味（2）から拡張したものであり、『鶏卵』を材料（食材）として料理を行うこと』というフレームを考えた場合、＜鶏卵＞と＜鶏

¹⁰ 靱山（2021）は、「タマゴ」の意味（1）～（4）について、用法上の制約の有無（「共起する表現の自由度」）の観点から、意味（1）と（2）は他の2つに比べてどちらも自由度が高いことから、ともにプロトタイプ的意味と認めている（p.133）。また、両方向的なシネクドキーの関係にある場合でも、スキーマティック・ネットワークモデルの表記法に従い、「意味（1）→意味（2）」と記述している（p.243）。

卵で作った料理>の2つは、このフレームの主要な構成要素と考えられると述べている。

以上を踏まえて、統合モデルによる「タマゴ」の多義構造を示すと、図5¹¹のようになる。

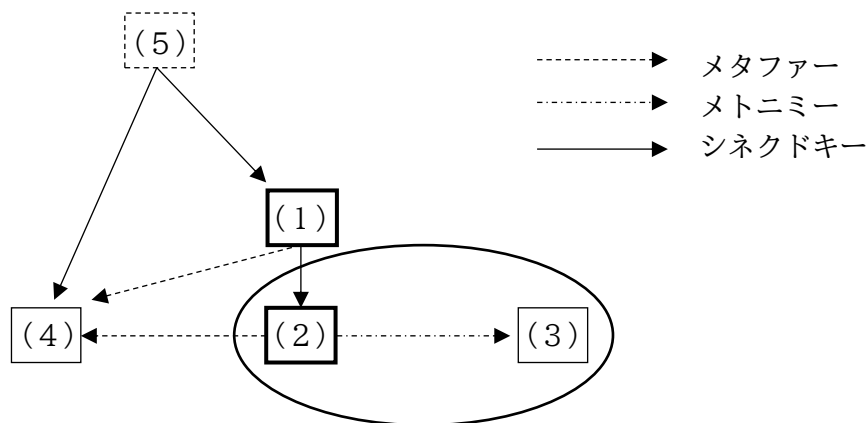


図5 統合モデルによる「タマゴ」の多義構造（靱山 2021：243）

靱山（2021：241）は、統合モデルについて、「多義構造において、個々の意味がどのような比喩に基づき関連付けられるかということだけでなく、各意味が相対的に個別的な意味であるか、より一般的な意味（(局所的) スキーマおよびフレーム全体に相当する意味）であるかを示すこともでき、多義構造における各意味の位置付けを明示できる」と述べている。以上、靱山（2001）の提案する統合モデルを概観した。

本研究では、本章で見た諸概念が多義語分析に有用であると考え、これらに基づき次元形容詞の多義語分析を進め、靱山（2021）の提案する統合モデルで多義構造を示すことを目指す。

¹¹ 図5の楕円はフレームを表し、意味番号を囲む四角の線の太さの違いは自立性の違いを表す。太線は自立性が高く、点線は自立性が低い。

第3章 形容詞

3.1. はじめに

本章では、現代日本語の形容詞に関する先行研究を概観し、本研究における形容詞の位置づけを確認する。

「形容詞」という品詞の定義については、様々な説がある。北原（2010：3）は、形容詞について、「自立語で活用のある単語で、単独で述語になり、性質・状態・感情などを表し、言い切ったとき、「い」で終わ」ると述べている。これは、形式的な面を優先して分類した狭義の定義であり、学校文法における「形容詞」にあたる。また、西尾（1972：18）は、対象範囲の語について「狭義の形容詞といわゆる形容動詞とは、その表す意味の性格や文法的なはたらきがほとんど同じであるから、以下では両者を合わせて形容詞と呼び、特に区別したいときはイ型の形容詞、ナ型の形容詞とした」と述べ、形容詞と形容動詞を合わせて「形容詞」としている。これは、「その表す意味の性格や文法的なはたらき」の面よっての範囲である。一方、飛田・浅田（1991：vi）は、「名詞を修飾する機能」に注目して、形容詞・形容動詞・連体詞・連語を「形容詞」として扱っている。以上のように、形容詞の定義は、狭義の形容詞（学校文法における形容詞）を中心にどの修飾語までを含むかは、その立場によってさまざまである。なお、本研究の対象語である次元形容詞は、基本形が「イ」で終わるイ形容詞であり、狭義の形容詞に含まれる。

以下、本章の概要について述べると、2節で形容詞の分類について西尾（1972）、八亀（2008）を概観する。3節で形容詞を使用する際の判断の基準を概観する。4節で本章のまとめを記す。

3.2. 形容詞の分類

形容詞の分類に関しては、属性形容詞と感情形容詞の二つに分類する説が広く認められているが、これに関して、西尾（1972）を概観する¹。また、形容詞を状態形容詞と特性形容詞の二つに分類する立場もある。これについては、八亀（2008）を概観する。

3.2.1. 属性形容詞と感情形容詞

¹ 感情形容詞は、さらに「感情」と「感覚」に下位分類できるが、本研究では省略する。

西尾（1972：21）は、属性形容詞は「ものや人の性質、動きのようすなどを表し、客観的な性質・状態の表現をなすもの」であり、感情形容詞は、「人間の主観的な感覚・感情を表すもの」であるとしている。この区別は、単語の意味による分類の一種であるが、語としてのふるまいにも様々な特徴の違いがみられる。西尾（1972）は、形容詞が種々の環境において生起しうるかどうかを、10項目にわたって検討しているが、本章では、属性形容詞と感情形容詞を区別する主要な手がかりである「接尾語「～がる」がつくかどうか」と「主語の制限」について確認する²。

- (1) うれしい → うれしがる（感情形容詞）
- (2) おおきい → *おおきがる（属性形容詞）

まず、「～がる」は、例(1)(2)のように、基本的に感情形容詞にはつくが、属性形容詞にはつかない。「～がる」は、人間が、形容詞の表している内的な気持や状態にあることを、外的な態度・言動などに示すことを意味するものと言え、従って、人間の内的な気持や状態を表す形容詞にはつき、そうでない形容詞にはつかない（つきにくい）と言える。（西尾 1972：23-24）

しかし、属性形容詞と感情形容詞の区別と、「～がる」が付くかどうかという区別は、問題なく対応しているとは言えない面もある。例えば、対象の属性を表す「つよい」「きたない」「おめでたい」などに「～がる」がつき、感情を表す「すきな」「きれいな」に「～がる」が付かないといった問題点もある。（西尾 1972：24-25）

次に、主語の制約について見る。

- (3) 私はかなしい
- (4) *あなたはかなしい
- (5) 私はちいさい
- (6) 赤ちゃんはちいさい

² 10項目とは、Ⅰ「～がる」がつくかどうか、Ⅱ「(わたしは)～い(だ)」の形で話し手の感情・感覚を表すか、Ⅲ「あなた・あの人は～い(だ)」の形で第二(三)人称者の感情(覚)を表すか、Ⅳ「あなた・あの人は～そうだ」の形で感情(覚)の表れた様子を表すか、Ⅴ「《対象=モノ》が～い(だ)」の形になるか、Ⅵ「《対象=人》が～い(だ)」の形になるか、Ⅶ「《対象=こと》が～い(だ)」の形になるか、Ⅷ「～い(な)こと」という形になり内容を表すか、Ⅸ「《体の部分》が～い(だ)」の形になるか、Ⅹ「～くて(で)たまらない」の形で表せるか、である。

(3)~(6) 作例)

感情形容詞としての第 1 の必要条件は、それが感情の主体としての人を主語にとりうるか否かという点である。例(3)(4)のように、感情形容詞がそのままの形で平叙文の言い切りの述語になるばあいには、ふつうは、話し手自身の感情・感覚しか表さないという制約がある(西尾 1972:25)。一方、属性形容詞は、例(5)(6)のように話し手以外の属性を表すこともでき、感情形容詞のような主語の制約はない。

なお、本研究の対象語である「深い」「高い」「遠い」「広い」「長い」について、接尾語「～がる」がつくかどうかと、主語の制約について確認すると、(7)のように「～がる」が付かず、(8)のように平叙文の言い切りの述語の場合、話し手以外の属性を表わせることから、これら 5 つの形容詞は、属性形容詞に分類できる。

(7) *深がる／*高がる／*遠がる／*広がる³／*長がる

(8) a このプールは深い。

b. あの山は高い。

c. 駅は遠い。

d. 隣の部屋は広い。

e. キリンの首は長い。

3.2.2. 感情形容詞と属性形容詞の連続性

西尾(1972:33)は「感情形容詞と属性形容詞とは、いろいろな面で密接に関係しあっている」と述べ、以下の例を挙げている。

(9) 肉親との別離はかなしい。

(10) インフルエンザの予防注射はいたい。

(11) 野菜の味が浸み込み、肉特有のいやな匂いもぬける。

(9)-(11) 西尾 1972:34-35)

³ 「*広がる」は、「広い」+接尾語「がる」であるが、動詞としての「広がる」がある。

例(9)(10)では、感情形容詞に属する「かなしい」、「いたい」が、特定の感情・感覚の主体ではなく、「別離」「予防注射」というものの一般的な性質を表現した文のように用いられている。また、感情形容詞が連体修飾語である場合は、より属性表現的になりやすい。例(11)では、「いやな」は、本来感情の対象であるはずの事物を表す名詞（「匂い」）を修飾しているが、感情の主体がぼやけて、「いやな」が名詞のあらわす事物の属性表現のようになっている。（西尾 1972：34-35）

さらに、ある一つの形容詞が、ごく普通な用法の範囲でも属性と感情の両面を持ち、両グループの中間に位置づけるのが妥当だと思われるものもある。例えば、「おかしい」は感情形容詞の面を持っているが、同時に属性形容詞の面も持っている。（西尾 1972：35-36）

(12) 「少しは若い嫁さんに思いやりをしてあげんと」

自分と同じようなことを言うと景子はおかしかった。 （西尾 1972：205）

(13) 歩き出しや、階段の上り下りは殊に困った。その歩きつきがをかしいので、生徒達は彼のうしろでよくくすくす笑った。 （西尾 1972：206）

例(12)の「おかしい」は、主体である「景子」の感情を表しているが、例(13)の「おかしい」は、「歩きつき」自体の客観的な性質を表しているものと考えられる（西尾 1972：205-206）。また、西尾（1972：36）は、「おかしい」の他に、感情と属性を表す形容詞として「かわいい」「かわいそうな」なども挙げている。

以上のように、感情形容詞と属性形容詞の間に明確な境界を引くことは難しく、感情形容詞と属性形容詞は連続的であると言えることができる。

3.2.3. 状態形容詞と特性形容詞

本節では、「状態形容詞」と「特性形容詞」という分類に関して、八亀（2008：28）を概観する。

八亀（2008：28）は、名詞から動詞までは連続的であり、形容詞はその中間的なところに位置するとし、工藤（2002）の品詞と述語の意味的なタイプの相関表を踏まえて、品詞と述語の意味的なタイプの相関を図1のようにまとめている⁴。

⁴ 八亀（2008：21）における「形容詞」は、学校文法における「形容詞」と「形容動詞」の両方を指している。

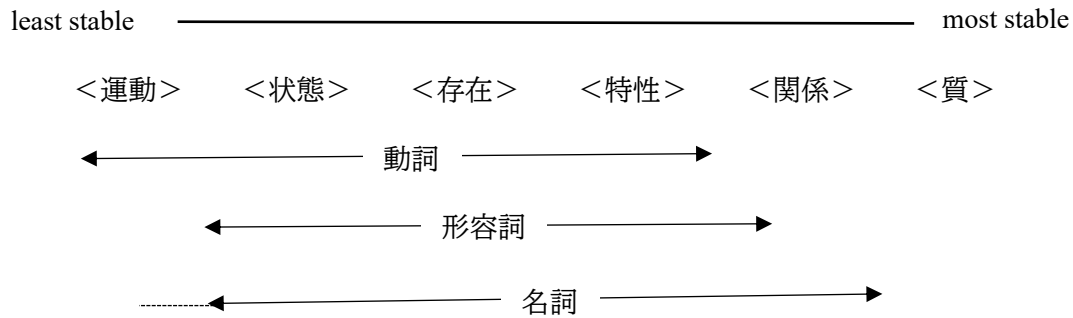


図1 品詞と述語の意味的なタイプの相関図（八亀 2008：20）

形容詞は、このうち、<状態><存在><特性><関係>を表す述語として機能するが、その中でも中心となるのは、<状態>と<特性>である。八亀（2008）は、このことに注目して、形容詞を「状態形容詞」と「特性形容詞」の二つに分類し⁵、また、形容詞における話し手の主体的な関わりには、「時間的限定性」と「評価のタイプ」の二つのタイプがあるとし、これらを軸に形容詞を整理している。時間的限定性とは、具体的・一時的・偶発的な<現象>か、ポテンシャルで恒常的な<本質>かの違いを捉えるものである⁶（八亀 2008:28）。また、西尾（1972）の指摘した「主観性」を、八亀（2008：34）は「評価」と呼び、評価とは形容詞における話し手の主体的な関わり方のことだと述べている。

まず、特性形容詞について見る。特性形容詞の中心は「属性形容詞」であり、評価のタイプは、ある基準に照らしてそれとの比較の中で物を意味づけるというものである。例えば、「この部屋は大きい。」と言うとき、話し手はなんらかの基準（この場合はおそらく経験に基づくか、賃貸の部屋を探している場合なら家賃から推測される平均的な大きさ）と比較して、部屋を意味づけている。つまり、評価の客体となるのは、「意味づけられるもの」であり、具体的な人や物であることが多い。ただし、特性形容詞を述語とする文では、話し手の

⁵ 八亀（2008）の他に、樋口（1996：39）は「形容詞は、それが人や物のもとに生じてくる一時的な状態をとらえているか、それとも人や物に恒常的に備わっている特性をとらえているか、ということによって、<状態形容詞>と<質形容詞>との、ふたつのグループにおおきく分けることができる」としている。「質形容詞」は、八亀の「特性形容詞」に相当する。

⁶ 八亀（2008：31）は、「時間的限定性を軸として分析する事の意義は、是がすべての述語を俯瞰したカテゴリーであるので、動詞のアスペクト・テンス・ムード体系の記述や、名詞述語文の記述とリンクさせながら、その相互移行のありさまをとらえつつ記述を進めることができる点、さらに、類型論で同様の連続層を枠組みとしている研究と通言語的に比較対照ができる点などがあげられる」と述べている。

評価的な関わり方は、基本的に背景化されている⁷。

次に、状態形容詞について見る。状態形容詞の中心は「感情形容詞」であり、評価のタイプは、人間の感情をもとにして、その感情を引き起こす原因としての対象を意味づけるというものである。例えば、「このまま帰ってしまうなんて、もったいないよ。」というとき、そこには感情と同時に、予想される出来事としての対象への意味づけが行われている。このタイプの状態形容詞を述語とする文では、基本的に出来事としての対象への意味づけは背景化し、話し手の評価的な関わり方が、前面化してくる。(八亀 2008 : 35-37)

「時間的限定性」と「評価」を軸として整理をすると、図2のようにABCDEの五つのタイプを取り出すことができる。(14)~(18)は、各タイプの説明である。

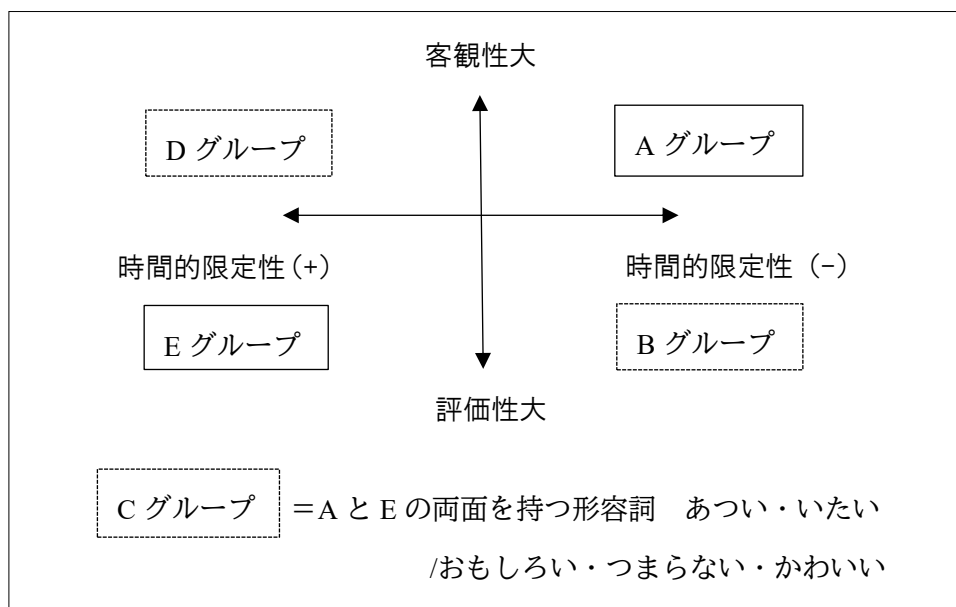


図2 時間的限定性と評価を軸とする形容詞分類 (八亀 2008 : 40)

(14) A グループ：特性形容詞（時間的限定性なし）。いわゆる「属性形容詞」の大半。基本的に《特徴のもちぬし》に《特徴》をさしだす構造が前面化する。評価主体はふつう明示されない。

⁷ 八亀 (2015 : 12) は、西尾 (1972) 等を踏まえ、「形容詞がさしだす<特性>は、純粋に客観的なものではなく、話し手の評価的な側面が本質的に絡みついている」が、「一般に<特性>を表す形容詞述語文では評価的な側面は背景に退き、主語の特徴付けの側面が前面に出てくる」と述べており、特徴づけの側面が前面に出てくるため、形容詞文の客観性が高いように感じられると考えられる。

(話し手)	「おかあさんの手って	大きいね」	
	《特徴のもちぬし》	《特徴》	(前面化)
《評価の主体》	《評価の客体》	《評価そのもの》	

(15) B グループ：特性形容詞（時間的限定性なし）。「すきな」「きれいな」など話し手の好悪を表す。基本的に話し手の恒常的な好悪の評価が前面化する。評価主体はふつう明示されないが、個人的な好悪であることを示したい場合は出る。

(話し手)	「このバンド	好きよ」	
《評価の主体》	《評価の客体》	《評価そのもの》	(前面化)
	《特徴のもちぬし》	《特徴》	

(16) C グループ：特性形容詞と状態形容詞の両側面を持つ。あつい・いたい/おもしろい・つまらない・かわいい。《特徴のもちぬし》に《特徴》をさしだすという記述的な構造と評価的な面が拮抗する。評価主体はふつう明示されないが、明示されると評価的な面が前面化する。倒置されて、形容詞が文頭に出ると、「表出」に近づく。

(話し手)	「このカレーライス	おいしいね」	
《評価の主体》	《評価の客体》	《評価そのもの》	
	《特徴のもちぬし》	《特徴》	

(話し手)	「かわいいねえ	この子猫」	
《評価の主体》	《評価そのもの》	《評価の客体》	(前面化)
	《特徴》	《特徴のもちぬし》	

(17) D グループ：状態形容詞（時間的限定性あり）。いそがしい・あわただしい/まっかな・まっしろな。基本的に《特徴のもちぬし》に《特徴》をさしだす構造が前面化する。評価主体はふつう明示されない。

(話し手)	「西の空が	真っ赤だ」	
-------	-------	-------	--

	《特徴のもちぬし》	《特徴》	(前面化)
《評価の主体》	《評価の客体》	《評価そのもの》	

(18)E グループ：状態形容詞（時間的限定性あり）。いわゆる「感情形容詞」の大半。評価的な面が前面化する。評価主体はふつう明示されない。明示されると主観性が強く感じられる。「評価の客体」が明示されないことがあり、その方が主観性が強く感じられる。倒置されて、形容詞が文頭に出ると、「表出」に近づく。

(話し手)	「誕生日覚えていてくれて	うれしいわ」	
《評価の主体》	《評価の客体》	《評価そのもの》	(前面化)
	《特徴のもちぬし》	《特徴》	

((14)~(18) 八亀 2008 : 41-43)

上記の A~E グループのように主な形容詞は分類されるが、それぞれのグループがそれぞれの象限の意味しか表さないというのではなく、文レベルでは、いろいろな条件・環境で、移行が生じる。例えば、例(19)のように、評価者によって<属性のもちぬし>と<属性>の結びつきが「可変的」である可能性が増すとき、つまり個別・具体性が増すときには、<属性>にいわゆる状態形容詞が来る（八亀 2008 : 81）。

(19) そういいながら武志はぶらぶらと廊下を歩いていきます。そして、「ここは風通しがよくて気持ちいい」と、階段のいちばん下の段に腰を降ろしました。（八亀 2008 : 81）

例(19)では、武志（評価者）によって「ここ」という<属性のもちぬし>と「気持ちいい」（状態形容詞）という<属性>が結びついているが、これは個別・具体的である。

以上、八亀（2008）に基づいて、「状態形容詞」と「特性形容詞」の分類について概観した。八亀（2008）においても、先述した感情形容詞と属性形容詞と同様に、C グループのように状態形容詞と特性形容詞の両側面を持つ形容詞があり、また、文レベルでは、条件・環境によりグループ間の移行が生じることから、状態形容詞と特性形容詞は連続的であると言える。

ここで、本研究の分析対象語である「深い」「高い」「遠い」「広い」「長い」について確認

すると、(20)~(24)のように《特徴のもちぬし》に《特徴》をさしだす構造が前面化する。この時、例えば「深い」に関して見ると、話し手は何らかの基準と比較してその「プール」を捉え、また「深い」はその「プール」が持つ恒常的な性質を表していることから、「深い」は特性形容詞（Aグループ）に分類できる。「高い」「遠い」「広い」「長い」も同様である。

(20) (話し手)	「このプールは	深い」	
	《特徴のもちぬし》	《特徴》	(前面化)
《評価の主体》	《評価の客体》	《評価そのもの》	
(21) (話し手)	「あの山は	高い」	
	《特徴のもちぬし》	《特徴》	(前面化)
《評価の主体》	《評価の客体》	《評価そのもの》	
(22) (話し手)	「駅は	遠い」	
	《特徴のもちぬし》	《特徴》	(前面化)
《評価の主体》	《評価の客体》	《評価そのもの》	
(23) (話し手)	「隣の部屋は	広い」	
	《特徴のもちぬし》	《特徴》	(前面化)
《評価の主体》	《評価の客体》	《評価そのもの》	
(24) (話し手)	「キリンの首は	長い」	
	《特徴のもちぬし》	《特徴》	(前面化)
《評価の主体》	《評価の客体》	《評価そのもの》	

3.3. 形容詞の相対的な判断・評価を表す際の基準

西尾（1972：15-16）は、形容詞にはある基準に照らしての相対的な判断・評価を表すという性格が強い語が多く、その基準には、社会的・客観的な性格のものがあると同時に、個人的・主観的なものもあると述べている。そして、西尾（1972：165-168）は、Leisi（1961：邦訳 162-170）のドイツ語と英語についての考察を踏まえ、日本語において、ある形容詞を

使用する際の判断の基準として、次の4つを示している。

- ①種の基準⁸
- ②比率的基準
- ③個人的な期待基準
- ④適格基準

①～④を簡単に説明すると、「①種の基準」は、その属性の主体が所属する「種」の平均的な代表者が基準になる場合であり、例えば「睫毛の長い眼」の睫毛が平均的な長さより長い場合が相当する。「②比率的基準」は、「長いテーブル」の「長い」のようにテーブルの1辺がほかの辺と比べて比率的に長い場合である。「③個人的な期待基準」は、例えば60歳過ぎの人について「そんなに若いの！」と言った時のように、話し手の予想に反して年が少ないという個人的な判断が基準になる場合である。「④適格基準」は、例えば路地が「二人並んで歩けない程せまい」場合の「せまい」は、人がそこを通るという目的に対して十分な幅がない、適格性に欠けるということを表現しているのである。

これらの基準は、相対的な性格の濃い形容詞の場合であるが、Leisi (1961: 邦訳 169) は「次元をあらわす形容詞はこの四つの基準が全部適用出来る唯一の言葉である」と述べている。さらに、Leisi (1961: 邦訳 165) は、ein hoher Turm (高い塔) の hoch (高い) は、絶対的な高さ(種の基準)あるいは比率的な高さのどちらかの点で平均的な塔の高さに勝っていると考えられると述べている。つまり、形容詞に対するこれらの基準は固定的なものではないと言うことができ、判断の基準は話し手である主体がその時々に応じて対象をどう捉えるかという認知活動に基づいていると考えられる。

3.4. 第3章のまとめ

本章では、現代日本語の形容詞に関する先行研究を概観し、本研究における形容詞の位置づけを確認した。

まず、「形容詞」という品詞の定義については、言い切ったときに「い」で終わる狭義の形容詞(学校文法における形容詞)を中心に、形容動詞や連体詞など、どの修飾語までを含

⁸ 本多(2016: 47)は、「種の基準」に相当する基準について、「形容詞の意味に関わるのは実際には種だけではない」ことから、「準拠枠」と呼んでいる。

むかは、その立場によってさまざまであった。

次に、日本語の形容詞の分類については、単語の意味や統語的なふるまいによって「属性形容詞」と「感情形容詞」に分類するものと、「時間的限定性」という一時的な<現象>か、恒常的な<本質>かの違いによって「状態形容詞」と「特性形容詞」に分類するものを概観した。いずれの分類でも、「おかしい」のように、ある一つの形容詞がごく普通の用法の範囲でも両面を持ち、両グループの中間に位置づけるのが妥当だと思われる場合があった。さらに、「肉親との別離はかなしい。」のように文レベルで考えると、いろいろな条件・環境においては、感情形容詞（状態形容詞）に属するものが、特定の感情・感覚ではなく、対象の一般的な性質（属性）を表現している場合もあった。以上のように、いずれの分類方法でもその中間に位置づけられるものがあり、分類は連続的であることを見た。また、本研究の対象語である「深い」「高い」「遠い」「広い」「長い」に関しては、それぞれ「属性形容詞」と「特性形容詞」に分類できることを確認したが、単語の意味や統語的なふるまい、時間的限定性の有無という観点からこれらの分類は妥当であると考え、西尾（1972）、八亀（2008）の分類に従うこととする。

続いて、形容詞の相対的な判断・評価を表す際の基準について、4つの基準を概観した。次元形容詞は、この四つの基準が全て適用出来るが、固定的なものでないことから、判断の基準は話し手である主体がその時々に応じて対象をどう捉えるかという認知活動に基づいていると考えられる。

第4章 「深い」の意味分析

4.1. はじめに

本章では、形容詞「深い」を取り上げ、その意味および複数の意味間の相互関係を分析、考察する。

本章の概要について述べると、次の2節で「深い」の意味に関する先行研究を概観し、検討する。3節では、まず「深い」の空間的用法における意味分析を行い、複数の意味間の相互関係を記す。続いて、非空間的用法における意味分析を行い、複数の意味間の相互関係を記す。さらに、「深い」の意味全体の多義構造を記す。最後に4節で、本章のまとめを述べる。

4.2. 先行研究の記述とその検討

本節では「深い」の意味に関する先行研究として、『大辞林（第四版）』（2006）、飛田・浅田（1991）、西尾（1972）、小出（2000）を取り上げ、その記述内容を検討する。

4.2.1. 『大辞林（第四版）』（松村明編 2019：2367）¹

- ①㊦（垂直方向に）基準になる面から底までの距離が長い。「－・い海」「－・い谷」「－・い井戸」「－・い雪」
- ①（水平方向に）基準になる面から奥までの距離が長い。「－・い洞窟」「－・い森」「－・い山の中」
- ②㊦物事の程度が大きい。度合いが強い。「－・い味わい」「－・い静寂」「罪が－・い」
 - ①濃度が大きい。濃い。「－・い緑」「－・い霧」「－・い香り」
 - ㊵（時間的な推移の中で）今が盛りである。たけなわである。「秋も－・くなった」「夜が－・い」
- ③表面的には見えにくいが重大な意味をもっている。またいわくありげである。深遠だ。「－・い意味」「－・い事情がありそうだ」
- ④関係が密接である。関わりが強い。「－・い縁」「－・い仲」
- ⑤身体の奥にまで達している。また、体の深部から発している。「－・い傷」「－・い呼吸」

¹ 『大辞林（第四版）』には、①～⑦以外に、複合語に関する項目（⑧）と現代日本語の意味ではない項目（⑨⑩）もあるが、本研究の対象ではないと判断し、省略する。

「ー・いため息」「ー・い眠り」

⑥心の底から強く感じている。気持ちが強くて変わりにくい。「ー・い悲しみ」「ー・い愛情」「情がー・い」「ー・い印象」「ー・い興味」「欲がー・い」

⑦考えを十分にめぐらしている。物事をよく見極めている。「ー・く考える」「ー・い思慮」「学識がー・い」

4.2.2. 飛田・浅田 (1991: 486-488) ²

飛田・浅田 (1991) は、「深い」の意味を大きく 4 つに分け、次のように記述している。

ふかい〔深い〕

①空間的に、基準面からの距離が大きい様子を表す。

「田沢湖は日本でいちばんふかい湖だ。」「こんなふかい森へ迷いこんだら最後出られないぞ。」

②程度がはなはだしい様子を表す。

「牧場の朝はいちめんのふかい霧でした。」「愛児を失ってふかい悲しみに沈む。」

③時間が十分に経過して、程度がはなはだしくなっている様子を表す。

「しだいに秋もふかくなる。」

④色彩・味・香りなどの濃度が大きい様子を表す。

「彼女はふかい緑色の服がお好みだ。」「ふかい香りと味わいのコーヒーです。(CM)」

飛田・浅田 (1991: 486-488) は、①について「深い」が示す方向は鉛直方向が最も基本的で、基準面から下方へ向かう場合が多いと述べている。また、水平方向に距離が大きい様子も表すが、この場合には距離が大きいだけでなく、森や山の木々の密度が大きいことも暗示すると述べている。③については、「秋・夜」など限られた対象について用いられ、時間の経過だけでなく、対象の濃度や程度がはなはだしくなっていることを暗示すると述べている。④については、対象の濃度が大きいことを好ましく感じている表現で、かなり主観的だと述べている。

² 飛田・浅田 (1991) には、①～④の他に、複合語に関する項目があるが、本研究の対象ではないため省略する。

4.2.3. 西尾 (1972 : 69-78, 235-247, 390-412)

西尾 (1972) は、「深い」に関して、空間的な量 (距離) を表す意味と、それ以外の「視覚的な感じ (草、霧など)」「時 (秋、夜など)」「関係 (つながり、仲など)」「感情 (愛、憎しみなど)」「知的精神作用 (考え、理解など)」「その他 (趣、眠りなど)」の6つの意味とに分け、記述している。

まず、「深い」が表す量は、空間における1次元の量であり、「もの自身のもつ量的な性質を表すばあいも、そのものの空間的な位置を表すばあいもある」と述べている。この場合の「性質」は例えば「深い海」、「位置」は「深い海底」にあたり、量的な性質はその対象物 (深い海) の末端部 (海底) に焦点を当てると、位置の表現に近づく。また、基本的には基準は水平面であり、それに対して下向きの垂直な線上にあるが、基準面が水平面以外の場合も多く、その場合は基準面から垂直方向に、そのものの奥・中に向かう長さが表されるとしている。さらに、奥行きを表す場合をその条件が弱まり消えた用法と述べている。

次に、空間的であるが距離と関係のない意味 (「視覚的な感じ」として、「草木など」「霧・もやなど」「色」がある。「草木など」は、密に多量にはえているありさまで、見通しがきかない、暗い感じがするというニュアンスが伴う。「霧・もやなど」は、その濃度が大きいありさまで、視界がきかないというニュアンスが伴う。「色」は、「濃い」と類義的であり、黒みがかかった暗い感じの色である傾向がある。

続いて、抽象名詞や精神活動などを表す動詞と結びつく場合を見る。「時」では、季節を表す名詞 (主に「秋」) や夜と結びつく時、「時期が進んでいる、ふけている」という意味を表す。「関係」「つながり」「仲」などの、ものごとの「関係」に関連する抽象名詞に結びつく時、「密接な」「したい」などの意味合いを帯びる。「感情」を表す抽象名詞と結びついて、その気持の程度が著しい状態をあらわすが、心の奥底において燃えるような感情であり、そこには空間的な「深い」の基本的意味が、大なり小なり媒介表象として働いているとみられる。「興味」「関心」などの語と結びついて、その程度の著しいことを示す。知的な精神作用として、「考え」「知る」「理解する」「考察」などは、思考がおぎなりでなく、十分に考えめぐらされるありさまを意味し、「意味」「わけ」「理由」などは、「くわしい」「こみいった」「たちいった」などのようなニュアンスを帯びると解される特徴がある。

しかし、上記の分類のいずれにも属させることができないもの (「趣」「静かき」「眠り」「秘密」「罪」など) もあり、その意味はおおよそ「程度が著しい」としている。

4.2.4. 小出 (2000)

まず、空間的用法について、小出 (2000 : 4) は、「深い」は何らかの本体に属する内部空間を対象とし、内部空間内での伸びの方向は下方だけでなく、水平方向もありうるが、上方への伸びは対象とならないと述べている。「深い」の対象は、面で囲まれた空間そのものであり、基準点は内部空間の開口部だが、明確でない場合も多いと言う³。また「深い」の内部空間の特徴として①「安定性・堅牢性のようなものがある (例: 深い靴/*深い靴下)」、②「開口部以外が閉じられたものでなくてもいい (例: 深い谷、深い椅子)」⁴、③「内部空間は密であってもよいが、内部性は保持されていて、中に入ることができる (例: 深い雪、深い泥濘、深い沼)」の3つを指摘している。

非空間的用法については、小出 (2000 : 9-10) は、西尾 (1972) を踏まえて2つの特徴を指摘している。まず、非空間的用法では「「深い」の対象は外から観察される状態を基準点とし、内部の見えない部分に伸びるなにかがあることが暗示されるもの」だと述べている。例えば「深い意味」「深い混乱」は、表面的な観察を超えたところに「意味」「混乱」があることを暗示し、「深い関係」はその関係の中に入り込む部分が大きくなることを意味している。次に、「深い」ところにそのものの本質があり深くなればなるほどその本来の性質に近づくという認識から、伸びが大きいものほど本質性あるいは程度性が大きくなると指摘している。「深い教養」「深い香り」などはその対象の本質の表れを価値とみなし、「深い赤」などの色名に使われる場合は、「深い」には見えない部分 (暗くて黒い部分) があり、価値あるものという連想が働いていると述べている。「深い理解」「深い知識」などの知的活動に関する表現では、「真理」「核心」のようなものは見えないところ、表層から離れたところにあるという認識があり、核心に近づくことは深く進むことと捉えられており、「深い愛」「深い悲しみ」などの感情は「心」の中であって、「心」の奥にあるものほど度合いが強く、「本来の姿」として対象を捉えている。これら2つの特徴から、小出 (2000) は、「深い」の非空間的用法の意味領域は、「物事の核心、真理への接近の度合い」と述べている。

4.2.5. 先行研究の記述の検討

³ 例えば「深い谷」などは、内部空間の開口部と想定され、意識されるところが基準点である。(小出 2001 : 4)

⁴ 小出 (2000 : 5) によると、「*深いトンネル」「*深い廊下」などが不自然だとすれば、開口部の反対側 (注視点) の存在が明確だからであり、背板のない本棚の棚について「深い棚」という場合、実際に反対側が閉じていることは必要でないが、反対側が閉じられていると意識されるのだと思われる。つまり「ドンツマリ」があるということが「深い」のイメージの中で中心的なものである。

これまで見たように、「深い」の意味は、複数存在するものとして分析、記述されており、本研究は、これらの先行研究に負うところが大きい。西尾（1972）の、空間的用法では「深い」は「もの自身のもつ量的な性質を表すばあいも、そのものの空間的な位置を表すばあいもある」との指摘は、本稿の分析結果とも重なる。また、小出（2000）の非空間的用法の場合の「「深い」ところにそのものの本質があり、深くなればなるほどその本来の性質に近づく」「「真理」「核心」のようなものは見えないところ、表層から離れたところにあるという認識があり、核心に近づくことは深く進む」との記述は重要な指摘だと考える。しかし、いずれの研究も、個々の意味の記述やその区分について検討の余地が残っていると考える。

まず、空間における「深い」の意味記述については、いずれもおおよそ「基準（面）から内部（底・奥）への距離が大きい」に集約できる⁵。しかし、本研究で複数の意味の1つとして認定する「深い角度」のような物の曲がり具合や角度に関する意味は、この意味記述に当てはまるとは言えない。また、「深い」が「森」や「草木」を対象とする場合、『大辞林（第四版）』では「（水平方向に）基準となる面から奥までの距離が長い」とあるが、飛田・浅田（1991）では水平方向の距離だけでなく、「森や山の木々の密度が大きいことも暗示する」と異なる記述がされており、検討が必要だと考える。さらに、『大辞林（第四版）』は「色」「霧」「香り」の場合について、西尾（1972）では「草木」「霧」「色」の場合について、「深い」は距離とは関係なく、濃度が大きいことを表すとして一つにまとめているが、飛田・浅田（1991）は、「霧」と「色」や「香り」などを別の項目にしており、これに関しても検討が必要だと考える。また、「深い」の非空間的用法では、本研究で複数の意味の1つとして認定する「深い歴史」のような、時間と事柄が関係する語を修飾する場合の意味の記述がされていない。これらの検討課題を踏まえ、「深い」の意味を詳細に分析、考察し、複数の意味間の相互関係を記述する。

4.3. 意味分析

本研究は、「深い」の意味を、空間的用法では＜方向性＞、＜角度＞、＜濃度・密度＞の観点から5つに分類した。非空間的用法では、＜心＞、＜思考＞、＜事情＞、＜関係＞、＜眠り＞、＜時間＞、＜味・香り＞、＜色＞、＜音＞、＜非道義性＞、＜状態・特性＞の観点から12に分類した。また、分析の最後に、各意味間の相互関係を考察し、多義構造を示す。

⁵ 森田（1989：995）は「深い」について「そのものが基準とするところから、はるか奥のほうまでを占めている状態。また、そのような奥まった地点。」と述べている。

4.3.1. 空間的用法の意味分析

本節では、「深い」の空間的用法における意味の分析を行う。

4.3.1.1. 意味①<水平面から><鉛直方向に><内部へ向かう><距離が><大きい>

<さま>

- (1) 献立を考えて中が見えない深い器を使い、一人だけ料理が違くと悟られないよう家族の食卓を支えた。 (『朝日新聞』2014年10月25日夕刊 聞蔵IIビジュアル)
- (2) メガマウスの捕獲は記録が残っているもので世界で58例目、日本では17例目で県内では7例目。昼間は水深100~200メートルの深い海にすることが多いが、夜はエサを求めて水深10~20メートルまで浮上するという。 (『朝日新聞』2014年04月21日朝刊 聞蔵IIビジュアル)
- (3) いっぱい入るのは良いけど、バッグが深いので物が取り出しにくいのが難点です。
<https://review.rakuten.co.jp/item/1/245820_10000587/1.1/> (2021.08.05 検索)

例(1)は、中に盛られた料理が見えないほどの深さの器について述べているが、この場合「深い」は器の口の面を基点とし、そこから器の底までの距離が大きいことを表す。つまり、容器の口の面から内部へ向かうベクトル⁶の大きさを問題にしている。例(2)では、メガマウスというサメが、水深100~200mの海の底に近い辺りに生息していることが述べられているが、「深い」は、海水面を基点として、そこから海底までの距離が大きいことを表している。この場合、海は陸地に囲まれているが、陸地を容器とみなせば、海はその中身である。つまり、容器の中身の表面から内部へ向かうベクトルの大きさを問題にしている。例(3)は、バッグの口を基点として、底までの距離が大きいことを「深い」と表している。

また、基点となる例(1)の料理を盛った状態の器の口の面は水平であると考えられ、海面や使用時におけるバッグの口も水平である。

- (4) 立山に降った雨は急流となって山を削り、深い谷を作ります。黒部峡谷や称名峡谷などがそれです。 (「富山県[立山博物館]」 NLT)

⁶ 「ベクトル」は「ある基点からの一方向性」(国広1982:167)と定義する。

- (5) 食料やハンモック、懐中電灯、ナイフなどをつめた十キロほどのリュックを背負い、険しい茂みやぬかるんだ沼地を進む。夜はキャンプ地で野営し、早朝からまた走りだす日々。がけを下り、足がつかないほど深い川を渡ることもあった。

(中日新聞 2014/11/08)

例(4)(5)の「谷」、「川」は、地面で四方を囲まれているわけではないが、この場合の「深い」も、「谷」は切り立った両側の崖の上部をつなぐ面を基点として底に向かう距離が、また「川」はその表面から底に向かう距離が大きいことを表し、それぞれ例(1)~(3)の「器」、「海」、「バグ」の「深い」と同様である。

- (6) しかし、デンマークのヨハンネル・シュミット博士は、20年以上も調査し「ヨーロッパウナギ」の産卵場所を探り当てました。その場所は、大西洋のサルガッソー海の水深4000mよりも深い海底でした。

(「なぜウナギの産卵を見ることができないのか? :中学生のための雑学うんちく集」NLT)

例(1)~(5)は、「器」や「海」など物自体の属性の一部を「深い」で表していたが、例(6)の「深い」は、海面からの「海底」の位置を表していると考えられる。

これまでの分析から、意味①の「深い」は、焦点化される要素の違いによって、次の(7)の三種類にまとめられる。

- (7) a. [容器] を焦点化：深い（器、谷、穴、…）
b. [中身] を焦点化：深い（海、川、泥、…）
c. [位置] を焦点化：深い（海底、地下、地層、…）

これまでの分析から、「深い」は、「容器」のイメージスキーマの概念が基盤にあると言うことができ、特に容器の内部が問題になる⁷。容器の内部に関しては、容器自体、容器の口、容器の底、容器の中身、容器の口と底の2点間のベクトルを持つ隔たり等の要素が考えられ

⁷ 金（2017：26）は、「深い」の空間的用法では、具体的な経験によって、容器のイメージを作り上げていく認知プロセスを介して、身体経験を基盤とする容器のイメージスキーマによって、動機付けしていく、非空間的用法では、容器のイメージスキーマを抽象的領域へ投影し動機付けしていくと述べている。

る。これらの要素を持つフレームを「容器」のフレームと考えると、「深い」は、図1のように、「容器」そのもの、「(容器の) 中身」、「(容器の) 底 (に近い箇所) / (容器の) 上の面から隔たった箇所」ののいずれかに焦点を当てることができる。

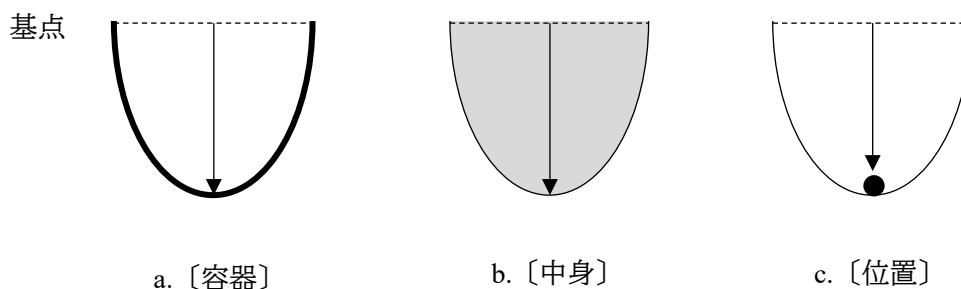


図1 「容器」のフレームにおける焦点化された要素

続いて、例(8)を見てみよう。

- (8) 人間の手が加わる前の土地に元々あった植物こそが深い根を張り、津波にも耐え得るのだという。著者は震災直後から現地調査を重ね、南三陸などの海岸に残ったタブノキの実例を確認している。

(『朝日新聞』2012年07月01日朝刊 聞蔵IIビジュアル)

例(8)の「深い」は、「根」を修飾しているが、植物が地面に植わっていて、その根が下方に伸びている状態でないと、「深い」と言えない。地面から抜かれた状態の植物の根は、「長い」、「短い」で表される。「深い根」は地表から地中に伸びている全体を表すが、その末端部のみを指しているとも考えられる。つまり、「深い根」は、根の地面から下方に向かう先端までの距離の大きさと、根の末端部の位置の二つの部分に焦点が当たっていて、(7)の b [中身] と c [位置] の両方に当てはまると言える。また、「地面の深い穴」とその穴に水が溜まった「深い水たまり」を考えると、焦点化される要素は「穴」は a [容器] であるが、「水たまり」は b [中身] となる。これらのことから、「容器」のイメージを背景とした(7)a [容器]、b [中身]、c [位置] は連続的であり、それぞれ自立した意味とまでは言うことができず、水平面から内部へ向かう距離として集約できると考える。

(9) スリナアはふかく息を吸うと、水をけり、暗い海にもぐった。

(上橋菜穂子『虚空の旅人』 BCCWJ)

(10) このことを察して、息子の嫁から圧力鍋が送られてきた。なれない説明書をよく読んでから使ってみた。何だか怖くて、鍋がかかったガスコンロから遠く離れて息をのんで鍋を見つめた。(中略) 何事もなく所定の時間がきて、調理は終わった。何か肩の力が抜けて思わず深い息を吐き、緊張が解けた。

(『朝日新聞』2003年03月06日朝刊 聞蔵IIビジュアル)

(11) 呼吸のポイント

息を吸う時、吐く時ともに鼻を使います。

肺全体を使って十分空気を取り込むように呼吸します。

息を止めることなくゆっくりと深い呼吸を続けます。

(「NVUS: 美 Breathing: Be Breathing」 NLT)

例(9)の「深い」は、肺の奥まで息を吸うことを表し、その結果十分な量の空気が肺に取り込まれたと考えられる。例(10)では、体の中から十分な息を吐くことを「深い息を吐く」と表している。例(11)は、肺の奥まで十分空気を取り込むように息を吸い、それをゆっくり吐くことを「深い呼吸」と表している。例(9)~(11)は、体を「容器」、息や空気を「内容物」とみなす「容器」のイメージスキーマで理解できる。また、人間は起きている状態のとき、口や鼻は体の上部にあり、肺はその下にある。そして、息を吸った時の空気の移動を考えると、基点ははっきりしないが、空気は体の内部を下方へ移動する。「深い」は、その移動距離が大きいさまを表していると言うことができる。また、例(9)~(11)の「深い」はそれぞれ、息が体の内部の奥まで取り込まれているさま、肺の奥まで取り込まれた息を吐くさま、さらにその両方を表していると言うことができ、これらから「呼吸」のフレームが考えられる。「呼吸」の構成要素として「吸うこと」と「吐くこと」の二つが考えられるが、例(9)は「吸うこと」に、例(10)は「吐くこと」に焦点が当たり、例(11)は呼吸全体に焦点が当たっている。国広(1982: 161)は、「主人はふうむと深い息を吐いた。」という用例について、「これは『息』そのものが『フカイ』ではなくて、『体ノ中フカク吸イ込ンダ』の意であると解釈される。したがって、はく時に長い息になる」と述べているが、「深い息を吐く」だけでなく「深い呼吸をする」や「深く息を吸う」とも言えることから、この「深い」は、息を「吸う」ことは背景化され、「吐く」ことに焦点を当てていると考えられる。

以上から、「深い」の意味①は、＜水平面から＞＜鉛直方向に＞＜内部へ向かう＞＜距離が＞＜大きい＞＜さま＞と記すことができる。

4.3.1.2. 意味②＜垂直面から＞＜水平方向に＞＜内部へ向かう＞＜距離が＞＜大きい＞

＜さま＞

- (12) 遠い国から連れて来られ、見知らぬ国でたくましく生き抜いている彼らですが、ヌートリアが多い場所では農作物の被害が深刻で、堤防や岸辺に深い横穴を掘るため護岸の強度も心配されています。

(『朝日新聞』2006年03月18日朝刊 聞蔵IIビジュアル)

- (13) 日本の伝統建築の特徴であり、美意識でもある深い軒も実現しました。太極殿は外側の柱から屋根の下端までの水平距離(軒の出)が約4・7メートルあり、法隆寺金堂を上回ります。

(『朝日新聞』2010年05月02日朝刊 聞蔵IIビジュアル)

- (14) 外国では紫外線を防ぐ教育が進んでいるが、日本では対策が遅れている。つばの深い帽子をかぶるとか、日焼け防止クリームを塗るなどを(原文ママ)早急に対策をとってほしい

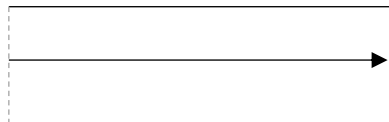
(『朝日新聞』2002年07月10日朝刊 聞蔵IIビジュアル)

例(12)は、「横穴」とあるように、穴は入口からおおよそ水平に奥へ向かって空いていて、「深い」は、穴の入口から内部の一番奥までの距離が大きいことを表している。つまり、入口の面を基点として水平方向にベクトルが向かっている。横穴も、入口以外の面は閉じられているので、容器状であると言え、その内部の距離が問題になる。例(13)の「深い軒」の場合は、建物の外側の柱から、「屋根の下端までの水平距離」が大きいことを表す。つまり、建物の柱が並んでいる垂直な面を基点とし、水平方向に屋根の下端へ向かうベクトルの大きさである⁸。「軒」の場合、四方が何かで囲まれているわけではないが、靄山(2010)⁹は、そのものと他との領域をはっきり区別できない場合でも容器に準じるものとみなすことがで

⁸ 例(13)は建物の内部から見た場合だと考えられるが、建物の外から見た場合は基点と方向が逆になる。

⁹ 靄山(2010: 78)は「容器」のイメージスキーマの例の中で、領域を区別するはっきりした境界がない場合について、次のように述べている。「木陰に入る」という言い方もできますが、「木陰」は「家」などと比べて、木陰である領域と木陰でない領域を区別するはっきりとした境界はありません。それでも木の葉によって日光が遮られる領域とそうでない領域というものを考えることができます。しかも、盛夏に屋外にいる場合は、木陰は、木陰でないところと比べて、多少なりとも過ごしやすいという価値を持つものです。したがって、私たちは木陰も「容器」に準じるものと見なし、そこに入出入りすることができると考えているわけです。このようなことが、「木陰に入る」という表現の基盤になっています。」

きると述べている。つまり、屋根の先端と建物の柱と地面に囲まれた直方体のような領域が想定でき、その内部の距離を問題にしていると考えられる。例(14)の「深い」は、帽子のつばの先から頭までの、あるいはその逆の頭からつばの先までの水平方向の距離が大きいさまを表している。この場合も、例(13)と同様に、帽子のつばの下空間を囲まれた領域と想定していると考えられる。これらの「深い」は図2の矢印のように示される。



基点

図2 水平方向へ向かう場合の「深い」

以上から、「深い」の意味②は、＜垂直面から＞＜水平方向に＞＜内部へ向かう＞＜距離が＞＜大きい＞＜さま＞と記すことができる。

4.3.1.3. 意味③＜基点から＞＜内部へ向かう＞＜距離が＞＜大きい＞＜さま＞

- (15) 若きボスザルは、メスを求めて群れの外からやってきたオスを、ケンカで追い払う。
しかし、自らも深い傷を負ってしまい、その後は年配の別のオスに群れを乗っ取られて……。
(『朝日新聞』2014年05月18日朝刊 聞蔵IIビジュアル)
- (16) タイヤに深い溝を入れたことで、水中でも水をかいて前に進める。エンジンなどの船外機をつけることも可能。中消防署に配備され、大災害の際は県内外に出動する。
林正義・市消防局長は「水害での救助は1分1秒を競う。バギー車は大きな戦力になる」と話す。
(『朝日新聞』2014年05月15日朝刊 聞蔵IIビジュアル)
- (17) 高松塚古墳(奈良県明日香村、7世紀末～8世紀初め)の石室解体で、文化庁は23日、「星宿図」の描かれた北から3番目の天井石について、計7カ所で亀裂があり、このうちの深い亀裂によりほぼ3分割の状態になっていると発表した。
(『朝日新聞』2007年05月24日朝刊 聞蔵IIビジュアル)

例(15)の「傷」は皮膚にできているが、皮膚は体の表面であり、そこを基点として体の内部へベクトルが向かっている。また、基点である体の表面は、地面に対して「垂直である」、

「水平である」とは決められない。そして「傷」は、どの体表面にできても、表面から体内部への距離が大きければ「深い」で表される。例(16)の「タイヤの溝」も同様に、タイヤの表面から内部へ向かう距離を表すが、「タイヤの溝」はタイヤの表面を一周するように彫られており、やはり基点であるタイヤの表面の向きは決められない。従って、例(15)(16)の「深い」は、ともに表面の向きに応じてベクトルの向きもさまざまであると言える。例(17)の場合、天井の表面から内部への亀裂であるが、人が下から天井を見上げている状況を考えると、基点（天井表面）から亀裂内部へ向かうベクトルは上方向になる。一方、傷や溝などが地面に水平の箇所や垂直の箇所とみなせることも当然あり、このことから意味③は、意味①、②の用法にも当てはまると言える。

以上から、「深い」の意味③は、<基点から><内部へ向かう><距離が><大きい><さま>と記すことができる。

4.3.1.4. 意味④<基点から><囲まれる領域の方へ曲がる><角度が><大きい>

<さま>

(18) 若宮神社前で、参拝の作法を習った。腰が直角に曲がるほど深いお辞儀を2回、「パン、パン」と2回手を合わせてさらにもう1回お辞儀。

(『朝日新聞』2010年12月03日朝刊 聞蔵IIビジュアル)

(19) 軽くヒザを曲げた比較的上体が高い姿勢のほか、よりヒザを深く曲げて重心を落とした姿勢でのサイドウォークも有効です(9・13)。

(大石益代/片山一也『ソフトボールマガジン』 BCCWJ)

(20) 写真でもわかる通り、高速道路とは思えない深いカーブで(上の国道21号の方がまっすぐだし)、1976年には線形改良に着手されました。

<kaidoumeisou.blog.fc2.com/blog-entry-17.html>2014.08.17 検索

例(18)「深い」は、直立の状態から上半身を前に倒した時の角度が大きいさまを表している。例(19)の「深い」は、膝が曲がっていない状態から膝を曲げた時の角度が大きいさまを表している。例(20)は、高速道路のカーブを「深い」と述べている。道路が直線のまま続いていると仮定し、その仮定された直線(道路)からカーブした時の角度が大きいさまを「深い」と表している。

図3は、例(18)「深いお辞儀」と「浅いお辞儀」を図示したもののだが、両者を比べると、

直立の状態を基点として、上半身を前に倒した時の角度の程度が「深い」は大きく、「浅い」は小さい。例(19)(20)も同様だと考える。

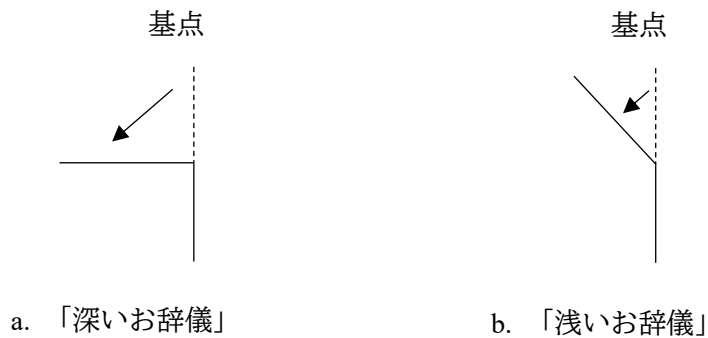


図3 「深い／浅いお辞儀」のイメージ

また、例(18)~(20)は、「上半身」「上腿」「道路」が曲がることによって囲まれる領域ができる。よって、例(18)~(20)は、図4のように「直立の状態」「元の状態」「仮定された直線」を基点として、囲まれる領域のほうへ曲がる角度が大きいさまを表している。

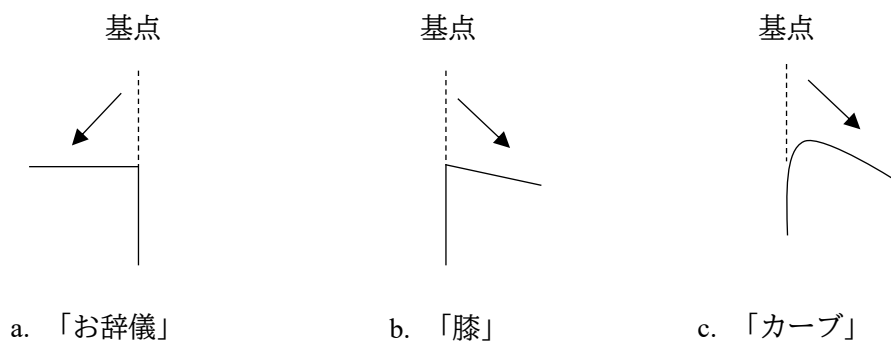


図4 「深いお辞儀」「膝を深く曲げる」「深いカーブ」のイメージ

(21) シートピッチが広く、リクライニングも傾斜角度が深く、これなら夜行列車でも運用できそう。

(【乗車ルポ】特急“あさぎり6号” 小田急ロマンスカーとして活躍する JR371 系の最後の姿 月の鉄路/ウェブリブログ) NLT)

(22) (小型回収カプセルが) 地球に帰るには、大気圏に対して深い角度で突入する「弾道(だんどう)飛行」と、浅い角度で突入する「揚力(ようりょく)飛行」があり、

今回は揚力型だった。 (『朝日新聞』2018年12月04日朝刊 聞蔵IIビジュアル)

例(21)は、シートの背もたれの角度について通常の状態を基点とし、リクライニングの角度が大きいさまを「深い」と表している。例(22)は、大気圏とカプセルの突入経路が交差するときの角度について「深い」と述べている。この場合、大気圏を基点とし、宇宙空間におけるカプセルの経路との間の角度が大きいさまを「深い」と表している¹⁰。例(21)(22)は、図4のように示される。例(21)は、図4aのように、背もたれがリクライニングすることによって囲まれる領域ができ、基点から囲まれる領域のほうへ曲がる角度が大きいさまを表している。図4b、4cは、例(22)突入時の「深い角度」と「浅い角度」を表したもののだが、両者を比べると、基点(大気圏)からカプセルが突入する経路までの間の角度の程度が「深い」は大きく、「浅い」は小さい。例(22)の「深い」は、基点と経路の間の角度の程度に焦点が当たり、例(18)~(21)の「囲まれる領域の方へ曲がる角度」より制約が弱くなっていると考えられる。

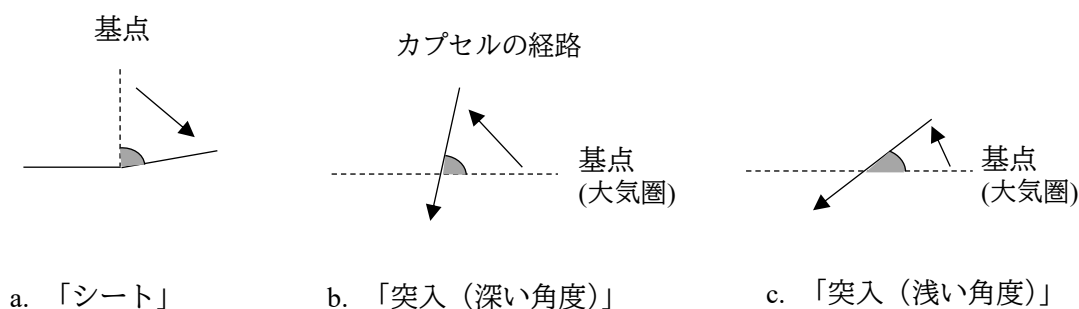


図4 「シートの傾斜角度」と「突入の角度」のイメージ

以上から、「深い」の意味④は、<基点から><囲まれる領域の方へ曲がる><角度が><大きい><さま>と記すことができる。

4.3.1.5. 意味⑤<基点から><水平方向に><高密度・高濃度を伴い><奥までの><距離が><大きい><さま>

(23) 久しぶりに、夜明けのブナ林を訪れてみた。ここは、生杉のブナ林。ブナ林というと

¹⁰ 大気圏とカプセルの経路の最大角度は、カプセルが大気圏の面に対して垂直に突入した時(90度)である。

山奥に広がる深い森を思い浮かべるが、ここだけは車を横付けしてすぐに散策できるブナ林だ。
(『朝日新聞』2014年07月23日朝刊 聞蔵IIビジュアル)

- (24) 日本の地理に詳しい人なら誰もが知っている日本最大のぶなの原生林「白神山地」。細い道はそこを通るただ一本の道だったのです。(中略) 一台しか通るスペースのない舗装のない砂利道が延々と続き、登りきって下りきったと思ったらまた登り道。一時間ほど進んでも深い山の中。
(「東北車で一人旅」 NLT)

「森」は、『明鏡国語辞典(第二版)』(北原(編))では「樹木が多く生い茂っている所。林よりも規模が大きく、木々がより密生している所をいう」と記述されている。つまり、森は基点からの距離が大きいことに加え、森を構成している木々の密度が高いとすることができる。例(23)の「深い」は、森の奥へ水平方向に向かう距離が大きく、森に生えている木々の密度も高いさまを表している。名詞(ここでは「森」)自体が内包する意味(つまり「木々が生えている規模が大きく、かつ密度が高い」という意味)を強める働きをしていると考えられる。また、森は、人が森の外にいる場合と中にいる場合が想定できるため、人が森(対象)の境界の外にいる場合はその境界が基点となり、人が森(対象)の内部にいる場合はその人がいる場所が基点になると考えられる。例(24)の「山」には樹木が密集しているという「森」の要素が含まれていると考えられる。例えば、富士山の上部は木が少なく遠くまで見通せるが、そのような山は「深い山」とは言えないだろう。¹¹従って、例(24)の「深い」は樹木が密生していて、その規模が大きいさまを表していると言える。

- (25) 妙高のジャンプ台を覆った深い霧。数メートル先しか見えず、「白い闇夜」に飛び出すようなものだ。それでも、高梨の集中力は乱れない。「踏み切るタイミングを合わせられるように神経を使った」

(『朝日新聞』2013年09月02日朝刊 聞蔵IIビジュアル)

¹¹ 他に、以下の例のように「深い」の対象が「草」の場合もある。

「上田があわやロストボールの危機に見舞われた。2番パー4(385ヤード)で、2打目をグリーン手前のラフに入れた。簡単に見つかると思われたボールは、今大会向けに伸ばされた深い草に隠れて行方不明。同組の選手やキャディー、報道陣も加わり、総勢約20人による大捜索となった。」(『朝日新聞』2008年09月12日 聞蔵IIビジュアル)

これは、ゴルフの試合でボールがラフに落ちて行方不明になった場面だが、ラフは「ゴルフコースで雑草地帯」(『現代日本語例解辞典』第三版)であることから、ここでの「草」は草がまとまって生えている所、つまり「草むら」のような意味を持つと考えられる。そして「今大会向けに伸ばされた」とあるようにある程度高さがあり、また「総勢約20人による大捜索」とあるように生えていた範囲も広がったと思われる。つまり、ここでの「深い草」は密度と範囲に加え、下方への距離も含まれていると考えられる。

例(25)の「霧」も、一帯に広がり遠くのものが見えにくいという特徴があり、「深い」は、霧の奥までの距離と霧の濃度が大きいことを表す。例えば、温泉の大浴場の湯気で浴場の奥がよく見えなくても、「深い湯気」とは言えないことから、例(25)の「深い」は、ある程度の規模が必要だと考えられる。また、霧は、森と同様に、人が霧の外にいる場合と中にいる場合が想定できるため、人が霧（対象）の境界の外にいる場合はその境界が基点となり、人が霧（対象）の内部にいる場合は人がいる場所が基点になると考えられる。

(26) さあ、夜の森へ！ 懐中電灯で足元を照らしつつ、石段を上り始めた。原生林は深い闇に包まれ、気がつくと西垣内さんたちの表情も見えない。森の奥、聞こえてくるのはミシ、ミシという足音と、虫の鳴き声だけ。心細いなあ。

（『朝日新聞』2014年05月24日朝刊 聞蔵IIビジュアル）

「闇」は、真っ暗な状態であり、周りが見えない。そのためその暗さが遠くまで続いているという距離が感じられる。例(26)の「深い」は、闇の奥までの距離が大きく、暗さの程度が大きいことを表している。また、森や霧では、人が森や霧の外にいる場合と中にいる場合が想定できるが、闇は全体を覆い、人もその中にいると想定できる。そのため意味⑤の基準は、人が対象の境界の外にいる場合はその境界が基準となり、人が対象の内部にいる場合は人の視点が基準になると考えられる。

- (27) a. ドアを開けると、外は闇だった。
b. ? ドアを開けると、部屋は闇だった。

例(27a)は、境界のない外に真っ暗な状態が広がっている様子を表すが、例(27b)は、部屋は壁で区切られた空間であり、闇というには不自然である。しかし、あえてこのような表現を使うと、部屋の壁を越えた暗さの広がりが感じられる。このことから、名詞が持つ意味にはもともと、ある程度の規模の広がり、密度や濃度が高く、遠くがよく見えない、奥が見通しにくいという要素が含まれていて、「深い」はその程度がより大きいさまと考えられる。これまでの分析から、例(23)～(27)の「深い」は、飛田・浅田(1991)が述べているように、水平方向の距離だけでなく対象の密度が大きいことも表していると言える。また、規

模の広がりという点で、眼前の状況がその範囲の奥（内部）まで続いていると想定して「深い」と捉えていると考えられる。

以上から、「深い」の意味⑤は、〈基点から〉〈水平方向に〉〈高密度・高濃度を伴い〉〈奥までの距離が〉〈大きい〉〈さま〉と記すことができる。

4.3.2. 空間的用法における「深い」の多義構造

本節では、これまでの分析を踏まえ、靛山（2020）が多義語分析の課題として提案している4つの課題のうち、「プロトタイプの意味の認定」「複数の意味の相互関係の明示」「複数の意味すべてを統括するモデル・枠組みの解明」の3つの課題について検討する。

以下に、意味①～⑤を再掲する。

意味①〈水平面から〉〈鉛直方向に〉〈内部へ向かう〉〈距離が〉〈大きい〉〈さま〉

意味②〈垂直面から〉〈水平方向に〉〈内部へ向かう〉〈距離が〉〈大きい〉〈さま〉

意味③〈基点から〉〈内部へ向かう〉〈距離が〉〈大きい〉〈さま〉

意味④〈基点から〉〈囲まれる領域の方へ曲がる〉〈角度が〉〈大きい〉〈さま〉

意味⑤〈基点から〉〈水平方向に〉〈高密度・高濃度を伴い〉〈奥までの〉〈距離が〉〈大きい〉〈さま〉

4.3.2.1. プロトタイプの意味の認定

本節では、「深い」のプロトタイプの意味の認定のため、空間的用法における「深い」の複数の意味に関して、「意味①〈下方への距離〉と意味②〈奥行きへの距離〉における制約」、「名詞化された「深く」における制約」、「名詞「深み」における制約」について考察する。

4.3.2.1.1. 意味①〈下方への距離〉と意味②〈奥行きへの距離〉における制約

(28) メイクをする場所をちゃんと確保したことで朝晩のお手入れが楽しくなり、もともと好きだったコスメ類がどんどん増えてしまいましたが、天板にお気に入りのボトルを並べて見せる収納にしてみました。とってもかわいいのがお気に入り。ずっと大事にしたい私の unico 家具第一号です。今のスツールのカバーはオレンジ。深い引き出しはスプレーや化粧水のボトルにぴったり。

（「スタッフの家具の選び方-インテリアショップ[unico]」 NLT）

(29) 洗面台下収納ボックス2個セット

洗面台下にシャンプーのストックや洗剤などを収納するのに便利な奥行の深いコロン付きボックス。少々高いですが。（「収納市場 by シーベックス・インテリア」 NLT）

物を収納する箱状の物の内部は、下方への距離（意味①）と奥行き距離（意味②）の両方を「深い」で表すことができるが、例(28)は下方への距離（意味①）が大きいことを表しているのに対して、例(29)は奥行き距離が大きいことを表している。ここで、例(28)は「深い」のみで記述されているが、例(29)は「奥行の深い」とあり「奥行」という修飾要素を伴っている。

(30) 高潮は袋状をした奥行きの深い浅い湾に発生し易く、有明海はこの典型的な湾形を示しています。（「九州農政局/災害の歴史」 NLT）

「湾」は、海が陸へ入り込んだ地形のことであり、海の深さ（下方への距離）（意味①）と海側から陸地へ入り込んだ距離（意味②）の両方を「深い」で表すことができる。例(30)は海側から陸地へ入り込んだ湾の距離を「奥行きが深い」と表し、下方への距離（が小さいさま）については「浅い」と表している。この例(30)を、次の例(31)のように言い換えてみる。

(31) *高潮は袋状をした深さの浅い深い湾に発生し易い。

例(31)の「浅い」は、深さ（下方への距離）を表しているが、「深い」が湾の奥行きについて述べていると理解することは困難で、容認できないと考えられる。つまり、例(28)～(31)に見られるように、下方への距離と奥行きが同時に「深い」と表しうる場合、下方への距離は何か深いのかを明示することなしに「深い」で表せるが、奥行きは「奥行きの深い」などの形で表す必要がある。このことから、意味①<下方の距離>は、意味②<奥行きの距離>より制約が少ないとすることができる。

4.3.2.1.2. 名詞化された「深く」における制約の考察

一部の形容詞の連用形は、名詞的に使われることがある。「深い」の連用形「深く」もそ

の一つであり、「深いところ」を意味する¹²。ここでは、意味によって「Nの深く（N深く）」の使用が可能かどうかを、一部実例を示しながら見る。

(32) 意味①：海の深く、海底深く、*器の深く

(例) 説明には普段は海の深くにいる深海魚だと書かれていた。

(「scientist：西村三郎」NLT)

(33) 意味②：横穴の深く、入江の深く、?軒の深く

(例) 「坑道か何かか?ちょうどいい」彼はその穴に入りました。(中略)そのまま寝てしまえば良かったのですが彼は好奇心で奥はどうなっているんだろう?と穴の深くへ進んでいきました。

(NLT)

(34) 意味③：(皮膚の)角層の深く、傷の深く、亀裂の深く

(例) ザクロエキス。角層の深くまで浸透し、満ちる潤いに重要な役割を果たす保湿成分。

(「自然化粧品 NANAROBÉ (ナナローブ)」NLT)

(35) 意味④：*カーブの深く、*角度の深く、*お辞儀の深く

(36) 意味⑤：森の深く、?霧の深く、?闇の深く

(例) だんだん森の深くへと侵入していく。

(「神奈川県『山中湖～菰釣山』を歩く」NLT)

(32)～(36)から意味①～③と意味⑤は、共起する名詞にもよるが、「Nの深く」が使用でき、意味④は使用できないと考えられる。つまり、意味④は制約があるということになる。

4.3.2.1.3. 名詞「深み」における制約の考察

形容詞「深い」は、接尾辞の「み」を伴って名詞化される。本節では、意味によって「Nの深み」の使用が可能かどうかを、一部実例を示しながら見る。

¹² 森田 (1989: 782-783) は「遠い」の関連語として「遠く」を取り上げており、「遠く」は「遠い所」の意で用法上「遠い」と重なると述べている。これは、「遠く」だけでなく「深く」「高く」についても同様と考えられる。

(37) 意味①：川の深み、海底の深み、*器の深み

(例) 川の深みは流れが強く、しっかりと踏ん張っていなければ流される。

(「桃が太郎を産んだのか第八話-前編-」 NLT)

(38) 意味②：*横穴の深み、*入江の深み、*軒の深み

(39) 意味③：*（皮膚の）角層の深み、*傷の深み、*亀裂の深み

(40) 意味④：*カーブの深み、*角度の深み、*お辞儀の深み

(41) 意味⑤：森の深み、*霧の深み、闇の深み

(例) 花屋の配達の仕事からの帰り道、本編の主人公ふたりはひよんなきっかけから、森の深みへと迷い込む。

<<http://ofthemall.com/bookreview/?p=1111>> 2015.12.08 検索

(37)~(41)から、意味①⑤は共起する名詞にもよるが、「N の深み」が使用でき、意味②、③、④は使用できないと考えられる。つまり、意味②、③、④は用法上の制約があるということになる。

以上、「意味①<下方への距離>と意味②<奥行き<距離>における制約」、「名詞化された「深く」における制約」、「名詞「深み」における制約」の考察結果と、より多くの語と共起できるという点から、意味①を「深い」のプロトタイプ的意味と認定する。

4.3.2.2. 空間的用法における複数の意味の相互関係と多義構造

本節では、これまでの分析を踏まえ、空間的用法における「深い」の意味の相互関係について記す。

意味①は、プロトタイプ的意味である。また、意味①は、共時的な意味で他の意味の拡張の基盤となる最も基本的な意味とすることができることから、意味拡張の起点と言える。意味①と意味②の関係について、意味①の<水平面から><鉛直方向に>が意味②では<垂直面から><水平方向に>となり、意味①から意味②へは、「基点とベクトルの方向」の関

係において、＜内部へ向かう距離が大きい＞＜さま＞が類似していることに基づくメタファーによる拡張である。

この意味①と意味②の「基点とベクトルの方向」は、意味③では＜基点から＞＜内部へ向かう＞＜距離＞となり、意味①と意味②から意味③へは、その制約が弱まったシネクドキーによる拡張となる。さらに言えば、意味③の「基点とベクトルの方向」は意味①、②より一般化されたと考えられることから、意味③は意味①②のスキーマ的な意味と言える。意味④は、意味①＜内部へ向かう距離が大きい＞と意味④＜囲まれる領域の方へ曲がる程度が大きい＞という点の類似に基づく意味①からのメタファーによる拡張である。また、意味③＜（何らかの）内部＞は、意味④＜囲まれる領域＞の制約が弱まった意味と捉えることができることから、意味③は意味④に対してもスキーマの意味と言うことができる。意味⑤は、意味②の＜基点から＞＜水平方向に＞＜内部へ向かう＞＜距離＞に「密度・濃度」という制限が加わったシネクドキー的な拡張である。

これまでの考察から、「深い」の空間的用法の個々の意味拡張を含む多義構造を図5のように記述する。なお、太線の四角はプロトタイプの意味である。

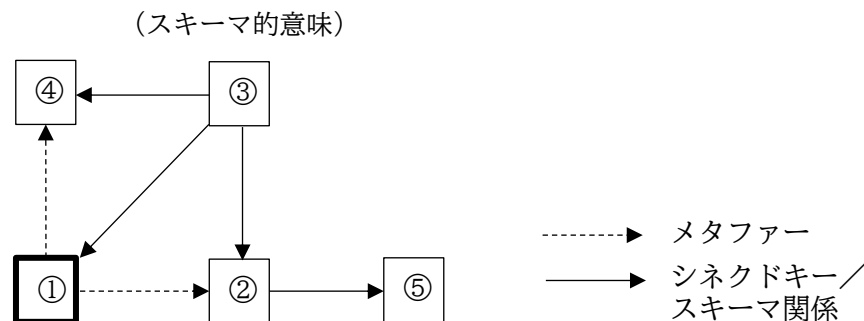


図5 空間的用法における「深い」の多義構造

4.3.3. 非空間的用法の意味分析

本節では、「深い」の非空間的用法における意味の分析を行う。

4.3.3.1. 意味⑥＜物事に対して生じる気持ちが持続的で心の底から感じるほどに 程度が＞＜大きい＞＜さま＞

(42) 同会によると、賢治と健次郎さんは盛岡中学の寄宿舎で同室だった。二人は親しく

交遊し、賢治が健次郎さんの実家に何度も泊まりに来たり、一緒に地元の南昌山に登って鉱石を採取したりしていたという。親交は約1年半続いたが、健次郎さんは16歳の若さで病没した。元町職員で「矢巾町宮沢賢治を語る会」の松本隆会長（83）は、この時の深い悲しみの経験が代表作「銀河鉄道の夜」に投影されているとの独自の分析をしている。（『朝日新聞』2015年06月27日朝刊 聞蔵IIビジュアル）

- (43) かおりが次々に起こる症状に苦しめられ、読者までもが苦しくなるが、あきやまの深い愛情が読んでいて救いだ。家族の愛に恵まれなかったかおりに「家族は僕だから」、「僕の心の太陽だからね」と励まし、化学物質過敏症が悪化したらテント生活かと不安がるかおりには「その時は僕が助けるから 一緒に山に入るから」。

（『朝日新聞デジタル』2014年06月13日 聞蔵IIビジュアル）

- (44) 朝日町で2013年8月、中学3年の女子生徒（当時15）を窒息死させたとして、強制わいせつ致死などの罪に問われた少年（19）の裁判員裁判が19日、津地裁で結審した。（中略）女子生徒の兄（20）と少年はアルバイト先が同じで、友人だった。兄は少年に問いかけた。「顔をあげて私を見てください。覚えていますか」「はい」。視線を上げ、小さな声でうなずき、また視線を下に落とした少年に、兄は続けた。「一生消えることのない大きな悲しみ、深い怒り、1年半経った今でも、その感情は日増しに強くなる」（『朝日新聞』2015年03月20日朝刊 聞蔵IIビジュアル）

例(42)で、宮沢賢治が親しくしていた友人を若くして亡くした悲しみについて「深い」と述べている。話し手は、賢治と友人が親しかったため、その友人の死は賢治にとって大きな悲しみであり、その後作品に影響するほどだったと判断している。例(43)は、かおりに対するあきやまの愛情について「深い」と述べている。家族の愛に恵まれなかったかおりを励まし、もし化学物質過敏症の悪化で通常の生活が送れなくなっても、かおりと一緒にどこで暮らしてもいいと言うほど、あきやまは心の底からかおりを愛しており、またその気持ちは持続的なものである。例(44)は、妹を自分の友人に殺された男性の怒りについて「深い」と述べている。「怒り」は「一瞬怒りがこみあげた」のように瞬間的な状態も表すことができるが、例(44)の犯人に対する「怒り」は心の底から感じるほど大きく、「日増しに強くなる」とあるように持続的な怒りだと考えられる。よって、例(42)～(44)の「深い」は、感情が持続的であり、心の底から感じるほど程度が大きいさまを表していると言える。

(45) すると、彼はのろまどころか、すぐれた才能を現しはじめ、アルファベットは二、三時間で覚えてしまうし、九歳のときには、もうギボンの『ローマ衰亡史』やヒュームの『英国史』から『理科事典』にいたるまで、片っ端から読みあさるようになったという。とくに技術史と科学史に深い興味を覚え、家の地下室に実験室を作って、本で得た知識を次々と実験して確かめるのだった。

(水野 雅士『シャーロック・ホームズと99人の賢者』 BCCWJ)

(46) 発送掛の小僧や事務員、さっきの給仕娘まで今は一斉に仕事をやめ、深い好奇心に輝いて、ジェルテルスキー自身にもまだ訳の分らない話を眺めている。彼は、「失礼ですが、此方に椅子がありますから」と、二人の女を応接間に通した。

(宮本百合子『街』 青空文庫)

例(45)は、彼（エジソン）の技術史や科学史への興味について「深い」と述べている。技術史や科学史について「家の地下室に実験室を作って、本で得た知識を次々と実験して確かめる」とあるように、エジソンの興味の程度は心の底から感じるほど大きく、持続的だと言えることができる。例(46)は、小僧や事務員、給仕娘らの好奇心について「深い」と述べている。「今は一斉に仕事をやめ」とあるように、小僧たちの注意がすべてジェルテルスキーと女たちに対して向いていることから、その好奇心が心の底からのものであり、程度が大きいさまを「深い」と表していると言える。よって、例(45)(46)の「深い」は、興味や好奇心が持続的であり、心の底から感じるほど程度が大きいさまを表している。

(47) フラ・アンジェリコやダ・ヴィンチのマリアは神に従順な気品ある女性で、身に覚えのない妊娠という事実を告げられても、深い信仰心から静かに運命を受け入れる。

(『朝日新聞』2012年08月22日夕刊 聞蔵IIビジュアル)

(48) ごみ拾いをする人の人数で、大分市がギネス記録に挑むという構想は、05年3月の市長会見の席上で、釘宮市長が突然、自ら宣言する形で明らかにした。「市民協働のまちづくり」を掲げ、「日本一きれいなまちづくり」を目指す同市長はこの時、こう語って記録更新への深い自信も示した。「4.7万市民のうち、2割が参加するだけで、記録を破ることができますから」――。

(『朝日新聞』2007年09月09日朝刊 聞蔵IIビジュアル)

(49) 琵琶湖の生態系を乱すとして、県が条例でブラックバスとブルーギルの再放流（リ

リース) を禁じて4カ月余り。外来魚500グラムにつき額面100円の地域通貨「ノーリリースありがとう券」がもらえることもあって、休日にときどき釣り糸を垂れているが、際限なく釣れるギルに、いなくなる日が果たして来るのだろうか、と気が遠くなる。しかも釣れるのはギルとバスばかり。フナやモロコは一度もお目にかかったことがない。固有種のフナなどが外来魚の餌食になっていることは頭で理解しているが、外来魚を減らせば本来の生態系に戻せるのだろうか……。深い疑念と徒労感に襲われた。 (『朝日新聞』2003年08月20日朝刊 聞蔵IIビジュアル)

例(47)は、マリアの信仰心について「深い」と述べている。マリアは、「身に覚えのない妊娠」という信じがたいことを天使から告げられるが、その運命をそのまま受け入れるほど神を心の底から信じており、またその信仰心は持続的である。例(48)は、ギネスの記録更新に対する自信について「深い」と述べている。全市民のうち2割が参加するだけで記録が更新できるという比較的ハードルが低い状況であり、市長は記録の更新ができることを心の底から信じている。例(49)は、「外来魚を減らせば本来の生態系に戻せる」という考えに対する疑念について「深い」と述べている。生態系の改善のために外来魚を釣っているが、成果が全く目に見えず、本当に外来魚を減らせば本来の生態系に戻るのか分からないという疑いの気持ちが心の底から感じるほど大きいさまを「深い」と表している。さらに、その疑念は、「休日にときどき釣り糸を垂れているが、際限なく釣れるギルに、いなくなる日が果たして来るのだろうか、と気が遠くなる」とあるように、ある程度の期間持続されていると言える。よって、例(47)～(49)の「深い」は、信じる気持ちや疑う気持ちが心の底から感じるほど強く持続的なさまを表している。また、例(42)～(49)の感情や興味、信じることなどは、物事に対して生じる気持ちと言うことができるだろう。

以上から、「深い」の意味⑥は、<物事に対して生じる気持ちが持続的で心の底から感じるほどに程度が><大きい><さま>と記すことができる。

4.3.3.2. 意味⑦<物事の本質や細部に対して思考を巡らす程度が><大きい><さま>

(50) 裁判員制度を意識してか、世論を味方につけて重い量刑を、という検察の姿勢が目立ちます。東京都江東区の殺人事件では、裁判の場で被害女性の生前の様子が事細かく示されました。「裁判所は罪の重さを量る場所であって、人の命の重さを量る場所ではない」(15日)。20歳の女子大生の深い考察に感銘を受けました。

(『朝日新聞』2009年02月28日朝刊 聞蔵IIビジュアル)

- (51) 「目そのものは見えない。耳そのものは聞こえない。見るのは精神であり、聞くのも精神である」という言葉がある。四十年以上前、日本のサッカーが弱かったころ、関係者がドイツに有能な指導者を探しに行ったとき、ある小柄なコーチの部屋に掲げられていた言葉だ。サッカーのボールも選手がどんな意識を持つかによって見え方が違ってくる。関係者はその深い洞察力に感動しすぐに招請した。

(勝見明『セブン-イレブンの「16歳からの経営学」』 BCCWJ)

- (52) 病気の治療や新型コロナなどでも、「ある薬が効きました」という情報に「根拠は何か」と聞く人が増えているように思います。「エビデンス」という言葉が普通に使われるようになりました。タモリさんが地学の専門家と各地をめぐるNHK番組「ブラタモリ」の人気を見ても、人々は役に立つ情報だけでなく、深い知識のようなものを求めていることがわかります。

(『朝日新聞』2021年01月14日朝刊 聞蔵IIビジュアル)

例(50)は、裁判所の本質的な役割に対する考察の程度が大きいさまを「深い」と表している。例(51)は、「目そのものは見えない。耳そのものは聞こえない。見るのは精神であり、聞くのも精神である」という言葉がサッカーにも通じるという物事の本質を捉えるような洞察の程度が大きいさまを「深い」と表している。例(52)は、ある情報について「根拠」や「エビデンス」を知りたがったり、専門家と各地を巡る番組が人気だったりすることから、人々が「深い知識のようなものを求めている」とは、物事のより本質的な内容を知りたいという思いだと言える。よって、この場合の「深い」は、物事に関する知識に対してその内容の本質的な程度が大きいさまと言える。例(50)～(52)は、物事の本質に対して思考する程度を「深い」と述べていると言える。

- (53) 健三が義母を家族として迎えたのは一人娘の美沙の教育のためでもあった。一人娘はややもすると我がままになりやすい。また、久美子も教育ママになってしまう。多美恵との同居は健三の深い思慮の結果でもあった。

(インターネット小説「或る早期退職者の夢」 NLT)

- (54) 「蓮子」は実在の歌人・柳原白蓮がモデル。事前に資料を読み、緻密に演技を練ってきた。適役だと評判なのは、品のある美しさのためだけではなく、本人の役への深

- い理解と努力の成果でもある。(『週刊アエラ』2014年09月01日 聞蔵IIビジュアル)
- (55) 田中市長は「国と地方の在り方が大きく変わる転換期で、地方分権や地域主権への認識が深い人が知事になるべきだ。(松田氏は) 県議も、首長としての行政経験もある」と支援を表明。 (『朝日新聞』2011年02月25日朝刊 聞蔵IIビジュアル)

例(53)は、娘の教育をよいものするために、「一人娘は我がままになりやすい」「母親も教育ママになってしまう」など思いを巡らす程度が大きいさまを「深い」と表している。例(54)は、「事前に資料を読み、緻密に演技を練ってきた」とあるように、俳優が役を演じるために、台本だけでなく関連する資料も読み、「蓮子」について内面の細部まで理解している程度が大きいさまを「深い」と表している。例(55)は、知事選の立候補者が「県議も、首長としての行政経験もある」ことから、地方分権や地域主権の細部まで認識している程度が大きいさまを「深い」と表している。例(53)～(55)は、物事の細部に対して思考を巡らす程度を「深い」と述べていると言える。よって、例(50)～(55)の「深い」は、物事の本質や細部に対して思考を巡らす程度が大きいさまを表していると言える。

また、物事の本質や細部にまで十分に考えることなく物事を行う時などは、例(56)の「深い考えはない」のように否定の形で用いられる。

- (56) 「おまえは編集長に認められたくて、そして編集長は社長に認められたくて、その一心で深い考えもなしにセンセーショナルな記事を作り上げている。その結果、雑誌が売れて、会社が儲かって、最終的に自分の給料に跳ね返れば満足ってわけだ。そのおかげで、どれだけ多くの男たちが人生を棒に振り、彼らの家族がどれほど苦しむことになっているかも知らないで」 (吉村達也『ボイス』 BCCWJ)

例(56)は、記事を書く際に、その記事によって多くの男たちが人生を棒に振ったり、その家族が苦しんだりといった影響についてあれこれ考えることをしないさまを「深い考えはない」と表している。

以上から、「深い」の意味⑦は、<物事の本質や細部に対して思考を巡らす程度が><大きい><さま>と記すことができる。

4.3.3.3. 意味⑧<ある物事の成り行きに対する複雑さの程度が><他者には容易に

うかがい知れないほど><大きい><さま>

- (57) 生物学的な機能面での障害にはならなかったであろうと思うが、他人とくらべて性器の表面的な姿、形が違っているということが、子どもにとっても、その心の中に精神的な障害となって、さまざまなマイナスに作用するもととなったのであろうと思う。聞くとところによると、小学校時代の父は、みんなの輪の中に入ることができずに、常に一人でポツンと遠くから皆が楽しそうにしているのを、ただ眺めているだけの存在であったようである。(中略) まわりの子どもたちにとってはそんな父の深い事情まで察することができなかつたのであろう。

(平成治世著『何んだ可んだ』 BCCWJ)

- (58) 江木記者はかつて特派員として飛び回ったアフリカをテーマに選びました。そこには深い理由があります。江木記者がナイロビ支局長だった2002年4月、助手のジュリアス・デグワ・ガトゴさん(当時43)が、武装強盗に銃撃されて死亡しました。妻と4人の子供が残されました。特派員にとって助手は相棒です。その後、ニューヨーク特派員などを歴任した江木記者ですが、相棒の死がずっと心に引っかかってきました。だから、ケニアに眠る相棒の墓参りと家族を訪ねるところからアフリカの旅をスタートさせました。

(『朝日新聞』2012年10月28日朝刊 聞蔵IIビジュアル)

- (59) 教員を辞めた正雄の帰郷には、深いわけがあった。埋蔵金の在りかを示すらしい古地図を手に、父が刺殺された昔の事件を究明したい衝動に駆られたのだ。謎解きのスリルと山里の風情が解け合ったミステリー。

(『朝日新聞』2003年11月02日朝刊 聞蔵IIビジュアル)

- (60) 「伯母は結婚後一週間目とかに、夫が行くえ不明になってしまったのだそうで、それから何と感じたのか、二度の夫を持たないことに決めたのだということです。それについては深い秘密があるのですが、伯母は決して口外したことはありません。僕の母は薄々その事情を知っているのですが、これも僕たちに向ってはなんにも話したことはありませんから、一切わかりません。」

(岡本綺堂「鰻に呪われた男」 青空文庫)

例(57)は、父が小学校時代みんなの輪の中に入ることができずに、常に一人でいた事情について「深い」と述べている。その事情とは、父の性器の形が他人と違って、そのこと

が精神的な障害となったということであるが、「まわりの子どもたちにとってはそんな父の深い事情まで察することができなかった」とあるように、その事情は容易にうかがい知れない内容だと言うことができる。例(58)は、記者が記事のテーマにアフリカを選んだ理由について「深い」と述べている。以前に記者の助手が強盗に襲われ死亡し、助手の家族が残されたという経験からテーマを選んだということは、他人には容易にうかがい知ることができない理由と言える。例(59)は、正雄の帰郷のわけについて「深い」と述べている。そのわけは、埋蔵金の在りかに関連して父親が刺殺された昔の事件を究明したいという、他人には容易にうかがい知れないものであると言える。例(60)では、伯母が二度の結婚はしないという決心に至った秘密について「深い」と述べている。その秘密について、伯母本人や事情を少しは知っている母が何も話さないため、他人にはその事情が一切わからない。また、例(57)～(60)「事情」「理由」「わけ」「秘密」は、物事がそうなるに至った成り行きと言うことができる。

次に、例(61)を見てみよう。

- (61) 雑誌やケーブル TV に出た。ラジオでも CD をかけてもらった。ちゃんと"仕事"になっている。けれど私達はアメリカで商売をする気は特にない。それなら何故活動するの? 深い意味はない。強いて言えば"楽しいから"という程度で、友人の一人は"欲がない"などといった。 (「ニューヨーク日記 vol.3」 NLT)

例(61)の「意味」は、「記号（特に、ことば）の表す内容。」ではなく、「ある表現や行為によって示される内容。特に、そこに含み隠されている内容。」(北原(編)『明鏡国語辞典(第二版)』)だと考えられる。例(61)の話し手は、アメリカで活動しているが、それは「楽しいから」という程度の気持ちであり、そこに隠されている内容、つまり、他者がうかがい知れないような複雑な内容ではないということを「深い意味はない」と表している。よって、例(57)～(61)の「深い」は、ある物事の成り行きに対する複雑さの程度が他者には容易にうかがい知れないほど大きいさまを表していると言うことができる。

以上から、意味⑧の「深い」は、<ある物事の成り行きに対する複雑さの程度が><他者には容易にうかがい知れないほど><大きい><さま>と記すことができる。

4.3.3.4. 意味⑨<問題となる対象同士の接点が複雑でその関係性の程度が><大きい>

<さま>

- (62) 平沼は郵政民営化に反対して自民党を離党したものの、中川とは深い関係を持っていた。平沼は国政に初挑戦した時から「自主憲法制定」を訴え、中川の父・一郎が選挙を全面支援した関係にある。さらに中川と同じ麻布中学・高校出身で、中川は高校生のときから「先輩」と慕っていた。

(『朝日新聞』2015年06月17日朝刊 聞蔵IIビジュアル)

- (63) 長浜市四ツ塚町、福満寺遺跡で約三千年前の縄文時代後期の住居跡からイヌの足跡が見つかった、と同市教委が九日、発表した。(中略) 坂田邦洋・別府大助教授(比較人類学)は「住居跡から足跡が出てきたことは、当時から犬と人が深いかかわりをもっていたことがうかがえる」と話している。

(『朝日新聞』1999年02月10日朝刊 聞蔵IIビジュアル)

- (64) ユーラシア大陸と日本とを結ぶ位置にある朝鮮半島は、古くから日本とのかかわりが深い。儒教や仏教も、この半島を通って日本にもたらされた。

(『新詳地理B 最新版』(2006) BCCWJ)

- (65) ライン川沿いの都市コブレンツの対岸に、オットー・バイスハイム経営学術大学(WHU)がある。「ビジネスエリート養成」を掲げるドイツでは少数派の私立大学だ。(中略) 借金してでも入学する理由は、企業との深い結びつきにある。学校を運営する財団の出資者には、コメルツ銀行、ルフトハンザ航空など有力企業が並ぶ。「職業実習に協力してくれる企業を含めると、80社ぐらいになる。産業界が求める人材を供給できている証しです」とミヒャエル・フレンケル学長はいう。

(『朝日新聞』2012年10月08日朝刊 聞蔵IIビジュアル)

例(62)は、人間関係について「深い」と述べている。例(62)は、平沼と中川は、中川の父が平沼の選挙を支援したことがあり、また、二人が同じ学校の出身で、平沼のことを「中川は高校生のときから「先輩」と慕っていた」とあるように、重要な面での接点が多い関係と言え、その関係性の程度が大きいさまを「深い」と表していると考えられる。例(63)は、人間と犬との関わりについて「深い」と述べている。縄文時代の住居跡から犬の足跡が出てきたということは、人間と犬が一緒に生活していたと考えられ、その関係性の程度が大きいさまを「深い」と表していると考えられる。例(64)は、日本と朝鮮半島との関わりについて「深い」と述べている。「儒教や仏教も、この半島を通って日本にもたらされた」とあるように、

様々な重要な出来事があるような関係であり、その関係性の程度が大きいとすることができる。例(65)は、大学と企業の結びつきについて「深い」と述べている。企業が学校を運営する財団に出資したり、職業実習に協力したりし、一方、大学が「産業界が求める人材を供給」するなど、様々な重要な接点がある関係であり、その関係性の程度が大きいとすることができる。よって、例(62)～(65)の人間同士や物事間の関係は単純なものではなく、接点が多かったりする複雑なもので、その関係性の程度が大きいさまを表していると言える。

以上から、意味⑨の「深い」は、<問題となる対象同士の接点が複雑でその関係性の程度が><大きい><さま>と記すことができる。

4.3.3.5. 意味⑩<容易に目が覚めないほど眠りの程度が><大きい><さま>

- (66) 第三に、安楽死の最も有力な代替案となり得る鎮静は、鎮痛治療や精神医学的治療では取りのぞけない痛みや呼吸困難、精神的苦痛などの症状を軽減するため、麻酔薬の使用により、うっすらとした眠気から深い眠りまで人工的に意識水準を下げる治療方法である。 (『朝日新聞』2015年06月04日朝刊 聞蔵IIビジュアル)
- (67) 額の痛みも忘れて、加奈子は眠り込んでしまった…。どれくらい眠ったのか一せいせい十分かそこのものだったろうが、眠りは深かったようで、肩を揺さぶられるまで、目が覚めなかった。 (赤川次郎『三毛猫ホームズと愛の花束』 BCCWJ)
- (68) 寝ていてあまり動かないことは悪いことではありません。赤ちゃんは眠るとすぐに深い睡眠に入ります。深い睡眠は疲れをとり体力を回復させる睡眠で動くことはありません。 (「たまごママネット／離乳食」 NLT)

例(66)は、麻酔薬で「うっすらとした眠気から深い眠りまで人工的に意識水準を下げる」とあるように、「深い眠り」は、意識水準が大きく下がった状態と言える。例(67)は「肩を揺さぶられるまで、目が覚めなかった」とあるように、ここでの「深い」は容易には目が覚めないさまを表していると考えられる。例(68)の「深い眠り」も、起こそうとしても容易には目が覚めない状態であると考えられるが、「眠るとすぐに深い睡眠に入る」ことから、浅い眠りから徐々に深い眠りになるといった時間の経過には焦点を当てていない。このように眠りは、覚醒している状態からすぐに目が覚める段階、容易に目が覚めない段階まで連続的であり、例(66)～(68)の「深い」は、眠りの程度が容易に目が覚めないほど大きいさまを表すと言える。

以上から、「深い」の意味⑩は、＜容易に目が覚めないほど眠りの程度が＞＜大きい＞＜さま＞と記すことができる。

4.3.3.6. 意味⑩＜夜や季節（特に秋）になってから時間が十分に経ち終わりに近い＞

＜さま＞

(69) クリスマス当日は、早い時間中は大勢の人を対象にしたミサが、もっと深い夜になると近所の信者向けのミサが行われる、そういう教会があつたりします。

（「サンマリエ オープンカレッジ | モテる恋愛塾」 NLT）

(70) 夜も深く、朝までもう少しな時間帯。眠い体を横に倒すとマニキュアが剥はがれていることに気がつき、リムーバーコットンをこすりながらも寝てしまう有様。

（「砂原 WORKS ～column～ of 海と砂原美容室」 NLT）

例(69)では、夜の早い時間ではなく、時間が十分経った頃を「深い」と表していると考えられる。例(70)の「朝までもう少しな時間帯」とは、もう少し時間がたつと朝になる、つまり夜の終わりに近い時間帯であり、その頃を「夜が深い」と表している。例(69)(70)の「深い」は、図6のように、夜になってから時間が十分に経ち、夜の終わりに近い時間であるさまを表していると言える。また「夜が深い」は、夜の終わりに近いという時間についてだけでなく、日没から夜中に向かって夜の暗さが増していき、夜が深い時間帯が最も暗いように感じるという暗さについても関係があると考えられる。昼前や夜の前の時間帯を「*朝/*昼が深い」とは言わないが、これは夜の暗さや、深い海の底や深い森の奥は光が届かず暗いことから想定される「深いところは暗い」という身体経験によるものと考えられる。

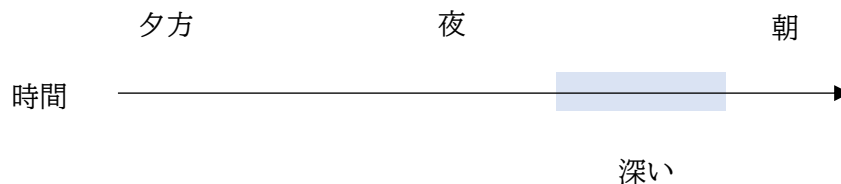


図6 「深い夜」の時間帯のイメージ

(71) 今は甘柿が店頭に並んでいますが、もう少し先の渋柿が顔を出すと購入しています。紙箱にもみ殻を敷き、熟すのを待ちます。母の里で食した柿の味とは異なりますが、

- おこたに入り暖をとりながら食すずくし柿も美味しいものです。渋柿到来の深い秋が待ち遠しいこのごろです。（『朝日新聞』2002年09月27日朝刊 聞蔵IIビジュアル）
- (72) 私たち東京・九段の高等女学校生徒が、学徒動員で風船爆弾づくりに従事したのは昭和19年9月からであった。仕事の場所が東京・浅草の国際劇場と聞かされたときは、みんなどっと沸いた。（中略）秋も深くなると、がらんどうの劇場内は寒くて震えるほどだった。（『朝日新聞』1991年12月23日朝刊 聞蔵IIビジュアル）

例(71)は、渋柿が到来する時期を「深い秋」と述べている。秋であっても、甘柿が店頭に並ぶ時期より時間が十分に経っているさまを「深い」と表していると考えられる。例(72)では、生徒たちは9月から風船爆弾づくりをしていたが、時が過ぎ、秋ではあったが震えるほど寒い時期になったことを、「秋が深くなる」と表している。この場合、「深い」は、秋ではあるが、秋の終わりに近いさまを表していると考えられ、例(71)(72)の「深い」は、図7のように表される。



図7 「深い秋」の時間帯のイメージ

次の例(73)は、福寿草が咲く早春の前の時期、つまり冬の終わりに近い時期を「深い冬」と表している。冬について「深い」と表す例は、秋と比べると少なく、NINJAL-LWP for BCCWJにおいて「秋が／は／も深い」の用例数は11例あったが、「冬が／は／も深い」の用例数は1例であった。また、西尾（1972：397）も、資料内では「秋」の例が多く、冬の例は1例だけだったと述べている。「秋／冬が深い」も夜の場合と同様に、時間的な意味だけでなく、「秋や冬は昼が短く夜が長い」という暗さにつながるイメージがあると考えられるが、冬が使われにくい理由については説明できない¹³。

¹³ 「春深し」「夏深し」という俳句の季語や「春が深くなる」とともに、だんだんと空気も潤ってきます。（「うつくしいくらしかた研究所」<<http://www.kurashikata.com/koyomi/>>）2015.09.20、「蓮の花は、もっと夏が深くなってから咲くので、今は、ようやく葉が茂り始めたところです。（「ダイアリー：いわきからの電話」 NLT）」のように春や夏も「深い」が用いられることがある。この場合「終わりに近づく」と

(73) 深い冬の後には、温かい春が～

寒く凍っている大地から

今年も福寿草！ (http://ameblo.jp/kinokoen/entry-11982791684.html) 2015.10.16 検索

よって、例(71)～(73)の「深い」は、秋や冬になってから時間が十分に経ち、季節の終わりに近いさまを表していると言える。

以上から、「深い」の意味①は、<夜や季節（特に秋）になってから時間が十分に経ち終わりに近い><さま>と記すことができる。

4.3.3.7. 意味②<意義のある事柄が時間的経過の中で積み重なっている程度が><大きい><さま>

(74) ニューイングランドの首都とも言われるボストンはイギリスから来た清教徒たちによって作られた街です。1770年にはボストン虐殺事件、1773年にはボストン茶会事件が起こり、アメリカの独立革命のきっかけともなったと言われています。

そんな深い歴史がある一方、学問の都としてもその名を知られています。

(「GO!★AMERICA ANA マイレージクラブ」 NLT)

(75) ヨーロッパの人たちと接する機会があれば分かるが、人間として尊敬しあえるのは、教養の深さなのである。たとえば、「日本文化の特徴ってなんですか？」という質問に、即座に自分なりの答えを提示できなければならない。と書きながら、私自身どう答えようかと悩んでいるが（つまり教養がないってこと）。その点、長い歴史と深い伝統をもった京都という街の真ん中にキャンパスがあるというだけで、幸運である。

(「風間規男教授 | 同志社大学 政策学部」 NLT)

例(74)では、アメリカの独立に大きな影響を及ぼした重要な出来事がいくつも起こったという歴史を「深い歴史」と述べている。例(75)では、現代の日本文化につながるような、様々な文化的な事柄が続いていることに対して「深い」と表している。歴史や伝統は、時間の経

いう点に焦点は当たるが、春や夏は日が長く活動的なイメージから「暗さ」のイメージはない。そのため、これらは秋に比べて周辺的な例と考えられる。

過の中で物が蓄積されて積み重なるように、いくつもの事柄が積み重なり続いていくと考えられる。また、「*歴史が深くて短い」とは言えないように、「深い」にはある程度の時間の長さが含まれていると考えられる。よって、例(74)(75)の「深い」は、歴史や伝統といった時間的経過の中で、特に意義のある事柄が積み重なっているさまを表していると言える。

(76) やっぱり芸能人なんだから作ってる、じゃないですが。ようは何も知らないワケです。そんな人を好きにはなれないですしね。現実にはちゃんと恋人もいるし。(中略)
ただ私にとって長い時間、辛い時も苦しい時も楽しい時も、彼らが常に自分の近く
にあってくれて、今の彼氏なんかよりも全然歴史が深く長いのは事実です

(「恋愛相談-教えて!goo」 NLT)

例(76)は、ファンである芸能人に対する気持ちについて述べている。話し手は、ファンである期間を「歴史」として「深く」「長い」ものとして捉えている。また、辛い時や楽しい時もその芸能人(に対する気持ち)と一緒に過ごしているように感じ、そのことを大切に思っている。つまり、本人にとって意義がある事柄の積み重ねを「深い」と表していると考えられる。一方、「長い」は時間的な長さのみに焦点を当て、歴史の中で起こった出来事には注目していない。よって、例(76)の「深い」は、特に事柄の積み重ねの方に焦点が当たっているとと言える。

(77) 俳優としてキャリアが浅いので、とにかく淳になりきろうとした。

(『朝日新聞』2010年01月12日夕刊 聞蔵IIビジュアル)

「キャリア」は、職業などの経歴であるが、例(77)は、俳優になってからの期間が短く仕事の積み重ねがまだあまりないことを「浅い」と表している。「浅い」は、「キャリアが浅い」、「経歴が浅い」などと言える一方、「深い」は、「*キャリアが深い」「*経歴が深い」などのように仕事の積み重ねが多いことに関しては言えず、「浅い」と比べ共起する語の制限が大きいと言える。

以上から、「深い」の意味②は、<意義のある事柄が時間的経過の中で積み重なっている程度が><大きい><さま>と記すことができる。

4.3.3.8. 意味⑬<味や香りが容易に言い表せないほど豊かである><さま>

(78) 止まらなくなる理由は、味の奥深さだと思います。チョコの味っていうだけじゃなくて、複雑な要素がたくさん入っている感じがする。創った人が色々研究して、これが一番だという味のバランスを見つけ出したのかな。一粒ずつ、それぞれの深い味があって飽きないんです。

(『朝日新聞』2018年02月23日夕刊 聞蔵IIビジュアル)

(79) 中でも、富田さんが「定食屋を開くなら、看板メニューにしたい」という一押しメニューが、豚の生姜焼き。様々な隠し味をたれに加えることで、肉を柔らかくジューシーに保ち、深い味わいを出すことに成功しています。

(『週刊アエラ』2015年03月02日 聞蔵IIビジュアル)

例(78)では、チョコの味について「深い」と述べている。「チョコの味っていうだけじゃなくて、複雑な要素がたくさん入っている感じ」とあるように、様々な要素を感じるような味を「深い」と表していると考えられる。例(79)は、「様々な隠し味をたれに加えること」によって豚の生姜焼きに「深い味わい」が出たと述べている。例(78)(79)の「深い」は、チョコや生姜焼きに様々な味が感じられることから、「甘い」「辛い」などのように単純な味でなく、容易に言い表せないほど豊かなさまを表していると考えられる。

(80) 確かにお香の薫りは、科学的に作られた臭いと違い、落ちついた気持ちにさせてくれます。(中略)どんな人が来ても、落ち着いて仏様の願いを味わえるように、何百年という長い年月の間、多くの人によって工夫されてきた深い薫りを、現代の私たちが味わっているのです。

(「お香の秘密」 NLT)

例(80)のお香の香りは、「何百年という長い年月の間、多くの人によって工夫されてきた」香りであることから、複雑で一言では言い難いほど豊かな香りだと考えられる。

ここで、共感的比喩について簡単に述べる。共感的比喩とは、「五感を表す語における、ある感覚から異なる感覚への意味の転用」(武藤 2015:21)である。「深い」は、五感の中では視覚に関する形容詞と言えるが、武藤(2015:79)によれば、視覚を表す形容詞は味覚や嗅覚へも転用されうる。つまり、「深い」が「味」や「薫り」についても表すことができるのは、共感的比喩によると考えられる。また、次の例(81)の「深い味と香り」に関し

では、「味を持つものは通常、ある種の匂いを有することが多いということから、味覚と嗅覚という2つの属性の同時性に基づくメトニミー」（武藤 2015：135）と考えられる。

- (81) 爽快さはそのままに、長期熟成モルトならではの深い味と香り。複雑なコクと甘み、豊かな樽香が見事に調和。かすかなスモーキーさを含んだ余韻も心地よい。

<http://bartendersclub.suntory.co.jp/brand/2014/11_HAKUSHU/index.html> 2015.10.03 検索

例(81)の「深い」が「味」と「香り」の両方を表すことについて、不自然さは感じられない。従って、「深い味」と「深い香り」の「深い」に意味的に大きな差異はないと言える。

以上から、「深い」の意味②は、<味や香りが容易に言い表せないほど豊かである><さま>と記すことができる。

4.3.3.9. 意味④<色が黒みがかっていて何らかの価値を感じさせる程度が><大きい><さま>

- (82) 深海をイメージした深い青色のガラスに銀箔（ぎんぱく）を練り込んだ石「深海ブルー」を約2年前に開発。ブレスレットのほか、ペンダントなども展開している。

（『朝日新聞』2013年09月05日朝刊 聞蔵IIビジュアル）

- (83) 宇宙を思わせる深い青が特徴的な中右さんと、「海の砦」=写真=など思索的な作風の西村さんの抽象絵画約40点を展示。

（『朝日新聞』2013年01月10日朝刊 聞蔵IIビジュアル）

- (84) すると、エルフがじっとポポロを見つめました。ポポロの瞳はエメラルドのような明るい緑ですが、エルフの瞳は森の奥を思わせる深い緑色です。

<<http://asakuratosho.sets.ne.jp/tosyo/flute2/flute207.htm>> 2015.07.29 検索

例(82)~(84)は、海や宇宙、森といった自然界にある青や緑の色に関して「深い」と述べている。西尾(1972:397)が、色に関して用いられる「深い」について「「こい」色であると同時に、黒みがかった暗い感じの色である傾向がある」と述べているが、例(82)(83)の「深い青」は、「深海をイメージした」「宇宙を思わせる」とあるように、黒みがかった暗い青と考えられ、例(84)の「深い緑色」は、「森の奥を思わせる」とあるように、黒みがかった暗い緑色だと考えられ、西尾(1972)の指摘は妥当であると言える。

(85) 美しい深いブルーのサファイアを、繊細なプラチナのムーンで包みました。

<<http://www.star-jewelry.com/onlineshop/g/g1XN0550/>> 2015.10.14 検索

例(85)は、ネックレスの商品説明であるが、サファイアの色を「深いブルー」と述べている。小出(2000:9)は「深い」が色名に使われる場合、「よい色であるという印象」があり、「見えない部分(暗くて黒い部分)、価値あるもの、という連想が働いている」と述べている。暗い所は見通しが利かないので、謎めいて感じたり、神秘的に感じたりする。そこに価値を見出したり、好ましさを感じたりするのだろう¹⁴。例(85)の「深いブルー」を「濃いブルー」に言い換えると、同じ色でも「価値」といったプラスのイメージは見出せない。また、例(82)~(84)の「深い」も、プラスのイメージとして何らかの価値を感じさせると言うことができる。よって、例(82)~(85)の「深い」は、色について、黒みがかっていて何らかの価値を感じる程度が大きいさまを表していると言える。

(86) 明るく健康的にみせるなら赤系がおすすめです。赤といっても鮮やかでビビッドな赤と、ボルドーのような深い赤では印象が違いますので、いろいろ掛けてためしてみてください。

(「メガネ・ポータル メガネの総合情報サイト | メガネフレームはどう選べばいいの?」NLT)

(87) 友の自慢のハッサクだけある。おいしい。あつという間に品切れになった。残った皮は捨てるに惜しい。あまりに鮮やかだ。「無農薬なのよ」。友の言葉がよみがえった。さっそくマーマレードをつくることにした。(中略)厚手のホーロー鍋に皮と新しくほぐした実と氷砂糖を入れて弱火で1時間ほど煮詰め、仕上げにちょっと上等なブランデーをたっぷり振りかけると、深いオレンジ色の大人の味のマーマレードが出来上がった。(『朝日新聞』2005年03月16日朝刊 聞蔵IIビジュアル)

(88) たとえば、深いピンクの紅枝垂れと朱塗りの建物の赤、淡桃の染井吉野と柳の緑……
どういう時間帯に、どういう背景で撮るかによって、桜とほかの色との組み合わせがいくらかでも見つかるから、一日中カメラを手放せない。

(『朝日新聞』2015年03月30日朝刊 聞蔵IIビジュアル)

¹⁴ 心理学の色彩に関する研究では、「黒」には象徴作用として「権威・厳粛」などのイメージがあり、プラスの連想としては「荘重」などがあると述べられている(高木・堀内・前田2003:28)。

例(86)は、メガネのフレームの色を「深い赤」と述べている。「深い赤」は、ボルドーワインのような黒みがかった赤と考えられるが、鮮やかでビビッドな赤と比べて、落ち着いた赤という価値が認められるだろう。例(87)は、マーマレードの色を「深いオレンジ色」と述べている。はっさくの皮はもともと鮮やかなオレンジ色であったが、煮詰めることによって黒みがかったオレンジ色になったと考えられる。例(88)は、紅枝垂れという桜の花の色を「深いピンク」と述べている。写真で組み合わせて撮られる朱塗りの建物の赤色と比べて、黒みがかかり落ち着いたピンク色を表していると考えられる。例(86)～(88)の「深い」も、色が黒みがかかっていて、何らかの価値を感じさせる程度が大きいと言える。

以上から、「深い」の意味④は、<色が黒みがかかっていて何らかの価値を感じる程度が><大きい><さま>と記すことができる。

4.3.3.10. 意味⑤<音が重厚で落ち着いていて心が強く動かされる><さま>

(89) 新作楽器には楽器の健康状態が良く、ストレートで明るい音色のものが多く、 オールド楽器は長く弾き込まれていて発音が良く、独特の渋い深い音が出るものが多いです。
(「弦楽器の楽しみ方 弦楽器コンシェルジュ-島村楽器」 NLT)

(90) クラリネットの低音が響き、深い音色が不気味な空気を醸し出した。

(『朝日新聞』2014年10月26日朝刊 聞蔵IIビジュアル)

(91) 「深い音を表現」長岡京市立長岡中は「富士山―北斎の版画に触発されて―」を披露した。緩急のついた演奏で富士山の雄大さと繊細さを表現し、銀賞。部長の吉田琴美さん(3年)は、「低音、高音がきれいに重なり、深みのある音を表現できた。達成感でいっぱい」と話した。

(『朝日新聞』2017年08月27日朝刊 聞蔵IIビジュアル)

例(89)は、新作楽器の音を「明るい」と表しており、一方オールド楽器の音は「渋い深い」と述べていることから、「深い音」は落ち着いた音と考えられる。例(90)は、「クラリネットの低音」を「深い音色」と述べているが、例(91)「深い音」は、「低音、高音がきれいに重なり、深みのある音」とあり、「深い音(音色)」は、低音というだけではなく重厚な音だと考えられる。よって、例(89)～(91)の「深い」は、音が重厚で、落ち着いたさまを表していると言える。

(92) 今年はショパン生誕二百年。「ピアノの詩人」と称されるが、チェロの名曲も残した。
間近で聴くチェロの名曲の深い音色は、あなたの心に響き、感動の世界へ誘(いざな)う。
(『朝日新聞』2010年03月17日夕刊 聞蔵IIビジュアル)

(93) 目を閉じて、想像してごらん。みんなは夜、富士山に向かって歩いている。やがて、
たどり着いた。朝日に輝く、大きくて美しい姿だ——。(中略) 目を開き、もう一度
音を合わせる。ビオラの6年生の女の子はびっくりした。人と楽器が一体になった
深い音色。本当に富士山の上で奏でている気持ちになった。

(『朝日新聞』2012年10月22日夕刊 聞蔵IIビジュアル)

例(92)は、「あなたの心に響き、感動の世界へ誘う」とあるように、「深い音色」は、強く心を動かされるような音色であると言える。例(93)は、「深い音色」によって「本当に富士山の上で奏でている気持ち」になるほど心が強く動かされたと言える。よって、例(92)(93)の「深い」は、音によって心が強く動かされるさまを表していると言える。

また、例(90)「不気味な空気を醸し出した」とは、不気味な雰囲気を感じたということだと考えられ、クラリネットの「深い音色」によって不気味な雰囲気を感じるほど心が強く動かされたと言える。例(89)(91)の「深い音」も聴衆の心を強く動かす音だと言えることができる。

以上から、「深い」の意味⑤は、<音が重厚で落ち着いていて心が強く動かされる><さま>と記すことができる。

4.3.3.11. 意味⑥<ある行為の道義に反する程度が><大きい><さま>

(94) 走行メーターの巻き戻しは、車の安全性に直接影響はないが、年式などと同様に、
何キロ走っているかは、車の消耗度を示す重要なデータ。それを巻き戻して高く売
るとするのは、生鮮食料品の日付を新しいものに書き換えて売ると同じで、詐欺
的な行為といえる。消費者は、中古車とはいえ、ディーラーのもつメーカーの看板
を信頼して買うだけに、メーカー系列の業者による今回の巻き戻しは罪が深い。

(『朝日新聞』1991年07月31日朝刊 聞蔵IIビジュアル)

(95) 10年近く前から、黒人霊歌の古い資料をできる限り探し、歌詞と向き合い、それが時代とともにどう変化したかを研究した。(中略) 米国人でないからこそ書けた研

究書という。「黒人霊歌はアフリカ系米国人には奴隷制の暗い記憶を呼び起こす。それ以外の米国人にも深い罪の歴史を感じさせる、デリケートな問題だからです。

(『朝日新聞』2008年06月26日 夕刊 聞蔵Ⅱビジュアル)

- (96) 川に「太鼓橋」が架かっている。善行の人は渡れるが、業が深い人は渡ることができないと言われてきた。老朽化が進み、現在は通行止め。

(『朝日新聞』2018年09月15日朝刊 聞蔵Ⅱビジュアル)

例(94)は、車の走行メーターの巻き戻しという行為に対して「罪が深い」と述べている。消費者は、中古車を「ディーラーのもつメーカーの看板を信頼して買う」が、巻き戻しは「詐欺的な行為」であり、道義に反すると言える。例(95)は、歴史的にアフリカ系米国人以外の米国人が黒人を奴隷として支配していたことに対して「深い罪」と述べている。それは、道義的に許されない事柄であったと言える。罪には物を盗むことや人をだますことなど様々なものが考えられるが、例(94)(95)は、何らかの規範に反する行為(罪)の中でも、人としての道義に反するような行為を「罪」と述べていると考えられ、その程度が大きいさまを「深い」と表していると言える¹⁵。例(96)は、「善行の人は渡れるが、業が深い人は渡ることができない」とあるように、「業」は悪行と考えられ、道義に反する行為と言うことができ、「深い」はその程度が大きいさまを表していると言える。よって、例(94)~(96)の「深い」は、道義に反する程度が大きいさまを表していると言うことができる。

以上から、「深い」の意味⑩は、<ある行為の道義に反する程度が><大きい><さま>と記すことができる。

4.3.3.12. 意味⑪<物事の状態や物事が持つ特性の程度が><十分に><大きい>

<さま>

- (97) 7月20日午前0時。東京の映画館テアトル池袋はそれまでの熱気がウソのように深い静寂に包まれた。武術映画の神様ブルース・リーを悼む黙祷(もくとう)だ。32歳で謎の死を遂げたのが73年。この日は30回目の命日に当たり、追悼オールナイト上映会が開かれていたのだ。

¹⁵ 罪の程度を表す言い方には「(罪が)重い/軽い」もある。「強盗は窃盗より罪が重い(*深い)」のように、犯罪としての罪の程度を言う場合は「重い」を用いるが、「純真な娘をだますなんて罪がふかいぞ(/?重いぞ)」(飛田・浅田 1991)のように、人として道理に外れるような行為であるということに焦点が当たる場合には「深い」の方が容認されやすいと考えられる。

(『朝日新聞』2003年08月14日 夕刊 聞蔵Ⅱビジュアル)

(98) ピカソのあふれる独創性が生き生きと感じられる作品ばかりで、あらためて深い魅力に引き込まれる。 (『Hanako』 BCCWJ)

(99) 明峯治平の澄んだ双眸が生き生きとした精彩を放っている。常にユーモアを忘れない話し振りには、深い教養に裏打ちされた豊かな個性が息づいていた。

(谷恒生『妖少女』 BCCWJ)

例(97)は、映画館の静寂について「深い」と述べている。黙とうのために物音が全くしないような状態であり、映画館全体に静けさが十分大きかったと考えられる。例(98)は、ピカソの作品の魅力について「深い」と述べている。「独創性が生き生きと感じられる作品」とあるように、これらの作品は魅力が十分に大きいとすることができる。例(99)は、教養について「深い」と述べている。「深い教養に裏打ちされた豊かな個性」とあるように、豊かな個性の基となる教養が十分に大きいとすることができる。また、例(98)(99)「魅力」「教養」とは、ある物事が持つ特性とすることができる。

以上から、「深い」の意味⑦は、<物事の状態や物事が持つ特性の程度が><十分に><大きい><さま>と記すことができる。

4.3.4. 非空間的用法における「深い」の多義構造

本節では、これまでの分析を踏まえ、非空間的用法における「深い」の意味の相互関係について記す。以下に、これまで見てきた非空間的用法における「深い」の意味⑥～⑪を再掲する。

意味⑥<物事に対して生じる気持ちを持続的で心の底から感じるほどに程度が><大きい><さま>

意味⑦<物事の本質や細部に対して思考を巡らす程度が><大きい><さま>

意味⑧<ある物事の成り行きに対する複雑さの程度が><他者には容易にうかがい
知れないほど><大きい><さま>

意味⑨<問題となる対象同士の接点が複雑でその関係性の程度が><大きい><さま>

意味⑩<容易に目が覚めないほど眠りの程度が><大きい><さま>

意味⑪<夜や季節(特に秋)になってから時間が十分に経ち終わりに近い><さま>

意味⑫<意義のある事柄が時間的経過の中で積み重なっている程度が><大きい>

<さま>

意味⑬<味や香りが容易に言い表せないほど豊かである><さま>

意味⑭<色が黒みがかっていて何らかの価値を感じさせる程度が><大きい>

<さま>

意味⑮<音が重厚で落ち着いていて心が強く動かされる><さま>

意味⑯<ある行為の道義に反する程度が><大きい><さま>

意味⑰<物事の状態や物事が持つ特性の程度が><十分に><大きい><さま>

まず、非空間的用法における「深い」の意味の相互関係を、意味の拡張の点から考察する。3節で述べたように、意味①はプロトタイプの意味である。意味⑥⑦⑨～⑬⑮～⑰は、意味①で述べた「容器」のイメージスキーマを基盤としたメタファーによる拡張と理解することができる。また、これまでの分析から、小出（2000）の「「深い」ところにそのものの本質や真理があるという認識があり、核心に近づくことは深く進むこと」との指摘は妥当だと考えられる。さらに、意味⑧⑭はそれぞれ意味①からメトニミーにより拡張しており、この3つの意味を構成要素とする「深い場所」というフレームが考えられる。

各意味間の拡張関係を詳しく述べると、意味⑥の「深い」は、心を「容器」とみなし、感情や興味など物事に対して生じる気持ちを「容器の中身」と捉え、物事に対して生じる強い気持ちは、心の底にある、つまり「気持ちが強い」ことを「位置が深い」と捉える、意味①からのメタファーによる拡張である。意味⑦は、物事の本質が「容器」の「深い位置」にあると捉える、意味①からのメタファーによる拡張だと言える。

意味⑧の「深い」は、「深い場所」のフレームが考えられる。深い海の底のような深いところは光が届かず暗いため、「深いところは暗い」と言うことができる。また、暗いところは周りが見えずそこに何があるか容易には分からない。このことから、「場所」に用いられる「深い」が、「わかりにくいさま」も表すことができるというメトニミーに基づく拡張により、「深い」が「容易にうかがい知れない」という意味を表す。

意味⑨は、関係性を「容器」とみなし、関係性の程度が大きいさまを「容器が深い」と捉える意味①からのメタファーによる拡張である。意味⑩の眠りは、すぐに目が覚める状態から容易に目が覚めない状態までの程度が考えられるが、容易に目が覚めない状態を眠りの本質とみなし、眠りの本質が「深い位置にある」と捉える意味①からのメタファーに

よる拡張である。意味①は、夜や季節が始まりから時間が十分に経つことによってその本質に近づくと考えられ、夜や季節の時間が十分に経つことを「位置が深い」と捉える意味①からのメタファーによる拡張である。意味②は、歴史や伝統といった時間的経過を「容器」、その中で起こった事柄を「容器の中身」と捉え、時間的経過（容器）の中で意義のある事柄（中身）が積み重なる程度が大きいという意味①からのメタファーによる拡張である。意味③は、ある物の味や香りを「容器の中身」とみなし、味や香りが様々に含まれる程度が大きいことを「中身が深い」と捉える意味①からのメタファーによる拡張である。

意味④は、「深い場所」のフレームが考えられる。「深い場所は暗い」ことから「場所」を表す「深い」が、その場所の「色の暗さ」を表すこともできるという同時性に関するメトニミーによる拡張により、「深い」が黒っぽい色を表す。

意味⑤は、音の重厚さの程度が大きいことを「位置が深い」と捉える意味①からのメタファーによる拡張である。意味⑥は、ある行為の道義に反する程度が大きいことを「位置が深い」と捉える意味①からのメタファーによる拡張である。意味⑦は、物事の状態や特性が十分に大きいことを「位置が深い」と捉える意味①からのメタファーによる拡張である。

また、意味①と意味⑥⑦⑨⑩⑪⑮⑯⑰は、「容器」のフレームの「位置」を基盤としたメタファー関係であることから、次のようなスキーマ（①）が抽出できると考えるが、これらの意味を包含するこのスキーマは他の多くの意味を包含するものであり、顕著性が低いとすることができる。

スキーマ①：＜物事の何らかの性質・特徴に関して程度が大きいさま＞

一方、意味①と意味⑫⑬は、「容器」のフレームの「中身」を基盤としたメタファー関係であることから、次のようなスキーマ（②）が抽出できる。

スキーマ②：＜内容（量）が豊かであるさま＞

以上の考察を踏まえ、「深い」の意味①と非空間的用法の意味拡張を含む多義構造を図 8 のように記述する。なお、太線の四角はプロトタイプの意味であり、楕円は「深い場所」の

フレームを表わす。

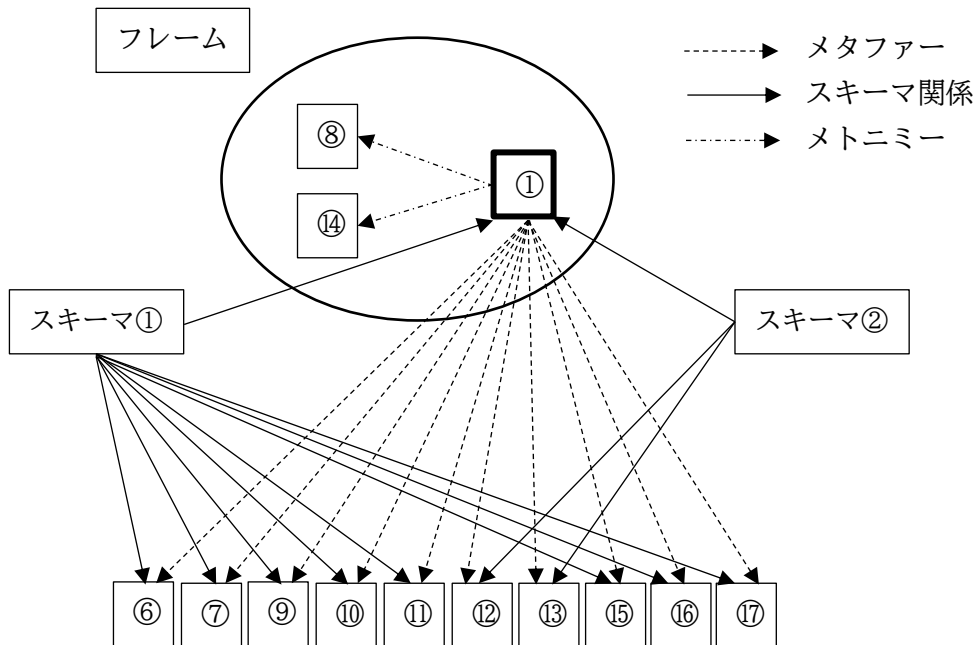


図 8 非空間的用法における「深い」の多義構造

4.3.5. 「深い」の意味全体の多義構造

本節では、「深い」の空間的用法と非空間的用法を統合した多義構造を図 9 で示す¹⁶。

¹⁶ 図 9 の意味番号を囲む太線の四角はプロトタイプ的意味を表す。

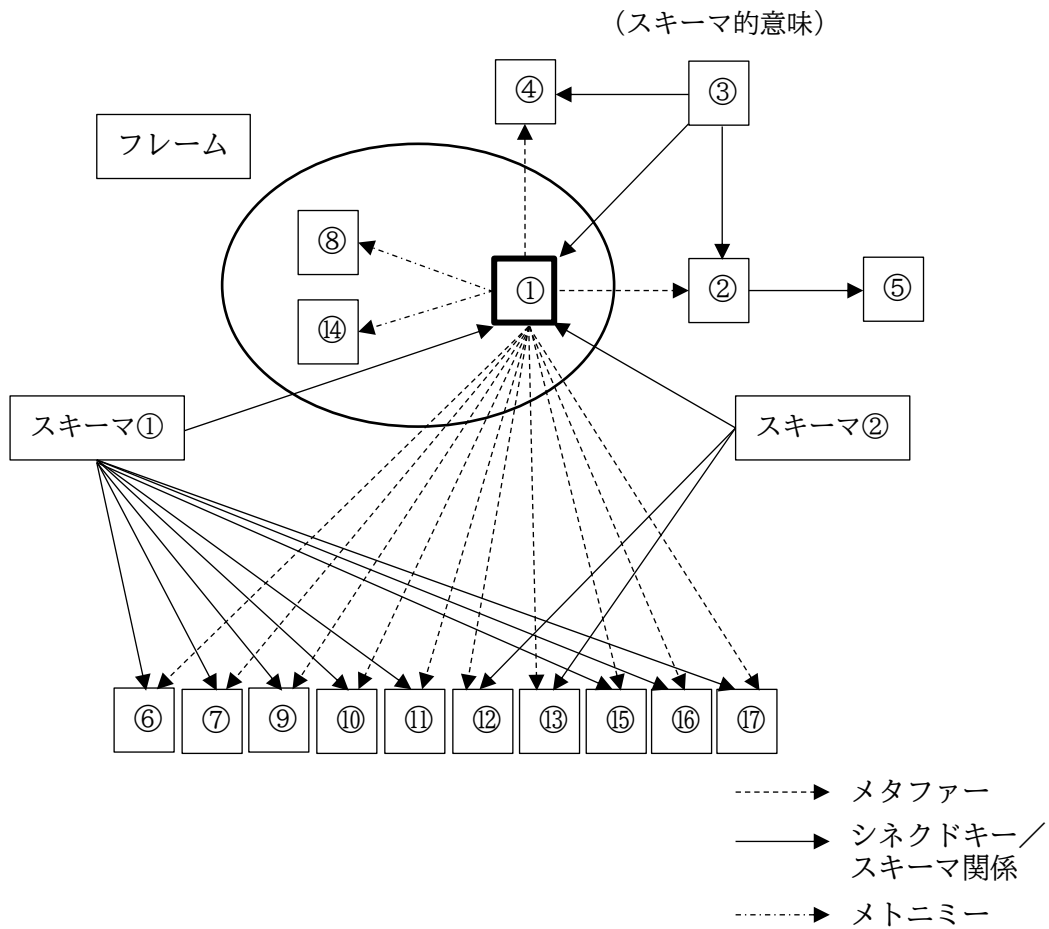


図9 「深い」の多義構造

4.4. おわりに

本章では、「深い」の意味を分析した。まず、以下の通り 17 の意味とスキーマを 2 つ認定した。

意味①<水平面から><鉛直方向に><内部へ向かう><距離が><大きい><さま>
(プロトタイプの意味)

意味②<垂直面から><水平方向に><内部へ向かう><距離が><大きい><さま>

意味③<基点から><内部へ向かう><距離が><大きい><さま> (意味①②④のスキーマ的意味)

意味④<基点から><囲まれる領域の方へ曲がる><角度が><大きい><さま>

意味⑤<基点から><水平方向に><高密度・高濃度を伴い><奥までの><距離が>
<大きい><さま>

意味⑥<物事に対して生じる気持ちが持続的で心の底から感じるほどに程度が><大きい><さま>

意味⑦<物事の本質や細部に対して思考を巡らす程度が><大きい><さま>

意味⑧<ある物事の成り行きに対する複雑さの程度が><他者には容易にうかがい
知れないほど><大きい><さま>

意味⑨<問題となる対象同士の接点が複雑でその関係性の程度が><大きい><さま>

意味⑩<容易に目が覚めないほど眠りの程度が><大きい><さま>

意味⑪<夜や季節（特に秋）になってから時間が十分に経ち終わりに近い><さま>

意味⑫<意義のある事柄が時間的経過の中で積み重なっている程度が><大きい>
<さま>

意味⑬<味や香りが容易に言い表せないほど豊かである><さま>

意味⑭<色が黒みがかっていて何らかの価値を感じさせる程度が><大きい>
<さま>

意味⑮<音が重厚で落ち着いていて心が強く動かされる><さま>

意味⑯<ある行為の道義に反する程度が><大きい><さま>

意味⑰<物事の状態や物事が持つ特性の程度が><十分に><大きい><さま>

スキーマ①：<物事の何らかの性質・特徴に関して程度が大きいさま>

スキーマ②：<内容（量）が豊かであるさま>

意味①～⑤は、空間的用法における意味である。各意味間の相互関係として、プロトタイプの意味である意味①から意味②、意味④へメタファーにより拡張し、意味③は、意味①、意味②、意味④からのシネクドキーによる拡張であり、意味⑤は、意味②に「密度・濃度」という制限が加わったシネクドキー的な拡張であることを示した。さらに、意味③は、意味①、意味②、意味④のスキーマ的な意味と言えることを説明した。

意味⑥～⑰は、非空間的用法における意味である。意味⑥⑦⑨～⑬⑮～⑰は、意味①で述べた「容器」のイメージスキーマを基盤としたメタファーによる拡張と理解することができることを示し、意味⑧⑭はそれぞれ意味①からメトニミーにより拡張しており、この3つの意味を構成要素とする「深い場所」というフレームが考えられることを説明した。また、意味①と意味⑥⑦⑨⑩⑪⑮⑯⑰は、「容器」のフレームの「位置」を基盤としたメタファー関係であることからスキーマ①を抽出し、意味①と意味⑫⑬は、「容器」のフレームの「中身」

を基盤としたメタファー関係であることからスキーマ②を抽出した。

先行研究で指摘されていない意味として、「角度」に関する意味を意味④として記述した。また、「深い」が「森」や「霧」などを対象とする場合の意味を、意味拡張の観点から空間的な意味に濃度・密度が加わった意味と記述した。非空間的用法では、「深い歴史」のような時間と事柄が関係する語を修飾する場合の意味を意味②として記述した。さらに、「深い」の複数の意味間の相互関係を多義構造として図示した。

第5章 「高い」の意味分析

5.1. はじめに

本章では、形容詞「高い」を取り上げ、その意味および複数の意味間の相互関係を分析、考察する。

本章の概要について述べると、次の2節で「高い」の意味に関する先行研究の記述を概観し、検討する。3節で「高い」の意味を分析し、4節で「高い」の多義構造について記す。5節では、概念メタファーを基盤とした「高い」の意味の拡張について考察する。最後に6節で、本章のまとめを述べる。

5.2. 先行研究の記述とその検討

本節では、「高い」の意味に関する先行研究として、『大辞林(第四版)』(2019)、西尾(1972)、飛田・浅田(1991)を取り上げる。

5.2.1. 『大辞林(第四版)』(松村明編 2019: 1655)¹

①空間的に基準面よりかなり上にある。

㊦物の下端から上端までの差が大きい。上方に伸びている。「背のー・い人」「ー・い山」

「雪がー・く積もる」

④離れて上の方に位置している。はるか上方にある。「ー・い秋空」「ヒバリがー・く舞い上がる」「日はまだー・い」

㊦前方に突き出ている。「ー・い鼻」

②音や香りが顕著である。

㊦高音である。音や声の振動数が多い。「ー・い方のドの音」「ー・い声で歌う」

④音や声が大きい。「声がー・い。静かにしろ」

㊦(④から転じて)世間に広く知れわたっている。「評判がー・い」「世評がー・い」「悪名がー・い」

④香りが強い。「梅の香りがー・い」

③序列・価値が上位にある。

¹ 『大辞林(第四版)』には、①～⑤以外に、現代日本語の用法にはない項目(⑥⑦)もあるが、本研究の対象ではないと判断し、省略する。

- ⑦地位・格式などが上位である。「身分がー・い。」「ー・い家柄」
- ⑧教養・能力などがすぐれている。「識見がー・い」「目がー・い」「知能がー・い」
- ⑨品位・品格がすぐれている。「格調がー・い」「気品がー・い」「ー・く評価する」
- ④志向が高尚である。低俗なものを嫌う。「理想がー・い」「志がー・い」「気位がー・い」
- ⑤数量的に多い。⑦金銭的に額が多い。「物価がー・い」④程度を数値で表した時、その数値が大きい。「血圧がー・い」「気温がー・い」「年ー・くなりて／宇治拾遺二四」

5.2.2. 西尾 (1972 : 367-390)

西尾 (1972) は、「高い」の意味を「空間的な量 (①~③)」「物事の質が優れていたり、価値が高い (④)」「量的・程度的に著しい (⑤)」「金額が大きい (⑥)」という4つに分け、さらに下位分類している。

まず、「高い」の「空間的な量」を表す意味は、①「ものの垂直上方への延長が大きい」、②「基準になる面からみて(ずっと)上方に位置している」、③「あるものの表面から外にとび出しているものの長さが大きい」の3つに分類される。①は、基本的に固体的なものに関する意味であり、「山」や「建物」のように、そのものの位置が固定されていること、自立すること、全体を指すことという条件が考えられる²。②は、「柿の木の高い枝」のように、ものの存在している位置に関する用法である。①と②は、対象のものが基準面と接しているか離れているかという点で異なるが、①の意味の高いものの上端だけに注目すると、①は②に還元される。①と②は、基準が水平面であるが、③は、「鼻が高い」のように、水平面以外のものが基準になるが、この用法は、からだの部分に関するもの以外には見当たらない。

次に、④「物事の質が優れていたり、価値が高い」ことを表す「高い」は、社会的地位、誇り、目標、能力、品位、教養などが対象となる。⑤「量的・程度的にいちじるしい」ことを表す「高い」は、尺度、音、評判、においなどが対象となる。⑥「金額が大きい」ことを表す「高い」は、対義語が「安い」であり、①~⑤の対義語「低い」と異なる。

5.2.3. 飛田・浅田 (1991 : 334-337)

飛田・浅田 (1991) は、「高い」の意味を大きく5つに分け、次のように記述している。

² 固体的、固定的でないものでも「高い」が用いられる場合がある。西尾 (1978 : 369-371) は、梯子は移動可能であるが、「本来の機能をはたす姿勢」(立てかけられた状態)から「高い」が用いられ、「波」のように固体的でないものについては基準面が具体的に考えられることから「高い」が用いられると述べている。

たかい〔高い〕

①空間的に基準となる面からの距離が遠い様子を表す。

「わたしの彼は背がたかい。」「富士山は日本一たかい山だ。」

②音・声や香りなどが際立つ様子を表す。

「何度練習してもこのたかい音が出ない。」「ぼくはソプラノのたかい声は好きじゃない。」

③抽象的なものの程度が大きい様子を表す。

「彼女は格式のたかい家柄の出だ。」「彼女の希望はたかい地位の役職につくことだ。」

④値段が高額である様子を表す。

「彼はこのあいだたかい車を買った。」「日本は物価がたかい」

⑤数値や割合が大きい様子を表す。

「父は血圧がたかい。」「今日は湿度がたかくて過ごしにくい。」

飛田・浅田（1991）は、①について「高い山」のように、基準面が水平の場合すなわち鉛直方向に距離が遠い場合が最も一般的であるが、「鼻が高い」のように基準面が水平でない例や、「まだ日が高い」のように、空間的に高い位置に離れて存在している場合も含まれると記している。②については、「高い音・高い声」は音声の振動数が大きいことを表すが、「声が高い」などで音量が大きいことを表す場合もあると記している。また、「バラがたかく香る」のように、香りが際立って発散していることも表すが、この場合悪い匂いについては用いられないと述べている。③の「高い」は、対象となるものが多く、「格式」「地位」「格調」「気品」「気位」「知能」「ランク」「教養」「望み」「志」「志気」「民意」「世評」「評価」「悪名」「見識」「価値」などが用例として挙げられている。また、反義語については、①③⑤の場合は「低い」であり、②に関しては「音・声」の場合は「低い」であるが、「におい」に関しては、「低い」は用いられない。④の反義語は「安い」である

5.2.4. 先行研究の記述の検討

先行研究の記述をまとめると、「高い」には次のような意味特徴が認められる。

(1) 空間的用法

- ・基準から上方へ向かう距離が大きい。
- ・基準から上方に離れて位置しているものまでの距離が大きい。
- ・物の下端から上端までの距離が大きい。
- ・（主に鼻、頬骨、額など身体部分について）基準から突き出ている先端までの距離が大きい。

(2) 非空間的用法

- ・音や香りが顕著である。
- ・物事の質が優れていたり、価値があるなど、抽象的なものの程度が大きい。
- ・数量的に多い。

「高い」の意味の記述に関して、空間的用法については、先行研究で十分議論されており、本研究もこれらの先行研究の記述を基本的に受け継ぐことにする。非空間的用法の意味の記述に関して先行研究の成果に負うところが大きいのが、検討すべき点もあるように思われる。西尾（1972）は、「知性」「科学性」と共起する場合の「高い」は質的な程度が大きい、つまり、優れていることを表すと述べているが、「高い客観性を賦与する」の「高い」は質的か量的な程度か判断しにくいとも述べている。一方、「悪質性が高い」のように、「高い」が物事に備わっている性質で数値として表しにくいものと共起する場合、『大辞林（第四版）』の記述では説明できない。このような何らかの性質に関する「高い」についての記述は整理、検討が必要だと考える。これらの検討課題を踏まえ、「高い」の意味を詳細に分析、考察し、複数の意味間の相互関係を記述する。

5.3. 意味分析

本研究は、「高い」の意味を、＜空間＞、＜金銭＞、＜数値・数量＞、＜水準＞、＜性質・様相＞、＜関心＞、＜序列＞、＜香り・味＞、＜音＞の観点から14に分類した。また、分析の最後に、各意味間の相互関係を考察し、多義構造を示す。

5.3.1. 空間的用法

本節では、「高い」の空間的用法の意味を分析する。

5.3.1.1. 意味①<基点から><垂直上方に向かう><距離が><大きい><さま>

- (3) 言われるまま、広島県内のトマトハウスを見に行った。5メートルはある高い天井に、生産ラインのような苗木の列。

(『朝日新聞』2016年11月02日朝刊 聞蔵IIビジュアル)

- (4) また、棚が高くて荷物を乗せるのに苦労することがありますが、周りの人が棚に上げるのを手伝ってくれることが多いです。

(質問箱◆暮らし◆電車やバスの中で荷物はどこに置きますか NLT)

- (5) 人力車で観光地の間を移動すれば、いつもより高い視点から街の景観を楽しめると考えた。

(『朝日新聞』2019年09月27日朝刊 聞蔵IIビジュアル)

例(3)は、トマトハウスの天井の位置を、例(4)は、棚の位置を「高い」と述べている。この場合の「高い」は、地面や部屋の床を基準とし、その基準から垂直上方にある天井や棚までの距離が大きいことを表している。例(5)は、人間の視点を「高い」と述べている。視点は、本来、「視線が注がれる所」(北原(編)『明鏡国語辞典(第二版)』)であるが、例(5)では、人力車に乗るといつもより視点が「高い」、つまり、地面からの乗客の目の位置が普段より上方になることを表している。よって、例(3)～(5)の「高い」は、ある対象の位置に関して、下方にある基準から上方にある対象までの距離が大きいさまを表している。

- (6) 富士山のような高い山では、8合目から一気に登ると高山病になる恐れもあります。

(『朝日新聞』1988年03月20日朝刊 聞蔵IIビジュアル)

- (7) 銀泉浴場は浦賀行・バス停「中台」の近く、薬ドラッグストア「クリエイト」の裏にある。入り口はわかりにくいが、高い煙突を目当てに行けば直ぐにわかる。

(銀泉浴場 NLT)

例(6)は、山について、例(7)は、煙突について「高い」と述べている。この場合の「高い」は、山や煙突の下端を基準とし、山の頂上や煙突の先という上端までの距離が大きいことを表している。つまり、例(6)(7)の「高い」は、対象の下端が基準となり、そこから対象の上端までの距離が大きいさまを表している。この場合、基準から上方に伸びている対象自体を背景とし、その上端に焦点が当たっていると言える。

(8) 日本ハムの選手が道内各地のまちおこしを支援する「179市町村大使」のイベントが21日行われ、幕別町の幕別小学校には同町大使を務める大谷翔平、市川友也の両選手が訪問した。(中略) 児童たちはしばらく興奮がさめやらぬ様子で、5年生の舩屋笑麗奈(えれな)さんは「背が高く、大きな体でかっこよかった」。

(『朝日新聞』2016年11月22日朝刊 聞蔵IIビジュアル)

例(8)は、野球選手の身長を「高い」と述べている。この場合の「高い」は、人間の地面や床に接している足を基準とし、頭頂までの身体自体の距離が大きいことを「高い」で表している。人間は地面や床に固定されているわけではなく、様々な姿勢を取ることができるが、「人間が起きて生活している時間の中では、直立した姿勢は主要な姿勢の1つである」(西尾1972:371)。また、成長の過程において、直立した姿勢で上方に身長が伸びると捉えられることから、人間の身長を「高い」で表すことができると考えられる。³

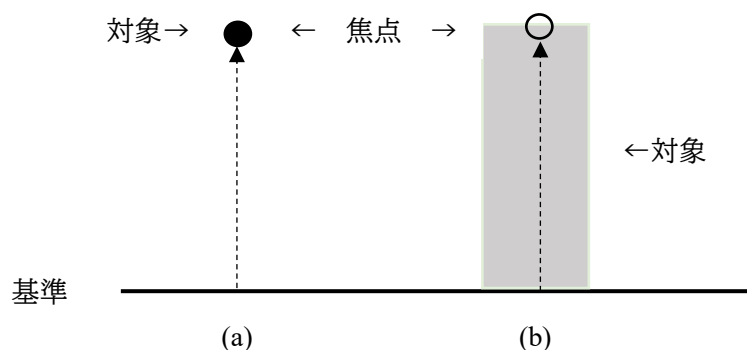


図1 「高い」の焦点の位置

図1は、例(3)~(8)の「高い」を図示したものである。(a)は例(3)~(5)の場合に当たり、基準から上方にある対象(●)の位置を焦点化している。(b)は例(6)~(8)の場合に当たり、基準から伸びている対象(グレーの長方形)の上端(○)を焦点化している。この焦点化された位置から例(3)~(8)の意味は、一つの意味として考えることができる。

以上から、「高い」の意味①は、<基点から><垂直上方に向かう><距離が><大きい><さま>とすることができる。

³ 例(8)は「日本ハムの選手は背が高い」という形であるが、「日本ハムの選手は高い」だと、「高い」のは「背」なのか、「年棒」なのか、「能力」なのかははっきりしない。このように「高い」は対象の複数の要素の程度が大きいことを表わすことができる。

5.3.1.2. 意味②<主に鼻・額・頬（頬骨）などの身体部位が><身体部位の周辺から><突出している><程度が><大きい><さま>

(9) 24人のアーティストらが作った約40個のマスクは、豚の顔に花が描かれていたり、てんぐのように鼻が高かったり。

(『朝日新聞』2016年09月16日 朝刊 聞蔵IIビジュアル)

(10) 高い小窓からさす薄ら明りの中だったが、彼女の顔は蒼ざめて、まるで血の気を失ってるようだった。十五六才ごろであろうか、髪を編んで後ろに垂らし、前髪だけ取り分けて短く切り揃えている。額が高く広く、鼻筋がずっと清らに通っている。

(豊島与志雄『広場のベンチ』 NLT)

(11) 彼女は目頭を切って大きく二重にし、鼻の根元にはプロテーゼを入れて鼻筋を整え、顎は短く削り、さらに高い頬骨を削るという四パーツに及ぶ大変身をした。

(『週刊アエラ』2000年08月14日 聞蔵IIビジュアル)

例(9)はマスクの鼻について、例(10)は少女の額について、例(11)は女性の頬骨について、「高い」と述べている。この場合の「高い」は、顔の表面を基準とし、それぞれの部位が顔の前方に出ている程度が大きいことを表わしている。

また、例(12)のように、胸に関しても体の前方に出ている程度が大きいことを表わすことがある。

(12) この半年で急に背が伸びましたが、まだママ先生より二十センチぐらい低いのです。ですから、向かい合って立つと、視線がどうしてもママ先生の胸が高くなっているところに行ってしまう。(ママ先生とぼくとのこと NLT)

このように例(9)~(12)の「高い」は、体を起こしている状態で、顔や体の前面を基準とし、そこから対象の前方に出ている先端までの距離が大きいさまを表している。またこれらの方向はおおむね水平方向である。

以上から、「高い」の意味②は、<主に鼻・額・頬（頬骨）などの身体部位が><身体部位の周辺から><突出している><程度が><大きい><さま>とすることができる。

5.3.2. 非空間的用法

本節では、「高い」の非空間的用法の意味を分析する。

5.3.2.1. 意味③<物事の対価としての金銭的な額が><大きい><さま>

(13) 専門書は高い。 (作例)

(14) 同大は定員割れが続いているが、市側は東京理科大側の分析として「国公立の1・8倍と学費が高いことが原因」とした。

(『朝日新聞』2014年12月23日朝刊 聞蔵IIビジュアル)

例(13)は、専門書の値段について、例(14)は、大学の学費について「高い」と述べている。値段や学費は、物やサービスなどの対価としての金銭的な量である。よって、例(13)(14)は、物事の対価としての金銭的な額が大きいさまを「高い」と表しており、「高い」の意味③は、<物事の対価としての金銭的な額が><大きい><さま>とすることができる。

5.3.2.2. 意味④<数値や数量に関する程度が><大きい><さま>

(15) 蠅は15度で活動を開始して、20度になると活発になります。幼虫も温度が高いほど成長が早くなります。 (「Yahoo!知恵袋」 BCCWJ)

(16) 血圧変化の平均値を見ると、浴槽に入った直後の最も血圧が高いときの平均の最高血圧が166、5分間浴槽につかって出たときの最も低いタイミングで135と、短い時間で血圧は31も変動している。

(『週刊朝日』2017年12月01日 聞蔵IIビジュアル)

(17) それから第三番目に、日本の場合は、戦前、一九二〇年、大正九年ごろでは都市と農村で出生率が非常に違っていたわけでございます。農村は出生率が非常に高かったわけです。都市が千分の二十七ぐらいの出生率でありましたのが、農村はそれの大体三割から四割高かったわけでございます。 (「国会会議録」 BCCWJ)

(18) 成績はよかったですよ。同級生の中では中の上です。そこそこ偏差値の高い学校に行けるだけの成績を取っていましたね

(MM プロジェクト『モーニング娘。21人の足跡』 BCCWJ)

例(15)は温度について、例(16)は血圧について「高い」と述べている。これらの場合の「高

い」は、温度や血圧を機器で測定したときの数値のうち、数値の程度が大きいさまを表している。例(17)は、農村の出生率が「高かった」と述べている。都市に比べ農村の出生率は三割から四割数値の程度が大きいさまを「高い」と表していると言える。例(18)は、偏差値について「高い」と述べている。偏差値は一定の方式で具体的な値が出るが、値の程度が大きいさまを「高い」と表している。よって、例(15)~(18)の「高い」は、数値の程度が大きいさまと言える。

(19) カレーうどんは名古屋が一番レベルが高いですよ。初めて食べたとき、ぶっ飛んじやった、あまりのうまさに。

(<https://ameblo.jp/librari/entry-12401895781.html>) 2021.09.28 検索

(20) 日本では、ヒモにつないでないイヌを長時間待たせたり、一緒に歩かせたりするのはかなり難度の高い技とされ、訓練しないとほとんどのイヌはできない。

(高野秀行『極楽アジア気まぐれ旅行』 BCCWJ)

例(19)は、カレーうどんのおいしさのレベルを「高い」と述べている。「カレーうどんは名古屋が一番レベルが高い」とあるように、他地域と比べ名古屋のカレーうどんのおいしさのレベルの程度が大きいさまを「高い」と表している。例(20)は、犬の技の難度について「高い」と述べている。難度は、「容易」から「困難」まで考えられるが、例(20)は「訓練しないとほとんどのイヌはできない」とあるように、困難である程度が大きいさまを「高い」と表している。例(19)(20)「おいしさのレベル」「難度」は数値そのものではないが、数値と同様に物事を尺度的に捉えており、その程度が大きいさまを「高い」と表していると言える。

(21) そもそも、もっともよく打つ打者に、もっとも高い頻度の打席を与えて、どこに不都合があるというのか。

(渡部直己『日本プロ野球革命宣言』 BCCWJ)

(22) 正規従業員・職員の割合は、末子の年齢が3歳未満時点では十四、二%で、末子の年齢が高い世帯ほどその割合は高くなるが、ピークとなる十八歳以上の時点でも二十三、八%に止まっており、また、子どものいる世帯の妻で、新規に正規従業員・職員として就業する者は少ない。

(『厚生労働白書』 BCCWJ)

例(21)は、野球の打者が打席に立つ頻度について、「高い」と述べている。例(22)は、未子の年齢について、3歳未満から18歳以上のうち、18歳以上かそれに近い年齢を「高い」と述べている。例(21)(22)の「高い」は、頻度や年齢という数量の程度が大きいさまを表していると言える。

以上から、「高い」の意味④は、<数値や数量に関する程度が><大きい><さま>と言うことができる。⁴

5.3.2.3. 意味⑤<実現・達成を目指す事柄の水準の程度が><大きい><さま>

(23) 途中で、単に仕事上の幸せとか成功といったことにとどまらず、「社会貢献」や「国際貢献」といった、もっと高い理想を掲げた教育論も必要な、とも思いました。

(キャメル・ヤ マモト『「稼ぐ人」に育てる7つの才』 BCCWJ)

(24) 2009年1月から数えると、まだ半年ちょっとのところですが、すでに申し込み件数は5万件を超えています。申し込みは順調です。目標として、日本は2020年までに温暖化ガス排出を2005年比で15%削減すると発表しました。これには、2020年までに、住宅用の太陽光発電システムを530万戸に導入しないといけないとか。非常に高い目標に見えます。

(「専門家に聞きました！ 経済産業省 渡邊昇治さん | 太陽生活ドットコム」 NLT)

(25) パーマーは、ポリテコに移った理由をそう話す。だが、現場での仕事は多忙だ。250語以内の単文ニュースを一日に何本も書くうえ、週5本のニュースレターや長行の分析記事も担当する。「楽しいけど、要求が高い職場でもある。」という。

(『朝日新聞』2015年08月02日朝刊 聞蔵Ⅱビジュアル)

例(23)は、教育論での理想について「高い」と述べている。「仕事上の幸せとか成功」という個人的な事柄より「社会貢献や国際貢献」といった公共のために貢献するという理想の実現を目指すことは、その理想の水準の程度が大きいと言える。例(24)は、「2020年までに温暖化ガス排出を15%削減する」という目標を「高い」と述べている。その目標を達成するために、住宅用の太陽光発電システムを530万戸に導入しなければならないが、2009年の半年間で5万件超しか申し込みがないことを考えると、この目標の水準の程度は大きいと

⁴ 意味③、意味④はともに数的な概念に関する意味であるが、第2章で見たように、意味③の反義語は「低い」、意味④は「安い」であるため、それぞれ自立した意味だと考えられる。

言える。例(25)は、「250語以内の単文ニュースを一日に何本も書くうえ、週5本のニュースレターや長行の分析記事を担当」しなければならないことについて「要求が高い」と述べている。「仕事は多忙だ」とあるように、現在求められている仕事は量的時間的に簡単に達成できるものではなく、この要求の水準の程度が大きいと言える。よって、例(23)～(25)の「高い」は、理想や目標など実現・達成を目指す事柄の水準の程度が大きいさまを表していると言える。

以上から、「高い」の意味⑤は、<実現・達成を目指す事柄の水準の程度が><大きい><さま>とすることができる。

5.3.2.4. 意味⑥<物事に備わっている性質や様相の程度が><大きい><さま>

(26) 墨光堂によれば、現在までかなりの数の南蛮関係絵画の修復をしたが、そのどれもが耐水性が高かったという。 (歌田真介『油絵を解剖する』 BCCWJ)

(27) 判決は殺害方法について「習熟したフォークリフトを操作し、トラックの荷台下に逃れた被害者を引きずり出し、被害者が助けを求めても殺害を思いとどまることはなかった」と認定。「計画的犯行とは評価できないが、残酷で悪質性が高い」と指摘した。(『朝日新聞』2021年03月13日朝刊 聞蔵Ⅱビジュアル)

(28) 車という鉄の塊を人ひとりの移動のために動かすのは、共通の交通インフラをみんなで共有するのと比べて効率性は下がるが、マイカーはドアツードアで移動でき、非常に高い利便性を持っている。

(『朝日新聞』2016年09月01日朝刊 聞蔵Ⅱビジュアル)

例(26)は、南蛮関係絵画の耐水性について、例(27)は、殺人事件の犯行の悪質性について、例(28)は、マイカーの利便性について「高い」と述べている。例(26)～例(28)の「高い」は、「耐水性」「悪質性」「利便性」という物事に備わっている性質の程度が大きいさまを表していると言える。

(29) ご質問の場合も、店長という重い責任のある仕事で、しかも早朝から深夜にわたって長時間働いていたというのですから、労災が認められる可能性が高いと思います。

(職場の女性問題研究会編『Q&A 女性と労働 110 番』 BCCWJ)

(30) 骨粗鬆症は、骨量減少のため、骨折の危険が高く、椎体圧迫骨折や大腿骨近位部、

橈骨遠位部に生じやすい。(河原和夫『社会福祉士のための基礎知識』 BCCWJ)

例(29)は、労災が認められる可能性について「高い」と述べている。「店長という重い責任のある仕事で、しかも早朝から深夜にわたって長時間働いていた」ことから、労災が認められる可能性の程度が大きいさまを「高い」と表している。例(30)は、骨粗鬆症における骨折の危険について「高い」と述べている。骨量減少が原因で骨折する危険性の程度が大きいさまを「高い」と表している。例(29)(30)の「高い」は、何らかの事柄から判断される物事の様相の程度が大きいさまを表していると考えられる。さらに、性質も様相も物事に備わっているものと言える。

以上から、「高い」の意味⑥は、<物事に備わっている性質や様相の程度が><大きい><さま>とすることができる。

5.3.2.4. 意味⑥-1<能力や技術が><優れている><さま>

(31) 「どんなに名コーチでも選手を大きくすることはできない。2人とも身体が大きいだけでなく、走る跳ぶの能力が高い」と指導する白沢卓ヘッドコーチ。

(『朝日新聞』2017年03月09日朝刊 聞蔵IIビジュアル)

(32) フィンランドはヨーロッパの中でも在留外国人の最も少ない国です。従って外国人と接触をする機会が極めて少ないにもかかわらず、英語を使用する人口が五十%にも達しています。このように国民の英語力が高い1つの理由は、海外から持ち込まれるテレビ番組ではないかといわれています。

(河合忠仁『日本の学校英語教育はどこへ行くの?』 BCCWJ)

(33) 川崎市の東芝未来科学館をのぞくと、日本初の電気冷蔵庫や洗濯機、掃除機などがずらりと並んでいた。世界初という携帯型パソコンもあった。高い技術を誇った名門企業の凋落(ちょうらく)はいつまで続くのか。

(『朝日新聞』2017年02月16日朝刊 聞蔵IIビジュアル)

例(31)は、2選手の走ったり跳んだりする能力を「高い」と述べている。例(32)は、英語が母語でないフィンランドの国民の英語の能力を「高い」と述べている。例(31)(32)の「高い」は、何らかの能力の程度が大きいさまを表しているが、選手にとっての走ったり跳んだりする能力や、フィンランド人にとっての母語でない英語の能力の程度が大きいことは、好まし

いことであり、能力的に優れているとすることができる。例(33)は、日本初の電気冷蔵庫や洗濯機などの製品を製作する技術を「高い」と述べている。この場合の「高い」は、技術力の程度が大きいさまを表しているが、「高い技術を誇った」とあるように好ましいことであり、技術力が優れているとすることができる。よって、例(31)～(33)の「高い」は、能力や技術力が優れているさまを表していると言える。また、能力は人や物に備わっている性質の一種と言える。

以上から、「高い」の意味⑥-1は、<能力や技術が><優れている><さま>と言うことができる。

5.3.2.5. 意味⑥-2<(品格など)物事の尊敬に値する性質の程度が><優れている> <さま>

(34) 足高時代は校長の朝礼にインパクトを受けた。白髪で学者の風貌(ふうぼう)。思想家や文学者の名前が次々と出てきた。「格調が高かった。レベルアップしなければと思った」
(『朝日新聞』2016年06月01日朝刊 聞蔵IIビジュアル)

(35) 主に大正～昭和期に陶芸界で活躍し、独自の技法で革新をもたらした板谷波山(1872～1963年)。模様を薄く彫り、葆光釉(ほうこうゆう)と呼ばれる釉薬(うわぐすり)でつやを消した葆光彩磁は、繊細な彫りと、かすみのような淡い色調が高い気品を生んでいる。模様だけでなく、端正な形態も美しい。
(『朝日新聞』2003年03月13日夕刊 聞蔵IIビジュアル)

(36) 持てる者が施し(喜捨)をするのは、イスラム教徒の義務の一つ。「食卓も規模が大きいほど、徳が高いと評価されるようで、今では実業家が、3千人分の食事を提供する例もある。
(『朝日新聞』2002年12月07日朝刊 聞蔵IIビジュアル)

例(34)は、校長の朝礼の格調が「高い」と述べている。朝礼での話の内容が、思想家や文学者の名前が次々に出てくるようなものであることから、格調の程度が大きいさまを表していると言える。例(35)は、陶器の作品の持つ気品が「高い」と述べている。繊細な彫り、淡い色調などの特徴から、気品の程度が大きいさまを「高い」と表していると言える。例(36)は、イスラム教の喜捨に関して徳が「高い」と述べている。イスラム教の喜捨は、その規模が大きいほど尊敬を集め人徳が特にあるとされる。この徳の程度が大きいさまを徳が「高い」

と表していると言える。また、「格調」「気品」「徳」は、尊敬に値する性質であり、その程度が大きいことは優れているとすることができる。よって、例(34)~(36)の「高い」は、尊敬に値する性質の程度が優れているさまを表していると言える。

以上から、「高い」の意味⑥-2は、< (品格など) 物事の尊敬に値する性質の程度が > < 優れている > < さま > とすることができる

5.3.2.6. 意味⑥-3<物事のある特徴的な側面に関して話題として取り上げられる

程度が > < 大きい > < さま >

(37) なかでも「まんが王国」との呼び名が高いのが高知県だ。「フクちゃん」の横山隆一、「アンパンマン」のやなせたかし、「毎日かあさん」の西原理恵子など、数々の有名漫画家が輩出。漫画で地域振興をしようと、高校生を巻き込んだイベントをはじめたのは、いまから25年も前だ。

(『週刊アエラ』2013年10月28日 聞蔵IIビジュアル)

(38) 鮮烈な印象をもったのは、ほかならぬ敵役のリチャード・M・ニクスン大統領も同じだった。共和党政権を率いたこの第三七代米大統領は、その後、再選を目指した一九七二年の大統領選に際して盗聴事件をひき起こしたことで悪名が高い。

(越智道雄著 『ジョン・F・ケリー』, 2004, 289)BCCWJ

例(37)では、高知県が多くの有名漫画家が輩出し、また25年も前から漫画で地域振興を行ってきたことから「まんが王国」としてよく取り上げられることを「呼び名が高い」と表している。例(38)では、ニクスン大統領が「大統領選の際に盗聴事件を引き起こした」という事柄でよく取り上げられることを「悪名が高い」と表している。

(39) 「なんだか無性に餃子が食べたいなあ」、そう思った私は週末 JR 宇都宮線で宇都宮へと向かっていた。宇都宮は餃子の街として噂が高い。

(「ぶらり、宇都宮競馬場」 NLT)

(40) その尾張国では、天文二十年(千五百五十一)三月、織田信秀が没し、“太うつけ”と評判の高い嫡子の信長が家督を相続した。(百瀬明治『武将と名僧』 BCCWJ)

例(39)は、宇都宮が「餃子の(店が多い)街だ」という噂が多いことを「噂が高い」と表

している。例(40)は、信長について「大うつけだ」と世間でよく言われることを「評判が高い」と表している。例(39)(40)の「宇都宮」「信長」は様々な面を持っているが、その一部である「餃子の街」「大うつけ」という特徴的な事柄を話題として世間的によく取り上げられていると言え、例(37)(38)も同様だと考えられる。よって、例(37)～(40)の「高い」は、物事に備わっている特徴的な側面に関して話題として取り上げられる程度が大きいさまであると言える。

以上から、「高い」の意味⑥-3は、＜物事のある特徴的な側面に関して話題として取り上げられる程度が＞＜大きい＞＜さま＞とすることができる。

5.3.2.7. 意味⑦＜人が物事に対して持つ思いや関心の程度が＞＜大きい＞＜さま＞

(41) 「あなたは、今の政治にどの程度満足していますか」の質問では、「やや不満」の五〇%、「大いに不満」の二三%を合わせると七割を超え、政治への不信感が高いことを示す。
(『朝日新聞』2000年06月22日朝刊 聞蔵IIビジュアル)

(42) 高齢者の健康は、個人の努力だけでは成り立ちません。たとえば、友人やサークルの仲間、また隣り近所との交流がある人ほど、良好な生活習慣を維持し、主観的な健康感が高いことがわかっています (図1)。

(高石昌弘, 加賀谷熙彦|ほか『現代保健体育』 BCCWJ)

(43) たとえば、三十人ほどの団体の行く先ざきで、必ず集合時間に遅れる人が一人いる。ルーズな人だな、と思って注意すると、ますます遅れるようになる。どういうわけだろう、と考えるうち、ははあ依怙地になってるんだ、こっちに意地悪してるんだ、とわかってくる。つまり、社会的地位があり、自尊心が高いような人ほど、団体の中で特別扱いしてもらいたがる。ちやほやされたがる。

(上前 淳一郎『人・ひと・ヒット』 BCCWJ)

例(41)は、政治への不信感について、例(42)は、高齢者の主観的な健康感について「高い」と述べている。例(41)は、これまでの経験から政治に対して不信に感じる思いの程度が大きいさまを「高い」と表している。例(42)は、友人やサークルの仲間、また隣り近所との交流がある高齢者ほど、自分を健康だと思える程度が大きいさまを「高い」と表している。例(43)は、自尊心について「高い」と述べている。「自尊心」は、自分自身を大切に思う気持ちであり、例(43)の「高い」は、自分自身を大切に思う気持ちの程度が大きいさまを表している

と考えられる。よって、例(41)～(43)は、人が物事に対して持つ思いの程度が大きいさまを「高い」と表していると言える。

(44) 救急患者に対する「たらい回し」が、しばしばマスコミを賑わせます。国民の関心が高いからでしょう。この種の情報に関心が高いのは、「やがて来るかもしれない自己の身体に対する事象」に対する漠然とした不安を持つ人が大多数だからです。

(NLT)

(45) 手始めに昨年 10 月から、都市部に多いナチュラルローソンで、「素焼きアーモンド」「ナッツ&フルーツ」などを多く置くようにした。これが、健康に意識が高い女性客を中心にヒット。 (『朝日新聞デジタル』2017 年 10 月 11 日 聞蔵IIビジュアル)

例(44)は、救急患者のたらい回しに対する国民の関心の程度が大きいさまを「高い」と表している。例(45)の「健康を意識している」ということは、健康に対して関心があると言うことができ、例(45)は、健康に対する関心の程度が大きいさまを「高い」と表している。よって、例(44)(45)は、「救急患者のたらい回し」「健康」といった物事に対して持つ関心の程度が大きいさまを「高い」と表していると言える。

以上から、「高い」の意味⑦は、<人が物事に対して持つ思いや関心の程度が><大きい><さま>と言うことができる。

5.3.2.8. 意味⑧<社会的な立場などの序列が><上位である><さま>

(46) 今では天皇の女御という高い身分になっている女性から、かつて送られた恋文の返事を見せ合って「俺の方が上だ」と競うのです。

(『朝日新聞』2012 年 02 月 28 日朝刊 聞蔵IIビジュアル)

(47) 村木さんの取材をして驚いたことは、無罪を勝ち取るまで一貫して絶望していなかったことでした。厚生労働省の局長という高い地位から、どん底に突き落とされたはずですし、無罪を取ることが難しい日本の司法では、そうなってもおかしくない。

(『週刊朝日』2013 年 12 月 13 日 聞蔵IIビジュアル)

(48) 中国で取材をしていると、組織で高いポストにある人ほど、年齢が高くなるのに髪が黒くなっていく気がする。昨秋、中国共産党大会で選ばれたトップ7人も、平均年齢63歳ながら白髪は見えない。

(『朝日新聞』2013年01月09日朝刊 聞蔵IIビジュアル)

例(46)は、女御を「高い身分」と述べている。女御は、平安時代、天皇を中心とした社会の中で皇后、中宮に次ぐ身分であり、当時の女性の身分の序列としては上位である。例(47)は、厚生労働省の局長を「高い地位」と述べている。局長は、現代社会において、中央省庁の各省の中で事務次官、審議官に次ぐ地位であり、最高幹部に属する。例(48)は、「中国共産党大会で選ばれたトップ7人」のような中国の組織の中で序列が上位にあるポストを「高い」と表している。

(49) 親の学歴が高いほど子の成績も高い傾向にあり、特に母親の学歴との相関が強い。

例えば中3数学Bでは、父親が「高卒」の子が平均正答率37.6%、「大卒」は51.4%。母親が「高卒」は36.6%、「大卒」は58.1%だった。

(『朝日新聞』2014年03月28日夕刊 聞蔵IIビジュアル)

例(49)は、親の学歴について「高い」と述べている。学歴は、学業についての経歴であり、小学校から大学院までの教育段階のうち、修了した教育機関が大学院により近い方を「学歴が高い」と表している。学歴と同様の形式の言葉に職歴（職業についての経歴）があるが、この場合「*職歴が高い」とは言えない。これは、学業については小学校から大学院に進むにつれて、より高度で専門的な内容を習得するという序列があるのに対し、職務に関しては、序列が明確でないからだと考えられる。よって、例(46)~(49)の「高い」は、社会的な立場などの序列が上位であるさまを表していると言える。

以上から、「高い」の意味⑧は、<社会的な立場などの序列が><上位である><さま>とすることができる。

5.3.2.9. 意味⑨（主に花や飲食物に関して）<人が好ましく感じるその物特有の香りの程度が><大きい><さま>

(50) 立春（4日）を迎えた益田市高津町、県立万葉公園「やすらぎの家」近くの散策路沿いでは、白梅が7分咲きとなって辺りに高い香りを漂わせ=写真、散歩する人たちの目を楽しませている。

(『朝日新聞』2000年02月05日朝刊 聞蔵IIビジュアル)

(51) 秋から冬の果物が青果店の店頭をにぎわしています。その中にひときわ高い香りを放つ、カリンがありました。部屋の中に果実をひとつ置いただけで、自然の豊かな芳香があたり一面に漂います。

(『朝日新聞』1999年12月14日朝刊 聞蔵IIビジュアル)

(52) おはぎに使う青のりは、香りが高い「スジアオノリ」。収穫量が激減し、値段も高騰。サザエ食品でも、青のり味をお彼岸などの期間限定にしている店舗もある。一口ほお張れば、磯の香りにふんわり包まれる。ほどよい塩気とあんこの甘さも絶妙。ああ、やっぱり私は青のり派。

(『朝日新聞』2020年09月17日夕刊 聞蔵IIビジュアル)

例(50)は白梅の香りを、例(51)はカリンの実の香りを「高い」と述べている。どちらもその香りが「辺りに漂う」とあるので、白梅やカリンの実から離れていても感じるほど香りの程度が大きいと考えられる。また、例(51)の「自然の豊かな芳香」は、カリンが持つ本来の香りと考えられる。例(52)は青のりの香りを「高い」と述べている。「一口ほお張れば、磯の香りにふんわり包まれる」とあるように、青のりを一口食べただけで、口中に香りが広がるほど、香りの程度が大きいと考えられる。また、「磯の香り」は、青のりの持つ特有の香りであると言える。つまり、例(50)～(52)の「高い」はその物の特有の香りの程度が大きいさまを表していると言える。さらに、公園を散歩する人たちが白梅の花を「楽しんでいる」ことや、カリンの香りを「芳香」と感じていること、「私は青のり派」とあるように青のりのおはぎを好んでいることから、それらの香りは好ましいものと言える。

(53) だが2013年からネスレ日本ではインスタントの呼称をやめ、「レギュラーソリュブル(溶ける)コーヒー」という新ジャンルを作り出した。微粉碎したコーヒー豆の粒をコーヒー抽出液に包み込んで乾燥させ、従来より高い味わいと香りを可能にした新製法を採用したからだ。お湯を注げばすぐ飲めるのは同じだが、中身が“違う”新時代が始まっている。

(『朝日新聞』2015年07月18日朝刊 聞蔵IIビジュアル)

(54) 抹茶の製造方法は、摘んだ新芽を蒸し、揉まずに乾燥させて白で挽き、ふるいにかけて微粉にする…という、大変な手間がかかるもの。煎茶などより風味が高く、高価な理由は、その“手間”にあったのです。

例(53)は、コーヒーの味わいと香りを、例(54)は、抹茶の風味を「高い」と述べている。例(52)でおはぎについて「一口ほお張れば、磯の香りにふんわり包まれる。ほどよい塩気とあんこの甘さも絶妙。」とあるように、味と香りは同時に感じられるものである。これは、第4章で述べたように、「味覚と嗅覚という2つの属性の同時性に基づくメトニミー」(武藤2015:135)であると考えられる。このことから、「香り」に用いられる「高い」が味わいや風味⁵にも用いられることがあると言える。

また、「高い」と共起する例はほとんどが「香り」であり、「香り」の類義語である「匂い」とはあまり共起しないと考えられる。BCCWJでは、「匂いの高い酒」の1件のみである。さらに、「高い」と共起する「香り」を持つ対象は、花や飲食物が非常に多く、NINJAL-LWP for TWCで「香りが高い」の例は131あるが、2例が木の香りに対してであり、129例は、花か飲食物に対してである。

以上から、「高い」の意味⑨は、(主に花や飲食物に関して)〈人が好ましく感じるその物特有の香りの程度が〉〈大きい〉〈さま〉とすることができる⁶。

5.3.2.10. 意味⑩〈音や声の音域が〉〈上である〉〈さま〉

(55) 作ったのは5センチほどの竹製の防犯笛「たすけっこ」。危険を感じた時に吹くと
「ピー」という高い音が出て周りに知らせる。

(『朝日新聞』2017年01月30日 朝刊 聞蔵IIビジュアル)

(56) 森君は地声が高く、裏声で歌うのも「あんまり難しいと思ったことはないです」と
笑顔。

(『朝日新聞』2019年04月17日朝刊 聞蔵IIビジュアル)

(57) カワセミは、川面近くを「ピピッ」と高い声で鳴きながら飛ぶ。

(『朝日新聞』2017年01月18日 朝刊 聞蔵IIビジュアル)

例(55)は笛の音を、例(56)は少年の地声を、例(57)はカワセミの鳴き声を「高い」と述べている。音とは「空気・水などの振動によって聴覚に引き起こされた感覚の内容。」(『大辞林

⁵ 『明鏡国語辞典(第二版)』では、「風味」を「飲食物のもつ香りや味わい」と記述している。

⁶ 名詞「香り」は多義語であり、嗅覚に係る意味以外に、「ジャズ文化の香りが高い街」のような「(すぐれた)特性の示す雰囲気」(『明鏡国語辞典』第二版)という意味がある。この場合の「高い」は、意味⑤の〈物事の性質や様相の程度が〉〈大きい〉〈さま〉だと考えられる。

(第四版)』:38) であり、それぞれの音は科学的には数値で表すことができ、数値が大きい音域を「上」や「高い」と表す。人間は、聞き取った音が何らかの基準より音域の数値が大きい領域、つまり音域が上の音であると判断した場合、その音を「高い」と表すと考えられる。よって、例(55)～(57)の「高い」は、物から発せられる音や人間や動物の声(鳴き声)の音域が上であるさまと言える。

以上から、「高い」の意味⑩は、<音や声の音域が><上である><さま>とすることができる⁷。

5.3.2.11. 意味⑪(「声が高い」の形で) <周りの注意を引くほど> <声の音域が上で>

<音量が大きい> <さま>

(58) 「ほうーっ！これはこれは！」シリーニはびくりとした。父は大はしゃぎで歓声をあげている。「どうしたの？」父の歓呼の声に負けないようにシリーニは声を高くした。(アン・マリー・ウィンストン/松村 和紀子(訳)『禁断のときめき』 BCCWJ)

(59) ドアが閉まると、電車は後ろ向きに進み始めた。「どうしたの？」美和は篠ノ井線に何回かのったことがあったが、この駅でスイッチバックがおこなわれることをわすれていた。「スイッチバックよ。ほら、見て。下の景色が見える」おかあさんの声が高くなった。「そうだった」(山崎玲子『もうひとつのピアノ』 BCCWJ)

(60) 電車に乗ってて普通の会話は気にならないのに、携帯電話で話してる声はすごい気になって(原文ママ) しませんか？携帯だとかなり声が高くなって、本人は気づいていないことがあるようです。うるさい電車の中なのでそれに負けないようにと必要以上に声を上げている、対面しているときはお互い顔を近づけたりして音量調節ができるが携帯ではそれができない、など関係するのでしょうか。相手の声がよく聞こえないため、こちらの声も聞こえていないと思うのかもしれませんが。

(「Yahoo!知恵袋」 BCCWJ)

例(58)は、「どうしたの」という父親への問いの声を「高い」と述べている。例(59)は、「ス

⁷ 名詞「声」は多義語であり、「人間や動物が発声器官を使って出す音」という意味以外に、「言葉にして表した考えや気持ち。」という意味もある(『大辞林(第四版)』:948)。この場合の「声」も「高い」と共起する。例えば、「“ダメ虎”の再起を任された阪神・星野仙一監督だが、その手腕に期待の声は高い。」(BCCWJ)の「声」は、「人々の考え」という意味だと考えられる。この場合の「高い」は、「手腕に期待している」という複数の人々の考えがある、つまり考えの量的な度合いが大きいさまを表していると言ふことができ、意味⑤に当てはまると考えられる。

イッチバックよ。ほら、見て。下の景色が見える」という母親の声を「高い」と述べている。例(58)(59)は、はしゃいで歓呼の声を上げている父親や、下の景色に気づいていない娘の注意をひくために発した声を「高い」と表していると言える。例(60)は、電車の中で携帯電話で話している声を「高い」と述べている。他の乗客にとって、携帯電話での話し声が気になるというのは、その話し声に他の乗客の注意が向いている状態と言える。また、例(58)「父の歓呼の声に負けないように」、例(60)「うるさい電車の中なのでそれに負けないようにと必要以上に」とあるように、その時の声は大きいと考えられる。

(61) 「位牌まで作って？呆れたな！」と、引きつったような笑いを浮かべて、「後でみんなして大笑いしたんでしょうね。大酒で祝って、馬鹿な若僧のことを笑い合ったんですね。声が高くなった。怒りがこみ上げて来る。

(赤川次郎『三毛猫ホームズの四捨五入』 BCCWJ)

(62) 初老の女性が、また小蓮のほうに体を傾けて尋ね始めた。「それで、あんたは何年、日本にいたの？」「十年」「ほう、十年間も」女性は驚いて声が高くなる。

(井田真木子『小蓮の恋人』 BCCWJ)

例(61)は、怒りを感じて話したときの声を、例(62)は、驚いたときに発した話の声を「高い」と述べている。「怒り」や「驚き」など強い感情が生じたとき発する声は、普段より音域が高くなり、加えて声の音量が大きくなると考えられる。

次に、「声が大きい」の例を見てみよう。

(63) 太郎の声は、大きい (／高い)。 (作例)

(64) 私の上司も頻繁に独り言を言います。しかも大きい (／高い) 声で。

(「Yahoo!知恵袋」 BCCWJ)

(65) 「おお、才七か。どうしてここへ」「しっ、声が高い (／大きい)」

(安西篤子『武家女夫録』 BCCWJ)

例(63)(64)のように、ある人の声の特徴としての音量の程度は「大きい」としか言うことができず、「高い」の場合は音域が上であるさまを表す。例(65)では、「おお、才七か。どうしてここへ」とあるように、才七がここに来たのは思いがけないことで驚いたということ

あり、その声に対して「高い」と述べている。声の音域が高い時、周りに声がよく通るとい
うことが考えられる。従って、「しっ、声が高い」というのは、声が大きいいことに加え、声
がよく通り周りの注意を引くさまを表していると考えられる。一方、例(65)の「高い」を「大
きい」に置き換えると、声の音量の程度に焦点が当たっていると考えることができる。

以上から、「高い」の意味⑩は、<周りの注意を引くほど><声の音域が上で><音量が
大きい><さま>とすることができる。

5.4. 「高い」の多義構造

本節では、これまでの分析を踏まえ、粉山（2001 など）が提案している4つの課題のうち
「プロトタイプの意味の認定」「複数の意味の相互関係の明示」「複数の意味すべてを統括
するモデル・枠組みの解明」という3つの課題について検討する。以下に、意味①～⑪を再
掲する。

意味①<基点から><垂直上方に向かう><距離が><大きい><さま>

意味②<主に鼻・額・頬（頬骨）などの身体部位が><身体部位の周辺から><突出して
いる><程度が><大きい><さま>

意味③<物事の対価としての金銭的な額が><大きい><さま>

意味④<数値や数量に関する程度が><大きい><さま>

意味⑤<実現・達成を目指す事柄の水準の程度が><大きい><さま>

意味⑥<物事に備わっている性質や様相の程度が><大きい><さま>

意味⑥-1<能力や技術が><優れている><さま>

意味⑥-2<（品格など）物事の尊敬に値する性質の程度が><優れている><さま>

意味⑥-3<物事のある特徴的な側面に関して話題として取り上げられる程度が>
<大きい><さま>

意味⑦<人が物事に対して持つ思いや関心の程度が><大きい><さま>

意味⑧<社会的な立場などの序列が><上位である><さま>

意味⑨（主に花や飲食物に関して）<人が好ましく感じるその物特有の香りの程度が><
大きい><さま>

意味⑩<音や声の音域が><上である><さま>

意味⑪（「声が高い」の形で）<周りの注意を引くほど><声の音域が上で><音量が大

きい><さま>

5.4.1. プロトタイプの意味の認定

本節では、「高い」のプロトタイプの意味の認定のため、空間的用法における「高い」の意味①と意味②に関して、「高い」が名詞化された「高み」「高さ」の場合の意味と、名詞的に用いられる「高く」の場合の意味について、頻度の観点から検討する。

5.4.1.1. 名詞「高み」「高さ」の使用頻度

形容詞「高い」は、接尾辞の「み」「さ」を伴って名詞化される。「現代日本語書き言葉均衡コーパス (BCCWJ)」で「Nの高み」「Nの高さが」を検索し、「高み」「高さ」の意味が空間的用法の意味①と意味②のどちらの意味で用いられているか考察する。

まず、BCCWJで「Nの高み」は63例得られたが、空間的用法と考えられるものは34例あり、すべて意味①であった⁸。次に、「Nの高さが」は239例得られたが、そのうちランダムサンプリングで100例を分析したところ、空間的用法と考えられるものは57例あり、すべて意味①であった⁹。以下に、その一例(例(66)(67))を挙げる。

(66) 長旅の疲れもようやく癒えた頃、シドはヒメーナを誘って城の高みへと登った。

(67) 先日気づいたのですが、家具調コタツなどはダイニングテーブルに比べ座った時の高さが高いように思います。

(例(66)(67) BCCWJ)

5.4.1.2. 名詞化された「高く」の使用頻度

「高い」の連用形「高く」は、名詞的に使われることがあり、この場合「高く」は、「高いところ」を意味する。BCCWJで「高く+格助詞」で検索したところ13例得られたが、「高く」が名詞として使われているのは7例であり、すべて意味①であった(例(68)~(70))

¹⁰。

⁸ 非空間的用法では、意味⑤が1例、⑥が15例、⑥-1が1例、⑥-2が3例、⑧が7例、その他分類できないものが2例あった。

⁹ 非空間的用法では、意味③が1例、④が13例、⑥が8例、⑥-1が7例、⑥-2が1例、⑦が4例、⑧が2例、⑩が6例、その他が1例あった。

¹⁰ 残りの6例は、「私が口を出してもっと高くとか低くとかいうと」「贅沢品は高くという傾向」などのように引用の「と」が接続する例であり、文脈からこれらの「高く」は、動詞が省略されているが、副詞

- (68) 夕陽には色がなく、夏らしく空高くに昇りつめていた雲も、もう西の端に崩れ落ち、白い入り陽を烟らせている。
- (69) 「ふむ…だが連中、どうしてこんなところを飛んでいるのだろうか？ 逃げるのであればもっと高くでも…と思うのだが」
- (70) そうして、石礮の矢をつがえると、折から空の高くを飛び過ぎて行く渡り鳥の群に向かって狙いを定める。

(例(68)~(70) BCCWJ)

以上のように、「Nの高み」「Nの高さが」「高く+格助詞」の「高み」「高さ」「高く」の空間的用法の意味は、すべて意味①であった。プロトタイプの意味は、最も基本的で慣習化の程度・認知的際だちが高い意味と考えられるが、慣習化の程度の高さは、用例数の多さに現れる場合もあると考える。従って、「高い」のプロトタイプの意味は、意味①と認定する。

5.4.2. 複数の意味の相互関係と多義構造

本節では、これまでの分析を踏まえ、「高い」の複数の意味の相互関係と多義構造について記す。

まず、意味①は、プロトタイプの意味である。意味①と意味②の関係について、意味①の<基準から><垂直上方に向かう>が意味②では<身体部位の周辺から><突出している>となり、意味①から意味②へは、「基準とベクトルの方向」の関係において、<距離が大きい><さま>が類似していることに基づくメタファーによる拡張である。

さらに、意味①②はメタファーの関係で結ばれているため、次のようなスキーマが抽出できると考える。

スキーマ①：<基準からある位置までの距離が大きいさま>

しかし、スキーマ①は、個々の意味と比べ顕著性が低いと考えられる。

次に、非空間的用法の意味の相互関係について考察する。まず、意味③~⑩は対象の何ら

的に用いられていると考えられる。

かの<程度>が大きいさまを表すが、意味③<金銭的な額>、意味④<数的な程度>、意味⑤<実現・達成を目指す事柄の水準の程度>、意味⑥<物事に備わっている性質や様相の程度>、意味⑦<思いや関心の程度>、意味⑧<序列の程度>、意味⑨<香りの程度>、意味⑩<音域の程度>は、それぞれ<物事の非空間的な事柄の何らかの側面に関する程度>と一般化できることから、意味③～意味⑩は、「物事の非空間的な事柄の何らかの側面」の関係において、互いにメタファーで拡張していると言うことができる。さらに、意味③～意味⑩は、メタファー関係であり、それぞれの対象の何らかの<程度>は<物事の非空間的な事柄の何らかの側面に関する程度>と一般化できることから、スキーマ②が抽出できる。

スキーマ②：<物事の非空間的な事柄の何らかの側面に関する程度が大きいさま>

スキーマ②は、意味①の<基準から垂直上方に向かう距離>という空間的な程度がスキーマ②の<物事の非空間的な側面の程度>となり、その程度性が<大きい><さま>が類似していると考えられることから、意味①からのメタファーによる拡張である。意味⑥-1、⑥-2 は、意味⑥<物事に備わっている性質や様相>が<能力や技術>、<物事の尊敬に値する性質>へ、<大きい>が<優れている>へとそれぞれ意味範囲が収縮しているので、ともに意味⑥からのシネクドキーによる拡張と言える。さらに意味⑥-3 は、意味⑥<物事の性質や様相>が<物事のある特徴的な側面に関して話題として取り上げられる程度>へ意味範囲が収縮しているので、意味⑥からのシネクドキーによる拡張と言える。意味⑩は、声の音域が上である場合、音量が大きくなることがあるという身体経験から、同時性を基盤とした意味⑩からのメトニミーによる拡張である。なお、意味⑩と意味⑪は、「音」のフレームが考えられる。「音」のフレームでは、「音そのもの（の高さ）」に注目する場合は意味⑩となり、その時の「音の大きさ」に注目する場合は意味⑪となる。さらに、意味①とスキーマ②はメタファー関係であるため、意味①②のスキーマであるスキーマ①とスキーマ②からは次のようなスキーマ③が抽出できる。

スキーマ③：<物事の何らかの程度が大きいさま>

しかし、「高い」の意味①～⑩やスキーマ①②を包含するスキーマ③は、その他の多くの意味をも包含するものであり、顕著性が低いと言うことができる。

以上の分析、考察から、「高い」の個々の意味拡張を含む多義構造は、図2のようになる。太線の四角はプロトタイプの意味を表し、楕円は「音」のフレームを表す。

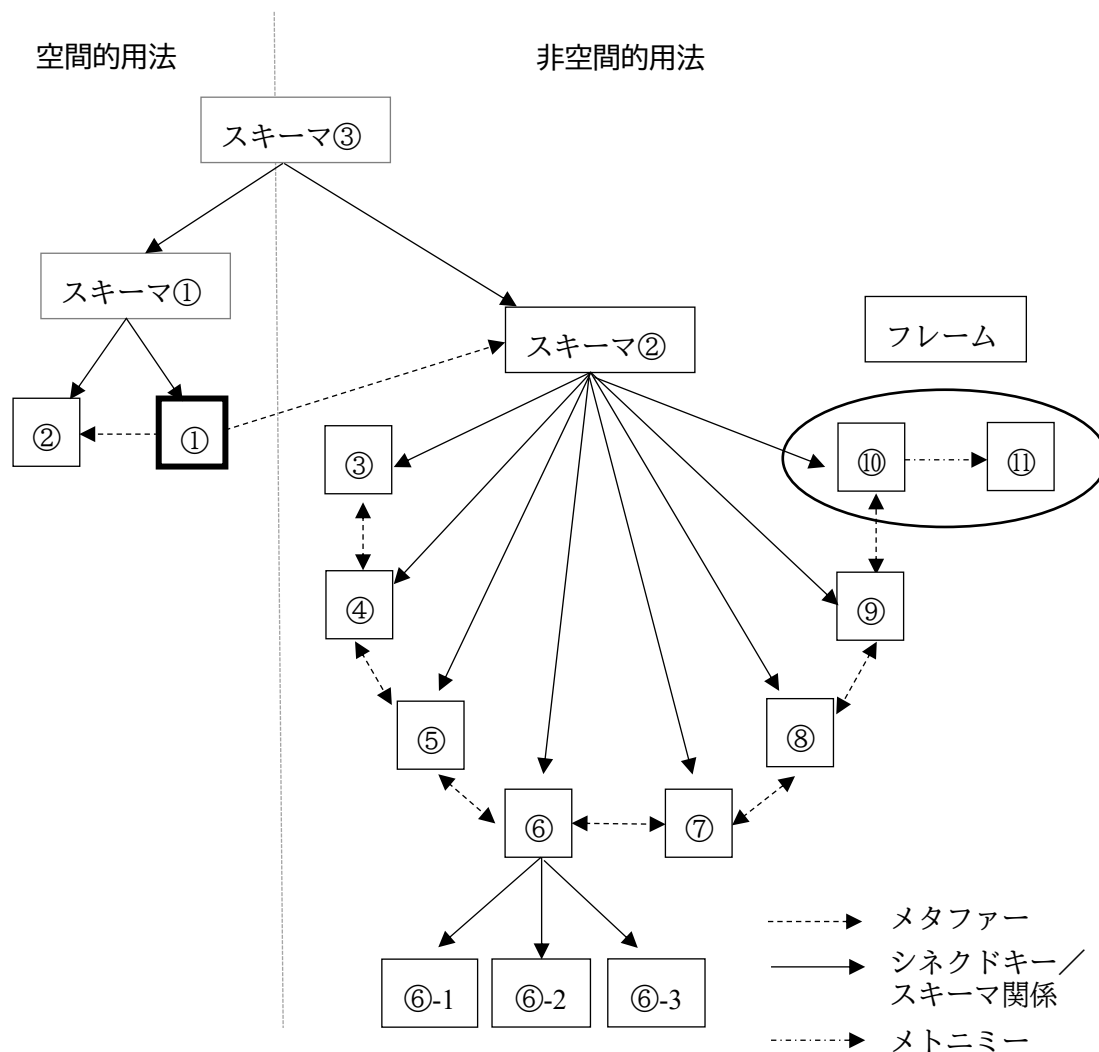


図2 「高い」の多義構造

5.5. 概念メタファーを基盤とした「高い」の意味拡張

「高い」の空間的用法から非空間的用法への意味拡張の基盤は、上下のメタファーの観点から述べられるものも多い。本節では、Lakoff & Johnson (1980: 邦訳 1986)、山梨 (2000)、谷口 (2003, 2006)、鐘・井上 (2013) を踏まえて、「高い」の非空間的用法の意味③~⑩の意味拡張に関して、概念メタファー (上下のメタファー) の観点から考察する。

5.5.1. 先行研究の記述

本節では、概念メタファーについて先行研究の記述を概観する。Lakoff & Johnson (1980) は、「メタファーを「ある概念を別の概念と関連付けることによって、一方を他方で理解する」という認知プロセスとして広く捉え直した」。(靱山・深田 2003) この概念と概念の対応関係は「概念メタファー」と呼ばれ、Lakoff & Johnson (1980) により、次の3種類が提唱された。

- (71) 構造のメタファー (structural metaphor)
- 方向づけのメタファー (orientational metaphor)
- 存在のメタファー (ontological metaphor)

本節では、「高い」の意味拡張に関係する「方向づけのメタファー」について、Lakoff & Johnson (1980: 15-22) を概観する。まず、方向づけのメタファーとして、HAPPY IS UP; SAD IS DOWN¹¹ (楽しきは上、悲しきは下)、MORE IS UP; LESS IS DOWN (より多きは上、より少なきは下) の例を見る。

- (72) a. I'm feeling *up*. (気分は上々だ。)
- b. I *fell* into a depression. (気持ちが落ち込んでしまった。)
- (73) a. My income *rose* last year. (私の収入は昨年上昇 (=増加) した。)
- b. The number of errors he made is incredibly *low*. (彼のおかした間違いの数は信じられないくらい低い (=少ない))

(Lakoff & Johnson 1980: 15-16 (邦訳 19-23))

方向づけのメタファーは、「心理状態・感情・量・支配力・善悪の価値観など、本来は非空間的な経験を「上下」などの位置関係として概念化するもの」(谷口 2003: 20) である。(72)(73)の例が示すように、我々は、本来空間とは関係のないさまざまな経験を「上下」という空間的位置関係で捉えているのである(谷口 2003: 22)。これらの方向づけのメタファーの基盤は、肉体的(物理的)経験や文化的経験である。HAPPY IS UP; SAD IS DOWN の

¹¹ 概念メタファーは、「A IS B」の形式で大文字で記す。

基盤は、「悲しい時や気持ちが沈んでいる時は、うなだれた姿勢になり、元気な時や楽しい時には姿勢がまっすぐになる」という身体経験であり、このような感情と姿勢が同時に起こるという経験から「楽しいことは上」「悲しいことは下」という結びつけが行われる。MORE IS UP; LESS IS DOWN の基盤は、「容器の中に水を注いでいくと水位が上がっていったり、積み重なった本を減らしていくと嵩が下がったりする」という物理的な基盤であり、このような量の増減と嵩の上下が同時に起こるという経験から「量が増えることは上」「量が減ることは下」という結びつけが行われる。

5.5.1.1. 概念メタファーの基盤

第2章では、メタファーは類似性に基づくと定義した。一方、Lakoff & Johnson (1980: 155) は、概念メタファーは経験上の「相互関係」(correlations)に基づいており、この経験間の相互関係には、「経験上の類似性」(experiential similarity)と「経験上の共起性」(experiential cooccurrence)の2つのタイプがあると述べている。前節で取り上げた HAPPY IS UP (楽しきは上)、MORE IS UP (より多きは上)は、「経験上の共起性」の例と言える。つまり、前節で見たように、「楽しい」という心理状態と「上を向く」という姿勢、あるいは「量が増える」ことと「嵩が上がる」ことが同時に起こるという共起性が、HAPPY IS UP や MORE IS UP のような上下のメタファーの上位概念である方向づけのメタファーでは基盤になると考えられる。¹²

また、瀬戸他 (2017: 23-24) は、私たちの寝て起きるような上下に動く身体経験が言葉以前の原初的イメージを作り出し、上下のイメージスキーマとして定着していると述べている。イメージスキーマは、具象的な起点領域から抽象的な目標領域への対応関係を媒介する (瀬戸他 2017: 24) が、「高い」も上下のイメージスキーマに基づき、空間的用法から非空間的用法へとメタファー (上下のメタファー) によって意味が拡張する場合があると考えられる。

5.5.1.2. 上下のメタファーの種類

Lakoff & Johnson (1980) は、英語の場合の上下のメタファーを10組挙げている。以下に、

¹² 「経験上の類似性」の例には、ARGUMENT IS WAR (議論は戦争である)がある。我々は、経験から「ARGUMENT の構造と WAR の構造が類似している」と捉えるように、構造のメタファーは経験上の類似性を基盤にしている。

Lakoff & Johnson (1980: 邦訳 1986) の上下のメタファーとその用例 (抜粋) を挙げる。

(74) **HAPPY IS UP; SAD IS DOWN** (楽しきは上、悲しきは下)

I'm feeling *up*. (気分は上々だ。)

I'm feeling *down*. (気持が沈んでいる。)

(75) **CONSCIOUS IS UP; UNCONSCIOUS IS DOWN** (意識は上、無意識は下)

Get *up*. (起きろ。)

He *fell* asleep. (眠りにおちた。)

(76) **HEALTH AND LIFE ARE UP; SICKNESS AND DEATH ARE DOWN** (健康と生命は上、病気と死は下)

He's in *top* shape. (最高に体調がいい。)

He came *down* with the flu. (流感で倒れた。)

(77) **HAVING CONTROL or FORCE IS UP; BEING SUBJECT TO CONTROL or FORCE IS DOWN** (支配力や力があることは上、支配されたり力に服従することは下)

He's in the *high* command. (彼は高い指揮権をもっている。)

He is *under* my control. (彼は私の支配下にある。)

(78) **MORE IS UP; LESS IS DOWN** (より多きは上、より少なきは下)

My income *rose* last year. (私の収入は昨年上昇 (=増加) した。)

His income *fell* last year. (彼の収入は昨年落ちた。)

(79) **FORESEEABLE FUTURE EVENTS ARE UP (and AHEAD)** (予知できる未来のことは上 (かつ前方))

What's coming *up* this week? (今週はどんなことがもち上るだろうか。)

(80) **HIGH STATUS IS UP; LOW STATUS IS DOWN** (高い位は上、低い位は下)

He's climbing the ladder. (成功へのはしごを登っている。)

He's at the *bottom* of the social hierarchy. (彼は社会階層の底辺にいる。)

(81) **GOOD IS UP; BAD IS DOWN** (よいことは上、悪いことは下)

Things are looking *up*. (景気は上向きつつある。)

Things are at an all-time *low*. (景気は史上最低だ。)

(82) **VIRTUE IS UP; DEPRAVITY IS DOWN** (徳行は上、悪行は下)

He is *high-minded*. (彼は高潔である。)

That would be *beneath* me. (そんなことをすれば私の品位が下がる。)

(83) **RATIONAL IS UP; EMOTIONAL IS DOWN** (理性的であることは上、感情的であることは下)

The discussion *fell to the emotional level*, but I *raised* it back up to the *rational plane*.

(その議論は感情的なレベルに落ちてしまったが、私は再び理性的なレベルに引き上げた。)

((74)~(83) Lakoff & Johnson 1980: 15-17 (邦訳: 19-26))

(74)~(83)の上下のメタファーの英語の用例は、日本語でも問題なく理解できるだろう。つまり、これらの概念は、日本語においても同様であると言うことができる。しかし、概念メタファーは身体経験だけでなく文化的経験にも基づいていることから、文化が異なれば、そのメタファーに相違が生じる場合もある。例えば、谷口(2003:29)は、英語の RATIONAL IS UP; EMOTIONAL IS DOWN が、日本語では、EMOTIONAL IS UP となる事例(「そのニュースを聞いて、舞い上がってしまった」)があることを指摘している。さらに、谷口(2003:28)は、日本語特有の例として「首都(都)を上、それ以外の地方を下とする、方向性のメタファーの表れ」である「おのぼりさん」「上京する」「都落ち」なども挙げている。また、鐘・井上(2013:17)は、「3月上旬」「下半期」など、上下の空間位置の知識が時間領域に写像されるようなメタファーが日本語にはあると述べている。

5.5.1.3. 写像

Lakoff (1987: 269-303) によると、メタファーは、イメージスキーマを基に具象的な「起点領域」(source domain) が抽象的な「目標領域」(target domain) へと写像される。谷口 (2003: 52-54) は、Lakoff (1987) を踏まえ、概念メタファー MORE IS UP; LESS IS DOWN を写像の観点から検討しているが、概念メタファー MORE IS UP; LESS IS DOWN は、起点領域である空間 (垂直方向) から目標領域である量へ「上下」のイメージ・スキーマを介して写像され、また、量の増減と嵩の上下が共起していることが基盤となると述べている。

以上、概念メタファーに関する先行研究を概観した。次節では、「高い」の空間から非空間への意味の拡張について、概念メタファーの観点から考察する。

5.5.2. 概念メタファーを基盤とした考察

本節では、「高い」の空間から非空間への意味の拡張について、概念メタファーの観点から考察する。

まず、「高い」の意味③～意味⑦、意味⑨は、概念メタファー MORE IS UP を基盤としていと考えられる。先行研究で見たように、MORE IS UP は、ものの量が増すに従いその嵩 (高さ) が上がっていくという身体的 (物理的) 経験から、「量が増すこと」と「上」とが関連づけられる。意味③～⑦、⑨では、<金銭><数量><実現を目指す事柄の水準><物事の性質><思いや関心><香り>を<もの>と捉え、起点領域である空間から、目標領域である量へ図3のように写像されると考えられる。そして、これらの量 (程度) が増すとき「高い」と表される。

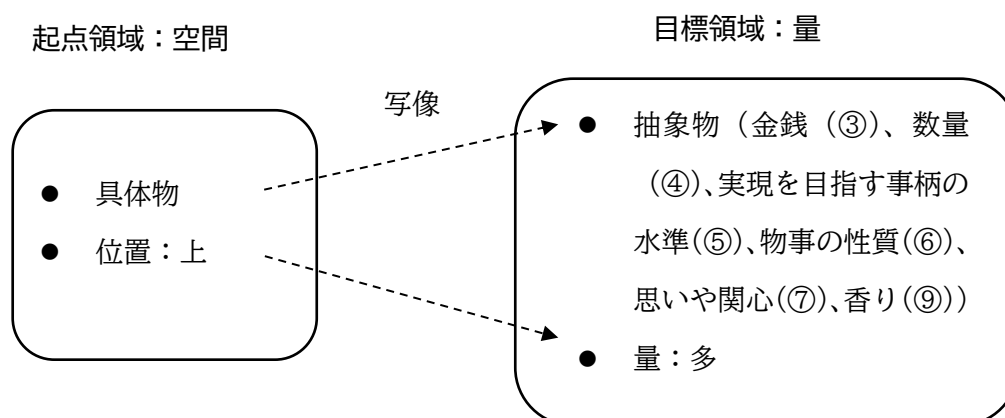


図3 「高い」における概念メタファー MORE IS UP の写像モデル

次に、意味⑧は、概念メタファー-HIGH STATUS IS UP を基盤としていると考えられる。HIGH STATUS IS UP は、HAVING CONTROL or FORCE IS UP¹³を踏まえたものであり、支配力や権力を持つ者は、それだけ地位も高くなるという社会的な基盤である。また、谷口（2003：23）は、王座が一段高いところに設けられたり、城が高い場所に建築されたりするのは、空間的な高さで地位の高さが慣例的に結びついているからであり、これらは HIGH STATUS IS UP というメタファーが顕現していると述べている。意味⑧では、このような社会的な経験上の共起性が基盤となり、「高い」の意味が空間から地位などの立場へ拡張していると言することができる。

続いて、意味⑩は、人が「高い声」を出すとき、喉や胸よりも高い位置にある頭部に声が共鳴しているように感じるという身体経験が基盤になっていると考えられる。山本（2017：287）によると、「高音域の声を出すために頭部に共鳴しているように感じる比率の高い声」を「頭声」と言い、「胸に共鳴していると感じる比率の高い声」（低音域の声）を「胸声」と言う¹⁴。また、岩崎（1997：91）は、高音域と低音域の間の中音域の声に関して「喉声」という用語を示している。人間が立っているとき、胸や喉より頭のほうが位置が高い。この空間的な位置（発声時の共鳴しているように感じる身体部位）の高さと、発声された声の音域の高さが共起することにより、意味⑩は拡張していると言することができる。以上の考察より、意味⑩の基盤として、概念メタファー「音域が高いことは上」を提案する。¹⁵

5.6. おわりに

本章では、形容詞「高い」の意味を分析し、以下の通り 14 の意味と 3 つのスキーマを認定した。

意味①<基点から><垂直上方に向かう><距離が><大きい><さま>
(プロトタイプの意味)

¹³ HAVING CONTROL or FORCE IS UP には、「体が大きく、上背が高ければ、身体的な力が強い」ということ、さらに「闘争して負けたものが倒れて「下」になり、勝利して権力を得たものが「上」になる」というプリミティブなベースがあると考えられる（谷口 2006：78）。

¹⁴ 岩崎（1997：93）は、頭声や胸声について「実際には、生体の振動様式の差によって生じる音色の変化を感覚的に分類したのであり、頭部に響いたり、胸部に響いたりするのではない」と述べている。

¹⁵ 鐘・井上（2013:18）は、「音」の高低に関する概念メタファーとして、「音調が高いことは上」を挙げ、その基盤は「聴覚としての音調の高低と空間感覚としての位置の高低は上下のスキーマ、即ち構造的類似性を共有している」と述べているが、「聴覚としての音調の高低」がなぜ空間位置の高低に写像されるのかについての具体的な説明はない。

意味②<主に鼻・額・頬（頬骨）などの身体部位が><身体部位の周辺から><突出して
いる><程度が><大きい><さま>

意味③<物事の対価としての金銭的な額が><大きい><さま>

意味④<数値や数量に関する程度が><大きい><さま>

意味⑤<実現・達成を目指す事柄の水準の程度が><大きい><さま>

意味⑥<物事に備わっている性質や様相の程度が><大きい><さま>

意味⑥-1<能力や技術が><優れている><さま>

意味⑥-2<（品格など）物事の尊敬に値する性質の程度が><優れている><さま>

意味⑥-3<物事のある特徴的な側面に関して話題として取り上げられる程度が>
<大きい><さま>

意味⑦<人が物事に対して持つ思考や関心の程度が><大きい><さま>

意味⑧<社会的な立場などの序列が><上位である><さま>

意味⑨（主に花や飲食物に関して）<人が好ましく感じるその物特有の香りの程度が><
大きい><さま>

意味⑩<音や声の音域が><上である><さま>

意味⑪（「声が高い」の形で）<周りの注意を引くほど><声の音域が上で><音量が大
きい><さま>

スキーマ①：<基準からある位置までの距離が大きいさま>

スキーマ②：<物事の非空間的な事柄の何らかの側面に関する程度が大きいさま>

スキーマ③：<物事の何らかの程度が大きいさま>

各意味間の相互関係については、まず比喩の観点から各意味間の関連性について考察を行った。空間的用法では、プロトタイプ的意味である意味①から意味②へはメタファーによる拡張であり、スキーマ①を抽出した。非空間的用法では、意味③～意味⑩の表す対象の<程度>は、それぞれ<物事の非空間的な事柄の側面に関する何らかの程度>と一般化できることからスキーマ②を抽出し、スキーマ②と意味③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩はスキーマ関係であるため、各意味間はメタファーによって関連づけられることを述べた。また、スキーマ②は、意味①からのメタファーによる拡張である。

先行研究の整理、検討が必要だと考えられた物事の何らかの性質に関する「高い」についての記述は、意味⑥としてまとめ、<能力や技術>、<（品格など）物事の尊敬に値する性

質>、<物事のある特徴的な側面に関する話題>に関しては特に顕著な意味と考え、それぞれ意味⑥-1、⑥-2、意味⑥-3として意味⑥からシネクドキーにより拡張していると記述した。意味⑪は、意味⑩からのメトニミーによる拡張であり、意味⑩と意味⑪は、「音」のフレーム内に位置づけられる。さらに、スキーマ①とスキーマ②からスキーマ③を抽出し、これら個々の意味の相互関係とその基盤を形容詞「高い」の多義構造として図示した。

次に、概念メタファーの観点から各意味の基盤を考察した。意味③～意味⑦、意味⑨は、概念メタファーMORE IS UPを、意味⑧は、概念メタファーHIGH STATUS IS UPを基盤としていると考えられることを述べた。また、意味⑩の基盤として、概念メタファー「音域が高いことは上」を提案した。

第6章 「遠い」の意味分析

6.1. はじめに

本章では、形容詞「遠い」を取り上げ、その意味および複数の意味間の相互関係を分析、考察する。

本章の概要について述べると、次の2節で「遠い」の意味に関する先行研究を概観し、検討する。3節で「遠い」の意味を分析し、4節で「遠い」の多義構造について記す。最後に5節で、本章のまとめを述べる。

6.2. 先行研究の記述とその検討

本節では、「遠い」の意味に関する先行研究として、『大辞林 第四版』(2019)、国広(1982)、八亀(2015)を取り上げる。

6.2.1. 『大辞林(第四版)』(松村明編 2019: 1938)¹

- ①空間的に、隔たりが大きい。「-・い国」「-・く離れている友」「-・い空」「山頂まではまだまだ-・い」
- ②時間的に隔たりが大きい。「-・い昔のこと」「そう-・くない将来」
- ③なかなかそうならない。その段階に達するにはまだまだである。「完成にはまだ-・い」
「合格には-・い成績」
- ④⑦関係があまりない。「我々の気分とは-・いところにある」
 - ①血縁関係が薄い。「-・い親戚」
 - ②親しくない。疎遠だ。「その後彼とも-・くなくなった」
- ⑤性質や内容が似ていない。似つかわしくない。「ハンサムというには-・い顔だ」
- ⑥⑦(「気がとおくなる」の形で)意識がはっきりしない。また、程度が激しすぎて、意識を失うほどである。「気が-・くなるような大金」
 - ①(「目がとおい」の形で)遠視である。
 - ②聴覚が弱い。また、よく聞こえない。「電話が-・い」「耳が-・い」

¹ 意味⑥は慣用表現と考え、本研究では考察対象としない。

6.2.2. 国広 (1982 : 161-162)

国広 (1982) は、「遠い」について、「AハBカラトオイ。」「トオイトコロヘ行ク。」のような文型で用いられ、二点間の距離が問題になると記述している。さらに、「遠い」は、場所などの対象物そのものに備わった属性ではなく、もう一つの対象物との相関関係であり、(1)(2)のように把握の仕方に方向性（ベクトル）が含まれていると述べている。

(1) AハBカラトオイ。 A←●B

(2) AトBノ間ハチカイ。A●⇔●B

(国広 1982 : 161)

(1)ではBが基準となり、対象Aを把握する。一方、(2)のように、両端が同時に基準となる場合もあるとしている（「遠い」の場合も同様）。

これらから、国広 (1982) は、「遠い」の意義素を(3)のように仮定している。

(3) トオイ : <ふたつの地点の間の長さが、片方の地点を基準として方向性をもって眺めた場合、相関的に標準値より大きい>

さらに、国広 (1982) は、「遠い親戚」のような場合、「遠い」が持っている関係概念に類する意義特徴を部分転用したものと述べている。

6.2.3. 八亀 (2015)

八亀 (2015) は、「遠い」を<関係>²を表す形容詞とみなし、その語彙的な意味を文法的なふるまいを視野に入れながら、距離、時間、関連性、婉曲（遠回しな否定）の順に、具体的な関係を表すものから抽象的な関係を表すものへと記述している。分析の中で、八亀 (2015 : 16-19) は、「遠い」が関連性の隔たり度を表すとき、例(4)のような「遠いこと」や「遠い世界」「遠い話」など被修飾名詞が形式名詞や語彙的意味の漠然とした名詞の場合、「認識が届かない、理解の域を超えている」ことを表すと述べている。また、例(5)のような

² 八亀 (2015 : 12) は、<関係>を表す形容詞述語文について「述語となる形容詞の語彙的な意味に<関係>が含まれており、基本的には複数の項の関係性を述べる文」であり、「AはBに／から／と等 [形容詞]」は、Bとの関連によってAを特徴付けている構文だと述べている。

「A は B にはほど遠い」について、文法化が進んだ形であり、語彙的な意味が薄くなり、遠回しな否定（「ちょっと B とは言えない」、「予想される B とはかけ離れた現実の A」）を表すと述べている。

(4) 教科書や本を読んで知っていた「戦争」ひどいことだと思ってはいたけれど、何か遠いことのように思っていたぼくたち。 (八亀 2015: 18)

(5) 「真相は闇の中だ」不意に湯川がいった。「あれこれと仮説を述べたが、推理と呼ぶには程遠い。所詮、単なる想像にすぎない。(後略)」 (八亀 2015: 19)

6.2.4. 先行研究の記述の検討

以上のように、『大辞林（第四版）』と八亀（2015）では、「遠い」の意味が複数存在するものとして記述されている。国広（1982）は、空間的用法の記述であり、『大辞林（第四版）』の①をより詳細に記述したものと言うことができ、また、空間の意味から親戚関係への意味への転用についての記述は、本研究の主張と変わらないものである。本研究は、これらの先行研究に負うところが大きく、別義の認定結果は『大辞林（第四版）』にほぼ一致するが、個々の意味の記述が十分であるとは言えない。まず、『大辞林（第四版）』の④は、何らかの「関係」についての記述であり3つに下位分類されているが、そのうち、⑦「関係があまりない。」の例として「我々の気分とは遠いところにある」が挙げられている。この例の「ところ」は、八亀（2015）の言う「語彙的意味の漠然とした名詞」だと考えられ、その場合、「遠い」は「認識が届かない、理解の域を超えている」ことを表すと八亀（2015）は述べており、検討が必要だと考える。

また、次の例(6)のような場合、『大辞林（第四版）』の⑤に該当すると考えられるが、内容が「似ていない、似つかわしくない」という記述は適切とは思われず、「差が大きい」のように記述したほうが適切であるため、再度検討する必要があると考える。

(6) 松坂が開幕2連敗...この日は九回途中まで投げ、近鉄打線を4安打2失点に抑えたが、7四死球と本調子には遠い内容だった。

(『朝日新聞』2001年03月31日朝刊 聞蔵IIビジュアル)

これらの検討課題を踏まえ、「遠い」の意味を詳細に分析、考察し、複数の意味間の相互

関係を記述する。

6.3. 意味分析

本研究は、「遠い」の意味を、〈空間〉、〈時間〉、〈関係〉、〈理想・目標〉の観点から6つに分類した。また、分析の最後に、各意味間の相互関係を考察し、多義構造を示す。

6.3.1. 空間的用法

本節では、「遠い」の空間的用法における意味の分析を行う。

6.3.1.1. 意味①〈基点から〉〈目標地点までの〉〈隔たりが〉〈大きい〉〈さま〉³

(7) 遠い山の頂を見ると、おのずから山の稜線（りょうせん）、裾野まで視野に収まる。

（『朝日新聞』2018年10月14日朝刊 聞蔵IIビジュアル）

(8) その惑星は、今現在太陽から最も遠いとされる海王星の約20倍の距離にあり、直径は地球の3倍、質量は地球の10倍程度に計算上なるそうです。

（『朝日新聞』2017年09月30日夕刊 聞蔵IIビジュアル）

(9) ミツバチが餌のある場所を、からだの動きによって仲間に教えることはよく知られている。巣の近くに餌があるときには、ミツバチは円を描いて歩き、餌が遠くにあるときには8の字状に歩く。その際に餌場が巣から遠いほどゆっくりと歩く。

（柳澤桂子『生命の奇跡』 BCCWJ）

例(7)は、話し手のいる場所から山までの隔たりを「遠い」と述べている。「山の稜線、裾野まで視野に収まる」とあるが、山全体を見るためには、話し手はある程度山から離れていないと見ることはできないと考えられる。例(8)は、太陽から海王星までの隔たりを「遠い」と述べている。「太陽から最も遠い」とあるように、他の惑星と比べて、海王星は太陽からの隔たりが大きいと言える。つまり、例(7)(8)の「遠い」は、「話し手のいる場所」「太陽」という基点から「山」「海王星」という場所までの隔たりが大きいさまを表している。例(9)は、ミツバチが巣から餌場まで移動する隔たりが大きいさまを「遠い」と述べている。この場合

³ 本章では、2点間の線的な量を表す語を「隔たり」とするが、これは、『大辞林（第四版）』の「隔たる」（p.2467）に「①二つのものが、場所的または時間的に遠く離れる」とあるように、「離れる」という点を重視しているためである。

の「遠い」は、「巢」という基点から「餌場」という目標地点までの空間的な隔たりが大きいさまを表している。また、例(7)(8)の「山」「海王星」も、基点から眺めた目標地点とすることができる。さらに、例(8)(9)から、基点は「～から」によって示されると言える。よって、例(7)～(9)は、基点から目標地点までの隔たりが大きいさまを「遠い」と表していると言いき、図示すると、図1のように表すことができる。これらの例は、主格が目標地点であることから目標地点に焦点があると考えられる。(このような焦点化された要素を太線の四角で表す。)

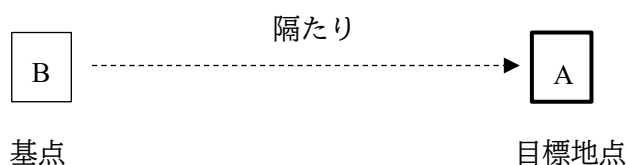


図1 「AはBから遠い」のイメージ

- (10) シンバルが遠くて手が届かないと聞けば、スタンドに斜めにパイプをつなぎ、手元に近付けた。 (『朝日新聞』2000年04月03日朝刊 聞蔵IIビジュアル)
- (11) 日本車は欧米車に比べ、非常点滅灯のスイッチが遠くにある。飛行場のバスも乗り換えがフランスなどに比べて不自由だ。弱者への配慮に欠ける。 (『朝日新聞』1989年07月22日朝刊 聞蔵IIビジュアル)
- (12) 運転手さんの名前を見ようと思いましたが、名札が遠くて見えませんでした。 (『朝日新聞』1995年11月09日朝刊 聞蔵IIビジュアル)

例(10)は、ドラム奏者のいる場所からドラムのシンバルまでの隔たりを、例(11)は、車の運転手からスイッチまでの隔たりを「遠い」と述べている。例(12)は、話し手のいる場所からバスの運転手の名札までの隔たりを「遠い」と述べている。シンバルやスイッチ、名札は、場所ではなく物であるが、手を伸ばすという行為や視線の目標地点とすることができる。よって例(10)～(12)の「遠い」は、例(7)～(9)と同様に、基点から目標地点までの隔たりが大きいさまを「遠い」と表していると言える。

- (13) 22日の始球式に、少年野球の明日香小野球部(明日香村)の投手、奥原秀太君(小6)が登板した。「緊張しています」と話していた秀太君。思い切り投げた直球は、

ワンバウンドして捕手のミットに収まった。投げ終えた秀太君は「キャッチャーまでの距離が遠かったです」。

(『朝日新聞』2018年07月23日朝刊 聞蔵IIビジュアル)

(14) 学校までの道が遠いので歩く練習をしている。

(小学校入学のための準備と対策ガイド | 育児支援サイト すくすく.COM NLT)

例(13)は、少年野球の投手の少年が、高校野球の始球式で球を投げた際の捕手までの距離について「遠い」と述べている。少年が球を投げた位置を基点として捕手(目標地点)までの隔たりが、少年野球の場合と比べて高校野球の場合では大きいさまを「遠い」と表している。例(14)は、小学校入学前の練習として歩いている学校までの道について「遠い」と述べている。この場合、基点は自宅だと考えられ、学校(目標地点)までの隔たりが大きいさまを「遠い」と表している。よって、例(13)(14)の「遠い」は、例(7)~(9)と同様に、基点から目標地点までの隔たりが大きいさまを「遠い」と表していると言える。

例(7)~(12)は、主格が目標地点であることから目標地点に焦点があると考えられるが、例(13)(14)の「距離が遠い」「道が遠い」などの形式は、基点から目標地点までの「距離」「道」、つまり経路に焦点が当たっていると考えられる。

一方、距離や道などの経路の量は、例(15)aのように「長い」でも表される。しかし、「長い」の場合は2点間の「距離」(経路の量)だけに焦点が当たっており、「遠い」(15b)には、2点間の経路の量だけでなく、基点と目標地点が隔たっている(離れている)という意味も含まれていると考えられる。

(15) a. 道路から玄関までの距離が長い I 邸。 (『エクステリア&ガーデン』 BCCWJ)

b. 道路から玄関までの距離が遠い I 邸。

例(7)~(15)の分析から、「遠い」の意味は、その構成要素として「基点」、「目標地点」、「隔たり」の3つが考えられ、焦点化される要素の違いにより、次の二種類にまとめられる。

(16) a. [目標地点] を焦点化：遠い (山、海王星、シンバル、...)

b. [隔たり] を焦点化：遠い (距離、道)

(16)のように、例(7)~(14)の「遠い」は、その構成要素「目標地点」、「隔たり」の2つのいずれかに焦点が当たっていると言える。

続いて、次の例を見てみよう。

(17) こんなことが、どこの村でも繰り返された。イライラが募った。やがて、「ここはソロモンなんだ」と、割り切れるようになった。こうして50-60の村を回った。教えた通り彼らが魚をとったとして、どうやって売りさばく。島と島の間は遠い。カヌーで1日かかるところもザラだ。

(『朝日新聞』1990年01月01日朝刊 聞蔵IIビジュアル)

(18) ところが途中で寝てしまい終点駅まで行ってしまった。降りるべき駅から、二つ先の駅だ。もちろん、もう戻る汽車はない。タクシーなんぞない時代だ。歩いて帰るしかなかった。二駅とはいっても、田舎の駅の間はけっこう遠い。父は街灯もない山道やたんぼ道を月明かりだけをたよりにフラフラと歩いて帰った。たぶん2時間も歩いて、やっと我が町の入り口までたどり着いた。 (NLT)

例(17)は、島と島の間隔が大きいさまを「遠い」と表している。例(18)は、田舎の駅の間、つまり田舎の駅と駅の間隔が大きいさまを「遠い」と表しているが、この場合、父が乗っていた汽車の駅ではなく、一般的な田舎の駅の間隔を述べていると考えられる。例(17)(18)の「島と島」「駅と駅」は、基点と目標地点が定まっておらず、2つの場所の間の空間的な隔たりの量にのみ焦点が当たっているように見える。しかし、次の例(19)を見てみよう。

(19) しかし、スリット光投影法を用いた計測においては、対象物が屋外であることが多いために太陽光による外乱があったり、対象物の表面条件、カメラと対象物の間が遠い等の理由により、巨大対象物上に投影したスリット光を判別することが困難であることが多い。 (「大型対象物の3次元形状計測」 NLT)

例(19)は、カメラと対象物の間隔が大きいさまを「遠い」と表している。例(19)も、カメラと対象物のどちらも基点とすることができるが、語順から「カメラから対象物までの間」、つまり「カメラ」が基点、「対象物」が目標地点と捉えるほうが自然である。よって、

例(17)(18)の「島と島の間」「駅の間」のように同語で表される場合も、具体的な方向は定まっていないが、一方（基点）からもう一方（目標地点）までが隔たっているという意味特徴は消え去っておらず背景化されていると考えることができる。これを図示すると、図2のようになる。

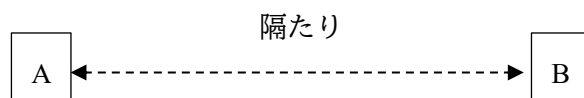


図2 「AとBの間は遠い」のイメージ

以上から、「遠い」の意味①は、<基点から><目標地点までの><隔たりが><大きい><さま>と記すことができる。

6.3.1.2. 「遠い」の基点

ここで、「遠い」の基点について確認する。「遠い」の基点は、例(8)(9)「太陽から」「巣から」のように助詞「～から」を伴って文中に明示されている場合と、例(7)のように明示されていない場合がある。本多（2016：50）は、「～から」が明示されていない場合には、デフォルトで「話者(知覚・行為者)の現在地から」と解釈されるとしている。例えば、例(7)の基点は「話者の現在地」だと考えられる。しかし、例(14)の場合、基点は「自宅」と考えられるが、話者がこの文を発したとき自宅にいらなくても例(14)の文は成立する。「自宅」は自分に関係する領域と考えられ、従って、基点が文に現れていない場合、話者の現在地や自宅など、文脈から判断される話者に関係する領域が基点となると考えられる⁴。

6.3.2. 非空間的用法

本節では、「遠い」の非空間的用法における意味の分析を行う。

6.3.2.1. 意味②<話題の時点が基準となる時点から隔たっている程度が><大きい>

<さま>

⁴ 八亀（2015）は、「遠い」の文で「～から」が省略された場合は、話し手のダイクティック・センターからの空間的隔たりを述べると指摘している。

(20) ネアンデルタール人は、約40万～30万年まえに出現し、3万年ほどまえに地球上から姿を消した。我々現生人類とも、「ご近所さん」として暮らしていた時期がある。(中略) 現生人類とのあいだで恋が芽生えるような、平和的關係であったのならいいのだがと、遠い過去へと思いを馳(は)せた。

(『朝日新聞』2015年08月23日朝刊 聞蔵IIビジュアル)

(21) 弥勒菩薩は現在、兜率天にいますが、五十六億七千万年という遠い未来に地上に現われ、釈尊亡き後の衆生を救済してくれるという未来仏である。

(小林恵子『白虎と青竜』 BCCWJ)

例(20)では、ネアンデルタール人が現生人類と共存していた3万年以上前の時代について、現在からの時間的な隔たりが大きいさまを「遠い」と表している。例(21)は、弥勒菩薩が釈迦の入滅から五十六億七千万年後に地上に現れることについて「遠い未来」と述べている。五十六億七千万年は時間的な隔たりが大きく、そのさまを「遠い」と表している。また例(20)(21)から、「遠い」は、現在からの時間的な隔たりに関して、過去についても未来についても表せることがわかる。

(22) いつの間にか、時刻は午前二時半を過ぎていた。しかし、まだ夜明けは遠い。

(愛川晶『網にかかった悪夢』 BCCWJ)

(23) 立春の日、夕方からの猛吹雪。あっという間に30センチの積雪。夜中から朝にさらに20センチ。(中略) 春は遠い。

(『朝日新聞』2018年02月20日朝刊 聞蔵IIビジュアル)

例(22)では、午前二時半過ぎから夜明けまでの時間的な隔たりが大きいことを「遠い」と表している。例(23)では、雪が降るような季節である立春の日から3～4月のような暖かい季節の春までは、時間的に隔たりが大きいことを「遠い」と表している。例(20)(21)では「遠い」は数万年以上の隔たりを表しているが、例(22)(23)は数時間、数か月の隔たりであることから、意味②では話題の時点に関し、話し手が何らかの基準と比較して、相対的に時間的な隔たりが大きいと感じる場合に「遠い」が用いられると言える。

次の例を見てみよう。

(24) 朝の日差しが、少しずつ明るくなってきている。とは言っても、窓の外には雪深い
厳冬の富士の姿が広がっており、春はまだ遠い（先だ）。

（『朝日新聞』2000年02月17日朝刊 聞蔵Ⅱビジュアル）

(25) 四日は立春。暦の上では春を迎えたが、県内は厳冬期の気温。春はまだ先だ（遠い）。

（『朝日新聞』1998年02月05日朝刊 聞蔵Ⅱビジュアル）

例(24)の「遠い」を「先だ」に、例(25)の「先だ」を「遠い」に置き換えても、文脈はほとんど変わらないが、例(25)「先だ」は春の時点に焦点が当たっているのに対して、例(24)「遠い」は春の時点だけでなく、発話時点（基準となる時点）から春の時点までの隔たり（経過）も活性化されると考えられる。（図3）

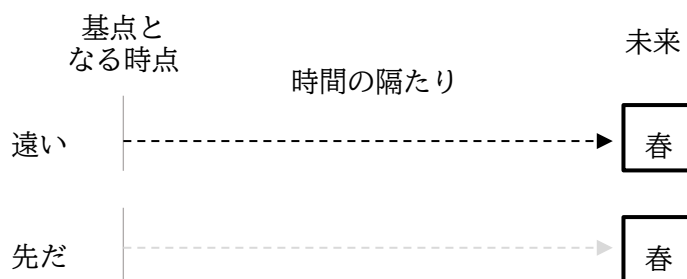


図3 時間を表す「遠い」と「先だ」のイメージ

以上から、「遠い」の意味②は、＜話題の時点が基準となる時点から隔たっている程度が＞＜大きい＞＜さま＞と記すことができる。

6.3.2.2. 意味③＜複数の人間、事物、事柄の間の関わりの乏しさの程度が＞＜大きい＞ ＜さま＞

(26) このブログでも書いてたように、年に数回ある、都内のホテルはどこも満室な特異日。友人の友人のような遠い知り合いからも「部屋ありませんかね？」ってTELがあるくらい混んでる日でした。

（http://www.p-zem.co.jp/owner_blog/2007/10/）2019.01.10 検索

(27) 「日米欧の協調体制」がブッシュ政権で強調されるが、実情は「まだ『日欧』は薄く、その中でも『日独』は『日英』よりも遠い関係」（外務省筋）という。日独外相

定期協議はキャンセル続きで、もう5年も開かれていない。

(『朝日新聞』1991年03月07日朝刊 聞蔵IIビジュアル)

例(26)は、人間関係について「遠い」と述べている。「友人の友人のような知り合い」は、普段話し手はその知り合いと直接接することがなく、関わりが乏しいさまを「遠い」と表している。例(27)は、「国家」という組織の関係について「遠い」と述べている。日本とドイツは外相定期協議が5年も開かれていないように、両国は交流が少なく、外交における関わりが乏しいさまを「遠い」と表している。よって、例(26)(27)の「高い」は、人間や組織間の接点が多く、関わりが乏しいさまを表していると言うことができる。

(28) 拓殖大学は、「世界に一番近い大学」ということで、国際屋台村に興味をもち、タイ料理を食べました。海外の専門料理など、中々食べる機会がなく遠い存在でしたが、屋台村では身近に食することができ、とても良い経験になりました。

(https://takushoku-alumni.jp/20131129_1914) 2019.02.01 検索

(29) もちろん、「アスベスト」という言葉は知っていましたが、ある程度の知識もありました。しかし、自分からは遠い問題だと思っていました。記事を読み「普通の人」にも発症リスクがあるということを知り、問題の深刻さが認識できました。

(『週刊朝日』2018年03月30日 聞蔵IIビジュアル)

(30) 山田先生が「命の授業」を始めたのは、自身が乳がんになった後の02年にさかのぼる。人脈をたどりホスピスの患者やハンセン病だった人の話を聞かせた。(中略)だが、がんを患う自分と異なり、10代前半の生徒にとって死は遠い。裏返しの生も薄い。家族や友達と助け合う実感も希薄だ。

(『朝日新聞』2007年01月07日朝刊 聞蔵IIビジュアル)

例(28)は、海外の専門料理の存在を「遠い」と述べている。「中々食べる機会がない」とあるように、話し手は海外の専門料理と接することがあまりなく、関わりが乏しいさまを「遠い」と表している。例(29)は、アスベストの問題について「遠い」と述べている。話し手は、仕事などでアスベストを扱う経験がなく、アスベストの問題と関わりが乏しいさまを「遠い」と表している。例(30)は、10代前半の生徒にとっての死を「遠い」と述べている。10代前半で健康な生徒たちが死を身近に感じることは少なく、自分たちとは関係がないものと捉え

ているさまを「遠い」と表していると考えられる。八亀(2015)は、「遠いこと」や「遠い世界」など被修飾名詞が形式名詞や語彙的意味の漠然とした名詞の場合、「認識が届かない、理解の域を超えている」ことを表すと述べているが、これは人間が物事と接することが少ない結果、それらに対して認識が届かなかったり理解が及ばなかつたりするというメトニミ一的な拡張による意味と言うことができる。しかし、例(28)~(30)の「存在」「問題」「死」は語彙的意味の漠然とした名詞に相当するが、「海外の料理を中々食べる機会がない」「自分からは遠い」「がんを患う自分と異なり生徒には死は遠い」とあるように、対象と接する機会の多さや身近に感じるかなどの対象との関係性の乏しさにより焦点が当たっていると考えられる。よって、例(28)~(30)の「高い」は、人間と物事との接点が少なく、関わりが乏しいさまを表していると言うことができ、目標に焦点が当たっていると考えられる。(図4)

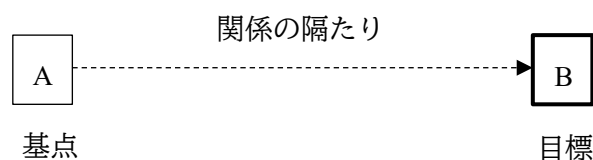


図4 関係を表す「遠い」のイメージ

以上から、「遠い」の意味③は、<複数の人間、事物、事柄の間の関わり<の乏しさの程度が><大きい><さま>と記すことができる。

6.3.2.3. 意味③-1 (主に親族関係に関して) <二者間の系統的なつながりの隔たりの程度が><大きい><さま>

(31) 「茶太郎婆ちゃんとはどういう関係になるんだ?」「婆ちゃんは、お父さんのお爺ちゃんの家、兄弟とか従兄弟とか、よくわかんないけど遠い親戚になるんだって。

(川上健一『翼はいつまでも』 BCCWJ)

(32) 彼は、私の大親友であり、実は遠い親戚でもある。 (作例)

例(31)は、話し手は自分の父親(あるいは父方)の祖父の兄弟かといこのような関係であるおばあさんについて「遠い」親戚と述べている。おばあさんと話し手は親戚であるが、「よくわかんない」とあるようにその関係は、話し手自身のおじやいとこなどのように系統的に

すぐに迎える親戚関係ではない。また、例(32)のように、遠い親戚であっても親友という親しい間柄である場合もあるため、二者間の親密さの有無や接点の少なさは注目されない。

(33) 馬子は、自分達の遠い祖先は大陸の騎馬民族であり、宗族の長が亡くなると弟が兄の妻を嫁にする風習だった、と話したことがある。

(黒岩重吾『聖徳太子』 BCCWJ)

(34) 皆既日食はこれからも、計算された時刻と場所で起きる。たとえば東京で見ると、2762年だ。そのときの日本、人類、そして地球はどうなっているだろう。遠い遠い子孫たちは、私たちと同じように皆既日食を楽しむだろうか。

(『朝日新聞』2009年07月19日朝刊 聞蔵IIビジュアル)

例(33)では、馬子は、自分の過去の親族について「遠い祖先」と述べている。例(34)は、話し手が2762年という未来の日本人や人類を広く子孫と捉え、「遠い遠い子孫」と述べている。例(33)(34)は、主体が過去や未来の親族について、系統的なつながりはあるがそのつながりを容易に迎えることができないほど隔たりが大きいさまを「遠い」と表している。また、例(31)～(34)は、目標に焦点が当たっていると考えられ、図5のように示される。

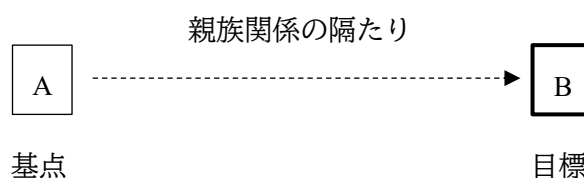


図5 親族関係を表す「遠い」のイメージ

以上のように、例(31)～(34)の「遠い」は、二者間の関わりの中でも主に親族関係のような系統的なつながりに関するもので、親密さや接点は注目されないという点から、意味③-1<二者間の系統的なつながりの隔たりの程度が><大きい><さま>と記すことができる³。

³ 「花や葉などの形をもとに分類する従来の考え方を大きく改めるもので、類縁関係は遠いのに外形が似ている「他人の空似」を避けられる利点がある。」(『朝日新聞』2010年03月02日朝刊 聞蔵IIビジュアル)のように人間関係ではなく、ある植物(もの)同士の系統的なつながりの隔たりが大きいさまも「遠い」と表すことができる。

6.3.2.4. 意味④ <ある時点の物事の状態と望ましい状態あるいは理想・目標との間の差の程度が> <大きい> <さま>

(35) 松坂が開幕2連敗。この日は九回途中まで投げ、近鉄打線を4安打2失点に抑えたが、7四死球と本調子には遠い内容だった。 (= (6))

(36) 県立大学へ入学後の2013年8月、夏休みを利用して友人と被災地へ向かった。土台だけの家の跡地、津波でひん曲がったガードレール、見渡す限りの海辺の雑草地……。復興から遠い現実が、はっきりとそこにあった。

(『朝日新聞』2016年03月09日朝刊 聞蔵IIビジュアル)

(37) 五輪でソフトボールと野球が実施される福島市。競技会場近くにある土湯温泉の温泉街は新型コロナの影響で客が大きく減り、お祭りムードとはほど遠い。

(『朝日新聞』2021年02月19日朝刊 聞蔵IIビジュアル)

例(35)は、松坂投手の投球内容について、本来の調子のいい時との差が大きいことを「遠い」と表している。例(36)は、震災から2年以上たった現在でも、被災地は被害を受けた状態からあまり変化がなく、復興という目標との差が大きいことを「遠い」と表している。例(37)の「遠い」は、五輪の競技会場のある福島市の現状と、お祭りムードと言える状況との差が大きいさまを表している。例(35)~(37)は、ある時点での状態と望ましい状態等との差の程度に焦点が当たっていると考えられ、図6のように示される。

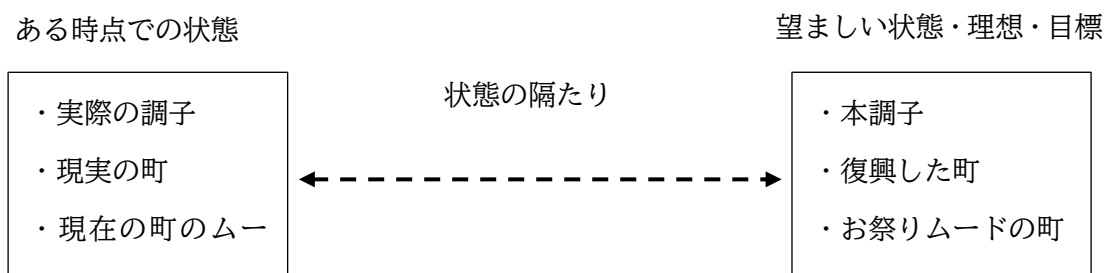


図6 状態の隔たりを表す「遠い」のイメージ

以上から、「遠い」の意味④は、<ある時点の物事の状態と望ましい状態あるいは理想・目標との間の差の程度が> <大きい> <さま>と記することができる。

6.3.2.5. 意味⑤<物事の望ましい状態の達成・実現が容易でない><さま>

(38) 佐藤はこの対局に通算1千勝がかかる。控室には各社の将棋担当記者が詰めかけていた。今年に入って11連勝し、NHK杯優勝などの実績を上げたが、その後に6連敗している。あと1勝が遠い。

(『朝日新聞』2017年08月13日朝刊 聞蔵IIビジュアル)

(39) 橋本首相とモンデール駐日大使の間に普天間基地の返還が合意されてから二十年になる。しかし、基地は危険を承知で運用が続いており、この先も返還の実現は遠い。

理由の第一は引っ越しのついでに大きな便利な基地をとというアメリカ側の強欲。第二はこれに迎合する日本政府の卑屈な姿勢。揉(も)み手で「アメリカさまの仰(おっしゃ)ること」と言わんばかり。第三に代替地として名乗りをあげる自治体が本土(日本国から沖縄県を除いた一都一道二府四十二県)にないこと。

(『朝日新聞』2016年07月06日夕刊 聞蔵IIビジュアル)

(40) 「ルワンダ難民の問題が注目されたが、アフリカの悲惨さはそれにとどまらない」という根岸さんは、紛争が泥沼化する原因の一つに、「先進国が自分の利益のために武器を売ること」を指摘した。「先進国がいくら経済的に援助をしても、武器をアフリカに送る限り、平和は遠いように思います」

(『朝日新聞』1995年06月30日朝刊 聞蔵IIビジュアル)

例(38)は、棋士の佐藤が999勝の後6連敗しており、1千勝となる1勝を達成することが容易でないさまを「遠い」と表している。例(39)は、アメリカから日本への基地返還の実現について、返還の合意がされてから20年になるが、今も運用が続いており、今後も複数の理由で返還の実現が容易でないさまを「遠い」と表している。例(40)は、アフリカで紛争が泥沼化していて、アフリカが平和になることが容易でないさまを「遠い」と表している。例(38)~(40)は、「あと1勝すること」「基地の返還」「平和になること」という望ましい状態に焦点が当たっていると考えられ、図7のように示される。「あと1勝すること」「基地の返還」「平和になること」は、過去に実現や達成が望まれたが、現状は未遂であり、その望ましい状態になるのは容易でないと言うことができる。

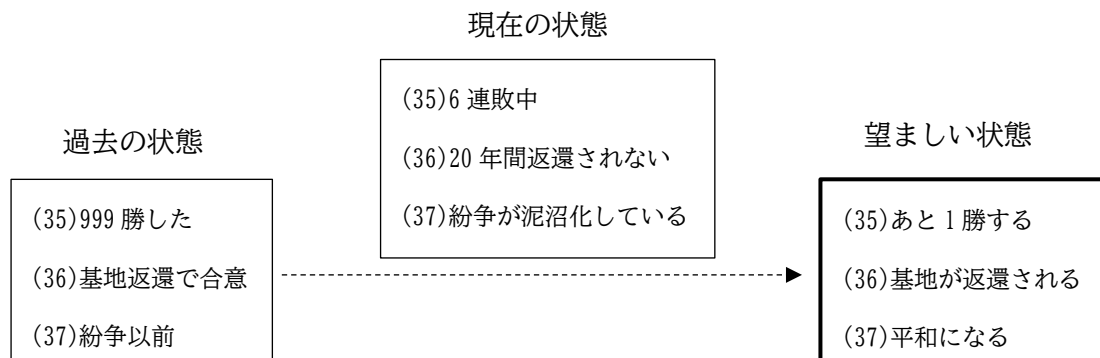


図7 望ましい状態の達成の困難さを表す「遠い」のイメージ

以上から、「遠い」の意味⑤は、＜物事の望ましい状態の達成・実現が容易でない＞＜さまま＞と記すことができる。

6.4. 「遠い」の多義構造

本節では、これまでの分析を踏まえ、糸山（2001 など）が多義語分析の課題として提案している4つの課題のうち、「プロトタイプの意味の認定」「複数の意味の相互関係の明示」「複数の意味すべてを統括するモデル・枠組みの解明」の3つの課題について検討する。以下に、意味①～⑤を再掲する。

意味①＜基点から＞＜目標地点までの＞＜隔たりが＞＜大きい＞＜さまま＞

意味②＜話題の時点が基準となる時点から隔たっている程度が＞＜大きい＞＜さまま＞

意味③＜複数の人間、事物、事柄の間の関わりの乏しさの程度が＞＜大きい＞＜さまま＞

意味③-1（主に親族関係に関して）＜二者間の系統的なつながりの隔たりの程度が＞＜大きい＞＜さまま＞

意味④＜ある時点の物事の状態と望ましい状態あるいは理想・目標との間の差の程度が＞＜大きい＞＜さまま＞

意味⑤＜物事の望ましい状態の達成・実現が容易でない＞＜さまま＞

6.4.1. プロトタイプの意味の認定

「遠い」の空間的用法における意味は、意味①＜基点から＞＜目標地点までの＞＜隔たりが＞＜大きい＞＜さまま＞だけである。本節では、プロトタイプの意味の認定のため、「遠い」

の複数の意味に関して、名詞化された「遠く」における使用頻度について考察し、意味①がプロトタイプの意味とすることができるか確認する。

6.4.1.1. 名詞化された「遠く」における制約の考察

「遠い」の連用形「遠く」は、名詞的に使われることがあり、この場合「遠く」は、「遠いところ」を意味する。粉山（1995：629-631）は、名詞化された「遠く」が「空間」の意味は表せるが、「時間」の意味は表せないことから、「遠い」のプロトタイプの意味は「空間」だと認定している。しかし、本研究では「遠い」の意味を「空間」（意味①）、「時間」（意味②）以外に4つ認めていることから、その他の意味についても確認する必要があると考える。本節では、「現代日本語書き言葉均衡コーパス（BCCWJ）」で「遠くのN（名詞）」を検索し、用例における「遠く」の意味が意味①～⑤のどの意味で用いられているか考察する。

- (41) 「すばる」などによって遠くの宇宙の観測が進むと、新たにどんなイベントが発見されるかと、ワクワクする思いである。（意味①）
- (42) 時計台のチャイムが三つ打つ合間に、校庭でプレイをしているクロッキーの球の音や、遠くの競技場の大スタンドからおこるかすかな喝采がジェフリーの耳に届いた。（意味①）
- (43) おそらくあまりに遠くの先まで見越し、深謀遠慮が行き過ぎになるのだろう。（意味②）
- (44) （司法制度について）身近でなきゃいけないものが遠くのものになってしまったんですね。（意味③）
- (45) 縁者をいろいろ探した末に、家系図のかなり遠くの枝にあたる従姉妹のクムバに、祖母はわたしをあずけた。（意味③-1）

((41)～(45) BCCWJ)

BCCWJでは「遠くのN」は434例得られたが、ランダムサンプリングで100例を分析したところ、例(41)(42)のように意味①と考えられる例は97あり、意味②が1つ（例(43)）、意味③が1つ（例(44)）、意味③-1が1つ（例(45)）あり、意味④と意味⑤と考えられる用例はなかった。つまり、名詞的に用いられる「遠く」の意味の多くは意味①である。プロトタイプの意味は、最も基本的で慣習化の程度・認知的際だちが高い意味と考えられるが、慣習化

の程度の高さは、用例数の多さに現れる場合もあると考えられる。従って、以上の結果から意味①を「遠い」のプロトタイプの意味と認定する。

6.4.2. 複数の意味の相互関係と多義構造

本節では、これまでの分析を踏まえ、「遠い」の複数の意味の相互関係について記す。

意味①は、空間的用法であり、プロトタイプの意味である。意味②～意味⑤は、非空間的用法である。意味②は、意味①の<基点から目標地点までの隔たり>が<基準となる時点から話題の時点までの隔たり>となり、<隔たっている程度が大きい>さまが類似していることに基づき、メタファーにより物理的空間から時間という抽象的な概念へ拡張している。同様に、意味③④はそれぞれ、<複数の人間、事物、事柄の間の関係>、<ある時点の物事の状態と望ましい状態あるいは理想・目標>が、意味①<基点と目標地点>と対応し、これらの<隔たっている程度が大きい>さまが類似していることに基づくメタファーによる物理的空間から抽象的な概念（物事の関係、状態）への拡張である。意味③-1は、意味③<複数の人間、事物、事柄の間の関係>がより個別的な意味<二者間の系統的なつながり>となったシネクドキーによる拡張である。

意味⑤は、意味④<ある時点の物事の状態が望ましい状態あるいは理想・目標と差が大きい>場合、<望ましい状態の実現が容易でない>ことがあると考えられる。現状と望ましい状態の差が大きいことが原因で、望ましい状態の実現が容易でないということは、我々の経験から容易に考えられることであり、従って意味⑤は、意味④との因果関係を基盤としたメトニミーによる拡張である⁵。また、意味④と意味⑤の基盤を成すフレームとして「理想・目標」のフレームが考えられる。このフレームは、「ある時点の状態と理想・目標の状態の隔たり」とその「過程」を構成要素とし、意味④は「ある時点の状態と理想・目標の状態との隔たり」に焦点が当たり、意味⑤はその「過程」に焦点が当たっていると言することができる。

さらに、意味②～④は、それぞれ意味①とメタファー関係であることから、意味①と意味

⁵ 本多（2016：54-55）は、行為と準拠枠（“reference frame”ないし“frame of reference”）の観点から、空間的用法の「遠い」の判断基準は、空間的な距離自体ではなく、移動を行う際に知覚・行為者が感じる困難・負荷・不可能性であり、「おむつ卒業は遠い」などのように出来事の場合も、「遠い」は実行の困難さ・可能性の低さないし実現までに必要になる負荷の大きさを表すと述べている。つまり、空間的用法の「遠い」と出来事の「遠い」は、知覚・行為者が感じる困難・負荷・不可能性という点が類似していると言え、本多（2016）の観点に立つと、本研究の意味⑤は、意味①からのメタファーによる拡張と言することができる。

②～④からは、以下のようなスキーマが抽出できる。

スキーマ：＜2点間の隔たりが大きいさま＞

以上の考察から、「遠い」の多義構造は図8のように記すことができる。なお、太線の四角はプロトタイプの意味を表し、楕円は「理想・目標」のフレームを表す。

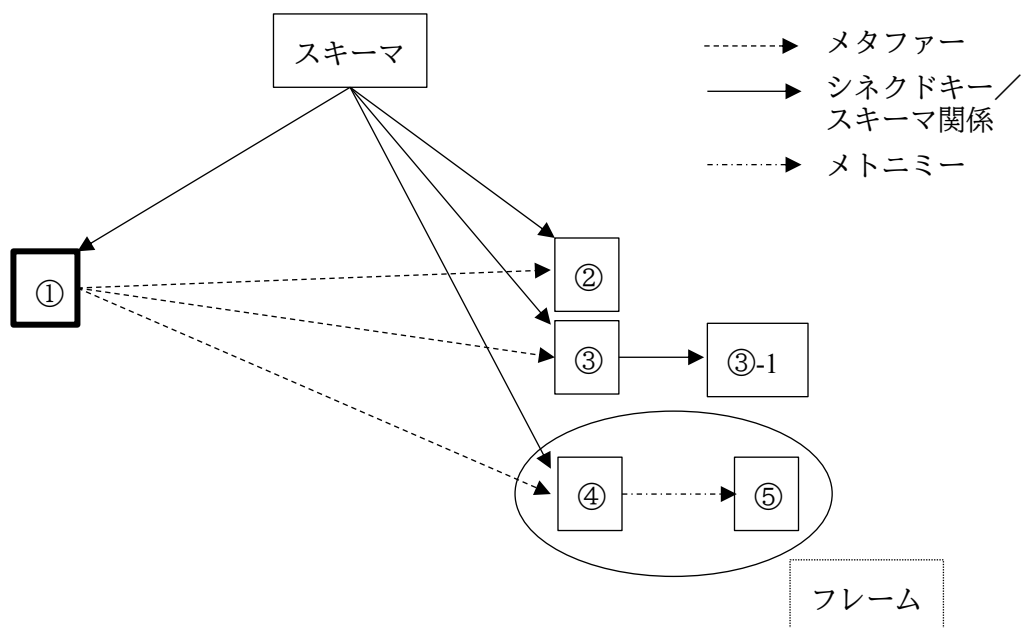


図8 「遠い」の多義構造

6.5. おわりに

本章では、「遠い」の意味を分析した。まず、以下の通り6つの意味とスキーマを1つ認定した。

意味①＜基点から＞＜目標地点までの＞＜隔たりが＞＜大きい＞＜さま＞

(プロトタイプの意味)

意味②＜話題の時点が基準となる時点から隔たっている程度が＞＜大きい＞＜さま＞

意味③＜複数の人間、事物、事柄の間の関わりの乏しさの程度が＞＜大きい＞＜さま＞

意味③-1 (主に親族関係に関して) ＜二者間の系統的なつながりの隔たりの程度が＞＜大きい＞＜さま＞

意味④<ある時点の物事の状態と望ましい状態あるいは理想・目標との間の差の
程度が><大きい><さま>

意味⑤<物事の望ましい状態の達成・実現が容易でない><さま>

スキーマ：<2点間の隔たりが大きいさま>

意味①は、空間的用法であり、意味②～⑤は、非空間的用法である。意味①～⑤の各意味間の相互関係として、意味①をプロトタイプ的意味と認定し、意味①から意味②～④がそれぞれメタファーにより拡張していること、意味③-1 が意味③からシネクドキーにより拡張していることを示し、意味①～④からスキーマを抽出した。また、意味⑤が意味④からメトニミーにより拡張していることを示し、意味④⑤の関係が「理想・目標」のフレーム内に位置づけられることを述べた。先行研究の検討すべき点として挙げた『大辞林（第四版）』④⑦「関係があまりない。」とそれに対応する八亀（2015）の「認識が届かない、理解の域を超えている」という意味については、両者は因果関係によるメトニミー的な拡張関係であるが、用例の検討から「関係性」により焦点が当たっていると考えられることを述べた。最後に、これら個々の意味の相互関係とその基盤を形容詞「遠い」の多義構造として図示した。

第7章 「広い」の意味分析

7.1. はじめに

本章では、形容詞「広い」を取り上げ、その意味および複数の意味間の相互関係を分析、考察する。

本章の概要について述べると、次の2節で「広い」の意味に関する先行研究を概観し、検討する。3節で「広い」の意味を分析し、4節で「広い」の多義構造について記す。最後に5節で、本章のまとめを述べる。

7.2. 先行研究の記述とその検討

本節では「広い」の意味に関する先行研究として、『大辞林(第四版)』(2019)、西尾(1972)、飛田・浅田(1991)、小出(2000)を取り上げる。

7.2.1. 『大辞林(第四版)』(松村明編 2019: 2342)

- ①面積が大きい。「一・い庭」「運動場を一・くする」
- ②幅が大きい。幅が長い。「一・い道」「道幅を一・くする」「一・い胸」
- ③大きくひらけている。遠くまで見渡せる。「一・い眺望」「視界が一・い」
- ④遠くまでゆきわたっている。至る範囲が大きい。「交際が一・い」「一・い知識」「顔が一・い」「一・く知られている」
- ⑤小さなことにこせこせせず、心がゆったりしている。「心の一・い人」
- ⑥数が多い。「家一・き人にぞおはしける／竹取」¹

7.2.2. 西尾(1972: 70-78、233-235)

西尾(1972)では、「広い」は、「野原・運動場・庭・土俵・水面など」の2次元の量を表すことが多いが、1次元の量や、3次元の量も表すと記述されている。「広い道」などは、道幅という1次元の量を表す場合が多いが、道幅が広くなれば当然面積も広がるので2次元の量である可能性もあり、同様に「広い部屋」は、部屋の面積という2次元の量を表す場合と、面積が広ければ部屋全体の容積もそれに応じて広がるので、3次元の量とみられる

¹ 「⑥数が多い」は、現代語の意味にはないと判断し、考察対象としない。

場合もあると述べている。

「広い」が使われる対象の傾向としては、「2次元の量を表す場合、絶対的な大きさがある程度以上必要である」²、「およそ水平的な面について使われることが多いが、傾斜面にも使われる」、「1次元の量を表す場合、人に対して左右にひろがる方向や、細長いものの短い辺の長さを表す」と記述している。

さらに、「広い」が2次元、3次元の量を表す場合は、単に客観的な量の大小を表すだけでなく、「収容性」³という性質を持ち、「広い」は、人間の目的・関心から見た空間的な量の大小であると説明している。さらに、抽象化した表現「視野の広い人」「心が広い」なども「中に多くを容れうる」「包容性が大きい」という要素を持ち「収容性」を含んでいるとしている。

7.2.3. 飛田・浅田 (1991 : 483-484)

飛田・浅田 (1991) は、「広い」の意味を大きく 2 つに分け、次のように記述している。

ひろい〔広い〕

①空間的に面積が大きい様子を表す。

「揚子江は対岸が見えないほどひろい。」「たまには子供をひろい野原で遊ばせたい。」

②①の比喩的な用法。抽象的な空間が大きく、余裕がある様子を表す。

「この二つの単語はひろい意味では同義語と言える。」「彼女は心のひろい人だ。」

飛田・浅田 (1991) は、①について「細長いものの幅が大きい場合」「全体としての空間の面積が大きい場合」「空間的に遠くまで続いている場合」があると記している。また「広い」は、物理的・抽象的空間の面積が大きいことを、中に入るべきものやそのものの平均的な大きさとの相対的な関係において客観的に述べる語であると記述している。

7.2.4. 小出 (2000)

小出 (2000 : 5-6) は、空間的用法における「広い」は面的な広がりを持つものを対象とす

² 例えば、皿や鏡などには使われにくく、スクリーン、壁などには使われる。(西尾 1972 : 76)

³ この場合の「収容性」とは、「中に多くのものを容れうる」「活動のための十分なゆとりがある」「らくに通過できる」などの要素である。(西尾 1972 : 76)

ると記述している。「広い道」「広い部屋」のように1次元的な量、3次元的な量を問題にしている場合も、対象自体は面的な広がりを持つ2次元的なものでなければならず、またその対象は、それが人にとって何らかの意味、機能、価値を持つものでなければならぬと説明している。

非空間的用法における「広い」の意味領域は、「知的活動」「関係」「範囲」「その他」に整理できるとしている。「広い」の対象は複合体（様々なものを包み込んだもの）であり、「広い」が表すものは、あるカテゴリーに属する要素が多いことで、それが2次元的な広がり投影されたものだと記述している。(p.10)

7.2.5. 先行研究の記述の検討

「広い」の意味の記述に関しては、1～3次元の量を表すという記述や、西尾（1972）の「収容性」などのその場所の内部が意味に関連しているという記述など援用すべき記述が見られる。本研究も、これらの先行研究の記述を基本的に受け継ぐことにするが、検討すべき点もある。まず、西尾（1972）、小出（2000）が「広い」は3次元の量を表すと述べているように、「広い」は「最近の冷蔵庫は庫内が広い」のような物の内部空間の大きさを表す場合があると考えられるが、『大辞林（第四版）』では、そのような内部空間の大きさに関する意味が記述に反映されておらず、明示する必要があると考える。次に、西尾（1972）では、「広い皿」「広い鏡」などが使われにくい」とあるが、実際使われている例もあり、これらがどのような場合に容認できるのかははっきりしない。また、西尾（1972）は、この「広い皿」などが使われにくいのは「広い」が「絶対的な大きさ」を表すためだとしているが、飛田・浅田（1991）では、「広い」は「相対的に大きいこと」を表すとあり、検討が必要だと考える。さらに、西尾（1972）、小出（2000）は、「広い」が1次元的な量や3次元的な量を表す場合も対象の2次元的な広がりと関係していることを指摘しているが、それぞれの次元を「広い」と表しうる基盤について記述されていない。これらの検討課題を踏まえ、「広い」の意味を詳細に分析、考察し、複数の意味間の相互関係を記述する。

7.3. 意味分析

本研究は、「広い」の意味を、＜空間＞、＜非空間的な範囲＞、＜心＞の観点から5つに分類した。また、分析の最後に、各意味間の相互関係を考察し、多義構造を示す。

7.3.1. 空間的用法

本節では、「広い」の空間的用法の意味を分析する。

7.3.1.1. 意味①<対象が有する平面的な範囲の2次元的な伸びが><大きい><さま>

- (1) 自宅の庭一面をピンクに彩るシバザクラを育ててきた宮崎県新富町新田（にゅうた）の黒木敏幸さん（87）が、30年となる今季を最後に、町とタイアップした観光庭園としての公開をやめる。（略）毎年少しずつ広げ、いまでは3千平方メートルのピンクのじゅうたんができあがった。（略）黒木さんは植えかえや草むしりを続け、広い庭を1人で手入れしてきた。

（『朝日新聞』2017年04月24日夕刊 聞蔵Ⅱビジュアル）

- (2) 週刊誌、月刊誌にネットのコラムと（アサヒ・コムに「がんばれ！家計」〈<http://www.asahi.com/life/column/ogiwara/index.html>〉連載）、原稿の締め切りは毎日のようにやって来る。執筆のたび広い机に様々な書類、資料を広げる。

（『朝日新聞』2008年06月02日夕刊 聞蔵Ⅱビジュアル）

- (3) 小学校の頃、夏の体育の時間に、学校近くの川によく連れられていった。（略）好きだった優しくて厳しい先生の若々しく健康的に広い背中を、つと伝い落ちる水の一滴をいまだにはっきりと思い出す。

（『朝日新聞』2003年08月03日朝刊 聞蔵Ⅱビジュアル）

例(1)は、面積が3千平方メートルの庭を「広い」と述べている。「庭」という地面のうちの区切られた範囲の面積を「広い」と表している。例(2)は、机を「広い」と述べている。様々な書類や資料を広げられるほどの大きさがある天板の面積を「広い」と表している。例(3)は、小学校の先生の背中を「広い」と述べている。先生の背中は、小学生の自分や友達の背中と比較すると面積が大きいと思われ、それを「広い」と表している。また、例(1)～(3)の対象はほぼ平面であり、例(1)(2)のように、およそ水平の面に用いられることが多いが、例(3)のようにおよそ垂直の面に関しても用いられる。

続いて次の例を見てみよう。

- (4) レンジ対応のフタ付きフード PC があれば最高ですが、無ければ広い皿にカキを並べ、ラップを上にかぶせれば OK です。（「美味しい魚辞典 カキの話」 NLT）

(5) *デパートで広い皿を買った。 (作例)

(6) 朝は込み合う洗面室も、広い鏡と洗面ボウルが2カ所あると便利。

(<https://books.google.co.jp/books?isbn=4791618564>) 2021.10.15 検索

(7) *壁に広い鏡が掛けてある。 (作例)

(8) ?我が家には全身が映る広い鏡がある。 (作例)

(9) 我が家には大人が両手を広げても全身が映る広い鏡がある。 (作例)

例(4)は、皿自体に複数のカキを並べることができる程度の大きさがあることを「広い」と表している。例(6)は、「朝は込み合う洗面室」とあるように、複数の人でも十分に映すことができる程度の鏡の大きさがあることを「広い」と表している。皿も鏡も様々な大きさがあるが、例(4)(6)の「広い」は、その状況の用途にかなう十分な大きさがあることを表している。一方、例(5)(7)の「広い皿」「広い鏡」のように、対象自体の大きさに関して述べる場合は「広い」で表すことができず、「大きい皿」「大きい鏡」と表される。

例(4)(6)と同様に、例(1)(2)の「庭」「机」も、その範囲内に「シバザクラ」「書類、資料」という物が十分存在しうるほどの大きさである場合を「広い」で表しており、これらは2節で確認した「収容性」(西尾 1972)が関係しているとみられる。また、例(1)「庭一面をピンクに彩るシバザクラ」、例(2)「机に様々な書類、資料を広げる」、例(4)「皿にカキを並べ」とあるように、対象の範囲内に存在する物それぞれが2次元的に広がって存在していることにより、対象自体の2次元的な延びに焦点が当たっているとも考えられる。さらに、例(8)「?全身が映る広い鏡」の場合は容認度が下がると思われるが、例(9)「大人が両手を広げても全身が映る広い鏡」は不自然さを感じないことから、2次元的な延びに特に注目する場合に「広い」が用いられると考えられる。つまり、用途など何らかの基準に照らして、対象がその範囲内に十分何らかの物が存在しうるほどの大きさであり、対象自体の2次元的な延びの大きさに焦点が当たっている場合、「皿」のような客観的に見て小さな対象についても相対的に「広い」と表すことができると言える。

以上から、「広い」の意味①は、<対象が有する平面的な範囲の2次元的な延びが><大きい><さま>と記すことができる。⁴

⁴ 「おでこが広い」という定着度が高い表現もある。「おでこ」は人の顔の眉のあたりと前髪の生え際に囲まれた部分であるが、眉から生え際までの距離が相対的に大きい場合、「広い」と表す。この場合、おでこの面の大きさとして2次元的に捉えているが、同時に眉毛からの生え際の位置が頭の後方に向かう延び(距離)の大きさとして1次元的に捉えているとも考えられる。(意味③参照)

7.3.1.2. 意味②<対象の内部空間の3次元的な延びが><大きい><さま>

(10) 00年から、近くの帝塚山大の講義が受講できるようになった。(略) アメリカ史の授業に高校生は1人。体育館のように広い教室に驚いた。

(『朝日新聞』2004年04月24日朝刊 聞蔵Ⅱビジュアル)

(11) 日立、中が広いオープンレンジを発売

(『朝日新聞』1995年01月21日朝刊 聞蔵Ⅱビジュアル)

(12) 普段は、飛行機が格納されている格納庫を初めて会場にして、午後1時から3バンドが演奏する。(略) 当日は、丘珠産直市「ファーマーズマーケット」や広い空間を利用した紙飛行機の工作教室なども行われ誰でも参加できる。

(『朝日新聞』2004年10月08日夕刊 聞蔵Ⅱビジュアル)

例(10)は、大学の教室を「広い」と述べている。高校の教室と比べて床面積が大きく、天井も高い教室を、「体育館のように広い」と表している。例(11)は、オープンレンジの内部を「中が広い」と述べている。例(12)は、普段は飛行機が格納されている格納庫の内部を「広い空間」と述べている。例(10)~(12)は、壁や天井で囲まれた室内や、容器の内部など囲まれたものの内部に関して述べており、それぞれ「高校の教室」、「他のオープンレンジの庫内」、「話し手が想定した内部」など何らかの基準に照らして相対的に大きいことを「広い」と表している。また、教室や部屋のような語は、それ自体が囲まれた空間を表しており、その場合は「広い教室」「広い部屋」のように「広い」がその空間が大きいことを表すことができる。一方、オープンレンジや冷蔵庫などは、まず外観に注目することが一般的であると思われる。「?広いオープンレンジを買った」では「広い」が庫内について表していると想起しにくい。このため、対象の内部に注目させるには「中が広いオープンレンジを買った」のように「中」や「庫内」のような対象の内部を指す語が必要だと考えられる。さらに、「広い」の対象は、人がその内部に入って活動したり物を収納したりできる空間である(「収容性(西尾1972)」)が、その空間において人の活動や物の収容が十分行える場合に、その空間の3次元的な延びに焦点が当たっていると考えられる。また、意味②は意味①からの拡張と考えられるが(4節参照)、意味①の平面上の2次元的な延びなどの意味特徴は、意味②から消えるものではなく背景化されていると考えられる。

以上から、「広い」の意味②は、<対象の内部空間の3次元的な延びが><大きい><さま>

ま>と記すことができる。⁵

7.3.1.3. 意味③<幅の延びが><大きい><さま>

(13) 鹿児島市のJR鹿児島中央駅前から錦江湾方向に向かって延びる長さ約1.8キロのナポリ通りとパース通りで、ツツジの花が見ごろを迎えている＝写真。片側3車線から5車線の広い道路の中央分離帯に植栽されている。

(『朝日新聞』2007年04月12日朝刊 聞蔵Ⅱビジュアル)

(14) 罫線(けいせん)の間隔が広いノートや音声の出る時計、体温計など「便利グッズ」の展示も。

(『朝日新聞』1994年03月21日朝刊 聞蔵Ⅱビジュアル)

(15) 投手の背中押す 大橋敏行君(ブルペン捕手・3年) 「もう1球、もう1球」。いい球は何度も要求する、投手をのらせるテクニックだ。17.6センチ、73キロの体格以上に広い肩幅で「的が大きく投げやすい」と評判。

(『朝日新聞』2009年08月09日朝刊 聞蔵Ⅱビジュアル)

例(13)は、片側3車線から5車線、つまり両側で6車線から10車線の道路の端からもう片方の端までの距離を「広い」と述べている。例(14)は、ノートの2本の罫線間の距離を「広い」と述べている。例(15)は、左右の肩の端から端までの距離を「広い」と述べている。意味③は、例(13)(14)のように細長いものの短い辺の距離や、例(15)のように人があるものに面した場合、そのものの左右に広がる端から端までの距離を表すが、細長いものの短い辺やものの左右に広がる距離は、「幅」と言うことができる⁶。また、意味③は意味①からの拡張と考えられるが(4節参照)、意味①の平面上の2次元的な延びなどの意味特徴は、意味③から消え去るものではなく背景化され、平面上のある2点間の1次元的な延び(距離)に焦点が当たっていると言える。

以上から、「広い」の意味③は、<幅の延びが><大きい><さま>と記すことができる⁷。

⁵ 意味②では「対象の内部空間」と記述したが、「広い宇宙(うちゅう)には太陽系以外にも、恒星の周りで光を受けて光る惑星がたくさんあるの。」(『朝日新聞』2017年03月11日朝刊 聞蔵Ⅱビジュアル)の「宇宙」のように、範囲が明確に定まらない空間に「広い」を用いる例もある。

⁶ 『大辞林(第四版)』では、「幅」を「①物の横の長さ。縦長なもの、短い方の端から端まで。」と記述している。

⁷ 「悪人から超善人まで、三成に対する評価は振れ幅が広い。」(『朝日新聞』2012年11月28日朝刊 聞蔵Ⅱビジュアル)のように、慣用的に用いられる表現がある。三成はその人柄が悪人として描かれている

7.3.2. 非空間的用法

本節では、「広い」の非空間的用法の意味を分析する。

7.3.2.1. 意味④<物事を指し示す範囲について関係する事柄が豊富に含まれるほどその程度が><大きい><さま>

(16) 例えば託児サービス。美術館には行儀の良い人しか来られないというイメージがあるが、このようなサービスがあれば（子どもがいても）来やすくなる。これも広い意味での福祉。単に、ハンディキャップのある人を対象にするだけが福祉ではなくて、社会の高齢化のなかで福祉の概念は（対象を拡大する方向に）変化してきている。

（「横須賀美術館評価制度」 NLT）

(17) 広い分野で登場する語です。例えば自動車生産の分野では「モジュール生産」（後述）が普及していますし、経営の分野でも「経営のモジュール化」（後述）が提案されています。さらにコンピューターの分野では、ソフトウェアやハードウェアの部品のことをモジュールと言いますし、一部の小中学校では授業時間の最小単位（10分～15分）のことをモジュールと呼んでいます（「モジュール制」で後述）。宇宙ステーションの構成要素（実験棟・居住棟）もモジュールです。

（「三省堂辞書サイト」10分でわかる「モジュール」 NLT）

(18) 小輪の花が特徴である県のオリジナルユリ「プチシリーズ」の新たな3品種を、9月から試験的に栽培してきた。（略）プチシリーズは花の直径が10～12センチ程度。ユリ独特の香りは少なく、テーブル装飾やブーケ、花束など用途が広いのが特徴だ。

（『朝日新聞』2013年12月16日朝刊 聞蔵Ⅱビジュアル）

(19) 鈴木さんは明るい性格で、交友関係が広がった。県警は友人などの関係者100人以上から話を聞くなどしたが、「犯人に直結するトラブルは把握できていない」。

（『朝日新聞』2013年11月07日朝刊 聞蔵Ⅱビジュアル）

例(16)は、福祉という言葉が表す意味について「広い」と述べている。福祉と言えばハン

場合と超善人として描かれている場合があり、人柄において対照的な評価であることを「振れ幅が広い」と表している。この場合、人柄の評価を直線上の2点と捉え、その2点間の距離が大きいさまを表しており、空間的用法である意味③から非空間的な範囲へとメタファーによって拡張していると考えられる。

ディキャップのある人だけを対象とするように思われるが、美術館での託児サービスのよう一般的なには福祉とは思われないようなサービスも福祉の意味に含まれ、福祉という言葉が表す意味の範囲が大きいことを「広い」と表している。例(17)は、モジュールという用語が自動車生産や経営、コンピューター、小中学校など様々な分野で用いられていると述べているが、このように使用される分野の範囲が大きいことを「広い」と表している。例(18)は、オリジナルユリが、テーブル装飾やブーケ、花束など様々な用途に使われているが、使われる用途の範囲が大きいことを「用途が広い」と表している。例(19)は、事件の被害者の交友関係を「広い」と述べている。被害者の交友関係には、100人以上の様々な関係者が含まれ、その範囲が大きいことを「広い」と表している。

(20) ノロウイルスに感染すると乳幼児から高齢者までの広い年齢層で急性胃腸炎を引き起こします。

(「ノロウイルス感染症 | これからの衛生管理 | 大幸薬品株式会社」 NLT)

(21) 翁長氏は普天間飛行場を同県名護市辺野古に移す計画を「断固阻止する」と訴え、共産党から自民党系那覇市議までの広い支持を受けて知事選に挑む。

(『朝日新聞』2014年10月02日朝刊 聞蔵Ⅱビジュアル)

例(20)は、「乳幼児から高齢者まで」の年齢層を「広い」と述べている。「乳幼児から高齢者まで」には児童や青少年、中年など様々な年代の人が含まれる。その年齢層の範囲が大きいことを「広い」と表している。例(21)は「共産党から自民党系那覇市議まで」の政党や議員からの支持を「広い」と述べている。共産党と自民党は社会体制に関して思想的に両極にある。「共産党から自民党系那覇市議まで」には、社会主義や資本主義の立場、その中道に位置する政党や議員などが含まれる。選挙では通常政治的立場から「自民党だけ」「共産党だけ」の支持になりがちだが、例(21)は、そうではなく様々な政治的主義者の支持を含むほど範囲が大きいことを「広い」と表している。

以上から、例(16)~(21)の「広い」の意味④は、<物事を指し示す範囲について関係する事柄が豊富に含まれるほどその程度が><大きい><さま>と記すことができる。

7.3.2.2. 意味⑤ (心の持ちように関して) <好ましいとは言えない事柄も問題にせず受け入れる><さま>

(22) 愛のように障害のある子は何をやるのも遅く、通う道一つを教えるのにも時間がかかります。焦って怒ってしまったこともたびたびありました。(略)ただ、そんな私を広い心で、いつでも「いいよ」と笑顔で許してくれた娘に、優しさを教えてもらったことを伝えたいです。 (『東京新聞』2016年09月30日朝刊)

(23) 今夏、新潟県で行われた「大地の芸術祭」のメインモニュメントとして、日本における初の作品「バタフライパビリオン」を完成させた。それは池にたたずむ能舞台だ。(略)「能の上演時以外は、ピクニックや釣りをしたりと、自由に使ってもらいたい」ずいぶん心が広いですね、と問うと、「もちろんさ！独善的になるかどうかは心がけ次第。建築家は寛大でなくちゃ」満面の笑みが返ってきた。

(『週刊アエラ』2006年11月13日 聞蔵Ⅱビジュアル)

(24) 石原氏は日本維新の会の橋下徹代表やみんなの党の渡辺喜美代表と会談を重ね、第三極としての連携を模索。ただ、たちあがれ日本の所属議員の中には「維新はともかく、みんなの党とは考え方が正反対だ」という不満も出ており、連携できるか不透明だ。石原氏は12日の会合で「お互いが好きだ、嫌いだではなくもっと広い気持ちを持たないとだめだ」と述べ、第三極の大同団結を改めて呼びかけたという。

(『朝日新聞』2012年11月13日朝刊 聞蔵Ⅱビジュアル)

例(22)では、障害のある娘をたびたび怒ってしまう親(話し手)を、その娘はいつも笑顔で許してくれたと述べられている。「怒られる」という状況は好ましくなく受け入れがたいものだが、「娘はいつも笑顔で許す」というように、親を責めることなく心から受け入れているさまを「(心が)広い」と表していると考えられる。例(23)では、能舞台をピクニックや釣りなど能の上演以外の事柄に使うことを認めている建築家に対して「心が広い」と述べている。能舞台を能の上演以外の事柄に使用することは許されないのではないかと話し手は考えていたが、「自由に使ってもらいたい」とあるように、建築家はこれまで好ましいと思われなかった事柄も問題なく受け入れる気持ちがあり、そのような心持ちを「広い」と表している。例(24)は、複数の政党の連携について不満に思う議員に対し、「広い気持ち」を持つよう述べている。政党同士の考え方が異なるという好ましくない事柄があっても、相手を受け入れられる気持ちを「広い気持ち」と表している。

以上から、例(22)~(24)の「広い」の意味⑤は、(心の持ちように関して) <好ましいとは言えない事柄も問題にせず受け入れる><さま>と記すことができる。

7.4. 「広い」の多義構造

本節では、これまでの分析を踏まえ、糸山（2001 など）が多義語分析の課題として提案している4つの課題のうち、「プロトタイプの意味の認定」「複数の意味の相互関係の明示」「複数の意味すべてを統括するモデル・枠組みの解明」の3つの課題について検討する。⁸ 以下に、意味①～⑤を再掲する。

意味①<対象が有する平面的な範囲の2次元的な伸びが><大きい><さま>

意味②<対象の内部空間の3次元的な伸びが><大きい><さま>

意味③<幅の伸びが><大きい><さま>

意味④<物事を指し示す範囲について関係する事柄が豊富に含まれるほどその程度が>
<大きい><さま>

意味⑤(心の持ちように関して)<好ましいとは言えない事柄も問題にせず受け入れる>
<さま>

7.4.1. プロトタイプの意味の認定

本節では、「広い」のプロトタイプの意味の認定のため、「広い」の空間的用法の複数の意味に関して、コーパスの用例における各意味の使用頻度と、用法上の制約について考察する。

7.4.1.1. 空間的用法における各意味の「広さ」の使用頻度

本節では、意味①～③の「広さ」の用例の使用頻度を検討する。プロトタイプの意味は、最も基本的で慣習化の程度・認知的際だちが高い意味と考えられるが、慣習化の程度の高さは、用例数の多さに現れる場合もあると考えられる。そこで、「現代日本語書き言葉均衡コーパス(BCCWJ)」で「Nの広さは／が」を検索し、用例における「広さ」の意味が意味①～③のどの意味で用いられているか考察する。

BCCWJで「Nの広さは／が」は、延べ語数として109例得られたが、そのうち空間的用法(意味①～③)と考えられる例は、60例(「Nの広さは」40例、「Nの広さが」20例)で

⁸ 本論文では、多義語分析の課題「何らかの程度の自立性を有する複数の意味の認定」に関して扱わないが、「広い」の意味①②に関しては、母語話者の直観では違いを感じるが、後述するように(3.3.2節)、平面と空間はほぼ同時に認識されることからどちらの意味か区別がつかない例もあり、意味①②を別義と認めるかはさらに検討が必要だと考える。

あった⁹。60例を意味①～③に分類したものが表1である。表1の(N:)は、各例文の「広さ」の対象語(異なり語)である。「不明」は、前後の文脈から「広い」の意味が①～③のどれなのかははっきりしなかったものである。表1から「Nの広さは/が」の「広さ」は、意味①で用いられる場合が最も多く、意味②③で用いられる例は少ないことがわかる。

表1 「Nの広さは/が」における「広さ」の意味の分類

	Nの広さは (40例)	Nの広さが (20例)
意味①	29例 (N: 球場、祭場、敷地、境内、犬舎、土地、建物、わが家、部屋、霊園、遺跡、芝公園、1ユニット、各室、セントラルパーク、(大名)屋敷、高田馬場、集落、団地、皇居、個室、一戸、1室、畑)	12例 (N: 空、黒地、土俵、裏庭、球場、支持基底面、敷地、表面積、国土、住宅、額、(容器の)口)
意味②	3例 (N: 後席、宇宙)	4例 (N: 宇宙、かまくらの中、家、地獄、市場)
意味③	2例 (N: 両足、湾)	2例 (N: 川、肩)
不明	6例 (N: 店、部屋、墓地、家)	2例 (N: 道路と空、部屋)

以下に、各意味に相当する例文を挙げる。

(25) そしてマイホームの土地の広さは、今でも日本古来の尺貫法、坪で呼んでいる。(意味①)

(26) 特に後席の広さは圧巻。足元や頭上の空間はヘタな5ナンバーミニバンのセカンドシートより広くてくつろげる。(意味②)

(27) まず怖いことの一つ目は、川の広さがあげられます。テスリンリバーは、支流でありますのでまずまず日本の川くらいのイメージで考えていただいてもよろしいのですが、本流のユーコン川まで出ますと、川幅一千メートル、二千メートル以上にもなり (略) (意味③)

⁹ 前後の文脈から空間的用法と考えられるが、Nに対象物が直接生じない例(「ある程度の広さ」など)は除いた。

(例(25)～(27) BCCWJ)

例(25)は、「広さ」が土地の面積の大きさを表しており、意味①の意味で用いられている。同様に「球場」「畑」「額」などの面積の大きさを表す場合も「広さ」は問題なく用いられる。例(26)は、車の後席の空間の大きさ（意味②）を表し、例(27)は、川幅の大きさ（意味③）を表している。

また、例(28)のように「広さ」が建物の内部空間の大きさではなく床面積の大きさのみを表す場合や、例(29)のように「広さ」が床面積のみを指し、「広さ」と高さを併せて述べることにより犬舎の内部空間の大きさを表す場合もある。

(28) 熱延厚板工場の敷地は一万七千八百五坪、建物の広さは一万三千四百八十坪であった。

(29) 犬舎の広さは一坪、高さ一.五m（この上を物置にし、屋根をつけると、二階建てのようになります）が理想で涼しく風通しのよい乾燥した場所が最高です。

(例(28)(29) BCCWJ)

つまり、「広さ」は、部屋や建物などの面積の大きさ（意味①）を表すことも、内部空間の大きさ（意味②）や幅の大きさ（意味③）を表すこともできるが、BCCWJの結果から意味①の使用頻度が高いとすることができる。

7.4.1.2. 空間的用法における「広い」の用法上の制約

本節では、「広い」が表す意味に関して、意味①と意味③のどちらがより制約が少ないかを例(30)で確認する。

(30) この机は広い。 （○意味①、×意味③）

「机」の場合、「広い」は机の天板の面積を表す（意味①）ことも、天板の幅を表す（意味③）こともできる。しかし、例(30)の「広い」は、面積に関して表すことができるのに対して、机の左右の幅に関して表すことができず、幅を問題にする場合は「この机の幅は広い」のように「幅」という語が必要になる。つまり、ある対象の面積と幅が同時に「広い」の対

象となり得る場合、面積に関しては「広い」のみで表せるが、幅は「幅が広い」などの形で表す必要がある。このことから、意味①は意味③より制約が少ないと言える。

以上の考察から、「広い」のプロトタイプの意味は、使用頻度が最も高く、制約が少ない意味①であると考えられる。

7.4.2. 複数の意味の相互関係と多義構造

本節では、これまでの分析を踏まえ、「広い」の複数の意味の相互関係について記す。

まず、意味①～③は、空間的用法である。意味①は、プロトタイプの意味である。意味②に関して、例えば室内の床の面積が大きい場合、その室内の空間も大きいと考えられる。つまり意味②は、ある場所の面積が大きい時、同時にその場の空間も大きいという同時性に基づくメトニミーによる意味①からの拡張である。意味③は、区切られた平面の面積が大きい場合、その平面の端から端までの距離も大きいという同時性に基づくメトニミーによる意味①からの拡張である。なお、意味①は2次元の量を表すが、意味①から意味②へは3次元の量を、意味①から意味③へは1次元の量を表す意味にそれぞれ拡張している。

次に、意味④⑤は、非空間的用法である。意味④は、＜物事を指し示す範囲が大きい＞が意味①＜対象の平面的な範囲が大きい＞と類似していることに基づくメタファーによる意味①からの拡張であり、両者の共通点として次のようなスキーマ(①)が抽出できると考えられる。

スキーマ①：＜何らかの範囲の内部が大きいさま＞

また、意味④は、例(20)「乳幼児から高齢者までの広い年齢層」、例(21)「共産党から自民党系那覇市議までの広い支持」の場合は、年齢や政治的思想における立場に関して線的な両極が考えられ、「乳幼児」と「高齢者」、「共産党」と「自民党」という2点間の中にその他の要素を含むほど大きいと捉えられるため、意味③＜幅の伸びが大きい＞と類似していることによるメタファーとも考えられる。意味③と意味④からは、次のようなスキーマ(②)が抽出できる。

スキーマ②：＜線的に捉えられる範囲の内部が大きいさま＞

意味⑤は、意味④の〈物事を指し示す範囲〉が心的な領域についても同様に用いられることに基づくメタファーによる意味④からの拡張である。意味④と意味⑤は類似性が認められることから、次のようなスキーマが抽出できると考えられる。

スキーマ③：〈抽象的な領域の範囲の内部が大きいさま〉

なお、スキーマ①とスキーマ②③はシネクドキーの関係にあり、スキーマ①はスキーマ②③より高次のスキーマであると言える。

続いて、フレームの観点から意味①～③について検討する。意味①～③はメトニミーの関係であるから、同じフレーム内の異なる要素を焦点化していると考えられるが、3つの意味の基盤として「広い場所」のフレームを提案する。

「広い場所」のフレーム

「広い場所」を考えると、広い場所は地面の「面積が大きい」（意味①）という2次元的な特徴が認められると共に、その場所の「空間が大きい」（意味②）という3次元的な特徴が認められる場合と、地面の「端から端までの距離が大きい」（意味③）という1次元的な特徴が認められる場合とがある。以上から、空間的用法における「広い」は、「広い場所」のフレームを構成する意味①～③に相当する3つの要素のいずれかを焦点化すると記述できる。

これまでの考察から、「広い」の個々の意味拡張を含む多義構造は図1のようになる。なお、太線の四角はプロトタイプ的意味を表し、楕円は「広い場所」のフレームを表す。

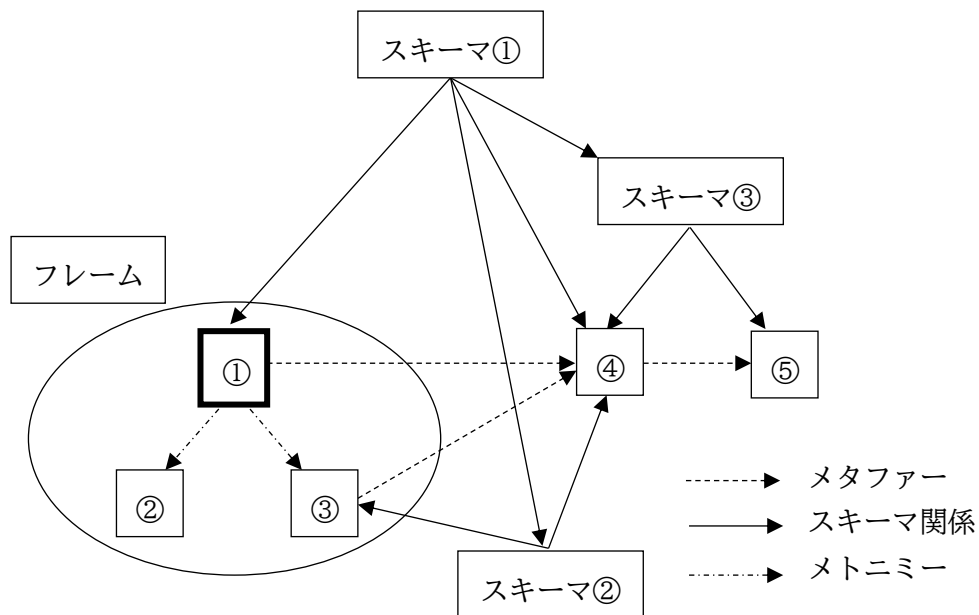


図1 「広い」の多義構造

7.5. おわりに

本章では、「広い」の意味を分析した。まず、以下の通り5つの意味とスキーマを3つ認定した。

意味①<対象が有する平面的な範囲の2次元的な伸びが><大きい><さま>

(プロトタイプの意味)

意味②<対象の内部空間の3次元的な伸びが><大きい><さま>

意味③<幅の伸びが><大きい><さま>

意味④<物事を指し示す範囲について関係する事柄が豊富に含まれるほどその程度が>
<大きい><さま>

意味⑤(心の持ちように関して)<好ましいとは言えない事柄も問題にせず受け入れる>
<さま>

スキーマ①:<何らかの範囲の内部が大きいさま>

スキーマ②:<線的に捉えられる範囲の内部が大きいさま>

スキーマ③:<抽象的な領域の範囲の内部が大きいさま>

「広い」は、用途など何らかの基準に照らして、対象がその範囲内に何らかの物が十分存

在しうるほどの大きさであり、さらに2次元的な延びの大きさに焦点が当たっている場合、対象の相対的な大きさを表すことを実例に基づいて説明した。

意味①～③は、空間的用法である。各意味間の相互関係としては、プロトタイプの意味である意味①から意味②、③がそれぞれメトニミーにより拡張している。また、意味①～③は、「広い場所」のフレームを基盤として、それぞれが「広い」と表せることを説明した。意味④⑤は、非空間的用法である。意味④は、意味①、③からメタファーにより拡張し、意味⑤は意味④からメタファーにより拡張していることを示した。さらに、意味①④からスキーマ①を、意味③④からスキーマ②を、意味④⑤からスキーマ③を抽出した。また、スキーマ①とスキーマ②③はシネクドキーの関係にあり、スキーマ①はスキーマ②③より高次のスキーマであることを述べた。

最後に、これら個々の意味の相互関係とその基盤を形容詞「広い」の多義構造として図示した。

第8章 「長い」の意味分析

8.1. はじめに

本章では、形容詞「長い」を取り上げ、その意味および複数の意味間の相互関係を分析、考察する。

本章の概要について述べると、次の2節で「長い」の意味に関する先行研究を概観し、検討する。3節で「長い」の意味を分析し、4節で「長い」の多義構造について記す。最後に5節で、本章のまとめを述べる。

8.2. 先行研究の記述とその検討

本節では、「長い」の意味に関する先行研究として、『大辞林(第四版)』(2019)、西尾(1972)、飛田・浅田(1991)、小出(2000)の記述を概観する。

8.2.1. 『大辞林(第四版)』(松村明編 2019: 2015)¹

なが・い【長い／永い】

- ①(線状に連続しているものの)ある点からある点までの隔たりが大きい。《長》「一・い道のり」「一・い刀」「一・い行列」
- ②ある時点からある時点までの時間的な隔たりが大きい。「人類の一・い歴史」「一・い下積みの生活」「日が一・くなる」「一・い間待たせる」
- ③精神的に持続力がある。のんびりしている。《長》「気が一・い」

8.2.2. 西尾(1972: 70-74, 176, 186, 239-240)

西尾(1972)は、空間的用法の「長い」は、1次元の量について用いられ、もの自身の性質を表す評価的に中立な語だとしている。「道・えんぴつ」などある1辺が他より際立って大きい延長を持っている物体に使われることが多く、その延長は水平や垂直という方向とは無関係である。また、ものの形に沿って測られることが多いので、直線的な延長の量だけでなく曲線の量についても表される。あるものが「長い」か「短い」かを分ける基準は、話し手の個人的な経験などに左右される。煙突・樹木・塔などのように固定して上方に伸

¹ 意味③は慣用表現と考え、本研究では考察対象としない。

びているものについては、「高い」が使われるのがふつうであるが、方向性を問題にせず 1 次元の延長の量に注目するときは「長い」が使われるとしている。

8.2.3. 飛田・浅田 (1991 : 397-399)

飛田・浅田 (1991) は、「長い」の意味を大きく 3 つに分け、次のように記述している²。

①空間的に連続しているものの二点間の距離が大きい様子を表す。

「彼女はそれまでながかった髪をぱっきり切った。」「東京から京都まではながい道のりだ。」

②二つの時点間の時間的な隔たりが大きい様子を表す。

「彼女の父はながく大臣の要職にある。」「ぼくは雨の中、君をながいこと待ってたんだぜ。」

③規模が大きい様子を表す。

「彼の話はいつもだらだらとなが長い。」「ながい小説を読む。」

飛田・浅田 (1991) は、①について、二点間の隔たりが大きいことを両地点から対等の立場で客観的に表現し、特定の基点はないと記している。また、二点間の隔たりの方向は決まっていないが、鉛直方向の場合は、二辺の比較において位置を変更できることが原則だと述べている（「×副都心のビルは長い。」→「副都心のビルは高い。」）。③については、時間的な量に換算できる対象についてのみ用いられ、それ以外の一般的なスケールの大きさについては用いられないと記している（「×彼の会社は組織が長い。」→「彼の会社は組織が大きい。」）。

8.2.4. 小出 (2000)

小出 (2000 : 11) は、非空間的用法に関して、「長い」が言及できる対象は時間だけだと述べている。このときの「時間」は、対象を 1 次元的に延びるものとしてイメージされる。

「長い文章」「長い小説」などは、印刷物としての空間的物理的な量を持っているが、読むという行為が、書かれたものを線的に辿るという性質を持つため「長い」で表されるとして

² 飛田・浅田 (1991) には、①～③の他に、慣用句に関する項目があるが、本研究の分析対象ではないため省略する。

いる。

8.2.5. 先行研究の記述の検討

以上のように、「長い」の空間的用法における基本的な意味については、辞書をはじめ多くの研究で記述されている。本研究は、空間的用法についてはこれらの先行研究に負う面が大きい。空間的用法にも（別義は一つだと考えているが）様々なケースが考えられ、これらを網羅的に説明している研究は見当たらない。非空間的用法に関しては、小出（2000）は「長い」が言及できる対象は時間だけと述べているのに対して、飛田・浅田（1991）は、時間のほかに時間に関係のある情報量や規模に関して表す場合もあるとしており、それぞれ自立した意味と認められるのか検討する必要があると考える。これらの検討課題を踏まえ、「長い」の意味を詳細に分析、考察し、複数の意味間の相互関係を記述する。

8.2.6. 「ながい」の漢字表記について

靱山（1994、2021）は、語の意味と漢字表記の関係には、「同音異義語（例：くも（雲・蜘蛛））」「多義的別義と漢字表記が対応（例：さめる（冷める・覚める・褪める））」「ゆれ（例：カタイ（固い・硬い・堅い）」の3通りが考えられると述べている。意味と漢字表記のゆれという現象は、「1つの音形に複数の漢字表記があり、漢字表記の違いが意味の違いに関与しない現象」だとしている（靱山 2021：11-12）。また、李（2020：146）は、靱山（1994、2021）を踏まえて、「かえす」の漢字表記「返・帰・反・還・孵」が、「保護された野鳥を自然に返す／帰す」のように、「かえす」の意味の違い（多義的別義）に厳密に対応しているとは言えない場合と、「卵を孵す」のように、多義的別義と漢字表記が対応する場合があることを述べている。

さて、「ながい」には「長い」「永い」の2種類の漢字表記がある。『大辞林（第四版）』では、「ながい」の漢字表記として「長い／永い」と併記されているが、①の「空間的な隔たり」に関する意味と③の「精神的な持続力」に関する意味に「《長》」とあり、①と③の意味の場合「長い」を用いるとしている。コーパス³で「長い」と「永い」が「距離」と「間」を修飾する場合をそれぞれ検索すると、次の例(1)～(3)のように、「長い距離」「長い間」「永い間」の用例はあるが、「永い距離」はなかった。従って、『大辞林（第四版）』にあるように、

³ 「現代日本語書き言葉均衡コーパス」(BCCWJ)

「空間的な隔たり」に関する意味の場合は、「長い」が用いられると考えられる。

- (1) これらの鳥の中には、とても長い距離を快速で飛んでしまう、あのすばらしい渡り鳥、つばめがいる。 (ジュール・ヴェルヌ/朝倉剛(訳)『二年間の休暇』 BCCWJ)
- (2) 本日をもちまして、このブログは閉鎖します。長い間ありがとうございました。
(Yahoo!ブログ BCCWJ)
- (3) 雪の研究で世界的に有名であった中谷宇吉郎博士は奥さんに「永い間ありがとう、皆に親切にしてやってくれたまえ」と言って息を引きとられたという。
(大田尚弘『空の世に生かされているのちありがとう』 BCCWJ)

また、例(2)(3)のように、「長い間」と「永い間」は「お礼」という同様の文脈で用いられていることから、「ながい」の「時間」に関する多義的別義と2つの漢字表記の関係は、漢字の「ゆれ」の範疇だと言することができる。なお、本研究では、「ながい」の漢字表記は、「長い」で統一して記述する。

8.3. 意味分析

本研究は、「長い」の意味を、<空間>、<時間>、<言語活動>の観点から3つに分類した。また、分析の最後に、各意味間の相互関係を考察し、多義構造を示す。

8.3.1. 空間的用法

本節では、「長い」の空間的用法における意味の分析を行う。

8.3.1.1. 意味①<線状の(あるいは線状と捉えられる)対象の端から><もう一方の端までの><距離が><大きい><さま>

- (4) 相模川は、富士山の雪どけ水をたたえた山中湖に源を発し、河口まで総延長 113 キロメートルの神奈川県内で、もっとも長い川です。
(「相模原の不動産のことなら、明正ホームへ」 NLT)
- (5) 「茶筌マドラー」なるものです。普通の茶筌と比べると、柄が長くて茶筌の部分が小さい。これなら普通のカップに使えます。
(「ちょっと茶道具屋 茶筌のこと」 NLT)

- (6) 切りそろえられた前髪に腰まである長い髪。 (「ふわり、ふわり。」 NLT)
- (7) それでも、秋田藩では江戸まで行った者 510 名、それに陪臣 (藩士が自分の収入で雇った家来) を加えると 1300~1400 名となったといひます。えんえんと 2km 以上の長い列になります。 (「山本 里見先生 こんな事実が | 安心計画株式会社」 NLT)

例(4)~(6)の「長い」の対象は、線状や棒状の具体物である。例(4)は、相模川の水源地から河口までの距離が県内の川の中でもっとも大きいさまを「長い」と表している。この距離は、水源地から河口までを結んだ直線距離ではなく、川に沿ったものである。例(5)は、茶筌マドラーの柄の端からもう一方の端までの距離が、茶道に使われる一般的な茶筌と比べて大きいさまを「長い」と表している。例(6)は、話し手が女性の髪の毛の頭から腰までの距離を大きいと捉え「長い」と表している。例(7)は、話し手が列の先頭から最後尾までの列に沿った距離を大きいと捉え「長い」と表している。「列」は、川や茶筌などと異なり、人と人の間が空いており連続したものではないが、例(7)は、列の先頭から最後尾までを線状の一つのまとまりとして捉えていると考えられる。

さらに、例(4)(7)の「川」「列」は地面に水平であり、例(6)「髪」は垂直、例(5)は茶筌の向きが決まっていないことから、「長い」が示す対象の向きは、定まっていないうことができ、西尾 (1972) が指摘しているとおりでである。以上から、例(4)~(7)の「長い」は、線状の(あるいは線状と捉えられる)具体物の端からもう一方の端までの距離が大きいことを表しているといふことができる。(図 1)

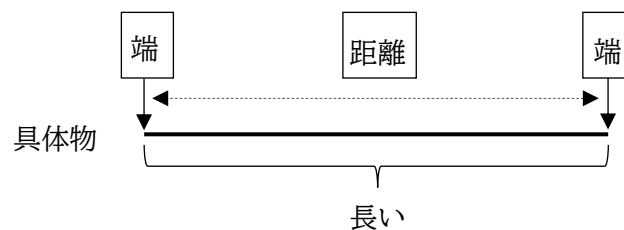


図 1 線状の具体物の「距離」を表す「長い」

- (8) 『丹後国式社證実考』などでは伊弉諾尊としている。これは、神代の昔、天にあった伊弉諾大神が、地上の籠宮の磐座に祭られた女神伊弉册大神のもとへ通うため、天から大きな長い梯子を地上に立てて通われたが、或る夜梯子が倒れてしまい天の橋

立となったといわれている。 (「北近畿統一」 NLT)

- (9) 内戦で破壊され、壁だけになった学校が修復され、再開されてから本当にわずかし
か経っていません。でも、子どもたちの目は輝いていました。一冊の、ぼろぼろの教
科書を3~5人で見るそうです。長い机に数人で座っていました。

(「シエラレオネ訪問記 手を貸す運動」 NLT)

- (10) 成人した女性はそれまで、鯨の骨を縫いこんだコルセットで腰を細く締め上げ、足
元まで覆い隠す長いスカートに身を包むのが普通でした。

(「国際事情特殊講義 D -vol.1- | 授業ルポ | 国士舘大学 政経学部」 NLT)

例(8)~(10)の「長い」は、具体物を面的に捉え、その最大辺や最大の距離に関して述べて
いる。つまり、面的な具体物を線的に捉えなおしていると言える。例(8)は、天から地上まで
届くほどの大きさの梯子について、その最大辺の端からもう一方の端までの距離が大きい
さまを「長い」と表している。例(9)は、話し手が数人の子供たちが並んで座れる大きさの机
の最大辺の端からもう一方の端までの距離が大きいさまを「長い」と表している⁴。例(10)は、
話し手が丈が足元まであるスカートのウエスト部分から裾までの距離を大きいと捉え、「長
い」と表している。また、例(8)~(10)の場合、最大辺とその他の辺との比率がある程度ない
と「長い」と言うことができない。例えば天板の横の距離が大きい机でも、縦も横と同じく
らい大きい場合は、「長い机」とは言うことができない⁵。

よって、例(8)~(10)の「長い」は、話し手が面として捉えた具体物の最大辺の端からもう
一方の端までの距離が大きいと捉えていることを表している。

- (11) 2カ所連続してトンネルがあるんだけど、1カ所目は外から出口が見えないくらい長
いトンネルなので、もしこれから行く人は覚悟してね。

(<https://dekoco.net/blog/3457>) 2019.03.13 検索

- (12) 長い廊下の両側には、錠(じょう)の下りた幾十という独房がズラリと並んでいた。

(小林多喜二「独房」 NLT)

⁴ 「机」は、最大辺に関して「*短い机」と言うことができず、人間が一人で使用するのに十分な大きさ
の机の最大辺が基準になると考えられる。

⁵ 小出(2000)は、久島(1993)を踏まえ、「長い」は「最大辺が他の辺に比して十分な線的な延びを持
つ」対象の最大辺について言われると述べている。

例(11)(12)は、トンネルや廊下といった人や車などが移動する通路について、「長い」と述べている。例(11)は、話し手が端（入口）からもう一方の端（出口）が見えないくらい距離のあるトンネルについて距離が大きいと捉え、「長い」と表している。例(12)は、話し手が両側に幾十もの独房が並んでいる廊下の端からもう一方の端までの距離を大きいと捉え「長い」と表している。

(13) マラソンといえばもうひとつ！

その長い距離に目がつきます。

誰でも知ってるマラソンの距離 42.195km

（「週刊スポーツ広場:走り編 ~体育の家庭教師」 NLT）

(14) 深夜 0 時半に宇都宮を出発して東北自動車道で山形へ。深夜で道が空いているとはいえ、300kmの長い道のりです。

（「月山 夜発日帰り登山 | 今日という日を忘れずに」 NLT）

例(13)(14)の対象は、人間が移動する経路に関するものである。例(13)は、話し手がマラソンのコースの始まりから終わりまでの距離を大きいと捉え、例(14)は、話し手が宇都宮から山形までの 300km の道のりを大きいと捉え、それぞれ「長い」と表している。例(13)(14)は、人間が移動する経路のある地点から別の地点までの距離が大きいことを「長い」と表している。

また通路や経路の場合、例(11)「外から出口が見えない」や例(14)「宇都宮を出発して山形へ」のように、前後の文脈に特に経路の始点と終点が現れているとき、距離の量だけでなく、始点から終点への到達ということも想起させる。これに関して、仲本（2000）による「アフォーダンスに基づく解釈」を確認する。

アフォーダンスとは、「環境が生体に提供する情報、特に、特定の生体の「行為の成立可能性」に関する情報」（仲本 2000：52）のことである。仲本（2000：56-58）によると、空間形容詞は幾つかの基本的な「空間スキーマ」に基づく典型的なアフォーダンスを表すという傾向がある。仲本（2000）は、空間形容詞を「位置」を表す形容詞と「規模」を表す形容詞に分類しているが⁶、「位置形容詞」は、一般に主語名詞が目標と解釈される場合、空間的な

⁶ 仲本（2000：56）は、位置形容詞の例として、「高い/低い」、「深い/浅い」、「遠い/近い」を、規模形容詞の例として、「大きい/小さい」、「広い/狭い」、「長い/短い」を挙げている。

「起点/経路/目標のスキーマ (Lakoff1987:275; 邦訳 332)」が喚起され、「目標」の到達可能性 (accessibility) という「目標のアフォーダンス」を表す傾向があり、一方「規模形容詞」は、一般に主語名詞が容器と解釈される場合「容器のスキーマ (Lakoff1987:272; 邦訳 329)」が喚起され、「容器」の収容能力 (capacity) という「場所のアフォーダンス」を表す傾向があるとしている。仲本 (2000) は「長い」を規模形容詞に分類しているが、「長い」の対象が例(11)「トンネル」や例(14)「道のり」のように経路と考えられる場合、位置形容詞のように「起点/経路/目標のスキーマ」が喚起され、終点(「出口」「山形」)への到達可能性というアフォーダンスも表していると考えられる。

(15) また、日本は南北に長い国です。沖縄はもう暑くても、北海道はまだ肌寒いという
特殊な気候風土をもっています。 (「社内文書/報告書」 NLT)

(16) 横に長い貨物列車がなくなったかわりに、今縦に長いビルがどんどん建っている。
(『朝日新聞』2000年03月09日朝刊 聞蔵IIビジュアル)

「長い」は、例(15)(16)のように「Nは(南北/縦横/上下などの向き)に長い」「(南北/縦横/上下などの向き)に長いN」の形式で、ある範囲や向きにおいて対象の端からもう一方の端までの直線的な距離が大きいさまを表す。例(15)「南北に長い日本」は、日本列島に沿った距離ではなく、北海道の緯度と沖縄の緯度の距離が大きいさまを表している。例(16)「縦に長いビル」は、ビルの高さではなく、ビルの屋上とビルが地面に接する箇所間のビル自体の距離が大きいと捉えていることを表している。例(16)と類義の表現である「高いビル」の場合、図2のように地面から上方へ向かう方向性が考えられ、焦点は屋上の位置にあるが⁷、「縦に長いビル」では、「横に長い貨物列車」と対比して特に「縦」方向に注目し、屋上と地面の間という縦方向の2点間の距離に焦点を当てている。

⁷ 第5章参照

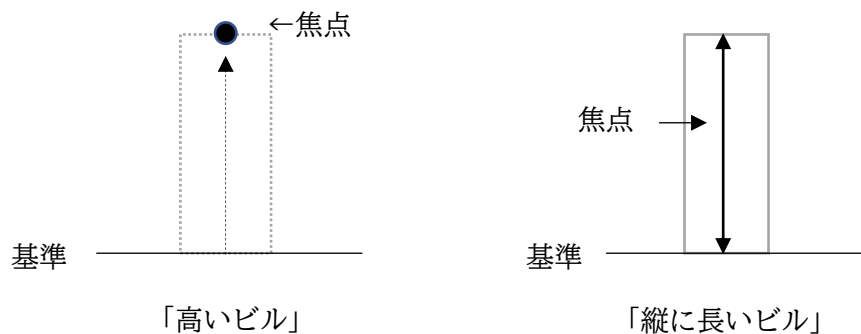


図2 「高い」と「縦に長い」の焦点化される要素

ある対象について「長い」というとき、その対象が線や棒などの場合は形状の特徴から両端の間の距離に条件なしにアクセスできることが多いが、対象が面として捉えられる場合には、線的に捉えなおす際に複数の距離が考えられる。例えば例(8)「梯子」、例(9)「机」などのように移動可能なものを「長い」という場合はその最大辺にアクセスされやすい。一方、例(15)「国」、例(16)「ビル」のように移動不可能なものの場合は、どの距離に焦点を当てているかを限定するために「(南北／縦／横などの方向)に」を伴うと考えられる。

(17) カシミヤの温かそうなコートが彼女の肩を覆い、長い裾が細いふくらはぎを隠す。

(ミシェル・リード/水間 朋(訳)『シチリアからの誘惑者』 BCCWJ)

(18) アウトレットでケイトスペードのミリタリーコートのMサイズを購入しました。(中略) 凄くお得価格だったから衝動買いしちゃいました。

家で冷静に考えたら袖口一回折らないといけないくらい袖口が長いのです。

アメリカ製だから仕方がないものなののでしょうか？

(https://women.benesse.ne.jp/forum/zboca040?CONTENTS_ID=010H0101&MESSAGE_ID=120436&SEARCH=no) 2019.03.29 閲覧

例(17)(18)は、衣服の「裾」「袖口」について「長い」と述べている。例(17)は、着用した状態でコートの裾が話し手の何らかの基準より地面の方向に伸びている距離が大きいさまを「長い」と表している。例(18)は、コートの袖口が話し手が適切であると考えられる位置より手の方向に伸びている距離が大きいさまを「長い」と表している。よって、例(17)(18)の「長い」は、対象の端が話し手の考える何らかの基準より延長している距離が大きいさまを表し

ている。また、裾や袖口は衣服の端であることから、図3のように例(17)(18)の「長い」はその位置に焦点が当たっていると言うことができる。

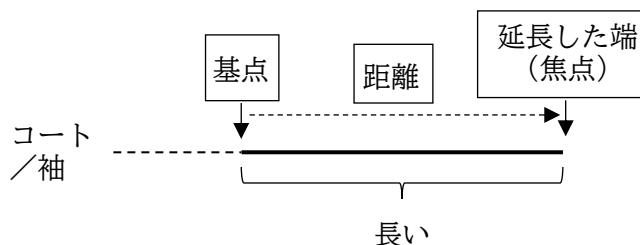


図3 「長い裾/袖口」の「長い」の示す範囲

以上の例から、「長い」の意味は、その構成要素として「基点となる端」「もう一方の端」「距離」の3つが考えられ、焦点化される要素の違いにより、次の2種類にまとめられる。

- (19) a. [距離] を焦点化：川、柄、トンネル、距離・・・
- b. [もう一方の端]：裾、袖

このように、例(4)～(18)の「長い」は、その構成要素「距離」、「もう一方の端」の2つのいずれかに焦点が当たっていると言える。

以上の分析から、意味①の「長い」は対象の向きは限定されておらず、従って意味①は、
<線状の(あるいは線状と捉えられる)対象の端から><もう一方の端までの><距離が>
<大きい><さま>と記述できる。

8.3.2. 非空間的用法

本節では、「長い」の非空間的用法における意味の分析を行う。

8.3.2.1. 意味②<(行為や状態の)開始時点から><終了時点までの><時間量が> <大きい><さま>

(20) その時期ならやっぱり飛行機かな。9月3日ならそれ程高くないと思います。新幹線も若干安いけど、やはり乗っている時間が長いです。 (Yahoo!知恵袋 BCCWJ)

(21) 1年で最も昼が長い夏至の22日早朝、伊勢市の二見興玉神社で夏至祭があった。

(『朝日新聞』2019年06月23日朝刊 聞蔵IIビジュアル)

(22) 先日、函館港に陸揚げされた北海道新幹線。休みをとって撮影に行きました！（中略）陸揚げから陸送、朝5時から深夜1時までの長い一日を終え、家に帰り写真を見ると、隣で撮っていた「鉄子」ではない妻の方がよく撮れているではないか！

（『朝日新聞』2014年11月12日夕刊 聞蔵IIビジュアル）

例(20)は、飛行機と比べて新幹線に乗っている時間量が大きいさまを「長い」と表している。例(21)は、一年のうちで夏至の日の昼の時間量が他の日より大きいさまを「長い」と表している。例(22)の「一日」は、24時間のうち起きて活動している時間のことと考えられ、話し手が朝5時から深夜1時までの活動した時間について、話し手の経験をもとにした時間の量を基準として大きいと捉え、「長い」と表している。よって、例(21)～(22)では、時間の進行を線的に捉え、「新幹線に乗ってから降りるまで」「昼の開始から終了まで」、「朝5時から深夜1時まで」という時間軸上の2点間の距離が大きいさまを「長い」と表しているが、例(20)(21)では、「～から～まで」という開始時点や終了時点が明示されていないことから、その間の時間量に焦点が当たっていると考えられる。（図4）

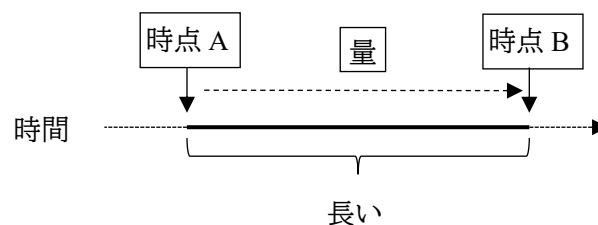


図4 「時間」を表す「長い」

(23) 「国際平和ビューロー」というのは、1892年といいますが、もう105年の歴史を持つ、長い歴史を持つ平和団体です。1910年にはノーベル平和賞も受賞しています。

（国際司法裁判所の勧告的意見と今後の核兵器廃絶運動 安原 幸彦弁護士） NLT

(24) 僕はドイツ留学前の中学2年まで磐田市で過ごしました。（中略）ドイツ留学後は中国、ロシアなど海外生活が長かった。日本に落ち着いたのは昨年6月ぐらいから。

（『朝日新聞』2019年01月01日朝刊 聞蔵IIビジュアル）

(25) 海外でようやく知られ始めた「絶対に緩まないナット」だが、日本では長い実績と信頼がある。新幹線では20年を超えて車両下の機材を締め付ける。東京スカイツリーの躯体（くたい）を支える数十万個のねじに使われ、瀬戸大橋にも――。

(『朝日新聞』2013年11月23日朝刊 聞蔵IIビジュアル)

例(23)は、話し手が「国際平和ビューロー」の設立からの105年間の歴史が時間的に大きいと捉え「長い」と表している。例(24)は、話し手が、中学生の時からドイツに留学し、その後中国やロシアなどに住んでいたことから、海外生活の期間を大きいと捉え「長い」と表している。例(25)は、「絶対に緩まないナット」について、ようやく知られ始めた海外に比べ、日本では新幹線の車両に20年以上使われていたり、東京スカイツリーや瀬戸大橋など大規模な建造物に使われていたり、実績と信頼を得ている期間が大きいと話し手が捉え「長い」と表している。例(25)～(24)「歴史」「生活」「実績と信頼」は人間の営みに関するものであり、それらの時間的な側面に関して話し手が大きいと捉え、「長い」と述べている。

(26) 先日、函館港に陸揚げされた北海道新幹線。休みをとって撮影に行きました！（中略）陸揚げから陸送、朝5時から深夜1時までの長い一日を終え、家に帰り写真を見ると、隣で撮っていた「鉄子」ではない妻の方がよく撮れているではないか！

(=(22))

(27) 榛名町の酪農業長壁英樹さん（二五）が約一年前から同町下室田の榛名山ろくに造っていた丸太小屋（ログハウス）がこのほど、完成した。（略）建築は昨年四月末に始めた。木を伐採するための道造りから取りかかった。別の場所で、一度仮組みをしたあと、昨年十一月から実際の建築が始まった。丸太と丸太の間に、せっかいを詰めたが、寒い時期に工事をしたので、すぐにひび割れてしまうなどの失敗もあった。屋根をふいたときはちょうど雪が降っていた。（略）「一年は長かったが、何でもできるという自信がついた」と英樹さん。

(『朝日新聞』1999年05月20日朝刊 聞蔵IIビジュアル)

(28) いまも毎朝5時半、避難前と同じように目をさます。しかし、牧場もなく、牛もいない。避難先の周りをあてもなく歩くが、1日が長い。仕事もしていないのに疲れがたまり、体調も悪くなった。

(『朝日新聞』2015年06月28日朝刊 聞蔵IIビジュアル)

例(26)～(28)は、いつ、誰にとっても時間量が同じであるはずの「一日」「一年」を「長い」と表している。例(26)は先述したように、話し手が朝5時から深夜1時まで活動していた時

間を大きいと捉え「長い一日」と表していると考えられるが、例(27)(28)も同様に、人間がその期間に（何らかの特定の）活動をしている時間のことを「一日」「一年」と表していると考えられる。例(27)は、話し手が丸太小屋が完成するまでの一年の間に失敗など困難なことがあったため時間が多くかかったように感じ、そのため丸太小屋を建てていた一年の時間量が大きかったと捉えていることを「長い」と表している。例(28)は、毎朝5時半に起きるが牧場での仕事もなく、避難先の周りをただ歩いていても時間がなかなか過ぎないことを「長い」と述べている。例(28)は、活動する時間にしたいことやしなければならないことなどが無いことから時間が過ぎるのが遅く感じられ、結果として時間的な量が大きいと捉えていることを「長い」と表している。このように、例(27)は、ある期間にやるが多かった状況であるが、例(28)は、やることがなかった状況であり、話し手の主観的な時間の捉え方によりどちらも「長い」と表すことができる。また、例(27)(28)は、主体がある時間的範囲で物事が起こることを心的にたどることにより、その経過に焦点を当てていると考えられる。

(29) 3日午前10時、対局開始。持ち時間は各5時間。昼食、夕食休憩をはさむ長い1日が始まった。 (『朝日新聞』2017年08月10日夕刊 聞蔵IIビジュアル)

例(29)「長い1日」は、時間の量だけでなく将棋の対局で勝負が決まるまでに様々な局面（各々の棋士にとって困難な局面）が予想されることも表していると考えられるが、このように考えられるのは、例(27)のように、我々が百科事典的知識として、困難なことや大変なことがある期間を「長い」と捉えることがあることを共有しているためと言える。⁸

以上から、意味②の「長い」は、<（行為や状態の）開始時点から><終了時点までの><時間量が><大きい><さま>と記述できる。

8.3.2.2. 意味③<言語活動（特に文書）の始まりから><終わりまでの><量が><大きい><さま>

(30) 「子どもの頃から、読む本が終わりに近づくと、さみしくて、さみしくて。だから読

⁸ 例(27)(29)は、ある期間において<やるべき事柄に困難さや大変さを伴うことが多い状況>という制約が、例(28)は、ある期間において<すべきことがない状況>という制約が、意味②に加わったシネクドキ一的な拡張とも考えることができる。

んでも読んで終わらない長い話を、自分で書こうと思ったんだよ

(『朝日新聞』2017年05月06日夕刊 聞蔵IIビジュアル)

(31) 業務を効率化するために社内会議の参加者を絞りこみ、事前に資料配布する方法も紹介。10行以上の長いメールはやめて電話や面談で伝えることや、簡潔な資料作りなどを勧めた。 (『朝日新聞』2017年06月28日朝刊 聞蔵IIビジュアル)

(32) ときには、原稿用紙で手紙を書くこともあった。「明暗」執筆中の16年8月24日に芥川龍之介、久米正雄にあてて書かれた11枚にわたる長い手紙もその一つ。

(『朝日新聞』2002年05月02日朝刊 聞蔵IIビジュアル)

例(30)~(32)は、文書の始まりから終わりまでの量についてである。例(30)は、作家(話し手)が「読んで読んで終わらない」くらいの話(物語)の量を大きいと捉え「長い」と表している。例(31)は、10行以上のメールについて、話し手がメールの文章全体の量を大きいと捉え「長い」と述べている。例(32)は、話し手が夏目漱石の書いた原稿用紙11枚の手紙の分量について大きいと捉え「長い」と表している。言語は、線状性の性質を持つため、話す場合も書く場合も、個々の要素を順に並べていかなければならない(靱山2010:30-31)。この線状性の性質によって、人間は言語表現を線的に捉え、その始まりと終わりの2点間の(文字列の)距離が大きいさまを「長い」と表すことができる。しかし、実際には、我々は紙に書かれている文章を視覚的にひとまとまりで捉えたり、紙の束などで量的に捉えたりしており、その量は空間的な距離や時間量に還元できない量だと言うことができる。よって、例(30)~(32)の「長い」は、文書の始まりから終わりまでの全体量が大きいさまを「長い」と表していると考えられる。

(33) 職場で中国人は1人きりで、「陳くん」と呼ばれていた。日本語で長い会話はできなかった。 (『朝日新聞』2013年03月15日夕刊 聞蔵IIビジュアル)

例(33)は、中国人社員と日本語での会話があまり続かないことを「長い会話ができない」と述べている。日本語の習得が不十分などの理由で、この中国人の会話量が少ないと考えられる。つまり、例(33)の「長い」は、会話の始まりから終わりまでの量が大きいさまを「長い」と表していると言うことができる。

(34) 私が、小学校2年生によく語るのは、「番ねずみのヤカちゃん」(リチャード・ウィルバー作、松岡享子訳、福音館書店)。テンポよく語って2.0分かかる長い話ですが、みな夢中で聞いてくれます。

(『朝日新聞』2014年10月07日朝刊 聞蔵IIビジュアル)

例(34)「テンポよく語って20分かかる長い話」のように、記述されたものでも発話による活動は時間で捉えられやすい。これは、記述されたものが視覚的に線状のものと捉えやすいのに対し、発話されたものは言語の線状的な性質が背景化し、まとまった内容を話したり聞いたりすることにかかる時間のほうに焦点が当たるためと考えられ、このことから発話の量は意味②の「時間が長い」と捉えることもでき、従って意味③は意味②と連続的だと言える。

以上から、意味③の「長い」は、<言語表現(特に文書)の始まりから><終わりまでの><量が><大きい><さま>と記述できる。

なお、先行研究で概観した飛田・浅田(1991)の「規模が大きい様子を表す」場合の用例では、「長い」の対象は「話」「小説」「オペラ」であるが、これらはどれも言語活動とすることができ。また、我々は、言語活動をひとまとまりの量として捉え、その量は空間的な距離や時間量に還元できない量だと考えられることから、意味③も自立した意味とすることができ、(特に発話行為では)意味②の時間の量と捉えられる場合もあり、意味③の自立性は意味①、意味②に比べて低いと考えられる。

8.4. 「長い」の多義構造

本節では、これまでの分析を踏まえ、「プロトタイプの意味の認定」「複数の意味の相互関係の明示」「複数の意味すべてを統括するモデル・枠組みの解明」について検討する。

以下に、意味①～③を再掲する。

意味①<線状の(あるいは線状と捉えられる)対象の端から><もう一方の端までの><距離が><大きい><さま>

意味②<(行為や状態の)開始時点から><終了時点までの><時間量が><大きい><さま>

意味③<言語活動(特に文書)の始まりから><終わりまでの><量が><大きい>

<さま>

8.4.1. プロトタイプの意味の認定

梶山 (1995: 634-635) は、「長い」のプロトタイプの意味について副詞化した「長く」が<空間>についても<時間>についても表すことができることから、共時的な言語事実からは<空間>と<時間>のいずれの意味がプロトタイプの意味であるか認定できないと述べている。

本節では、「長い」のプロトタイプの意味の認定に際し、「長い N」の使用頻度を検討する。「現代日本語書き言葉均衡コーパス (BCCWJ)」で、「長い N」の形式で「長い」と共起する名詞 (N) の使用頻度上位 100 位までを調査し、用例における「長い」の意味が意味①<距離>、意味②<時間>、意味③<言語活動の量>、その他 (複数の意味で使用、N が形式名詞、文型が「N1 が長い N2」など) のどの意味で用いられているか考察する。(表 1)

表 1 「長い N」の意味別の共起語

意味① (41 語)	意味② (26 語)	意味③ (7 語)	その他 (26 語)
⑥髪、⑮廊下、⑰距離、まつ毛、列、脚、指、黒髪、行列、足、トンネル、棒、首、腕、階段、毛、スカート、尾、影、柄、鼻、裾、橋、石段、下、道、顔、直線、ひげ、コート、テーブル、尻尾、槍、波長、鎖、ロープ、坂、手足、竹、線、ひも	①間、③時間、④年月、⑤歴史、⑦期間、⑬付き合い、⑯人生、歳月、沈黙、夜、伝統、冬、溜め息、眠り、戦い、休み、月日、経験、闘病、息、戦争、夏、夏休み、夢、一日、時代	文章、手紙、名前、文、引用、単語、詩	②こと、⑧(地域)、⑨の、⑩もの、⑪目、⑫(数字)、⑭ほう、⑯ん、⑰とき、⑱旅、話、道程、よう、(一般)、人、場合、(人名)、ため、航海、まま、奴、旅路、わけ、者、ところ、人類、

以下に、各意味に相当する用例を挙げる。

- (35) まわりつく暗い想いを払おうと、千夏は頭を振った。美しく長い髪が、背中にさりりと流れた。(意味①)
- (36) 有紀子は長いあいだ黙っていた。ときおり夜間輸送のトラックが窓の下の道路を通り過ぎていった。(意味②)
- (37) 郵便受けから青い封筒がちらりとのぞくたびに、ジェンの心臓は飛びあがりそうになった。たいていは分厚くふくらんでいた。おそらくニュースを書きつらねた長い手紙が入っているのだろう。(意味③)

((35)~(37) BCCWJ)

使用頻度が上位 100 語では、意味①が 41 語、意味②が 26 語、意味③は 7 語となり、意味①が最も多い。一方、上位 20 語 (①~②⑩) を見ると、意味①が 3 語、意味②が 7 語、意味③は 0 で、意味②が最も多い。つまり、意味①はより多くの語と共起し、意味②は共起する語は意味①より少ないが使用される機会が多いとすることができる。

糸山 (2020: 177-178) は、「タマゴ」のプロトタイプ的意味について、意味①<タマゴ一般>と意味②<鶏卵>の 2 つだと述べているが、その理由として、この 2 つの意味は同程度に頭に浮かびやすく、従って両者は同程度に自立性を有していることを挙げている。また、糸山 (2021: 133) は、意味①と意味②は他の意味 (③④) と比べて共起できる表現が多様であるという用法上の制約 (共起する表現の自由度) の観点からも、「タマゴ」のプロトタイプ的意味は、意味①と意味②の 2 つだとしている。

第 2 章で次元形容詞のプロトタイプ的意味は空間的用法であると考えられることを述べたが、「長い」の場合、意味①はより多くの語と共起し、意味②は共起する語は意味①より少ないが使用機会が多いという上記の考察から、意味①<距離>と意味②<時間>は同程度に自立性を有していると言いき、また、いつも空間を通して時間を把握しているとは考えにくい。意味③は上位 100 語における使用頻度が最も低く、上位 20 語には 1 語も入っていないことから、意味①②より自立性が劣ると言える。よって、「長い」のプロトタイプ的意味は、意味①<距離>と意味②<時間>と考えられる⁹。

⁹ 簡易な想起テスト (対象者: 20 代から 30 代の成人男女 9 人、設問: 「長い ()」に入る言葉を 10 個挙げる) を行ったが、1 番目に挙げた回答は、<距離>が 5 人 (「机」「橋」「ひも」「しっぽ」「髪」)、<時間>が 4 人 (「時間 (2 人)」「一週間」「間」) であったため、「長い」は<距離>と<時間>のどちらも想起されやすい可能性がある。

8.4.2. 複数の意味の相互関係と多義構造

本節では、これまでの分析を踏まえ、「長い」の複数の意味の相互関係について記す。

意味①は空間的用法、意味②③は非空間的用法である。意味①と意味②は、共時的にはプロトタイプの意味であるが、意味①の空間における2点間の距離と意味②の時間軸上の2つの時点間の時間量が類似していることに基づく、意味①から意味②へのメタファーによる拡張とすることができる。

意味③は、文章などの言語表現を線的に捉え、その始まりと終わりという2点間の距離が大きいとき、その文章の全体的なまとまりの量も大きいという同時性に基づき、意味①からのメトニミーによる拡張が考えられる。この場合、意味①と意味③の基盤を成すフレームとして「文書」のフレームが想定できる。このフレームは、「文や文章の始まりから終わりまでの（文字列の）距離」と「文や文章のまとまりの量」を構成要素とし、意味①は「文や文章の始まりから終わりまでの（文字列の）距離」に焦点が当たり、意味③は「文や文章のまとまりの量」に焦点が当たっていると言することができる。（図5）

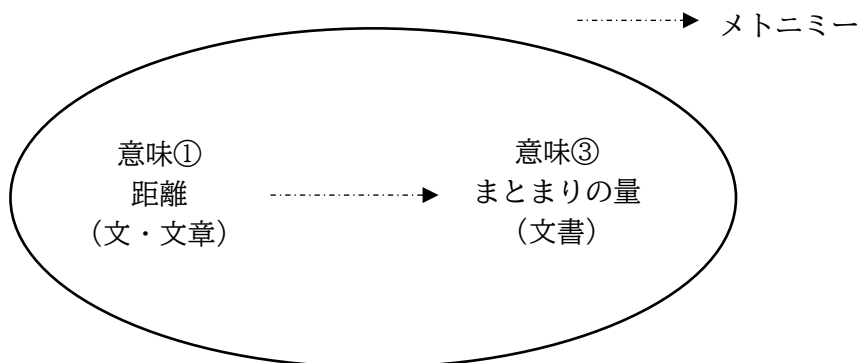


図5 「文書」のフレームに基づく「長い」の多義構造

また、意味③は、文章などの全体的なまとまりの量が大きいとき、読んだり話したりするのに時間がかかるという因果関係にもとづく意味②からのメトニミーによる拡張も考えられる。この場合、意味②と意味③の基盤を成すフレームとして「言語活動」のフレームが想定できる。このフレームは、発話など「言語活動にかかる時間」と「言語活動の量」を構成要素とし、意味②は「言語活動にかかる時間」に焦点が当たり、意味③は「言語活動の量」に焦点が当たっていると言することができる。（図6）

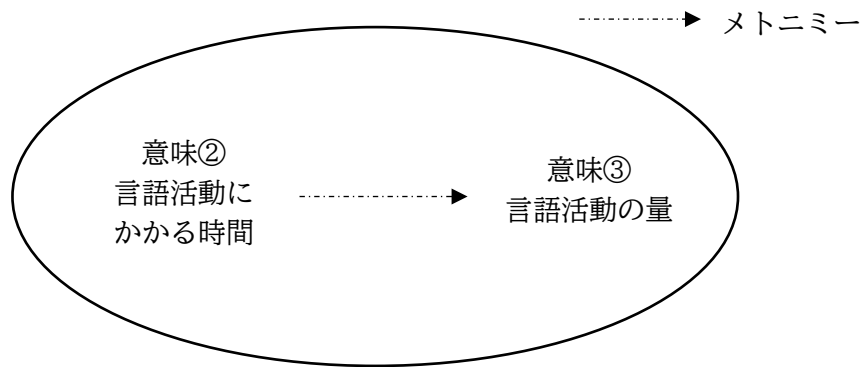


図6 「言語活動」のフレームに基づく「長い」の多義構造

また、意味①②は、メタファーの関係で結ばれており、次のようなスキーマが抽出できると考える。

スキーマ：＜線状に捉えられる対象の2点間の量が大きいさま＞

これまでの考察から、「広い」の個々の意味拡張を含む多義構造は図6のようになる。なお、プロトタイプ的意味を太線で囲んで示す。楕円は、「文書」のフレーム(①)と「言語活動」のフレーム(②)を表す。

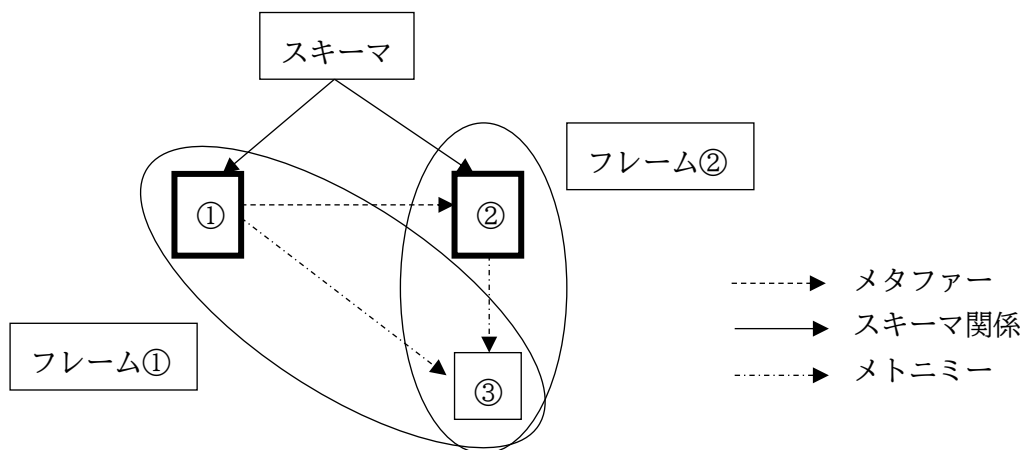


図7 「長い」の多義構造

8.5. おわりに

本章では、「長い」の意味を分析した。まず、以下の通り3つの意味とスキーマを1つ認

定した。

意味①<線状の(あるいは線状と捉えられる)対象の端から><もう一方の端までの><距離が><大きい><さま>(プロトタイプの意味)

意味②<(行為や状態の)開始時点から><終了時点までの><時間量が><大きい><さま>(プロトタイプの意味)

意味③<言語活動(特に文書)の始まりから><終わりまでの><量が><大きい><さま>

スキーマ:<線状に捉えられる対象の2点間の量が大きいさま>

意味①は空間的用法であり、意味②③は非空間的用法である。意味①~③の各意味間の相互関係については、意味①と意味②を「長い」のプロトタイプの意味と認定し、意味②は意味①からのメタファーによる拡張であることを述べた。意味③については、言語活動の量は空間的な距離や時間量に還元できない量と考え、自立した意味と認めた。そして、意味③が意味①または意味②よりメトニミーに基づき拡張していることを示し、さらに、意味①と意味③、意味②と意味③のそれぞれの拡張の基盤として、「文書」のフレームと「言語活動」のフレームが考えられることを述べた。また、意味①と意味②のスキーマを抽出した。最後に、これら個々の意味の相互関係とその基盤を形容詞「長い」の多義構造として図示した。

第9章 類義語分析

9.1. はじめに

第4章から第8章まで「深い」「高い」「遠い」「広い」「長い」を多義語として意味分析したが、これらの形容詞は、文脈によって「関心が深い／高い」のように類似の意味を表す場合がある。本章では、「深い」「高い」「遠い」「広い」「長い」を類義語とみなし、これまでの分析をもとに意味的な類似点及び相違点について考察する。

本章の概要について述べると、2節で類義語について先行研究を概観する。3節で上記の5つの形容詞の空間的用法の意味についてまとめる。4節で「深い」と「高い」がそれぞれ「関心」「関係」「レベル」と共起する場合の意味の類似点と相違点を考察する。5節で「長い」「遠い」「深い」について、空間から時間へ意味拡張する場合をフレームの観点から考察する。

9.2. 類義語に関する先行研究の記述

本節では、類義語に関する先行研究として、長嶋（1982）と李（2020）を概観する。

まず、長嶋（1982：43-46）は、類義語について次のように述べている。

ある単語の意味は、その単語がどういう場面・状況で（どのような事物—具体物であれ抽象物であれ—について）用いられるか、またどのような文脈で用いられるか、によって条件づけられる。前者をその単語の場面的機能、後者を文脈的機能と呼ぶと、類義語とはこの二つの機能において著しく類似している単語を指し、また同義語とはこの二つの機能がまったく同じ単語を指すということになる。そして、一般に、ある単語の場面的機能はその単語の文脈的機能に反映するから、たとえば、生まれた年をも問題にする「生年月日」は「誕生日」とは違って次のような文脈では使えない。

- a 今日が僕の誕生日だ。
- b ×今日は僕の生年月日だ。

（長嶋 1982：43）

また、長嶋（1982：45）は、単語の意味は、その単語が語彙の部分体系の中のどのような単語と対比されるかによっても規定され、この観点により個々の単語の意味がいくつかの

弁別的要素（あるいは特徴）から構成されるという考え方が可能だと述べている。例えば、「走る」「駆ける」「歩く」は、「考える」「覚える」との対比により＜身体的活動＞という要素を持つと言え、また、「走る」「駆ける」は、「歩く」との対比から＜速い＞という要素を含むことがわかる。このように、それぞれの語の要素を比較することで、「走る」は「歩く」よりも「駆ける」により近いということが説明でき、二つの単語の属する意味分野（それらの共有する要素）が多いほどその類義性が高いと言える」と述べている。このように、長嶋（1982）は、類義語は「単語の場面的・文脈的機能において著しく類似している単語」であり、二つの単語が共有する意味の要素という観点から類似性を説明できると記述している。

次に、李（2020）を概観する。李（2020：16-18）は、山田（2017）等を踏まえ、類義語を「問題となる2つの語について、ある言語共同体の成員が以下に示す認定基準に基づき、総合的に判断し、意味が近いと認めた場合」（李 2020：16）とし、次の4つの認定基準を示している。

A. 2語の指示対象¹が完全に重なる

例：あした／あす 本／書物 腐る／腐敗する いく／ゆく
 同じだ／等しい たちまち／あっという間に

B. 2語の指示対象が一部重なる

例：準備／用意 うれしい／たのしい まわる／めぐる
 どことなく／なんとなく

C. 2語において、一方の指示対象が他方を包摂する

例：木／材木 金／金属・金銭 なく／ほえる・いなく
 うまい／おいしい・上手だ

D. （本来）指示対象の異なる2語が、何らかの観点から一部重なりと判断される

例：貯金／預金 駐車／停車 注意報／警報 きり／もや

なお、以上のA～Dの基準は、問題となる2語が同じ文脈を共有する（同じ文脈での入れ替えが可能である）場合を前提とする。

（李 2020：17）

¹ 李（2020：17）は、「指示対象」について、「語が適用される事物・事態の範囲、すなわち概念で言えば外延に相当するもの」としている。

李 (2020: 18) は、4つの基準のうち、AとCに関して、山田 (2017: 142) が「うまい」は「おいしい」の他に「じょうずだ」とも類義関係にあり、かつそれを包摂し、また「腐る」は「腐敗する」の他に「ふてくされる」と類義関係にあり、かつそれを包摂することから、「腐る／腐敗する」と「うまい／おいしい」の関係は近いと述べていることを挙げ、AとCの分類基準は、必ずしも明確と言えず、境界線は曖昧だと述べている。

以上、類義語に関する先行研究として、長嶋 (1982) と李 (2020) を概観した。

9.3. 空間的用法 (1次元の量を表す場合) のまとめ

西尾 (1972: 73) は、「長い」は「1次元の量を表す形容詞の中で、いちばん代表的なもの」であり、「高い」「深い」「遠い」はそれぞれの条件のもとにおける「長い」と言い換えられ、具体的な諸条件を捨象すれば、1次元の延長について「長い」を適用できると述べている。例えば、「距離が遠い／長い」「(背が) 高い／長いはしごが必要だ」は、文全体の意味がおよそ変わらないと考えられるが、「深い海に潜った」は、「*長い海に潜った」とは言えず、「下方に距離が長い海に潜った」などとなり、「長い」のみでは上で述べた李 (2020) の「同じ文脈での入れ替えが可能」という類義語と認める前提には当てはまらない。一方、「広い」を含めたこれら5つの形容詞は、空間における何らかの1次元の量が大きいさまを表すという点でやはり類似していると言えることから、本節では、「二つの単語が共有する意味の要素」(長嶋 1982) の観点から、類義語として意味の類似点と相違点を確認することにする。

なお、本節では、1次元の量に関する意味のうち、「深い」「高い」「遠い」「長い」はプロトタイプの意味である意味①を、「広い」は1次元を表す意味③を対象として考察する。

以下に、各意味を再掲する。

「深い」：意味①<水平面から><鉛直方向に><内部へ向かう><距離が><大きい><さま>

「高い」：意味①<基点から><垂直上方に向かう><距離が><大きい><さま>

「遠い」：意味①<基点から><目標地点までの><隔たりが><大きい><さま>

「広い」：意味③<幅の伸びが><大きい><さま>

「長い」：意味①<線状の(あるいは線状と捉えられる)対象の端から><もう一方の端までの><距離が><大きい><さま>

まず、「深い」は「深い海」のように、<基点から鉛直方向に向かう距離>を表し、「高い」は「高いビル」のように、<基点から垂直上方に向かう距離>を表している。この2つは、基点からの方向に焦点が当たり、その方向は上下が逆であると言える。「遠い」は「遠い惑星」のように、<基点から目標地点までの隔たり>を表し、目標地点に焦点が当たり、基点から対象が離れている（隔たっている）際の量を表している。「長い」は「長い川」のように、<対象の端からもう一方の端までの距離>を表し、方向性はなく、対象の距離（量）そのものに焦点が当たっていると言える。「広い」の意味③に関しては、第7章で「広い場所」のフレームを提案し、広い場所はその地面の「端から端までの距離が大きい」という1次元的な特徴が認められる場合だと述べた。つまり、「広い」の意味③は、「長い」と同様に距離に焦点が当たっているが、「広い場所」というフレームが基盤となっていると言える。以上から、これら5つの形容詞の意味には、「量」「基点」「終点」「方向」「面」のいずれかが含まれると考えられる。本節では、これらを空間の量を表す要素とみなし、各形容詞の要素を図1のようにまとめる。なお、太字は焦点が当たっている要素である。

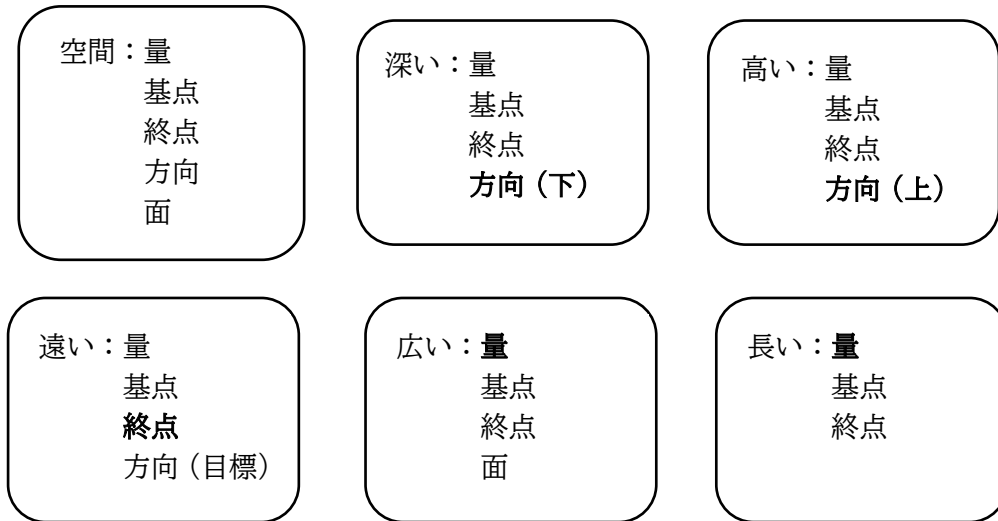


図1 「空間」の構成要素と各形容詞の構成要素

各形容詞の意味は「基点」と「終点」の間の「量」を表すという点で類似しているが、この3つの要素は「長い」の要素であることから、「長い」と「深い」「高い」「遠い」「広い」は類似していると言うことができる。また、「深い」「高い」「遠い」は、「方向」の要素があ

るが、具体的な方向はそれぞれ「下」「上」「目標」と異なっており、また、「広い」は「面」の要素を含んでいる点が他の4つの形容詞と異なる。

9.4. 非空間的用法における「深い」「高い」

本節では、「関心」「関係」「レベル」と共起する場合の「深い」「高い」の意味の類似点と相違点を考察する。

形容詞「深い」「高い」は、ともに「基準となる水平面に対して垂直な次元における次元の量を表す次元形容詞」（西尾 1972：244）とすることができるが、水平面に対する向きは「深い」が下向き、「高い」が上向きと異なる。しかし、非空間的な用法である例(1)は、「高い」を「深い」に置き換えても対象の何らかの程度が大きいさまを表し、文全体のおよその意味は変わらないため、両語は李（2020）が定義する類義関係にあると言える。

- (1) ロンドンのサディク・カーン市長は、初のイスラム教徒の市長で、人権派弁護士のキャリアがあります。マイノリティーや社会的に立場の弱い人たちへの関心が高い（深い）。（『朝日新聞』2018年03月07日朝刊 聞蔵IIビジュアル）

本節では、第4章、第5章の分析結果をもとに、「深い」「高い」が共に対象とする名詞のうち、コーパス²において使用頻度が高い「関心」「関係」「レベル」と共起する場合の類似点、相違点について考察する。

9.4.1. 「深い／高い関心」

「関心」と共起する場合、「深い」は意味⑥、「高い」は意味⑦が対応すると考えられる。

「深い」：意味⑥<物事に対して生じる気持ちが持続的で心の底から感じるほどに
程度が><大きい><さま>³

「高い」：意味⑦<人が物事に対して持つ思考や関心の程度が><大きい><さま>

² 筑波大学・国立国語研究所・Lago 言語研究所『NINJAL-LWP for TWC』（<http://nlt.tsukuba.lagoinst.info>）

³ 「深い」の意味⑥の記述は、感情や信仰なども含めた精神的活動についてのものであるが、本節では関心や興味についてのみ検討する。

- (2) 市場での関心が高い(*深い)「民泊」にも積極的な取り組みをみせる同社の古木大咲社長に今後の経営戦略を聞いた (<https://kabutan.jp/qa/20160328/>) 2021.09.19 検索
- (3) 障スポの前身・全国身体障害者スポーツ大会の第1回が岐阜県で開かれたのは65年。皇太子ご夫妻時代の両陛下は毎年、とくだんの事情がない限り欠かさず開会式に出席し、会場を精力的に回った。(略) 皇后さまと長年の親交がある日本赤十字社の近衛忠てる(ただてる)社長は、「皇后さまは障害者福祉に深い(?高い)関心を持たれ、一貫して障害に立ち向かう人たちに心を寄せてこられた。
- (『朝日新聞』2016年05月23日朝刊 聞蔵IIビジュアル)
- (4) ロンドンのサディク・カーン市長は、初のイスラム教徒の市長で、人権派弁護士のキャリアがあります。マイノリティーや社会的に立場の弱い人たちへの関心が高い(深い)。 (=1)

例(2)は、市場での民泊への関心について「高い」と述べているが、民泊は、一般的に既存のホテルや旅館などと比べ料金が安いなどの理由で人気があり、不動産市場(企業)の関心の程度が大きいと考えられる。この場合の「高い」は、「MORE IS UP(より多きは上)」という上下のメタファー(Lakoff & Johnson1980)が基盤となり、特定の物事に向ける関心を量的に捉え、それが大であることを表している。例(3)は、皇后が障害者福祉に関心があることについて「深い」と述べている。皇后が身体障害者のスポーツ大会の開会式に毎年出席し、一貫して障害に立ち向かう人たちに心を寄せてきたことから、皇后の障害者福祉に対する関心は長い間変わらないと言える。「深い」は容器のイメージスキーマの概念で説明できるが、容器の口が基準となり、容器の底に当たる点、口から底までの中身とその2点間のベクトル⁴を持つ隔たりという要素が考えられる。これらの要素を持つフレームを「容器」のフレームと考えると、この場合の「深い」は、「容器」のフレームが基盤となり、関心(中身)が心(容器)の奥底まで満たされていると考えられ、心の底からの強い関心は変わりにくいと言うことができる。

次に、両語の置き換えが可能か検討する。例(2)では、企業の民泊についての関心は、人間の気持ちのように心的なものとしては捉えにくいいため、「高い」を「深い」に置き換えることは容認できない。例(3)の「深い」を「高い」に置き換えると、皇后の関心の持続性や心の

⁴ 本章では、ベクトルを「ある起点からの一方向性」(国広1982:167)とする。

底から関心を持っている様子が感じられにくいため容認度が下がると考える。

また、例(4)の「関心が高い」については、例(2)と同様に「マイノリティーや社会的に立場の弱い人たちへの関心」の程度が大きいさまを表しているが、「高い」を「深い」に置き換えると、「初のイスラム教徒の市長で、人権派弁護士のキャリアがある」ことから、心の底から持続的に関心を持っているさまを表すと言うことができる。

9.4.2. 「深い／高い関係」

「関係」と共起する場合、「深い」は意味⑨、「高い」は意味⑥が対応すると考えられる。

「深い」：意味⑨<問題となる対象同士の接点が複雑でその関係性の程度が>

<大きい><さま>

「高い」：意味⑥<物事に備わっている性質や様相の程度が><大きい><さま>

- (5) この手法を使って、静岡県磐田郡水窪町産の300年もののヒノキを分析し、年輪の平均密度と年平均気温の間はかなり高い(深い)関係があるのを見つけ、過去の平均気温を推定してみせた。

(『朝日新聞』1992年06月09日夕刊 聞蔵IIビジュアル)

- (6) 千里の浜が美しい景勝地であることと、アカウミガメがたくさん上陸することは、一見無関係のようですが、実はとても深い(*高い)関係があります。ウミガメは産卵のために上陸する際、夜間に光の少ない海岸を好むと言われています。周囲に人工護岸がなく、森や梅林で覆われた千里の浜は、夜には高い木々により人の生活や活動に伴う明かりが遮られ、暗く静かな環境が広がっています。千里の浜が素晴らしい景勝地であり続けることは、ウミガメの産卵環境を保全することに結びついているのです。

(『朝日新聞』2018年03月29日朝刊 聞蔵IIビジュアル)

例(5)は、300年もののヒノキの年輪の平均密度と年平均気温の間の関係について「高い」と述べているが、「年輪の平均密度と年平均気温の関係から過去の平均気温を推定した」とあることから、年輪の平均密度と年平均気温の関係は、相関関係だと考えられる。つまり、「関係」と共起する場合の「高い」は、複数の物事の関係が相関的である場合に用いられる

と言える。⁵また、上下のメタファーが基盤となり、複数の物事の相関的な関係を量的に捉え、その関係性の程度が大きいさまを「高い」と表している。⁷

例(6)は、浜が美しい景勝地であることと、アカウミガメが産卵のためにたくさん上陸することの関係について「深い」と述べている。この2つの事柄の関係は、「一見無関係のよう」とあるように関係性が複雑である。この場合の「深い」も「容器」のフレームが基盤となり、関係性を「容器」とみなし、関係性の程度が大きいさまを「容器が深い」と捉えるものである。

次に、両語の置き換えが可能か検討する。例(5)の「高い」を「深い」に置き換えると、年輪の平均密度と年平均気温の関係が相関関係ではなく、接点が複雑な結びつきであることを表す。例(6)は、浜が美しい景勝地であることとウミガメが上陸することに必ずしも相関関係があるわけではないので、「深い」を「高い」へ置き換えることは容認できない。

9.4.3. 「深い／高いレベル」

「レベル」と共起する場合、「深い」は意味⑰、「高い」は意味⑤が対応すると考えられる。

「深い」：意味⑰<物事の状態や物事が持つ特性の程度が><十分に><大きい>

「高い」：意味⑤<実現・達成を目指す事柄の水準の程度が><大きい><さま>

- (7) 伊勢市民らでつくる伊勢管弦楽団の第24回定期演奏会が29日、同市観光文化会館で開かれる。今回はワーグナーの楽劇「トリスタンとイゾルテ～前奏曲と愛の死」など、難しいとされる曲に挑む。音楽監督兼常任指揮者で三重大教育学部教授の大谷正人さん(53)は「レベルの高い(*深い)演奏をしたい」と意気込んでいる。

団友なども含めた約80人が、ワーグナーのほか、ラフマニノフのピアノ協奏曲第3番、ブラームスの交響曲第4番を演奏する。(略)大谷さんは「重厚なプログラム。どの曲も人間の喜びや悲しみを深い(高い)レベルで表現している」と話す。

(『朝日新聞』2005年05月26日朝刊 聞蔵IIビジュアル)

例(7)「レベルの高い演奏をしたい」では、演奏のレベルについて「高い」と述べている。

⁵ 相関関係の他、「因果関係が高い」という表現も用いられる。

「難しいとされる曲に挑む」とあることから、ここでは、演奏の技術力（能力）に関するレベルだと考えられる。この場合、上下のメタファーが基盤となり、難しい曲に対する楽団の演奏能力を量的に捉え、その水準の程度が大であるさまを「高い」と表している。また、高い場所は到達が難しいことから、その困難なことを達成したことに価値があり優れていると捉える「高い場所」に関するフレームも考えられる。

「人間の喜びや悲しみを深いレベルで表現している」では、人間の喜びや悲しみを表現するレベルについて「深い」と述べている。小出（2000：9）は、「深い」ところにそのものの本質があり、深くなればなるほどその本来の性質に近づくはずだという認識から、延びが大きいものほど本質性あるいは程度性が大きくなると指摘している。この「深いレベル」の場合、「容器」のフレームを基盤とし、容器の奥底に本質があると考えられ、喜びや悲しみといった感情の本質に迫るような状態を「深い」と表している。

次に両語の置き換えが可能か検討する。「レベルの高い演奏」の「高い」は、「難しい曲に挑む」という状況が本質に迫ることと捉えられないため、「深い」に置き換えることは容認できない。「深いレベルで表現」の「深い」を「高い」に置き換えると、曲の表現力が優れていることを表す。

9.4.4. まとめ

以上の考察により、「高い」「深い」の意味は、「高い」は上下のメタファーと「高い場所」のフレームを、「深い」は容器のフレームを基盤としていることを示した。「高い」に関しては、空間では具体物が基点から上向きに積み重なり距離を表すが、非空間では基点から抽象物が積み重なり距離を表すと捉えられ、積み重なり（対象の量）に焦点が当たっていると言える。「深い」に関しては、空間では、何らかの入れ物の口を基点とし底に向かう下向きの距離を表すが、非空間では抽象的な容器の口を基準とし底にある、あるいは底のほうにある抽象物までの距離を表していると捉えられる。そして、底にあるのは対象の本質であり、その本質に焦点が当たっていると言える。また、「高い」は物事が積み重なった上端、「深い」は容器の底という、それぞれの基準から向かう向きの先端部分に注目することにより、各意味の「上向き」「下向き」という意味は背景化され、基準からの隔たりが大きいという点で、「高い」と「深い」が類似していると考えられる。

9.5. 「長い」「深い」「遠い」の空間から時間への意味拡張

本節では、「長い」「深い」「遠い」を対象とし、これらの語が空間から時間へ意味拡張する場合をフレームの観点から考察する。

まず、メタファーを「異なる2つのフレーム間の写像関係」(Sullivan2013、鍋島 2016)と捉え、これらの形容詞の空間から時間への意味拡張が、空間における各語に関するフレーム(「長いもの」のフレーム、「容器」のフレーム、「遠い場所」のフレーム)から「時間」のフレームへの写像によることを示す。さらに、これらの形容詞が時間に関する要素を持つ「歴史」「休み」「人生」とともに用いられるとき、各名詞のフレームの構成要素と3つの形容詞が焦点化する要素に矛盾がない場合に共起が可能となると考えられることを述べる。

なお、「長い」「深い」「遠い」の空間から時間への意味拡張に関する先行研究として、靱山(1995)がある。しかし、靱山(1995)は、用法上の制約による各形容詞のプロトタイプの意味の判定についての記述であり、意味拡張の基盤について比較、記述しておらず、本研究で考察する意義はあると考える。

9.5.1. メタファーとフレーム

本節では、フレームの観点から Sullivan (2013)、鍋島 (2016) に基づき、メタファーを「起点領域から目標領域への共起性を基盤とした異なる2つのフレーム間の写像関係」とする。

Sullivan (2013: 20-24) は、Lakoff & Johnson (1999)、Langacker (2002) 等を踏まえ、メタファーにおける起点ドメインから目標ドメインへの写像では、ドメインが複数のフレームによって構造化されるとし、メタファーをフレームの観点から考察している。鍋島 (2016: 28-30) は、メタファーを共起性を基盤とした元フレーム(一般的に、物理的で表現しやすく、経験豊かなフレーム)から先フレーム(可視性や可触性が低く、抽象的で表現しにくいフレーム)への写像関係としている。なお、鍋島 (2016: 30) は、共起性について、「乳幼児の発達の中で、2つの事象が繰り返し同時発生する経験」と述べている。

また、阪口 (2019) は、Sullivan (2013) を踏まえて、形容詞「痛い」が字義どおりの意味(「足が痛い」)から比喩的な意味(「心が痛い」)に拡張する場合の関係を、図1のようなフレーム間の対応関係とし、起点領域(身体ドメイン)から目標領域(精神ドメイン)に対する写像が行われていると分析している。

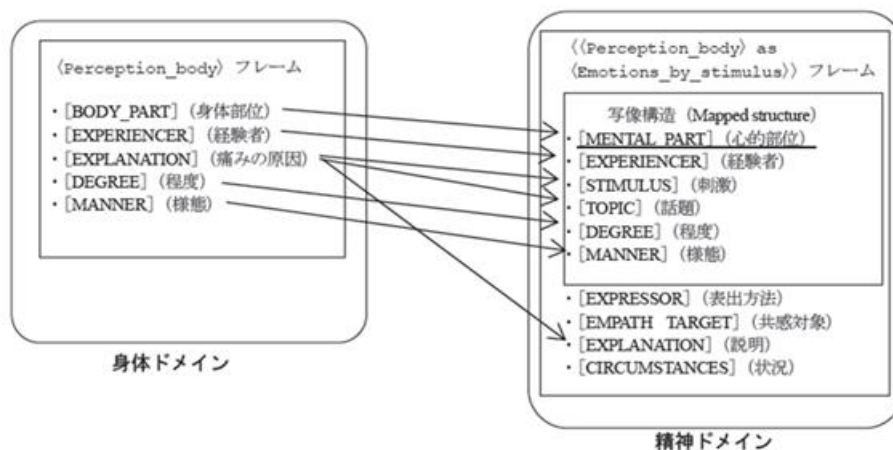


図2 <Perception_body> <Emotions_by_stimulus> フレーム間の写像関係 (阪口 2019 : 247)

本節では、これらの先行研究を踏まえて、形容詞「長い」「深い」「遠い」の空間から時間へのメタファー的な拡張を異なる2つのフレーム間の写像関係と捉え、言語事実から分析を試みる。さらに、各形容詞が焦点化する要素と共起語のフレームの構成要素との関係を観察する。

9.5.2. 「長い」「深い」「遠い」の意味分析

本節では、「長い」「深い」「遠い」の空間的用法における意味と時間の意味を用例をもとに分析し、それらが空間領域のフレームから時間領域のフレームへの写像関係であることを示す。

9.5.2.1. 「長い」

- (8) (茶筌マドラーは) 普通の茶筌と比べると、柄が長くて茶筌の部分が小さい。

(「ちょっと茶道具屋 茶筌のこと」 NLT)

- (9) 1年で最も昼が長い夏至の22日早朝、伊勢市の二見興玉神社で夏至祭があった。

(『朝日新聞』2019年06月23日朝刊 聞蔵IIビジュアル)

例(8)は、空間的用法であり、「柄が長い」では柄の端ともう一方の端が考えられ、「長い」はその両端間の距離が大きいさまである。つまり、「もの」について「長い」を用いる場合、線状のもの端ともう一方の端、その両端に挟まれている距離という要素が必要であり、こ

これらの要素を持つフレームを「長いもの」のフレームとし、ものの両端間の距離が大きいとき「長い」と表される。

例(9)は、非空間的用法であり、「昼が長い」では昼の始まりと終わりが考えられ、「長い」はその間の時間量が大きいさまである。つまり、「時間」について「長い」を用いる場合、事柄の始まりと終わり、その間の時間量という要素が必要であり、時間量が大きいとき「長い」と表される。

9.5.2.2. 「深い」

- (10) 30メートル以上深い地層は砂裸層や泥炭層、砂質粘土層などが交互に重なっている。 (「液状化現象とは」 NLT)
- (11) (守山市は) 縄文・弥生時代の古代遺跡が多くあり、戦国時代には壬申の乱・応仁の乱・織田信長の近江侵攻など深い歴史のある町です。

(<http://smart-shutter.com/index.php?>) 2020.05.07 検索

例(10)は、空間的用法であり、「深い地層」では地表、地中のある地点、その間の様々な地層が考えられ、「深い」は地表から地中のある地点までの距離が大きいさまである。「深い」は容器のイメージスキーマの概念で説明できるが、容器の口が基準となり、容器の底に当たる点、口から底までの中身とその2点間のベクトルを持つ距離という要素が考えられる。これらの要素を持つフレームを「容器」のフレームとし、基点から下方の地点までの距離が大きいとき「深い」と表される。

例(11)は、非空間的用法であり、「深い歴史」では、歴史の始まり、現在や歴史の終わり等の時点、現在等の時点から始まりへの時間量、その間の意義のある出来事が考えられ、「深い」は現在等の時点から始まりの間の意義のある出来事が多くあるさまである。つまり、「時間」について「深い」を用いる場合、事柄の始まりと終わり、その間の対象にとって意義のある出来事とベクトルを持つ時間量という要素が必要であり、対象の歴史において意義のある出来事があるとき「深い」と表される。⁶

⁶ 例(11)のような意義のある事柄の積み重ねに関する場合の「深い」は「歴史」「伝統」「人生」などとしか用いられない。一方、「深い」の反義語の「浅い」は、仕事の積み重ねに関して「キャリアが浅い」「経歴が浅い」などと言える。また、「深い秋」「深い夜」などの「深い」も時間に関する表現であるが、フレームが異なると考えられる。これらに関しては、今後の課題としたい。

9.5.2.3. 「遠い」

- (12) 巣の近くに餌があるときには、ミツバチは円を描いて歩き、餌が遠くにあるときには8の字状に歩く。その際に餌場が巣から遠いほどゆっくりと歩く。

(柳澤桂子『生命の奇跡』 BCCWJ)

- (13) (ネアンデルタール人と) 現生人類とのあいだで恋が芽生えるような、平和的關係であったのならいいのだがと、遠い過去へと思いを馳(は)せた。

(『朝日新聞』2015年08月23日朝刊 聞蔵IIビジュアル)

例(12)は、空間的用法であり、「餌場が巣から遠い」では、巣、餌場、巣から餌場までの隔たりが考えられ、巣から餌場までの隔たりが大きいさまである。つまり、対象の位置について「遠い」を用いる場合、基準となる地点と対象の地点、その基点から対象地点までのベクトルを持つ隔たりという要素が必要であり、これらの要素を持つフレームを「遠い場所」のフレームとし、基点から対象地点までの隔たりが大きいとき「遠い」と表される。

例(13)は、非空間的用法であり、「遠い過去」では、現在と、ネアンデルタール人が現生人類と共存していた3万年以上前の時代が考えられ、「遠い」は現在からの時間的な隔たりが大きいさまである。例(13)の場合のような「過去」とは、何らかの出来事が起こった期間をひとまとまりと捉え、「過去」と表している。つまり、「時間」について「遠い」を用いる場合、基準となる時点、対象の事柄が起こった(起こる)時点、その間のベクトルを持つ時間量という要素が必要であり、時間量が大きいとき「遠い」と表される。⁷

9.5.2.4. 空間におけるフレームから「時間」のフレームへの写像

これまでの分析を基に「長い」「深い」「遠い」の空間から「時間」へ拡張する場合をまとめると、図2のようなフレーム間の対応関係であり、起点領域である空間領域から目標領域である時間領域に対する写像が行われているとすることができる。

⁷ 「弥勒菩薩は現在、兜率天にいるが、五十六億七千万年という遠い未来に地上に現われ、釈尊亡き後の衆生を救済してくれるという未来仏である。」(BCCWJ)のように、「遠い」は未来についても用いることができる。

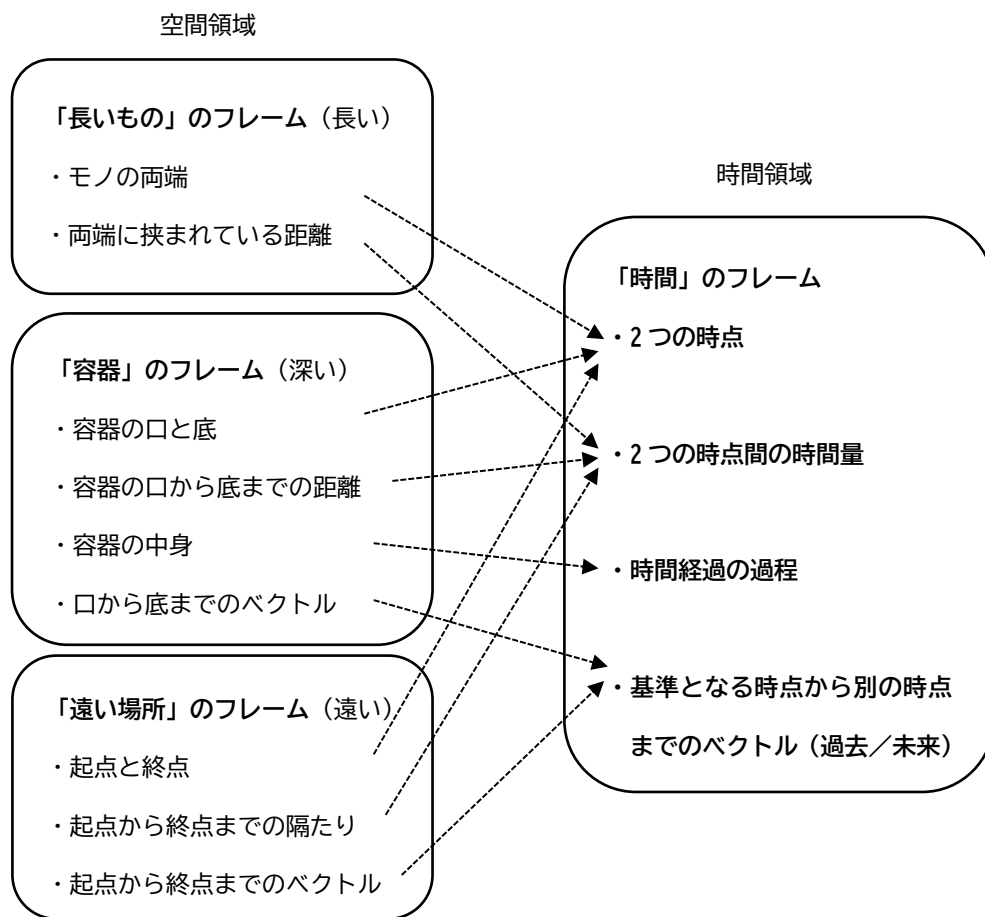


図3 「長い」「深い」「遠い」の空間におけるフレームから「時間」のフレームの写像関係

時間領域において、「長い」「深い」「遠い」は、共に「2つの時点」「2つの時点間の時間量」を要素としており、この点で類似していると言える。一方、「深い」「遠い」は、「基準となる時点から別の時点までのベクトル（過去／未来）」も要素としているが、さらに「深い」は、「時間経過の過程」を要素としており、これらの要素の相違が各形容詞の相違に反映されていると考えられる。

9.5.2.5. 空間におけるフレームから「時間」のフレームへの写像の基盤

ここで、空間におけるフレームから「時間」のフレームへの写像の基盤について、確認する。

- (14) 1つは実費。これは移動に伴う高速道路代や燃料代のことです。目に見える金額なのでわかりやすいですね。もう1つは時間。移動距離が長ければその分時間もかかります。引越しはかかる時間によって料金が変わります。

(<https://apple-hikkoshi.jp/archives/545>) 2020.03.17 検索

例(14)のように距離が大きいとき、その距離を移動する時間も大きくなるという共起性に関しては、我々は経験的に獲得しているだろう。同様に、基点から「深い場所」「遠い場所」に達するときも時間がかかると言える。このような距離と時間の共起性が基盤となり、空間に関する形容詞が時間にも用いられると考えられる。

9.5.3. 各形容詞が「歴史」「休み」「人生」と共起する場合

本節では、「長い」「深い」「遠い」が時間に関する要素を持つ「歴史」「休み」「人生」とともに用いられるとき、各名詞のフレームの構成要素と「長い」「深い」「遠い」が焦点化する要素に矛盾がない場合に共起が可能となると考えられることを述べる。

- (15) 縄文・弥生時代の古代遺跡が多くあり、戦国時代には壬申の乱・応仁の乱・織田信長の近江侵攻など深い(長い/*遠い)歴史のある町です。 (= (11))
- (16) 「明治の大水害は120年前に起きたことで、どこか心の中で遠い(*長い/*深い)歴史の話だと思っていた」。

(『朝日新聞』2019年07月11日夕刊 聞蔵IIビジュアル)

フレームの観点から「歴史」という語を捉えると、その構成要素として、話題の事柄の始まりと終わり、その間の時間的な量、その期間内に起こる様々な出来事(イベント)が考えられ、さらに、その歴史は現在(あるいは基準となる時点)より過去に起こっていることが言える。

例(15)の場合、「深い」は歴史の期間内の出来事を焦点化しているが、これを「長い」に置き換えると時間的な量に焦点が当たる。例(16)の場合、「遠い」は現在を基準として、そこから大水害という歴史的な事柄までの過去への時間的な隔たりを焦点化している。

- (17) 休みが長かった(*深かった/*遠かった)ため、音を忘れたり、歌詞の立ち上がりが

鈍いなど、いろいろ問題もあるのだが、残響のある空間に行くと案外気にならない。

(「Yahoo!ブログ」 BCCWJ)

(18) いつだろう／次の休みは／まだ遠い (*長い/*深い)

(<https://ameblo.jp/atataikai24/entry-12011460855.html>) 2020.05.11 検索

フレームの観点から「休み」という語を捉えると、その構成要素として休みの始まりと終わり、その間の時間的な量、さらに休みは現在あるいは基準となる時点より過去あるいは未来のものということが考えられる。また、「休み」は、休息を取ったり普段していることをしないで済ましたりすることであり、その間のイベントは一般的に考えると休息やストレス解消のためのものとして位置付けられ、特別な意義を持つものとしては捉えにくい、(意義のある事柄としての) 要素とは考えられない。

従って、例(17)の場合、「長い」は休みの時間的な量を焦点化し、例(18)の「遠い」は「休み」を始まりから終わりまでのひとまとまりと捉え、現在を基準として次の「休み」までの時間的な隔たりを焦点化しているが、何らかの期間内の意義のある出来事を焦点化する「深い」は用いることができないと考えられる。

(19) 日本人の平均寿命は80歳前後、人生は長い (*深い/*遠い) ように感じます。

(「Yahoo!ブログ」 BCCWJ)

(20) 水木しげるさんて 妖怪系の独特なタッチを描く作家さんだと思っていたら... すっごく絵が上手くて、繊細で大胆で深い深い (?長い/*遠い) 人生を送られてきた方でした。(略) 戦争に行き、左手を失くして ある部族と出会い 助けられ、そこからの水木さんのストーリーもすごかったです。

(<https://www.picuki.com/tag/>) 2019.03.26 検索

フレームの観点から「人生」という語を捉えると、その構成要素として、人生の始まりと終わり、その間の時間的な量、その期間内に起こる意義のある様々な出来事(イベント)が考えられる。

例(19)の場合、「長い」は80年の人生という時間的な量を焦点化している。例(20)の場合、「深い」は水木しげるの人生の期間内の出来事を焦点化しているが、「長い」に置き換えると人生の時間的な量にのみ焦点が当たるため文脈から容認度が下がると考えられる。また、

「人生」は、始まりから終わりまでの一まとまりと考えられるが、その人生の中のある時点
を基点として、そこから隔たった対象として人生そのものを捉えることはできないため「遠
い」が共起できないと考えられる。

これまでの分析から、「時間」のフレームの要素のうち、各形容詞が焦点化する要素は、
次のように考えられる。

(21) 長い：2つの時点間の時間量

深い：時間経過の過程⁸

遠い：基準となる時点から対象の時点までのベクトルのある時間量

つまり、(21)の形容詞が焦点化する要素と、時間に関する要素を持つ名詞のフレームの要
素との関係に矛盾がないとき、これらの形容詞と時間的要素を持つ名詞が共起できると考
えられる。

9.5.4. まとめ

本節では、形容詞「長い」「深い」「遠い」の各語の空間的な意味と時間的な意味について
フレームの観点から分析し、空間におけるフレームから「時間」のフレームへの写像関係に
ついて示した。さらに、これらの形容詞が「歴史」「休み」「人生」とともに用いられるとき、
各名詞のフレームの構成要素と3つの形容詞が焦点化する要素に矛盾がない場合に、共起
が可能となると考えられることを述べた。

9.6. おわりに

本章では、まず、「深い」「高い」「遠い」「広い」「長い」を類義語とみなし、空間的用法
の1次元の量を表す場合について、空間の量を表す際の要素をもとに類似点と相違点を述
べた。非空間的用法では、「深い」「高い」が、「関心」「関係」「レベル」と共起する場合、
「深い」は容器のフレームを基盤として、抽象的な容器の底にある対象の本質に焦点が当た
っていると考えられ、「高い」は上下のメタファーにより基点から抽象物が積み重なり距離

⁸ 「深い」は、「意義のある様々な出来事（時間軸に沿っているいろいろな出来事があった）」ということから
すれば、基本的にある程度の時間の長さが前提になると考えられる。しかし、この場合の「深い」は、
「物事の積み重なり」を焦点化しており、「時間的な長さ」については背景化しているので、「彼の人生は
短かったが、深い人生だった」のように対象の時間が短くても「深い」が言えると考えられる。

を表すと捉えられ、積み重なり（対象の量）に焦点が当たっていると考えられることを述べた。さらに、「長い」「深い」「遠い」の各語の空間的な意味と時間的な意味についてフレームの観点から分析し、空間におけるフレームから「時間」のフレームへの写像関係について示した。また、3つの形容詞が焦点化する要素と、時間に関する要素を持つ名詞のフレームの要素との関係に矛盾がないとき、これらの形容詞と時間的要素を持つ名詞が共起できると考えられることを述べた。

第10章 本研究のまとめ

本研究の目的は、次元形容詞の意味を認知言語学の観点から分析し、その意味拡張の認知的基盤と多義構造を明らかにすることであった。本研究の考察対象とする語は、場所に関する何らかの1次元の量を表す「深い」「高い」「遠い」「広い」と1次元の量を表す代表的な形容詞である「長い」の5語とした。従来の次元形容詞の意味研究では、形容詞の各意味の意味特徴を詳細に記述することに主眼が置かれていたが、本研究は、「意味に経験などからの動機づけを求める」(松本 2003:3)という認知言語学における意味観の下、形容詞の精緻な意味の記述だけでなく、複数の意味間の相互関係に焦点を当てて論じた。この5つの形容詞の複数の意味間の相互関係及び多義構造を明らかにするという目的に向けて、第2章では、多義語の複数の意味を関連づける重要な役割を持つ「比喩(メタファー、シネクドキー、メトニミー)」「フレーム」「イメージスキーマ」、さらに複数の意味を統括するモデルとして「スキーマティック・ネットワークモデル」と、糸山(2021)が提案する「放射状ネットワークモデル」「スキーマティック・ネットワークモデル」「フレームに基づくモデル」を統合したモデルについて概観した。第3章では、形容詞についての先行研究を整理・検討した。形容詞の分類に関しては、単語の意味により「属性形容詞」と「感情形容詞」に分類するものと、形容詞における話し手の主体的な関わりである「時間的限定性」と「評価のタイプ」を軸に「特性形容詞」と「状態形容詞」に分類するものがあるが、どちらの分類方法でもその中間に位置づけられるものがあり、分類は連続的であることを見た。さらに、形容詞を使用する際の4つの判断基準を概観したが、それらの基準は固定的なものではなく、判断の基準は話し手である主体の対象に対する把握の仕方に基づいていると考えられることを述べた。

第4章から第8章は、「深い」「高い」「遠い」「広い」「長い」の意味の個別的分析を行った。本研究では、これらの形容詞を多義語として捉え、多くの用例から意味特徴をボトムアップ的に抽出、記述し、第2章で見た概念を援用して、それぞれの意味間の関連性を説明し多義構造を示した。そこで得られた結果を踏まえ、第9章では5つの形容詞を類義語とみなし、類義語分析を行った。

これらの分析から、従来の研究では説明が不十分であった「深い」「高い」「遠い」「広い」「長い」の各形容詞の複数の意味間の関係について、プロトタイプの意味を起点とし、その他の意味がメタファー、メトニミー、シネクドキーの3種の比喩のいずれを基盤として相互

に関係づけられているかを明らかにした。また、比喩による拡張の基盤として、イメージスキーマやフレーム、概念メタファーを示した。「深い」については、空間から非空間への意味拡張について、「容器」のイメージスキーマを背景とした意味拡張と、「深い場所」のフレームを基盤とした意味拡張があることを明らかにした。「高い」については、意味特徴からの記述と概念メタファーを基盤とした記述を行ったが、上下のメタファーMORE IS UP と HIGH STATUS IS UP が「高い」の空間から非空間への意味拡張の基盤となっていることを述べ、音に関しての概念メタファー「音域が高いことは上」を提案した。「遠い」については、「理想・目標」のフレームを基盤とした拡張があることを明らかにした。「広い」については、空間的用法において、「広い」が「広い場所」のフレームを基盤として<面積><空間><距離>を表すことを述べた。「長い」については、空間から非空間への意味拡張について、「文書」のフレームを基盤としたものがあること、また、非空間の意味に「発話」のフレームを基盤としたものがあることを述べた。そして、「比喩による関連性」と「フレーム」、さらにメタファーで関連づけられている意味から抽出した「スキーマ」を取り込んだ多義構造として各形容詞の個々の意味を位置付け、各形容詞の意味全体の様相を明らかにした。

続いて、類義語分析により、各形容詞が1次元の量を表すとき、各形容詞の意味が空間の量を表す際の要素「量」「基点」「終点」「方向」「面」のいずれを含んでいるかにより、類似点と相違点が生じることを述べた。次に「深い」「高い」が、「関心」「関係」「レベル」と共起する場合、空間の意味から非空間の意味へ拡張する際、「深い」は「容器」のフレームを基盤とし、「高い」は上下のメタファーを基盤としているが、このことが「深い」と「高い」の意味の相違に関係していると考えられると記した。「長い」「深い」「遠い」については、各語の空間的な意味と時間的な意味についてフレームの観点から分析し、この3語は、空間領域における意味の構成要素が時間領域に写像され、時間領域において「2つの時点」「2つの時点間の時間量」の要素を含んでいる点で類似していることを明らかにした。以上のように、複数の次元形容詞が非空間で類似の意味を表すとき、その相違はイメージスキーマや概念メタファー、フレームにより説明できるものがあることを示した。

以下、1節で第4章～第8章の分析を通して得られた意味記述と第9章の考察結果を示し、2節で今後の課題について述べる。

10.1. 本研究のまとめ

第4章では、「深い」を分析し、次のように意味を記述した。

「深い」

意味①<水平面から><鉛直方向に><内部へ向かう><距離が><大きい><さま>
(プロトタイプの意味)

意味②<垂直面から><水平方向に><内部へ向かう><距離が><大きい><さま>

意味③<基点から><内部へ向かう><距離が><大きい><さま> (意味①②④のスキーマ的意味)

意味④<基点から><囲まれる領域の方へ曲がる><角度が><大きい><さま>

意味⑤<基点から><水平方向に><高密度・高濃度を伴い><奥までの><距離が>
<大きい><さま>

意味⑥<物事に対して生じる気持ちを持続的で心の底から感じるほどに程度が><大きい><さま>

意味⑦<物事の本質や細部に対して思考を巡らす程度が><大きい><さま>

意味⑧<ある物事の成り行きに対する複雑さの程度が><他者には容易にうかがい
知れないほど><大きい><さま>

意味⑨<問題となる対象同士の接点が複雑でその関係性の程度が><大きい><さま>

意味⑩<容易に目が覚めないほど眠りの程度が><大きい><さま>

意味⑪<夜や季節(特に秋)になってから時間が十分に経ち終わりに近い><さま>

意味⑫<意義のある事柄が時間的経過の中で積み重なっている程度が><大きい>
<さま>

意味⑬<味や香りが容易に言い表せないほど豊かである><さま>

意味⑭<色が黒みがかっていて何らかの価値を感じさせる程度が><大きい>
<さま>

意味⑮<音が重厚で落ち着いていて心が強く動かされる><さま>

意味⑯<ある行為の道義に反する程度が><大きい><さま>

意味⑰<物事の状態や物事が持つ特性の程度が><十分に><大きい><さま>

スキーマ①:<物事の何らかの性質・特徴に関して程度が大きいさま>

スキーマ②:<内容(量)が豊かであるさま>

意味①～⑤は、空間的用法における意味である。意味①は、プロトタイプの意味であり、意味②、意味④は、意味①から「基点とベクトルの方向」の関係においてメタファーにより拡張している。意味③は、意味①、意味②、意味④の「基点とベクトルの方向」の制約が弱まったシネクドキー的な拡張であり、さらに、「制約が弱まった」ということは「より一般化された」と言うことができることから、意味③は、意味①、意味②、意味④のスキーマ的な意味と言うことができる。意味⑤は、意味②に「密度・濃度」という制約が加わったシネクドキー的な拡張である。

意味⑥～⑭は、非空間的用法における意味である。意味⑥⑦⑨～⑬⑮～⑰は、「容器」のイメージスキーマを基盤とした意味①からのメタファーによる拡張である。意味⑧⑭は、それぞれ意味①からメトニミーにより拡張しており、この3つの意味を構成要素とする「深い場所」というフレームが考えられる。さらに、意味①と意味⑥⑦⑨⑩⑪⑮⑯⑰は、「容器」のフレームの「位置」を基盤としたメタファー関係であることからスキーマ①が抽出でき、意味①と意味⑫⑬は、「容器」のフレームの「中身」を基盤としたメタファー関係であることからスキーマ②が抽出できる。

また、先行研究で指摘されていない意味として、「角度」に関する意味を空間的用法の一つとして記述し、「深い」が「森」や「霧」などを対象とする場合の意味を、意味拡張の観点から空間的な意味に濃度・密度が加わった意味と記述した。非空間的用法では、「深い歴史」のような時間と事柄が関係する語を修飾する場合の意味を記述した。

第5章では、「高い」を分析し、次のように意味を記述した。

「高い」

意味①<基点から><垂直上方に向かう><距離が><大きい><さま>

(プロトタイプの意味)

意味②<主に鼻・額・頬(頬骨)などの身体部位が><身体部位の周辺から><突出している><程度が><大きい><さま>

意味③<物事の対価としての金銭的な額が><大きい><さま>

意味④<数値や数量に関する程度が><大きい><さま>

意味⑤<実現・達成を目指す事柄の水準の程度が><大きい><さま>

意味⑥<物事に備わっている性質や様相の程度が><大きい><さま>

意味⑥-1<能力や技術が><優れている><さま>

意味⑥-2< (品格など) 物事の尊敬に値する性質の程度が> <優れている> <さま>

意味⑥-3< 物事のある特徴的な側面に関して話題として取り上げられる程度が>

<大きい> <さま>

意味⑦< 人が物事に対して持つ思考や関心の程度が> <大きい> <さま>

意味⑧< 社会的な立場などの序列が> <上位である> <さま>

意味⑨ (主に花や飲食物に関して) < 人が好ましく感じるその物特有の香りの程度が> <

大きい> <さま>

意味⑩< 音や声の音域が> <上である> <さま>

意味⑪ (「声が高い」の形で) < 周りの注意を引くほど> < 声の音域が上で> < 音量が大

きい> <さま>

スキーマ①: < 基準からある位置までの距離が大きいさま>

スキーマ②: < 物事の非空間的な事柄の何らかの側面に関する程度が大きいさま>

スキーマ③: < 物事の何らかの程度が大きいさま>

意味①②は、空間的用法における意味である。意味①は、プロトタイプの意味である。意味②は、意味①から「基点とベクトルの方向」の関係においてメタファーにより拡張し、意味①と意味②からスキーマ①が抽出できる。

意味③～⑪は、非空間的用法における意味である。意味③～意味⑩の表す対象の何らかの<程度>は、<物事の非空間的な事柄の何らかの側面に関する程度>と一般化できることから、意味③～意味⑩は、「物事の非空間的な事柄の何らかの側面」の関係において、互いにメタファーで拡張していると言え、また、意味③～意味⑩からスキーマ②を抽出した。スキーマ②は、意味①の<空間的な距離(程度)>がスキーマ②では<非空間的な側面の程度>となり、その程度性が<大きい><さま>が類似している意味①からのメタファーによる拡張である。意味⑥-1、⑥-2、意味⑥-3は、意味⑥から意味範囲が収縮したシネクドキーによる拡張である。意味⑪は、意味⑩からのメトニミーによる拡張であり、意味⑩と意味⑪は、「音」のフレーム内に位置づけられる。さらに、意味①とスキーマ②はメタファー関係であるため、意味①とスキーマ②からスキーマ③を抽出した。

次に、概念メタファーの観点から各意味の基盤を考察した。その結果、意味③～意味⑦、意味⑨は、上下のメタファーのうちの概念メタファーMORE IS UPを、意味⑧は、概念メタファーHIGH STATUS IS UPを基盤としていることを説明した。また、意味⑩の基盤として

概念メタファー「音域が高いことは上」を提案した。

第6章では、「遠い」を分析し、次のように意味を記述した。

「遠い」

意味①<基点から><目標地点までの><隔たりが><大きい><さま>

(プロトタイプの意味)

意味②<話題の時点が基準となる時点から隔たっている程度が><大きい><さま>

意味③<複数の人間、事物、事柄の間の関わりの乏しさの程度が><大きい><さま>

意味③-1 (主に親族関係に関して) <二者間の系統的なつながりの隔たりの程度が><大きい><さま>

意味④<ある時点の物事の状態と望ましい状態あるいは理想・目標との間の差の程度が><大きい><さま>

意味⑤<物事の望ましい状態の達成・実現が容易でない><さま>

スキーマ：<2点間の隔たりが大きいさま>

意味①は、空間的用法における意味であり、プロトタイプの意味である。意味②～意味⑤は、非空間的用法における意味である。意味②は、意味①の<基点から目標地点までの隔たり>が<基準となる時点から話題の時点までの隔たり>となり、その<隔たっている程度が大きい>さまが類似していることに基づき、メタファーにより物理的空間から時間という抽象的な概念へ拡張している。同様に、意味③④はそれぞれ、<複数の人間、事物、事柄の間の関係>、<ある時点の物事の状態と望ましい状態あるいは理想・目標>が、意味①<基点と目標地点>と対応し、これらの<隔たっている程度が大きい>さまが類似していることに基づくメタファーによる物理的空間から抽象的な概念(物事の関係、状態)への拡張である。意味③-1は、意味③<複数の人間、事物、事柄の間の関係>がより個別的な意味<二者間の系統的なつながり>となったシネクドキーによる拡張である。また、意味①～④からスキーマを抽出した。意味⑤は、意味④から因果関係を基盤としたメトニミーによる拡張であり、意味④⑤は「理想・目標」のフレームに位置づけることができることを示した。

第7章では、「広い」を分析し、次のように意味を記述した。

「広い」

意味①<対象が有する平面的な範囲の2次元的な伸びが><大きい><さま>

(プロトタイプの意味)

意味②<対象の内部空間の3次元的な伸びが><大きい><さま>

意味③<幅の伸びが><大きい><さま>

意味④<物事を指し示す範囲について関係する事柄が豊富に含まれるほどその程度が>
<大きい><さま>

意味⑤(心の持ちように関して)<好ましいとは言えない事柄も問題にせず受け入れる>
<さま>

スキーマ①:<何らかの範囲の内部が大きいさま>

スキーマ②:<線的に捉えられる範囲の内部が大きいさま>

スキーマ③:<抽象的な領域の範囲の内部が大きいさま>

意味①～③は、空間的用法における意味である。意味①は、プロトタイプの意味である。意味①に関しては、「広い」は、用途など何らかの基準に照らして、対象がその範囲内に何らかの物が十分存在しうるほどの大きさであり、さらに2次元的な伸びの大きさに焦点が当たっている場合、対象の相対的な大きさを表すことを実例に基づいて説明した。意味②は、意味①から「面積と空間」の関係における同時性に基づくメトニミーによる拡張である。意味③は、意味①から「面積と距離」の関係における同時性に基づくメトニミーによる拡張である。また、意味①～③は、「広い場所」のフレームに位置づけられる。

意味④⑤は、非空間的用法における意味である。意味④は、意味①から「範囲」の関係におけるメタファーによる拡張、あるいは意味③から「線的な範囲」の関係におけるメタファーによる拡張である。意味⑤は、意味④から<物事を指し示す範囲>が心的な領域についても同様に用いられることに基づくメタファーによる拡張である。また、意味①④からスキーマ①を、意味③④からスキーマ②を、意味④⑤からスキーマ③を抽出した。なお、スキーマ①とスキーマ②③はシネクドキーの関係にあり、スキーマ①はスキーマ②③より高次のスキーマである。

第8章では、「長い」を分析し、次のように意味を記述した。

「長い」

意味①<線状の(あるいは線状と捉えられる)対象の端から><もう一方の端までの><

距離が><大きい><さま> (プロトタイプの意味)

意味②<(行為や状態の) 開始時点から><終了時点までの><時間量が><大きい>
<さま>

意味③<言語活動 (特に文書) の始まりから><終わりまでの><量が><大きい>
<さま>

スキーマ:<線状に捉えられる対象の2点間の量が大きいさま>

意味①は、空間的用法における意味であり、意味②③は、非空間的用法における意味である。「長い」のプロトタイプの意味は、同程度に自立性を有していると考えられることから、意味①と意味②の2つであり、意味①の空間における2点間の距離と意味②の時間軸上の2つの時点間の時間量が類似していることに基づく、意味①から意味②へのメタファーによる拡張である。さらに、意味①と意味②からスキーマを抽出した。意味③は、「文書」のフレームを基盤とする意味①からのメトニミーによる拡張、あるいは、「言語活動」のフレームを基盤とする意味②からのメトニミーによる拡張と考えられる。

第9章では、5つの形容詞を類義語とみなし、これまでの分析を基にこれらの類似点と相違点について次のように記述した。

まず、5つの形容詞の1次元の量に関する意味のうち「深い」「高い」「遠い」「長い」はプロトタイプの意味である意味①を、「広い」は1次元を表す意味③を対象として、それぞれが空間の量を表す際の要素の観点から類似点と相違点を述べた。空間の量を表す際の要素としては「量」「基点」「終点」「方向」「面」が考えられ、各形容詞の意味は「基点」と「終点」の間の「量」を表すという点で類似しているが、この3つの要素は「長い」の要素であることから、「長い」と「深い」「高い」「遠い」「広い」は類似していると言える。また、「深い」「高い」「遠い」は、「方向」の要素が含まれているが、具体的な方向はそれぞれ「下」「上」「目標」と異なっている。「広い」は「面」の要素を含んでいる点が他の4つの形容詞と異なる。

次に、「深い」「高い」が、「関心」「関係」「レベル」と共起する場合、「深い」は容器のフレームを基盤として、抽象的な容器の底にある対象の本質に焦点が当たっていると考えられ、「高い」は上下のメタファーにより基点から抽象物が積み重なり距離を表すと捉えられ、積み重なり(対象の量)に焦点が当たっていると考えられる。また、「高い」は物事が積み重なった上端、「深い」は容器の底という、それぞれの基準から向かう向き先端部分に注

目することにより、各意味の「上向き」「下向き」という意味は背景化され、基準からの隔たりが大きいという点で、「高い」と「深い」が類似していると考えられることを述べた。

続いて、「長い」「深い」「遠い」の各語の空間的な意味と時間的な意味についてフレームの観点から分析した。この3語は、空間領域における意味の構成要素が時間領域に写像され、時間領域において「2つの時点」「2つの時点間の時間量」の要素を含んでいる点で類似していると言える。一方、「深い」「遠い」は、「基準となる時点から別の時点までのベクトル（過去／未来）」も要素としているが、さらに「深い」は、「時間経過の過程」を要素としており、これらの要素の相違が各形容詞の相違に反映されていると考えられる。また、3つの形容詞が焦点化する要素と、時間に関する要素を持つ名詞のフレームの要素との関係に矛盾がないとき、これらの形容詞と時間的要素を持つ名詞が共起できると考えられることを述べた。

10.2. 今後の課題

本研究では、次元形容詞「深い」「高い」「遠い」「広い」「長い」の分析を通して、我々が空間に関する量の概念を基にどのように抽象的な事柄を把握しているのかについて、その認知基盤と多義構造の一端を明らかにした。

今後の課題として、まず、本研究で議論が不十分であった各意味の自立性の程度について明らかにすることが挙げられる。糸山（2021）の「(典型的な)多義語」を認定する基準などを用い自立性の程度を詳細に分析することにより、各形容詞の意味の区分がより明確にできると考えられる。2つ目の課題としては、「深い」「高い」「遠い」「広い」「長い」の反義語「浅い」「低い」「近い」「狭い」「短い」も含めた体系的な記述を行うことである。これらの反義語のペアは、「日が*深い／浅い」「香りが高い／*低い」「赤に*遠い／近いピンク」などのように、常に対応しているわけではない。これら反義語の意味を分析、比較することで、より精緻な意味記述につながると考える。

参考文献

- 荒正子（1989）「形容詞の意味的なタイプ」、『ことばの科学 3』、pp.147-162、むぎ書房
- 池上嘉彦（1975）『意味論』、大修館書店
- 李澤熊（2020）『日本語の意味研究の新たな扉を開く—意味分析の方法と実際—』、開拓社
- 岩崎洋一（1997）『小学校の発声指導を見直す』、音楽之友社
- 木下りか（2019）「多義同士の意味拡張の起点と直観的プロトタイプ」、『日本認知言語学会
論文集』19、pp.519-524、日本認知言語学会
- 北原保雄（2010）『日本語の形容詞』、大修館書店
- 北原保雄編（2010）『明鏡国語辞典（第二版）』、大修館書店
- 金善花（2017）「次元形容詞「深い」にかかわる経験的基盤について」、『さいたま言語研究』
1、pp.12-27、埼玉大学大学院人文社会科学研究科日本語専攻内 さいたま言語研究会
- 久島茂（2001）『〈物〉と〈場所〉の対立 知覚語彙の意味体系』、くろしお出版
- 工藤真由美（2002）「現象と本質—方言の文法と標準語の文法—」、『日本語文法』2-2、pp.46-
61、くろしお出版、日本語文法学会
- 国広哲弥（1982）『意味論の方法』、大修館書店
- 国広哲弥（1994）「認知的多義論—現象素の提唱」、『言語研究』106、pp.22-44、日本言語学
会
- 国広哲弥（1997）『理想の国語辞典』、大修館書店
- 国広哲弥（2006）『日本語の多義動詞—理想の国語辞典（2）』、大修館書店
- 国広哲弥・柴田武・長嶋善郎・山田進・浅野百合子（1982）『ことばの意味 3 辞書に書いて
ないこと』、平凡社
- 小出慶一（2000）「次元形容詞の空間的用法と非空間的用法」、『群馬県立女子大学紀要』21、
pp.1-13
- 阪口慧（2019）「フレーム意味論に基づいた「痛い」の多義性に関する考察—フレーム意味
論、認知文法、概念写像理論の接点を探る—」、『東京大学言語学論集』41、pp.233-235、
東京大学言語学論集
- 佐藤信夫（1978）『レトリック感覚』、講談社
- 柴田武・国広哲弥・長嶋善郎・山田進（1976）『ことばの意味 1 辞書に書いてないこと』、
平凡社

- 柴田武・国広哲弥・長嶋善郎・山田進・浅野百合子（1979）『ことばの意味2 辞書に書いてないこと』、平凡社
- 鐘勇・井上奈良彦（2013）「日本語における上下メタファーの体系構成及びその特徴に関する一考察」、『言語文化論究』30、pp.13-26、九州大学大学院言語文化研究院
- 瀬戸賢一・山添秀剛・小田希望（2017）『解いて学ぶ認知意味論』、大修館書店
- 高木敬雄・堀内良治・前田総持『色彩の認知心理—その事実と概念の研究—』、広島修道大学総合研究所
- 谷口一美（2003）『認知意味論の新展開 メタファーとメトニミー』、研究社
- 谷口一美（2006）『学びのエクササイズ 認知言語学』、ひつじ書房
- 辻幸夫（編）（2013）『新編 認知言語学キーワード事典』、研究社
- 寺村秀夫（1982）『日本語のシンタクスと意味Ⅰ』、くろしお出版
- 長嶋善郎（1982）「類義語とは何か」『日本語学』1-1、pp.43-46、明治書院
- 仲本康一郎（2000）「アフォーダンスに基づく発話解釈—「行為の難易度」を表す形容詞文—」、『語用論研究』2、pp.50-64、日本語用論学会
- 鍋島弘治朗（2016）『メタファーと身体性』、ひつじ書房
- 西尾寅弥（1972）『形容詞の意味・用法の記述的研究』、秀英出版
- 西村義樹（2008）「換喩の認知言語学」、森雄一・西村義樹・山田進・米山三明（編）『ことばのダイナミズム』、pp.71-88、くろしお出版
- 仁田義雄（1998）「日本語文法における形容詞」、『月刊言語』27（3）、pp.26-35、大修館書店
- 服部四郎（1960）『言語学の方法』、岩波書店
- 樋口文彦（1996）「形容詞の分類—状態形容詞と質形容詞—」、『ことばの科学』7、pp.39-60、むぎ書房
- 飛田良文・浅田秀子（1991）『現代形容詞用法辞典』、東京堂出版
- 深田智・仲本康一郎（2008）『概念化と意味の世界』、研究社
- 本多啓（2016）「日本語形容詞の意味における身体性と脱身体化：「遠い」の場合」、『神戸外大論叢』66-2、pp.39-68、神戸市外国語大学研究会
- 松尾拾、西尾寅彌、田中章夫（1965）『類義語の研究』、秀英出版
- 松村明編（2019）『大辞林（第四版）』、三省堂
- 松本曜（2003）「第1章 認知意味論とは何か」、松本曜（編）『認知意味論』、大修館書店
- 松本曜（2009）「多義語における中心的意味とその典型性：概念的 center 性と機能的 center 性」、

- Sophia Linguistica : working papers inLinguistics*57、pp.89-99、上智大学
- 武藤彩加 (2015) 『日本語の共感覚的比喩』、ひつじ書房
- 靱山洋介 (1992) 「多義語の分析—空間から時間へ—」、カッケンブッシュ寛子、尾崎明人、鹿島央、藤原雅憲、靱山洋介 (編) 『日本語研究と日本語教育』、pp185-199、名古屋大学出版会
- 靱山洋介 (1994) 「形容詞「カタイ」の多義構造」、『名古屋大学日本語・日本文化論集』2、pp.65-90、名古屋大学留学生センター
- 靱山洋介 (1995) 「多義語のプロトタイプの意味の認定の方法と実際—意味転用の一方向性:空間から時間へ—」、『東京大学言語学論集』14、pp.621-639、東京大学文学部言語学研究室
- 靱山洋介 (2001) 「多義語の複数の意味を統括するモデルと比喩」、山梨正明他 (編) 『認知言語学論考』No.1、pp.29-58、ひつじ書房
- 靱山洋介 (2002) 『認知意味論のしくみ』、研究社
- 靱山洋介 (2005) 「類義表現の体系的分類」、『日本認知言語学会論文集』第5巻、pp.580-583、日本認知言語学会
- 靱山洋介 (2006) 「言語と認知：類義表現の意味の異なりにおける認知的基盤」、『言語基礎論の構築に向けて』、pp.153-167、東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所
- 靱山洋介 (2010) 『認知言語学入門』、研究社
- 靱山洋介 (2014) 『日本語研究のための認知言語学』、研究社
- 靱山洋介 (2016a) 「形容詞「かたい」の意味—メトニミーとフレームの観点から—」、『言語文化論集』37 (2)、pp.73-87、名古屋大学大学院国際言語文化研究科
- 靱山洋介 (2016b) 「多義語の多様性：典型的な多義語と単義語寄りの多義語」、『日本認知言語学会論文集』16、pp512-517、日本認知言語学会
- 靱山洋介 (2019) 「多義語分析の課題と方法」、プラシャント・パルデシ・靱山洋介・砂川有里子・今井新悟・今村泰也 (編) 『多義動詞分析の新展開と日本語教育への応用：基本動詞ハンドブック』、pp.32-50、開拓社
- 靱山洋介 (2020) 『事例で学ぶ認知言語学』、研究社
- 靱山洋介 (2021) 『[例解] 日本語の多義語研究 認知言語学の視点から』、大修館書店
- 靱山洋介・深田智(2003) 「第3章 意味の拡張」、松本曜 (編) 『認知意味論』、大修館書店
- 森田良行 (1989) 『基礎日本語辞典』、角川書店

- 八亀裕美 (2008) 『日本語形容詞の記述的研究—類型論的視点から—』、明治書院
- 八亀裕美 (2015) 「〈関係〉を表す形容詞の意味と用法：「近い」と「遠い」」、『甲南大學紀要・文学編』165、pp.11-22、甲南大学文学部
- 山田進 (2017) 『意味の探求』、くろしお出版
- 山梨正明 (2000) 『認知言語学原理』、くろしお出版
- 山本裕之 (2017) 「小学校音楽科における児童発声指導法に関する一考察」、『児童教育学研究』36、pp.275-293、神戸親和女子大学児童教育学会
- Croft, William and Cluse, Alan (2004) *Cognitive Linguistics*. Cambridge University Press
- Cruse, Alan (2004) *Meaning in Language*. Oxford University Press.
- Cruse, Alan (2011) *Meaning in Language: An Introduction to Semantics and Pragmatics. (Third Edition)*. Oxford: Oxford University Press
- Evans, Vyvyan and Green, Melanie (2006) *Cognitive linguistics: an introduction*. Edinburgh University Press
- Fillmore, C. J. (1982) Frame Semantics. *Linguistics in the Morning Calm*. pp.111-137. Seoul: Hanshin Publishing
- Geeraerts, Dirk (2009) *Theories of Lexical Semantics*. Oxford University Press.
- Lakoff, George (1987) *Women, Fire, and Dangerous Things*. The University of Chicago Press. (池上嘉彦、河上誓作、辻幸夫、西村義樹 (訳) (1993) 『認知意味論: 言語から見た人間の心』、紀伊国屋書店)
- Lakoff, George & Johnson, Mark (1980) *Metaphors we live by*. Chicago; London, United States: University of Chicago Press. (渡部昇一・楠瀬淳三・下谷和幸 (訳) (1986) 『レトリックと人生』、大修館書店)
- Lakoff, George & Johnson, Mark (1999) *Philosophy in the Flesh*. New York: Basic Books. (計見一雄 (訳) (2004) 『肉中の哲学』哲学書房)
- Langacker, Ronald W. (1987) *Foundations of Cognitive Grammar*, vol.I. Stanford: Stanford University Press
- Langacker, Ronald W. (2002) *Concept, Image, and Symbol: The Cognitive Basis of Grammar*. New York: Mouton de Gruyter
- Leisi, Ernst (1961) *Der Wortinhalt: seine Struktur im Deutschen und Englischen, 2., erweiterte Auflage*, Heidelberg : Quelle & Meyer (鈴木孝夫 (訳) (1971) 『意味と構造』、研究社出

版)

Sullivan, Karen (2013) *Frames and constructions in metaphoric language*. Amsterdam: John Benjamins Publishing Company.

Tuggy, David (1993) Ambiguity, polysemy, and vagueness. *COGNITIVE LINGUISTICS* Volume4-3, 273-290, Berlin ; New York : Mouton de Gruyter

用例出典

青空文庫 <<http://www.aozora.gr.jp/>>

朝日新聞記事データベース 聞蔵IIビジュアル <<http://database.asahi.com/library2/>>

現代日本語書き言葉均衡コーパス(BCCWJ) <<https://chunagon.ninjal.ac.jp/bccwj-nt/search>>

中日新聞・東京新聞記事データベースサービス <<https://ace.cnc.ne.jp/GU100>>

筑波大学・国立国語研究所・Lago 言語研究所『NINJAL-LWP for TWC』(NLT)

<<http://nlt.tsukuba.lagoinst.info>>

Google 検索エンジン <www.google.co.jp>

謝辞

本論文の執筆にあたり、多くの方々にご指導、ご助言をいただきました。

まず、李澤熊先生には、博士前期課程入学以来、度々貴重なご助言をいただき、後期課程3年からは指導教員としてご指導を賜りました。先生の丁寧かつ的確なご指導と温かい励ましなくしては、本論文を完成させることができませんでした。ここに深く感謝申し上げます。

博士前期課程入学から後期課程2年までご指導くださった南山大学の靱山洋介教授には、認知言語学の基礎から研究の方法まで、多岐にわたってご指導賜りました。心より感謝申し上げます。

本論文の審査においては、本研究科の堀江薫先生、杉村泰先生、永澤済先生より、今後の研究の発展にもつながる有益なご助言をいただきました。心より御礼申し上げます。

そして、本研究科の先生方、修了生、院生の方々に感謝を申し上げます。特に、現代日本語学研究会では、諸先輩方や在学生の方々から非常に貴重なご指摘、ご助言をいただきました。また、諸先輩方の真摯に研究に取り組む姿は、筆者の道標となりました。さらに、滝理江氏には、氏との深い議論により研究全般にわたるご助言をいただいたのみならず、多くの励ましもいただきました。ここに重ねて感謝申し上げます。

最後に、大学院に入学することを理解し協力してくれた夫、前期課程入学から8年という長い間、ともに過ごす時間が少なくとも我慢をしてくれた高校生の長男と中学生の長女に、心から感謝を捧げます。